



順天堂大学医学部附属静岡病院年報

平成 29 年度版



行事写真



新入職員オリエンテーション (2017.4.1,3,4)



ドクターヘリ格納庫 竣工式 (2017.4.6)



緩和ケア研修会 (2017.6.3)



新入職員フォローアップ研修 (2017.6.24)

行事写真



ドクターヘリ運航調整委員会 (2017.8.29)



消防訓練 (2017.10.18)



災害図上訓練 (2017.10.24)



行事写真



院内コンサート (2017.11.18)



東部周産期研究会 (2017.11.30)



賀詞交歓会 (2018.1.5)



東部救命救急医学研修会 (2018.2.13)



院内コンサート (2018.2.17)



診療報酬に関する講習会 (2018.3.27)

市民公開講座

順天堂大学医学部附属静岡病院
第54回 市民公開講座(手話通訳付き)

おしつこのことで お困りではありませんか？

順天堂大学医学部附属静岡病院
泌尿器科 教授

講師 藤田 和彦

実際の症例を示し、解決策をお話しします。



日時 平成29年 **4月24日(月)**
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)



参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡災害医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>



順天堂大学医学部附属静岡病院
第55回 市民公開講座(手話通訳付き)

関節リウマチの最新治療 ～適切な治療で「寛解」を目指しましょう～

順天堂大学医学部附属静岡病院
膠原病内科・リウマチ科 准教授

講師 片桐 彰

生物学的製剤の登場で関節リウマチの治療目的が
「寛解」となりました。副作用について、また、一人一人に
合わせた治療法についても解説します。



日時 平成29年 **5月24日(水)**
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)



参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡災害医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>



順天堂大学医学部附属静岡病院
第56回 市民公開講座(手話通訳付き)

脳腫瘍を知ろう ～病気が見つかる症状と最新の治療～

順天堂大学医学部附属静岡病院
脳神経外科 先任准教授

講師 山本 拓史

たかが頭痛、されど頭痛です。頭痛にもいろいろな
痛みがあります。めまいや目のかすみなど、
脳腫瘍と関連する症状を中心にお話しします。



日時 平成29年 **6月20日(火)**
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)



参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡災害医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>



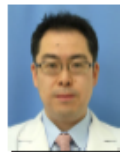
順天堂大学医学部附属静岡病院
第57回 市民公開講座(手話通訳付き)

パーキンソン病の やさしい診断と治療

順天堂大学医学部附属静岡病院
脳神経内科 准教授

講師 野田 和幸

診断と治療をわかりやすくお話し致します。



日時 平成29年 **7月5日(水)**
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)



参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡災害医学研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 055-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>



画面クリックで詳細がご覧いただけます。

市民公開講座

順天堂大学医学部附属静岡病院
第58回 市民公開講座(手話通訳付き)

「がん」について学ぼう

～ これからの時代、
知っておくべき「がん」の知識 ～

講師 順天堂大学医学部附属静岡病院
がん治療センター長
飯島 克順

いまや、2人に1人が「がん」に関わる時代です。
「がん」治療では、自分で決めなくてはならない
事もできます。その時のために役に立つ
「がん」治療の初歩をお話します。

日時 平成29年 **8月8日(火)**
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡医療研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療推進室 電話:055-949-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

公開講座 合同開催 in 三島キャンパス

■第10回 順天堂大学保健看護学部 公開講座
■第59回 順天堂大学医学部附属静岡病院 市民公開講座

高年齢者の目の病気

知っておきたい

講演1 高齢者の目の病気とは?

講師 太田 俊彦
順天堂大学医学部附属静岡病院
眼科教授

講演2 視覚障害を持つ高齢者の在宅療養の実際と予防

講師 小川 典子
順天堂大学保健看護学部
在宅看護学 准教授

平成29年 **9月16日(土)** **参加無料・申込不要**
13:30～15:50(開場13:00)
どこでも自由に聴きたいに任せて、
聴き放題でお楽しみください。

会場 順天堂大学保健看護学部 三島キャンパス
〒411-8707 静岡県三島市大高町3丁目7番33号

三島より徒歩10分以内です。
駐車場はございませんので、公共交通機関を
ご利用下さい。

手話通訳あり
託児つき 1歳～就学前児
平成29年8月21日より受け付け開始
託児を希望される方は、事前
mishima@juntendo.ac.jpまで市民公開講座
チームに連絡をお願いします。

【共催】順天堂大学保健看護学部、順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡医療研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療推進室 電話:055-949-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第60回 市民公開講座(手話通訳付き)

心臓病に対する診断と治療

～ 正しく理解する為に ～

講師 順天堂大学医学部附属静岡病院
循環器科 准教授
諏訪 哲

日時 平成29年 **10月23日(月)**
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡医療研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療推進室 電話:055-949-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第61回 市民公開講座(手話通訳付き)

がんとわかったときからはじまる緩和ケア

緩和ケアとは、
重い病を抱える患者やその家族一人一人の
身体や心などの様々なつらさをやわらげ、
より豊かな人生を送ることができるように
支えていくケアのことです。

講師 順天堂大学医学部附属静岡病院
麻酔科・ペインクリニック 教授
緩和ケアサポートチーム リーダー
岡崎 敦

日時 平成29年 **11月14日(火)**
17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所 順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

参加無料・申込不要
※定員になり次第受付終了致します

【共催】順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡医療研究センター、伊豆の国市、一般社団法人田方医師会
【お問い合わせ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療推進室 電話:055-949-3111
病院ホームページ: <http://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

画面クリックで詳細がご覧いただけます。

市民公開講座

順天堂大学医学部附属静岡病院
第62回 市民公開講座(手話通訳付き)

産婦人科のがんについて

～ 子宮頸癌ってなに? ～

講師

順天堂大学医学部附属静岡病院
産婦人科 助産

金田 容秀

若い人に多い子宮頸癌についてのおはなしです。

日時

平成29年

12月25日(月)

17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所

順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

参加無料・申込不要

※定員になり次第受付終了致します

【 共 催 】 順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡県産科婦人科センター、伊豆の国市、一般社団法人伊豆医師会
【 お問い合わせ 】 順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話: 065-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hose-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第63回 市民公開講座(手話通訳付き)

知っていますか？

眼瞼下垂

まぶたが下がっていませんか？ 気になる症状と治療法

講師

順天堂大学医学部附属静岡病院
形成外科 助教

松本 茂

最近増えている眼瞼下垂症。様々な原因によって生じます。また、まぶたは下がってなくても頭痛や肩こりの原因となっている隠れ眼瞼下垂についてお話しします。

日時

平成30年 **1月17日(水)**

17時30分～18時30分(開場:17時00分)

場所

順天堂大学医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室
(伊豆の国市長岡1129番地)

参加無料・申込不要

※定員になり次第受付終了致します

【 共 催 】 順天堂大学医学部附属静岡病院、順天堂大学医学部、
静岡県立大学医学部センター、伊豆の国市、一般社団法人伊豆医療会
【お問い合わせ】 順天堂大学医学部附属静岡病院 市民公開講座 電話番号 054-948-3111
病院ホームページ: <http://www.hjss-shizuoka.tokai.ac.jp/>

主催：静岡災害医学研究センター

市民公開講座
手紙通訳付き

平成27年度 文部科学省
「私立大学戦略的基盤形成支援事業」採択
大規模災害に対応する伝統的医療提供体制構築を目指す統合型研究拠点の形成

順天堂大学大学院
医学研究科 静岡災害医学研究センター

平成28年熊本地震における 基幹災害拠点病院の対応

2018年

2/15

17:30~18:30
開場 17:00

会場 順天堂大学 医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室 (伊豆の国方面112号棟)

講師 熊本赤十字病院 第一救急科部長
奥本 克己

講演要旨

平成28年 大分県立大学 平塚市
平成28年 11月 津波被災 山形県 仙台市
平成28年 12月 津波被災 山形県 仙台市
平成28年 12月 津波被災 山形県 仙台市
平成28年 12月 津波被災 山形県 仙台市

【参加】

- ① 日本赤十字社 救急医療本部
- ② 日本赤十字社 救急医療本部 救急医療部
- ③ 日本赤十字社 救急医療本部 救急医療部
- ④ 日本赤十字社 救急医療本部 救急医療部
- ⑤ 日本赤十字社 救急医療本部 救急医療部
- ⑥ 日本赤十字社 救急医療本部 救急医療部
- ⑦ 日本赤十字社 救急医療本部 救急医療部
- ⑧ 日本赤十字社 救急医療本部 救急医療部
- ⑨ 日本赤十字社 救急医療本部 救急医療部
- ⑩ 日本赤十字社 救急医療本部 救急医療部

参加無料

申込不要

ご参加は先着順となります。
※参加費・交通費、宿泊費は各自で負担して下さい。

会場

順天堂大学 医学部附属静岡病院
管理棟4階 第1会議室

TEL.055-948-3111

<http://www.janetendo.co.jp/seminar/seminar2018/>

公開講座 合同開催 in 三島キャンパス

■第11回 順天堂大学保健看護学部 公開講座
■第65回 順天堂大学医学部附属静岡病院 市民公開講座

鼻呼吸と腹式呼吸の重要性

講演 1

誰でも、いつでも、どこでもできる
鼻呼吸と腹式呼吸を用いた健康法

講師 / 楠 威志
順天堂大学医学部附属 長野病院
耳鼻咽喉科 教授



講演 2

生き生きササイズ(イキササイズ)
& プローライフフルで、健康増進!

講師 / 杉山 康司
順天堂大学 教授
スポーツ健康科学研究所 専攻 健康増進
・静岡大学 教育学部 教授



10:00~

プロライフフル体験会

担当 辻川 比呂斗
順天堂大学保健看護学部
一般教育 准教授






平成 30年 3月3日(土)

13:30~15:50 (即席13:00)

会場 順天堂大学保健看護学部
三島キャンパス
〒413-8527 静岡県三島市大宮町1丁目7番33号
順天堂大学三島キャンパス 公衆衛生館 6F 601号室

手紙返信あり

先着 50名 先着50名以上申し込みの方へ、順天堂大学三島キャンパスの案内パンフレットをプレゼントいたします。

申込2018年2月26日(水)まで
申込2018年2月27日(木)まで

順天堂大学保健看護学部
TEL.055-991-3111 (内線)
E-mail: zshin@jshu.ac.jp

お問い合わせは、ホームページまたはお問い合わせセンターへ

順天堂大学
保健看護学部
お問い合わせ用 印刷物

<http://www.hsejshu.ac.jp>

順天堂大学
保健看護学部

<http://www.hsejshu.ac.jp>

順天堂大学保健看護学部 三島キャンパス 公衆衛生館 6F 601号室

画面クリックで詳細がご覧いただけます。

平成 29 年版静岡病院年報巻頭言

院長 三橋直樹

医療あるいは医学の制度のなかで最近大きく変化したのが専門医制度だと思います。今までは各学会が定める基準をパスした医師が専門医として認められてきました。しかしこれからは専門医機構が定める基準で専門医かどうか判定されます。一見大した変更ではないように見えますが、実はいろいろなところに様々な影響をもたらす制度変更なのです。

私自身が所属する日本産科婦人科学会の専門医制度は平成元年ごろにまず認定医制度として発足しています。医師に格差を生むという反対の声に押され医師免許を取得して 10 年以上産婦人科に従事した医師は全員認定医とされました。私もその一人で、全く資格審査も無かったように思います。その後は 5 年ごとに更新することになりましたが、一定数の学会の参加があることを証明すれば 1 万円の費用を払うだけで更新されてきました。この認定医がいつの間にか専門医と名前を変え、私自身も昨年更新しています。ですから私自身はほとんど何の審査も受けずに約 30 年間にわたり専門医を維持してきたことになります。最近では専門医の資格審査はずっと難しくなり、試験の前にはかなり勉強している若い医師の姿も見られるようになってきました。

この専門医制度に関しては大きく二つの問題があるように感じます。第一にそもそも専門医とは何かという定義があやふやなことです。外から見れば専門医というのはどんな疾患でも診断でき治療できる医師ということでしょう。しかしそうではないことは医師ならだれでも知っていることです。例えば手術の技術に関してだけでも専門医の中で大差があることは周知のことです。それでも今はやりの病院のランキングなどでは何人の専門医が所属しているかも病院の良さを判断する基準の一つとされています。

もう一つの大きな問題は今度の制度変更で専門医を取得するための施設がかなり限られてきたことです。専門医を育てることのできる施設は一定数の指導医が在籍しており、また一定数の症例数があることが条件です。もちろんいくつかの施設がグループを作ってその中で専門医を育てることもできますが、これにはさまざまな条件が付いています。この施設の縛りによって若い医師の動向に今までなかった傾向が出てきています。ごく簡単に言えば都会の大病院志向です。逆に言えば地方の中小病院は医師集めが今までに増して難しくなっています。若手の医師からすれば何年仕事をしても専門医になれない病院には行きたくないというのは当然のことでしょう。

今から 15 年ほど前に初期臨床研修医制度の大きな変更がありました。その時も若手医師の動向が大きく変わり社会問題ともなりました。田舎の病院に大学の医局から医師を派遣するという昔からの習慣が崩れ、医師不足になる病院が続出しました。普通に考えれば医師免許を取得した医師が本当の医師として働きだすのを 2 年間ストップしたのですから医師不足に陥るのは当然でした。今回の専門医制度の変更も初期臨床研修医制度のときと同じようなことが起きないか危惧しています。

目次

1. 病院概要

1-1	基本理念	1
1-2	基本方針	1
1-3	施設概要	1
1-4	組織機構図	2
1-5	所属長一覧	3
1-6	医師名簿	4
1-7	職員数	5
1-8	各種委員会	6
1-9	活動報告	7
1-10	社会貢献・地域交流活動	9
1-11	指定・認定・許可事項	11

2. 診療科報告

2-1	膠原病内科・リウマチ科・アレルギー科	14
2-2	血液内科	16
2-3	消化器内科	20
2-4	呼吸器内科	24
2-5	腎臓内科	28
2-6	糖尿病・内分泌内科	31
2-7	循環器科	33
2-8	小児科	40
2-9	一般外科	44
2-10	脳神経外科	53
2-11	整形外科	57
2-12	脳神経内科	66
2-13	心臓血管外科	72
2-14	呼吸器外科	75
2-15	形成外科	77
2-16	眼科	79
2-17	耳鼻咽喉科	85
2-18	麻酔科	88
2-19	放射線科	92
2-20	メンタルクリニック	93
2-21	皮膚科	98
2-22	泌尿器科	100
2-23	産婦人科・総合周産期母子医療センター	103
2-24	救急診療科	110
2-25	病理診断科	118
2-26	リハビリテーション科	120
2-27	臨床検査科	122

3. 部門報告

3-1	薬剤科.....	124
3-2	栄養科.....	127
3-3	放射線室.....	129
3-4	検査室.....	132
3-5	手術室.....	134
3-6	血液浄化センター.....	136
3-7	臨床工学室.....	138
3-8	輸血室.....	140
3-9	看護部.....	143
3-9 (1)	看護総務課.....	149
3-9 (2)	看護入院業務課.....	151
3-9 (3)	看護外来業務課.....	152
3-9 (4)	看護教育課.....	154
3-9 (5)	看護安全管理課.....	161
3-10	救命救急センター.....	163
3-11	ドクターヘリ運航対策室.....	164
3-13	新生児センター.....	168
3-14	がん治療センター.....	171
3-15	予防医学センター.....	175
3-16	GCP センター.....	178
3-17	臨床研修センター.....	180
3-18	医療サービス支援センター	
3-18 (1)	地域医療連携室.....	184
3-18 (2)	医療福祉相談室.....	186
3-18 (3)	患者・看護相談室.....	188
3-18 (4)	退院支援看護師.....	190
3-18 (5)	受診相談・総合案内.....	192
3-19	医療安全管理室.....	193
3-20	感染対策室.....	196
3-21	健康管理室.....	198

4. 統計

4-1	病床利用率.....	201
4-2	在院日数.....	201
4-3	診療科別延患者数(外来).....	202
4-4	診療科別延患者数(入院).....	203
4-5	新患者数(外来).....	204
4-6	新患者数(入院).....	205
4-7	退院患者数.....	206
4-8	年齢別延患者数(外来).....	207

4-9	年龄别延患者数(入院)	207
4-10	地区别延患者数(外来)	208
4-11	地区别延患者数(入院)	209

1. 病院概要

1-1 基本理念

1. 学是「仁」の精神で人々の生命を尊重する
2. 「不断前進」の理念で創造的な前進と改革を進める
3. 大学医学部附属病院として、診療・教育・研究の充実を計る

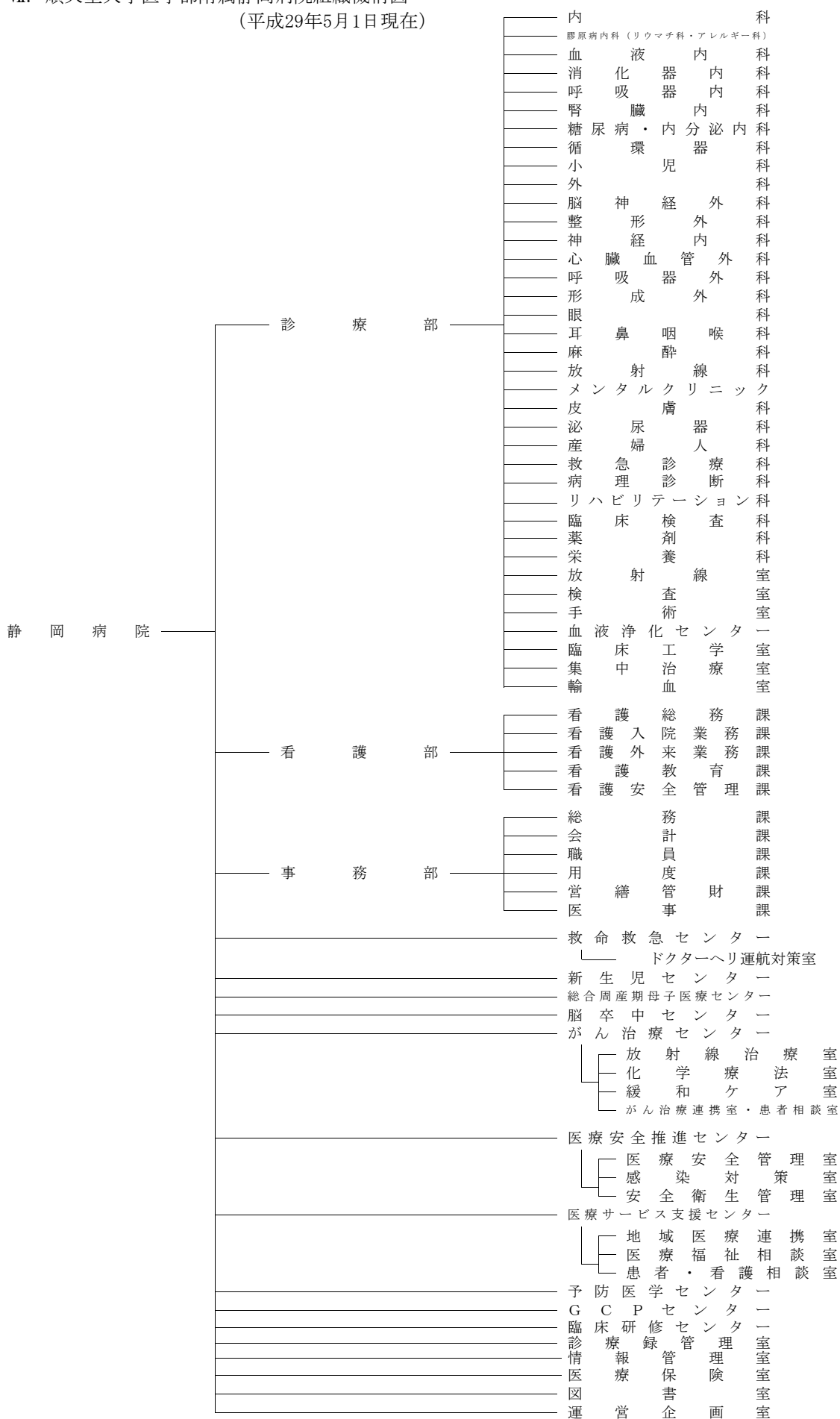
1-2 基本方針

1. 患者さん一人一人に、安全で根拠に基づく高い質の医療を提供する
2. 患者さんに満足していただける、きめ細かい手作りの看護をおこなう
3. 快適な療養生活ができる環境を提供する
4. 医療安全対策、病病・病診連携に取り組む
5. 最新の医療情報の提供に努める

1-3 施設概要

名称	:	順天堂大学医学部附属静岡病院
所在地	:	〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡 1129
電話番号	:	055-948-3111(代表)
FAX	:	055-948-5088
敷地面積	:	27,122.83 平方メートル
病床数	:	577 床

Ⅶ. 順天堂大学医学部附属静岡病院組織機構図
(平成29年5月1日現在)



1-5 所属長一覧

平成30年3月31日現在

部 署	責 任 者	部 署	責 任 者
院長	三 橋 直 樹	看護部長	堀 江 みどり
副院長	吉 池 高 志	看護総務課	廣 瀬 典 子
副院長	佐 藤 浩 一	看護入院業務課	荻 島 真 弓
院長補佐	小 池 道 明	看護外来業務課	矢 田 みどり
院長補佐	藤 田 和 彦	看護教育課	堀 込 克 代
診療部長	佐 藤 浩 一	看護安全管理課	堀 江 みどり
膠原病内科(リウマチ科・アレルギー科)	片 桐 彰	事務部長	落 合 美智子
血液内科	小 池 道 明	総務課	望 月 英 夫
消化器内科	玄 田 拓 哉	会計課	落 合 美智子
呼吸器内科	岩 神 真 一 郎	職員課	落 合 美智子
腎臓内科	清 水 芳 男	用度課	市 川 政 雄
糖尿病・内分泌内科	佐 藤 淳 子	営繕管財課	市 川 政 雄
循環器科	諏 訪 哲	医事課	萩 原 賛 泰
小児科	寒 竹 正 人	救命救急センター	柳 川 洋 一
外科	佐 藤 浩 一	新生児センター	寒 竹 正 人
脳神経外科	山 本 拓 史	総合周産期母子医療センター	田 中 利 隆
整形外科	大 林 治	脳卒中センター	山 本 拓 史
脳神経内科	野 田 和 幸	がん治療センター	飯 島 克 順
心臓血管外科	丹 原 圭 一	予防医学センター	清 水 芳 男
呼吸器外科	市之川 英臣	GCPセンター	玄 田 拓 哉
形成外科	松 本 茂	臨床研修センター	中 尾 保 秋
眼科	太 田 俊 彦	診療録管理室	小 野 隆 宏
耳鼻咽喉科	楠 威 志	情報管理室	岡 崎 敦
麻酔科	岡 崎 敦	医療安全推進センター	藤 田 和 彦
放射線科	松 波 環	医療安全管理室	藤 田 和 彦
メンタルクリニック	桐 野 衛 二	感染対策室	岩 神 真 一 郎
皮膚科	吉 池 高 志	安全衛生管理室	桐 野 衛 二
泌尿器科	藤 田 和 彦	医療サービス支援センター	吉 池 高 志
産婦人科	田 中 利 隆	地域医療連携室	櫻 田 睦
救急診療科	柳 川 洋 一	医療福祉相談室	櫻 田 睦
病理診断科	和 田 了	患者・看護相談室	櫻 田 睦
臨床検査科	田 内 一 民	医療保険室	山 本 拓 史
薬剤科	小 池 道 明	図書室	佐 藤 淳 子
栄養科	前 川 博	運営企画室	落 合 美智子
放射線室	松 波 環		
検査室	和 田 了		
手術室	尾 前 毅		
リハビリテーション科	大 林 治		
血液浄化センター	清 水 芳 男		
臨床工学室	岡 崎 敦		
集中治療室	岡 崎 敦		
輸血室	岩 尾 憲 明		

1-6 医師名簿

□併任 平成30年3月31日現在

膠原病内科・リウマチ科	小児・新生児科	糸井陽	尾前毅	石川浩平
片桐彰	寒竹正人	守屋秀一	長谷川陽子	近藤彰彦
津島浩	小児科	木下真由子	洪景都	上原弘久
岡田隆	有井直人	大澤秀臣	櫻庭園子	日域佳
丹治佳菜	馬場洋介	高橋良介	太田正孝	竹内郁人
血液内科	田所愛弓	岩崎英二	中村萌	藤原圭
小池道明	栗田健太郎	牛牧誉博	久米村正輝	病理診断科
岩尾憲明	西山樹	東村潤	新見奈央子	和田了
北原英晃	嶋泰樹	リハビリテーション科	山崎翔	臨床検査科
渡邊直紀	新生児科	□大林治	放射線科	田内一民
消化器内科	大川夏紀	大谷慧	水谷好秀	臨床研修医
玄田拓哉	齋藤暢知	脳神経内科	松波環	額川博芸
飯島克順	池田奈帆	大熊泰之	高村朋宏	小笠大起
嶋田裕慈	宮林和紀	野田和幸	井上達朗	小見桃子
佐藤俊輔	江原尚弘	大垣光太郎	宇田川剛史	川口幹裕
廿樂裕徳	佐藤由梨亜	安藤真矢	越野沙織	佐々木洋介
村田礼人	松田明奈	小川崇	メンタルクリニック	佐藤将盛
金光芳生	堀江省子	櫻井麻由	桐野衛二	瀧澤裕樹
富嶋享	外科	心臓血管外科	小日向麻里子	鶴上浩規
天野希	佐藤浩一	丹原圭一	礪康衣	堂垂大志
佐藤祥	前川博	佐藤友一郎	宿澤弘子	富田裕之
呼吸器内科	田中顕一郎	齋藤洋輔	皮膚科	鳥海俊
岩神真一郎	櫻田睦	宮崎豪	吉池高志	長澤宏樹
原宗央	櫛田知志	呼吸器外科	長谷川敏男	中村優飛
宮脇太一	折田創	市之川英臣	野口篤	新見昂大
住吉一誠	宗像慎也	小森和幸	清水智子	新田周作
河野加奈	氷室貴規	星野浩延	鎌田麻美	牧野健作
宮下洋佑	櫻庭駿介	形成外科	泌尿器科	三好悠斗
岩神直子	徳田智史	松本茂	藤田和彦	芳川瑛久
腎臓内科	上田脩平	佐藤瑠美	斎藤恵介	芳川万代
清水芳男	加藤永記	野尻岳	今泉健太郎	安藤美沙
若林啓一	山本陸	眼科	中島晶子	池田恒基
原一彰	小泉明博	太田俊彦	石川圭祐	池田裕至
松山容子	村井勇太	土至田宏	野口尊弘	植木響政
糖尿病・内分泌内科	脳神経外科	桑名亮輔	産婦人科	宇藤優
佐藤淳子	山本拓史	松崎有修	三橋直樹	加藤友里子
中島健一	中尾保秋	林雄介	田中利隆	木村僚喜
古川康彦	渡邊瑞也	小森翼	金田容秀	葛島魁人
岩本達也	上野英明	市川浩平	田中里美	塩崎太郎
循環器科	井関征祐	朝岡聖子	植木典和	白川智也
諏訪哲	児玉琢磨	大谷洋揮	矢田昌太郎	鈴木創太
荻田学	川村海渡	耳鼻咽喉科	助川幸子	田川康博
坪井秀太	西岡和輝	楠威志	村瀬佳子	森智世
小西宏和	宮原怜幹	本間博友	西澤しほり	
塩澤知之	鈴木一幹	城所淑信	正岡駿	
磯隆史	整形外科	矢内彩	伊藤早紀	
園田健人	大林治	大庭亜由子	救急診療科	
海老名秀城	最上敦彦	原聡	柳川洋一	
竹内充裕	神田章男	麻酔科	大坂裕通	
高橋徳仁	諸橋達	岡崎敦	大森一彦	

1-7 職員数

平成30年3月31日現在

職 種	正規職員		パート		小計	派遣・委託		小計	合計
	男	女	男	女		男	女		
看 護 師	79	598		4	681			0	681
准 看 護 師		9			9			0	9
介 護 福 祉 士	6	14		1	21			0	21
助 手	1	15			16		70	70	86
中 材 ・ 滅 菌					0	6	29	35	35
事 務 員		2			2	2	58	60	62
小 計	86	638	0	5	729	8	157	165	894
薬 剤 師	26	9		2	37				37
薬 剤 科 事 務 員		1			1		9		1
診 療 放 射 線 技 師	24	6			30				30
放 射 線 室 助 手					0				0
放 射 線 室 事 務 員					0		5		0
臨 床 検 査 技 師	6	20		2	28				28
検 査 室 看 護 師		3		1	4				4
検 査 室 事 務 員					0		1		0
理 学 療 法 士	10	5			15				15
作 業 療 法 士	2	2			4				4
言 語 聴 覚 士	1	1			2				2
リハビリテーション科事務員					0		1		0
管 理 栄 養 士	1	5		1	7				7
栄 養 士	1	1			2				2
調 理 師	12				12				12
栄 養 科 助 手	4	7			11	3	18		11
栄 養 科 事 務 員				1	1				1
視 能 訓 練 士	4	1			5				5
臨 床 工 学 技 士	9	1			10				10
臨 床 心 理 士		1			1				1
メンタルクリニック助手			1	2	3			0	3
小 計	100	63	1	9	173	3	34	37	210
事 務 員	50	32		6	88	8	118	126	214
保 育 士		4			4		1	1	5
技術・労務・警備・施設	3				3	52	42	94	97
医 療 安 全 管 理 者		1			1			0	1
助 手					0	1	15	16	16
医 局 秘 書				5	5			0	5
小 計	53	37	0	11	101	61	176	237	338
医 師	特 任 教 授	2			2			0	2
	教 授	14			14			0	14
	先 任 准 教 授	7			7			0	7
	先任准教授（臨床）	5			5			0	5
	准教授（大学院）				0			0	0
	准教授（講座）	4			4			0	4
	准教授（診療）	6	1		7			0	7
	准教授（実習）	3			3			0	3
	准教授（教育）	3			3			0	3
	講 師		1		1			0	1
	助 教	38	6		44			0	44
	助 手	50	20		70			0	70
	専 攻 生		1		1			0	1
	大 学 院 生	10	5		15			0	15
	シニアレジデント	1	1		2			0	2
	臨 床 研 修 医	27	5		32			0	32
小 計	170	40	0	0	210	0	0	0	210
合 計	409	778	1	25	1,213	72	367	439	1,652

1-8 各種委員会

平成 29 年 4 月 1 日時点

委 員 会 名	委 員 長 名	委 員 会 名	委 員 長 名
病院運営委員会	三 橋 直 樹	運営協議会	三 橋 直 樹
診療会議	佐 藤 浩 一	管理会議	落 合 美智子
看護管理会議	堀 江 みどり	医療安全・危機管理委員会	藤 田 和 彦
医療情報提供委員会	藤 田 和 彦	診療録管理委員会	佐 藤 浩 一
衛生委員会	桐 野 衛 二	災害対策委員会	柳 川 洋 一
救命救急センター運営 会議	柳 川 洋 一	薬事委員会	楠 威 志
治験審査委員会	玄 田 拓 哉	倫理審査委員会	玄 田 拓 哉
倫理委員会	吉 池 高 志	資材委員会	太 田 俊 彦
保険担当医会	山 本 拓 史	輸血療法委員会	岩 尾 憲 明
クリニカルパス委員会	山 本 拓 史	放射線治療品質管理委員 会	水 谷 好 秀
放射線安全委員会	水 谷 好 秀	感染対策委員会	岩 神 真一郎
がん診療委員会	飯 島 克 順	医療ガス安全管理委員会	岡 崎 敦
褥瘡対策委員会	松 本 茂	病棟利用対策委員会・ 外来対策委員会	佐 藤 浩 一
廃棄物管理委員会	和 田 了	臨床検査適正化委員会	和 田 了
CPC・CRC デスカンファレンス 委員会	和 田 了	NST・給食委員会	前 川 博
医療情報システム委員会	岡 崎 敦	広報委員会	永 原 章 仁
臨床研修センター会議	中 尾 保 秋	礼儀・接遇マナー向上 委員会	三 橋 直 樹
患者満足度調査 委員会	櫻 田 睦	図書管理委員会	永 原 章 仁
がん治療センター運営 委員会	飯 島 克 順	機種選定委員会	三 橋 直 樹
医療機器保守委員会	佐 藤 浩 一	手術室運営委員会	尾 前 毅
施設基準委員会	山 本 拓 史	DPC コーディング委員会	山 本 拓 史
脳死・臓器移植委員会	中 尾 保 秋	児童虐待対策委員会	寒 竹 正 人
勤務環境改善委員会	吉 池 高 志	業務委託委員会	佐 藤 浩 一
予防医学センター運営 委員会	清 水 芳 男	透析機器安全管理委員会	清 水 芳 男
研修管理委員会	三 橋 直 樹	内視鏡運営委員会	折 田 創

1-9 活動報告

年 月 日	会 議 ・ 行 事 実 施 事 項
29. 4. 1	新入職員オリエンテーション(1、3、4 日)
4	新入職員歓迎会
25	保険診療講習会「保険診療に求められるカルテ記載について」
5.23	がん治療研修会 第一部「がん化学療法」、第二部「がん放射線治療」
29	ドクターヘリ事後検証会
6.3	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会(～4 日)
21	感染対策研修会「梅毒の診断・治療に関して」
7.3	がん治療研修会 第一部「大腸がんの早期診断」、第二部「がん療養中の栄養の問題」
24	医療安全研修会「苦情・クレーム対応の実際」
8.23	ドクターヘリ事後検証会
24	褥瘡対策研修会「褥瘡の予防について」
29	医療安全研修会「個人情報保護法の改正について」
9.12	特別講演会「研究倫理指針改正について」
30	第 16 回初期臨床研修指導医講習会(～10/1)
10.18	消防訓練
11.15	ドクターヘリ事後検証会
16	がん患者の周術期口腔ケア研修会 「周術期の感染症や麻酔合併症予防を主眼とした口腔評価のポイント」
29	総合的な機能評価に関する研修会「認知症患者の看護」
12.8	感染対策研修会「抗菌薬の使い方」
11	感染対策研修会「HIV/AIDS の基礎知識」
19	褥瘡対策研修会「褥瘡の治療について」
30.1.23	感染対策研修会「抗菌薬の使い方」
29	医療安全研修会「防犯教室・護身術」
2.5	感染対策研修会「検査結果から見る HBV キャリアの病態と注意点」
13	静岡県東部地区救命救急医学研修会
19	ドクターヘリ事後検証会
26	医療安全研修会「サリドマイド・レナリドミド及びボマリドミド製剤の取扱運用について」
3.12	感染対策研修会「正しい検体の採り方」
15	総合的な機能評価に関する研修会「急性期病院における高齢者看護」
26	医療安全研修会「防犯教室・護身術」
27	保険診療講習会「診療報酬改定説明会」

年 月 日	会 議 ・ 行 事 実 施 事 項
上記のほか毎月定例として開催される会議	
第 1 火曜日	薬事委員会
〃	治験審査委員会
〃	がん診療委員会
第 1 木曜日	管理会議
第 2 月曜日	資材委員会
第 2 木曜日	診療会議
第 3 月曜日	看護管理会議(奇数月)
第 3 火曜日	NST・給食委員会
〃	看護配置に関する定期報告会(偶数月)
第 3 水曜日	業務委託委員会
第 3 金曜日	医療安全危機管理委員会
〃	医療情報提供委員会
第 4 月曜日	運営協議会
〃	施設基準委員会
第 4 水曜日	クリニカルパス委員会
〃	安全衛生委員会
第 4 木曜日	褥瘡対策委員会
〃	がん治療センター運営委員会(奇数月)
第 4 金曜日	感染対策委員会
最終火曜日	保険担当医会
〃	DPC コーディング委員会
毎月 1 回	病院運営委員会
隔月 1 回	輸血療法委員会
〃	内視鏡運営委員会
〃	救命救急センター運営会議
〃	臨床研修センター会議
〃	災害対策委員会
〃	診療録管理委員会

年 月 日	講 座 名 ・ テ ー マ
29. 4.24	第 54 回市民公開講座 「おしっこのことでお困りではありませんか？」
5.24	第 55 回市民公開講座 「関節リウマチの最新治療 ～適切な治療で「寛解」を目指しましょう～」
6.20	第 56 回市民公開講座 「脳腫瘍を知ろう ～病気が見つかる症状と最新の治療～」
7.5	第 57 回市民公開講座 「パーキンソン病のやさしい診断と治療」
20	第 35 回東部周産期研究会 『産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017』の解説 ～正期産新生児管理に関する変更点～ 「成熟児のアンバウンドビリルビン～新生児センターと新生児室の黄疸管理～」
8.8	第 58 回市民公開講座 「「がん」について学ぼう ～これからの時代、知っておくべき「がん」の知識～」
9.16	第 59 回市民公開講座 ※三島キャンパス合同開催 「知っておきたい高齢者の目の病気」 ①高齢者の目の病気とは？ ②視覚障害を持つ高齢者の在宅療養の実際と予防
10.23	第 60 回市民公開講座 「心臓病に対する診断と治療 ～正しく理解する為に～」
11.14	第 61 回市民公開講座 「がんとわかったときからはじまる緩和ケア」
30	第 36 回東部周産期研究会 「当院周産期センターにおける母体救急搬送の現状 (災害時における妊婦の適切なトリアージの構築)」 「当院 NICU における新生児救急搬送の現状と課題」
12.25	第 62 回市民公開講座 「産婦人科のがんについて ～子宮頸癌ってなに？～」
30.1.17	第 63 回市民公開講座 「知っていますか？眼瞼下垂 ～まぶたが下がっていませんか？気になる症状と治療法～」
2.15	第 64 回市民公開講座 「平成 28 年熊本地震における基幹災害拠点病院の対応」
3.3	第 65 回市民公開講座 ※三島キャンパス合同開催 「鼻呼吸と腹式呼吸の重要性」 ①誰でも、いつでも、どこでもできる鼻呼吸と腹式呼吸を用いた健康法 ②生き生き息ササイズ(イキササイズ)&ブローライフフルで、健康増進！
8	第 37 回東部周産期研究会 「胎児発育不全の胎児期の管法」 「胎児発育不全の早産児の新生児管理」

1-10 社会貢献・地域交流活動

年 月 日	活 動 名
29.5.22	中学生職場体験(～23 日)(伊豆の国市立韮山中学校 2 名参加)
24	中学生職場体験(～26 日)(伊豆の国市立大仁中学校 1 名参加)
6.1	中学生職場体験(～2 日)(伊豆の国市立長岡中学校 2 名参加)
5	高校生職場体験(～9 日)(田方農業高等学校 1 名参加)
7.27	高校生 1 日体験ナース(～28 日)(27 日 29 名、28 日 28 名参加)
8.3	高校生リハビリテーション見学(静岡県東部地区高等学校 6 名参加)
9.22	キャリア教育 フライトドクター・ナース派遣(三島市立山田小学校)
10.30	中学生職場体験(～31 日)(沼津市立大平中学校 2 名参加)
11.12	糖尿病予防キャンペーン 看護師派遣(アピタ大仁)
30.2.5	職業講話学習 フライトナース派遣(三島市立北小学校)
3.1	社会人講話 看護師派遣(函南町立東中学校)
31	子ども医療体験会「コード・ブルーセミナー」(小中学生 24 名参加)

1-11 指定・認定・許可事項

指 定 事 項	指 定 年 月 日
救命救急センター 40 床	昭和 56 年 11 月 1 日
新生児センター 30 床	昭和 57 年 4 月 1 日
エイズ拠点病院	平成 8 年 5 月 20 日
災害拠点病院	平成 8 年 11 月 26 日
日本医療機能評価機構認定病院	平成 16 年 3 月 15 日(初回認定日)
静岡県東部ドクターヘリ基地病院	平成 16 年 3 月 17 日
臨床研修指定病院	平成 16 年 4 月 1 日
地域がん診療連携拠点病院	平成 19 年 1 月 31 日
総合周産期母子医療センター	平成 20 年 8 月 1 日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	平成 21 年 3 月 10 日
DPC 対象病院	平成 23 年 4 月 1 日
災害派遣医療チーム静岡 DMAT 指定病院	平成 24 年 3 月 1 日
指定小児慢性特定疾病医療機関	平成 27 年 1 月 1 日
難病法に係る難病指定医療機関	平成 27 年 1 月 1 日

診療科名	学会認定
内科	日本内科学会教育病院
呼吸器内科	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
	日本感染症学会連携研修施設
消化器内科	日本消化器病学会認定施設
	日本肝臓学会認定施設
膠原病・リウマチ内科	日本リウマチ学会教育施設
血液内科	日本血液学会血液研修施設
腎臓内科	日本透析医学会教育関連施設
	日本腎臓学会研修施設
糖尿病・内分泌内科	日本糖尿病学会認定教育施設
循環器科	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
心臓血管外科	関連 10 学会構成 スtentグラフト実施基準管理委員会 腹部stentグラフト実施施設
	関連 10 学会構成 日本stentグラフト実施基準管理委員会 胸部stentグラフト実施施設
	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
小児科	日本小児科学会小児科専門医研修施設
新生児科	日本周産期・新生児医学会基幹施設
診療科名	学会認定

外科	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本外科学会外科専門医制度修練施設
	日本消化器外科学会専門医修練施設
	日本乳癌学会関連施設
	日本食道学会全国登録認定施設
	日本大腸肛門病学会関連施設
脳神経外科	日本脳卒中学会研修教育病院
	日本脳神経外科学会専門医研修連携施設
整形外科	日本整形外科学会研修施設
	日本手外科学会研修施設
脳神経内科	日本神経学会教育施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会関連施設
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
	日本角膜学会羊膜移植実施施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
麻酔科・ペインクリニック	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
	日本ペインクリニック学会指定研修施設
メンタルクリニック	日本精神神経学会精神化専門医制度研修施設
	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
皮膚・アレルギー科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
形成外科	日本形成外科学会認定施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会専門医教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
	日本産婦人科学会専門研修連携施設
	日本周産期・新生児医学会認定施設
	日本超音波医学会超音波専門医制度研修施設
救急診療科	日本航空医療学会認定施設
	日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本救急医学会指導医指定施設
病理診断科	日本病理学会研修認定施設
栄養科	日本静脈経腸栄養学会実地修練認定教育施設
	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設
	日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設
救命救急センター	日本集中治療医学会専門医研修施設
リハビリテーション室	日本リハビリテーション医学会認定施設
がん治療センター	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本緩和医療学会認定研修施設

2. 診療科報告

2-1 膠原病内科・リウマチ科

診療活動

静岡県東部地域を中心とした医療機関からのご紹介や初診の患者さんに十分対応できるよう、膠原病・リウマチ専門外来を毎日午前、午後設けている（1 診または 2 診）。入院症例に対しては週一回の回診と週二回のカンファレンス、また、関節リウマチに関し、週一回のリウマチカンファレンスを行い、適切で安全な治療を選択している。月一回の院内症例検討会のほかに、日本リウマチ学会教育認定病院として研修医や若手医師の教育に取り組んでいる。当地域のリウマチ診療の向上及び病診連携や病々連携の推進をめざし、年一回の静岡県東部リウマチ膠原病医会（第 28 回）を含む種々の研究会を主催し、病々連携の多い JA 静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院との合同カンファレンスを開催している。大学や順天堂医院との連携を密にするため、年一回難治症例の症例検討会を東京で行っている。その他、地域で行われる学術講演会へ積極的に参加、また日本リウマチ友の会や難病団体連絡協議会主催の相談会、講演会に積極的に医師を派遣し、患者教育に努めている。

診療実績

スタッフ

片桐 彰	准教授
岡田 隆	助手
丹治 佳菜	助手
津島 浩	助教

外来患者数は 1 日平均 53.9 人。疾患別では、関節リウマチ約 34.5%、全身性エリテマトーデス約 12.5%、血管炎症候群約 6.4%、強皮症約 6.3%、シェーグレン症候群（単独）約 10.5%、MCTD 約 3.2%、多発性・皮膚筋炎約 4.7%、その他となっている。関節リウマチの約 25%に生物学的製剤を外来で導入している。

入院患者数は平均 6.5 人で平均在院日数は 24.5 日。疾患別には関節リウマチ約 30%、顕微鏡的多発血管炎 約 16%をはじめとした血管炎症候群 20%、全身性エリテマトーデス 20%、多発性・皮膚筋炎 10%、強皮症 3.5%、その他となっている。これら疾患の初期治療はもちろん、感染症を中心とした合併症治療目的が多い。顕微鏡的多発血管炎をはじめとした高齢者の血管炎症候群の入院の増加が引き続き多い。治療が多様化した、副作用治療目的の関節リウマチの入院も増加している。エンドキサンパルス目的、ガンマグロブリン大量静注療法目的の入院にはクリティカルパスを導入している。また他科との連携もかかせず併診症例も多い。難治性病態例、習慣性流産歴のある全身性エリテマトーデス/シェーグレン症候群例、抗リン脂質抗体症候群症例および血球貪食症候群や血栓性微小血管障害症合併例などに対して血漿交換療法や吸着療法を積極的に施行している。また、難治性病態に対しては、最新の免疫抑制剤やリツキサン等生物学的製剤による治療も積極的に導入している。

次年度目標

関節リウマチの治療はこの 10 数年で劇的に変化し、他の膠原病疾患の治療も変化しつつある事をふまえ、最新の治療を安全、安心に遂行するために積極的に学会、研究会や治験、臨床研究等に参加する。外来では、患者さんの不安を取り除くべく、丁寧な説明を心がける一方、待ち時間の短縮をはかり、満足度の向上を目指す。入院では、疾患の特殊性に加え、高齢の患者さんの増加に伴う治療合併症対策を十分に行い、病々連携をすすめ入院日数の短縮を計る。ガンマグロブリン大量療法や、エンドキサンパルス入院はクリティカルパスを導入し効率化が図られたが、さらに新薬短期入院のパス化を進める。また地域の要望に出来る限り応えられるよう病診連携をより密にし、ご紹介いただいた患者さんの逆紹介を積極的に増やしていく。研究面では、研修医に症例報告、研究報告などの活発な学会参加の機会を与え、医局員は学会活動のみならず原著や総説の執筆を増やしていく。

研究・教育活動

1. 牧山彩子、岡田隆、丹治佳菜、片桐彰、田村直人： 当科における過去 10 年間のニューモシス肺炎（PCP）の発生状況 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会（福岡）2017 年 4 月 21 日
2. 岡田隆、牧山彩子、丹治佳菜、片桐彰、山路健、田村直人： 当院における高安動脈炎の臨床的特徴の解析 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会（福岡）2017 年 4 月 22 日
3. 岡田隆、牧山彩子、塚原隆伊、丹治佳菜、小田啓介、片桐彰、田村直人： 右総頸動脈瘤・閉塞で発症後、左総頸動脈瘤で再燃しトシリズマブ療法が奏功した高安動脈炎の 1 例 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会（福岡）2017 年 4 月 22 日
4. 丹治佳菜、牧山彩子、岡田隆、片桐彰、田村直人： メトトレキサート内服中に多臓器不全を来した一例 第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会（福岡）2017 年 4 月 22 日
5. 片桐彰： 関節リウマチの最新治療 市民公開講座 順天堂静岡病院 2017 年 5 月 24 日
6. 片桐彰： 関節リウマチ診療におけるレントゲン検査の重要性 リウマチエリア WEB セミナー 2017 年 6 月 14 日
7. 片桐彰： 関節リウマチの治療について 生物学的製剤を中心に 沼津市薬剤師会 2017 年 11 月 16 日
8. 津島浩、岡田隆、丹治佳菜、片桐彰、山路健、田村直人： Bent spine syndrome を伴った稀な多発性筋炎の一例 第 43 回リウマチ懇話会 2017 年 2 月 3 日

2-2 血液内科

診療活動

血液内科は実際に標榜を開始したのは、平成 15 年 7 月からで、それ以前は、内科に属していました。固定した医師が血液内科の活動を始めたのは平成 10 年 9 月からです。平成 18 年 7 月からは、8 階に無菌室を 2 床設置して、フル稼働しています。また、平成 23 年 5 月からは医局員が初めて 3 人になり、現在は 4 人体制になり、血液内科もしだいに充実してきています。現在、末梢血幹細胞移植を施行しています。

(特色)

末梢血幹細胞移植を積極的に行っています。

静岡県血友病ネットワークの東部基幹病院として、小児の血友病患者が成人した場合にひき続き治療を行えるように体制を整えています。

対象疾患

良性疾病としては、一番多い貧血の原因である、鉄欠乏性貧血、それに同じく貧血で診断される、自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)、貧血や血小板減少や白血球が減少する、再生不良性貧血 (AA)、血小板が増加してしまう、本態性血小板血症 (ET)、赤血球が増加してしまう、真性多血症(PV)があります。PV, ET, 骨髄線維症については、現在順天堂関連病院で JAK-2 遺伝子の変異について臨床研究を行っており、病態、治療に役立っています。

悪性疾病としては、悪性リンパ腫 (lymphoma)、骨髄異形成症候群 (MDS)、急性骨髄性白血病 (AML)、多発性骨髄腫 (MM)、慢性骨髄性白血病 (CML)、成人 T 細胞性白血病 (ATL)、急性リンパ性白血病 (ALL)、慢性リンパ性白血病 (CLL)があります。

出血性疾患としては、血小板が減少して、紫斑ができやすくなる、特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)、生まれた頃から関節内出血を繰り返す血友病や、その他の凝固因子欠乏症があります。

伊豆半島における血液疾患の特徴としては、ATL 患者が比較的多いことと、CLL もやや多い傾向がみられます。

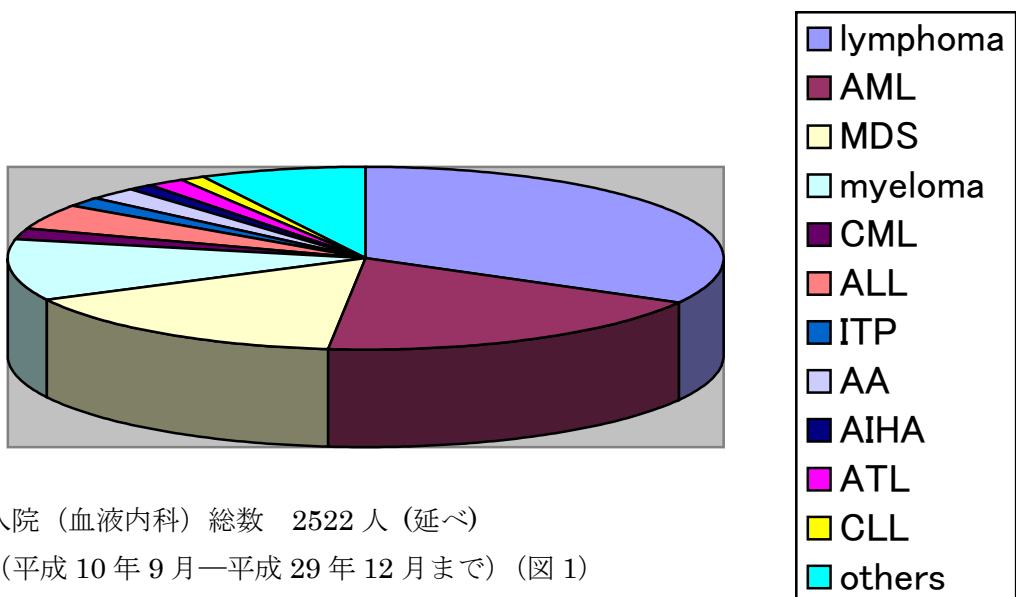
診療実績

症例数 (入院)

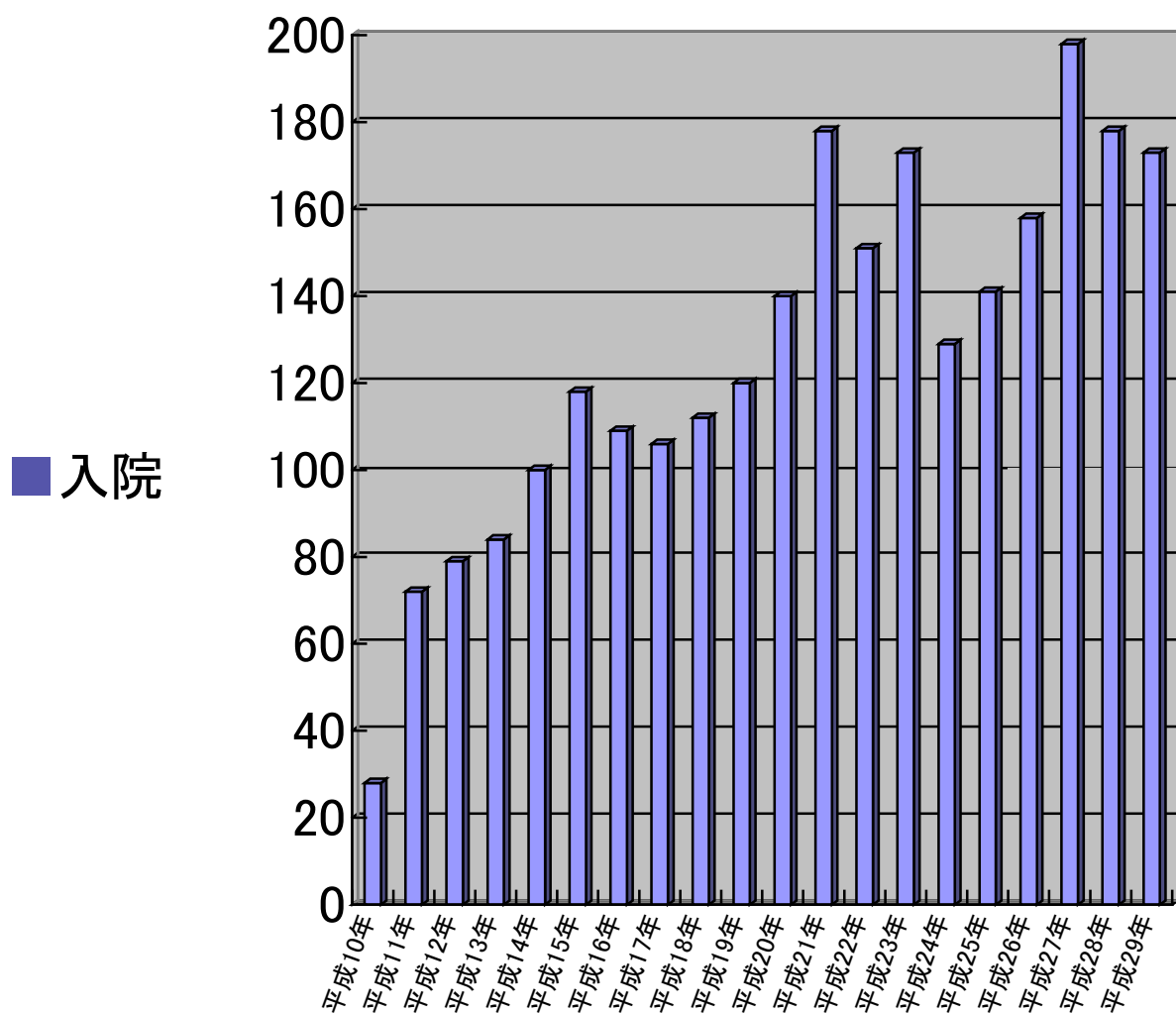
平成 10 年 9 月から、平成 29 年末までの主な血液内科の入院

患者数はのべ 2522 人で、その内訳は lymphoma 831 人 (33.0%), AML 466 人(18.5%), MDS 394 人 (15.6%), MM 268 人(10.6%),ALL 119 人(4.7%), AA 60 人(2.4%), CML 46 人(1.8%), ITP 48 人(1.9%), AIHA 26 人 (1.0%), ATL 35 人 (1.4%), CLL 28 人 (1.1%), その他(others) 201 人 (8.0%) (図 1)。

入院患者も年々増加傾向にあります (図 2)。



入院（血液内科）総数 2522 人（延べ）
（平成 10 年 9 月—平成 29 年 12 月まで）（図 1）



入院患者数の変遷 （図 2）

次年度目標

- 1) 静岡県東部の血液疾患者を責任を持って治療していく。
- 2) エビデンス基づいて治療を行う。
- 3) 症例、臨床研究の発表、論文化を積極的に行う。

研究、研究活動

原著 (英文)

1. Saito A, Isoda A, Yokohama A, Tsukune Y, Sasaki M, Ito S, Ohtsu M, Koike M, Murayama K, Moriya K, Tamura H, Matsumoto M, Nakahashi H, Tanosaki S, Sakura T, Kawamura T, Miyana T, Nakamura N, Murakami H, Hanada H, Tsukamoto. I
Retrospective analysis of prognostic factor for Waldenstrom's Macroglobulinemia: a multicenter cooperative study in Japan.
Int J Hematol 2017;106: 681-690
2. Takaku T, Iriyama N, Mitumori T, Satou E, Gotoh A, Kirito K, Noguchi M, Koike M, Sakamoto J, Oba K, Komatsu M.
Clinical efficacy and safety of first-line dasatinib therapy and the relevance of velocity of bcr-abl1 transcript decline for achievement of molecular responses in newly diagnosed chronic-phase chronic myeloid leukemia: Report from the Juntendo yamanashi cooperative study group.
Oncology 2017

(報告その他)

1. Hemodialysis patients with MDS at our institute
小池 道明
第 14 回国際 MDS 学会 5 月 3 日—5 日 バレンシア スペイン
2. 当院に置ける新鮮凍結血漿(FFP)の適正使用に向けた取り組み
土屋明美、岩尾憲明、小池道明
第 65 回日本輸血・細胞治療学会総会 6 月 23 日 千葉
3. MDS patients with hemodialysis
小池道明
ワルデンシュトルームマクログロブリン血症に関する多施設共同後方視的研究
板垣充弘、小池道明他
骨髄増殖性腫瘍症及び健常者を対象にした新規 JAK2V617F 変異量測定キットの臨床性能試験
野口雅章、小池道明他
Evaluation of staging and prognosis factors in multiple myeloma KT-MM prognostic analysis.
木下量介、小池道明他

第 79 回日本血液学会学術集会 10 月 20, 21, 22 日 東京

4. 目覚ましい発展を遂げている多発性骨髄腫の治療

小池道明

第 26 回中部がん化学療法勉強会 10 月 28 日 静岡市

5. 出血を繰り返し免疫抑制剤の併用療法が奏功した高インヒビター力価の後天性血友病 A

森 智代

日本内科学会 第 233 回東海地方会 10 月 29 日 岐阜市

6. 当科で経験した Cup-like myeloid leukemia

渡邊 直紀

第 31 回静岡県東部血液セミナー 12 月 1 日 沼津市 沼津キャッスル

2-3 消化器内科

診療活動

永原章仁教授以下大学院生 2 名を含む計 11 名のスタッフで診療、教育、研究、疾患啓発活動を行いました。平成 29 年度は、前年度に引き続き地域かかりつけ医との「病診連携」の向上に努めました。上部消化管領域では、ヘリコバクター・ピロリ菌や機能性ディスペプシアに対する治療、早期胃がんに対する ESD に取り組みました。下部消化管領域では、炎症性腸疾患に対する生物学的製剤・血球成分除去療法、早期大腸がんに対する ESD に力を注ぎました。肝臓領域では、ウイルス性肝炎や肝硬変合併症に対する新しい治療、肝がんに対する薬剤溶出性ビーズを用いた肝動脈化学塞栓療法を多数実施しました。胆膵領域では、超音波内視鏡を用いた Intervention にも積極的に取り組みました。教育面では、日本消化器病学会、肝臓学会、消化器内視鏡学会の指導医・専門医が学問的あるいは技術的指導を行い、スキルアップをはかりました。また研究面では積極的に国内外の学会発表や論文発表を行い、大学病院の一員として貢献しました。

診療実績

診療実績	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
外来患者数	22,944 人	24,096 人	22,909 人	23,210 人
入院患者数（延）	744 人	786 人	775 人	881 人
上部消化管内視鏡検査	2,068 例	2,170 例	2,154 例	2,244 例
※内視鏡の粘膜下層剥離術を含む				
下部消化管内視鏡検査	871 例	1,167 例	1,094 例	1,130 例
※内視鏡の粘膜下層剥離術を含む				
超音波内視鏡検査	—	32 例	26 例	49 例
※超音波内視鏡ガイド下穿刺術を含む				
食道内圧検査	—	—	4 例	5 例
カプセル内視鏡	12 例	7 例	3 例	17 例
大腸コロノグラフィー（大腸 CT 検査）	—	6 例	8 例	6 例
内視鏡の逆行性胆管膵管造影検査				
※内視鏡の乳頭切開術を含む	135 例	154 例	150 例	202 例
※胆管・膵管ステント留置術を含む				
腹部超音波検査	2,513 例	2,169 例	2,271 例	2,400 例
肝生検	134 例	54 例	60 例	60 例
経皮的ラジオ波焼灼療法	42 例	35 例	22 例	74 例
腹部血管造影検査	174 例	182 例	162 例	168 例
※肝動脈化学塞栓療法・肝動注化学療法を含む				
経皮経肝の胆道・胆嚢ドレナージ術	81 例	57 例	101 例	40 例

次年度目標

1. 安全で確実な医療の実践
技術的に高度な検査、治療を取り扱うことから、予測される治療効果や偶発症を事前に十分検討し、安全かつ効果的な医療の実践を目指します。
2. 病診連携の強化
セミナーや講演会を通じて地域の医療機関と「顔の見える病診連携」を推進します。特に上部・下部消化管内視鏡検査においては、以前より要望の多かった「地域医療連携枠」を造設します。
3. 診療の効率化
昨年度より「外来予約制」を導入しましたが、今後は「地域医療連携予約枠」の拡充を行います。また「クリニカルパス」を積極的に運用し、更なる平均在院日数の短縮、病床稼働率の増加を目指します。
4. 途切れないキャリア教育
医学部学生に対する教育、研修医に対する診察や治療手技の指導のほか、若手医局員に対しても上級医が学問的あるいは技術的指導を行います。また各種学会認定医、専門医の取得、国内外での学会発表をサポートします。
5. 疾患啓蒙活動
基幹病院あるいは大学病院に一員として、地域の医療従事者や一般市民などに広く消化器疾患に関わる情報提供を行います。

研究・教育活動

【原著（英文）】

1. Impact of MUC1 Expression on the Progression of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasm With Worrisome Features During Follow-up. *Pancreas*. 2017 Oct;46(9):1127-1132
2. A Randomized, Double-Blind, Pilot Study of the Effect of Famotidine on Acotiamide Treatment for Functional Dyspepsia. *Digestion*. 2017;96(1):5-12. PMID: 28605740
3. A Systematic Review of the Effectiveness of Antianxiety and Antidepressive Agents for Functional Dyspepsia. *Intern Med*. 2017 Dec 1;56(23):3127-3133. PMID: 29021437
4. Efficacy of a potassium-competitive acid blocker for improving symptoms in patients with reflux esophagitis, non-erosive reflux disease, and functional dyspepsia. *Biomed Rep*. 2017 Feb;6(2):175-180. PMID: 28357069
5. Aldo-keto reductase family 1 member B10 is associated with hepatitis B virus-related hepatocellular carcinoma risk. *Hepatol Res*. 2017; 47: E85-E93
6. Survival in patients with Child-Pugh class C cirrhosis: analysis of the liver transplant registry in Japan. *Hepatol Res*. 2017; 47: 1155-1164
7. Genome-wide Association Study Identifies TLL1 Variant Associated With Development of Hepatocellular Carcinoma After Eradication of Hepatitis C Virus Infection. *Gastroenterology* 2017;152:1383-1394.
8. Nationwide survey for acute liver failure and late-onset hepatic failure in Japan. *J Gastroenterol*. 2017. [Epub ahead of print]
9. Overexpression of a disintegrin and metalloproteinase 21 is associated with motility, metastasis, and poor prognosis in hepatocellular carcinoma. *Sci Rep*. 2017; 7: 15485

10. Efficacy and safety of rifaximin in Japanese patients with hepatic encephalopathy: A phase II/III, multicenter, randomized, evaluator-blinded, active-controlled trial and a phase III, multicenter, open trial. *Hepatol Res.* 2017 [Epub ahead of print]
11. Ledipasvir-Sofosbuvir for Treating Japanese Patients With Chronic Hepatitis C Virus Genotype 2 Infection. *Liver Int.* 2018. [Epub ahead of print]
12. A multicenter pilot survey to clarify the clinical features of patients with acute-on-chronic liver failure in Japan. *Hepatol Res.* 2018; 48:303-312.
13. Proposed diagnostic criteria for acute-on-chronic liver failure in Japan. *Hepatol Res.* 2018; 48: 219-224.

【原著（和文）総説】

1. Gemcitabine+nab-paclitaxel にて腫瘍縮小傾向を認めた多形細胞型退形成膵管癌の一例. *膵臓* 2017.
2. 2年間で急速に増大した Gastric sarcomatoid carcinoma の1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2017
3. 反復性肝性脳症を呈する巨大門脈大循環短絡路に対して B-RTO を施行した C 型肝硬変の1例. *日本門脈圧亢進症学会雑誌* 2017
4. 胃内視鏡による胃癌検診. *日本医事新報* 2017
5. 薬を一週間飲み続けるだけでがんの発生リスクが半分に下げられる. *医療新聞 胃がん対策特集号* 2017
6. 呼吸器内科専門医から消化器専門医への質問・回答. *Pharma Medica* 2017
7. 胃食道逆流症（GERD）とは？ *Salvus* 2017
8. 身近な疾患-便秘型 IBS 治療についての話題-兵庫保険医新聞 2017
9. ピロリ菌感染と症状との関係は？ *日本医事新報* 2017
10. 脳死、生体肝移植の現況と問題点. *消化器・肝臓内科* 2017,
11. ガイドライン 外来診療 2017. *日経メディカル開発・* 2017

【学会発表(国際)】

1. Evaluation of long term survival of chemoradiotherapy with Gemcitabine and S-1 compared with chemotherapy alone in the cases with locally advanced pancreatic cancer. *UEG Week 2017, Barcelona.*
2. Impact of gastric acid-suppressive agent on quality of life inpatient with upper gastrointestinal symptom. *5th Biennial Congress of the Asian Neurogastroenterology & Motility Association, 2017*
3. Do the endoscopic findings of gastritis bring the FD symptoms? *UEG Week 2017, Barcelona, October 31, 2017*
4. "Post-treatment Serum Wisteria floribunda Agglutinin-positive Mac-2-binding Protein Levels Predict the Risk of Hepatocellular Carcinoma Development after Hepatitis C Virus Eradication. *AASLD The Liver Meeting Washington DC 2017*

【学会発表(国内)】

5. HBV 核酸アナログ治療症例における M2BPGi と肝発癌. 第 42 回日本肝臓学会西部会
6. B、C 型肝炎ウイルス制御後の FIB-4 index の変化と肝発癌. 第 53 回日本肝臓学会総会
7. B 型慢性肝炎核酸アナログ投与例における FIB-4 index の継時的変化と肝発癌. *日本消化器病学会東海支部 第 126 回例会*
8. 切除不能局所進行膵癌に対する GEM と TS1 併用した化学放射線療法(CRT)の検討. 第 25 回日本消化器病学会大会

9. 膵腺房細胞癌の画像検討. 第 103 回日本消化器病学会総会
10. 胃炎の京都分類に抗血栓薬の内服がもたらす影響. 第 13 回日本消化管学会総会各術集会
11. 内視鏡的胃炎は FD 症状をもたらすか? 第 103 回日本消化器病学会総会
12. 急速な進展経過を追跡し得た胃腺扁平上皮癌の一例. 第 93 回日本消化器内視鏡学会総会,
13. 迅速ウレアーゼ試験 (RUT) における胃粘液検体の有用性. 第 23 回日本ヘリコバクター学会学術集会
14. 上腹部症状と QOL の関係に制酸薬が与える影響. 第 25 回日本消化器病学会大会
15. 経過中に急性発症型自己免疫性肝炎の合併を認めた原発性胆汁性胆管炎の 1 例. 本消化器病学会東海支部 第 127 回例会
16. 当科における肝硬変合併門脈血栓症に対する抗凝固療法の治療成績. 日本肝臓学会・福岡・2017 年 12 月 1 日
17. 外来患者における便秘症状の現状. "第 14 回日本消化管学会総会学術集会
18. 超音波内視鏡下ドレナージ術が奏効した肝膿瘍穿破による大網内膿瘍の 1 例. 日本消化器病学会東海支部第 126 回例会
19. Veno-occlusive disease による急性肝不全に対する TIPS の bridge therapy としての可能性. 第 24 回日本門脈圧亢進症学会総会
20. 末期肝臓病としての原発性胆汁性胆管炎と原発性硬化性胆管炎の病態. 第 42 回日本肝臓学会西部会
21. 肝がん治療後のインターフェロン・フリー治療が肝予備能に与える影響. 第 42 回日本肝臓学会西部会
22. 興味深い血行動態を示した食道離断術・脾摘後の難治性胃静脈瘤の 1 例. 第 24 回日本門脈圧亢進症学会総会
23. 当科における肝硬変合併門脈血栓症に対する抗凝固療法の治療成績. 第 24 回日本門脈圧亢進症学会総会
24. インターフェロン・フリー治療が肝機能に与えるインパクト. 第 53 回日本肝臓学会総会
25. IFN 治療における SVR 後肝発癌予測因子と IFN free 治療の現状. 第 53 回日本肝臓学会総会
26. C 型肝炎 SVR 後肝発癌予測における肝線維化マーカー M2BPGi の有用性. 日本消化器病学会総会
27. 肝発癌例から見た新規肝線維化マーカー M2BPGi の意義. 第 53 回日本肝臓学会総会
28. Veno-occlusive disease による急性肝不全の一例. 日本急性肝不全研究会
29. ソラフェニブとシスプラチンによる術後補助化学療法中に興味深い腫瘍マーカーの変動を認めた肝細胞癌の 1 例. 第 14 回日本肝癌分子標的治療研究会
30. C 型肝炎 SVR 例における血清肝線維化マーカー M2BPGi の変化と SVR 後肝発癌. 第 42 回日本肝臓学会西部会
31. ソラフェニブからレゴラフェニブへの変更により病勢コントロールを得ている切除後 再発肝細胞癌の 1 例. 第 15 回日本肝癌分子標的治療研究会

2-4 [呼吸器内科](#)

診療活動

静岡県東部、伊豆半島では呼吸器専門医が慢性的に不足しており、当院呼吸器内科では、大学病院としての役割である高度な検査、治療から市中病院的な役割まで、幅広く対応させていただいています。診療対象疾患は原発性肺癌、肺炎、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、間質性肺炎などですが、これらの疾患は年々増加傾向にあり重症化すれば生命に関わる疾患です。当科には日本呼吸器学会や日本呼吸器内視鏡学会の専門医、指導医が常勤医師として勤務しており、難易度の高い検査、治療が実施可能で、重症度の高い専門性を必要とする呼吸器疾患を有する患者に対して最善の医療が提供できる体制を整えております。

昨年度は、年間で 488 人の入院患者を経験させていただきました。1 日平均外来患者数は年々増加しており、平成 29 年度は 81.9 人と年々増加しています。これも近隣の医療機関から多数の症例を御紹介いただいた結果と感謝いたしております。

診療実績

外来患者数 1 日平均 81.9 人

入院患者数 488 例／年

原発性肺癌 156 例

転移性肺腫瘍 1 例

悪性リンパ腫 1 例

悪性胸膜中皮腫 5 例

縦隔腫瘍 1 例

肺炎（ARDS、気道感染を含む） 148 例

非結核性抗酸菌症 4 例

結核 1 例

結核性胸膜炎 2 例

胸膜炎、膿胸 8 例

慢性閉塞性肺疾患（急性増悪を含む） 19 例

気管支喘息 14 例

慢性呼吸不全急性増悪 7 例

肺結核後遺症 5 例

間質性肺炎 53 例

慢性好酸球性肺炎 3 例

気管支拡張症 6 例

自然気胸 15 例

咯血 9 例

縦郭リンパ節種大精査 3 例

原因不明の胸水精査 8 例

うっ血性心不全 3 例

その他 16 例

気管支鏡検査 193 件／年〔観察のみ 16 件、病理診断目的 131 件（内 EBUS 使用例 66 件、EBUS-TBNA 8 件）、気管支肺胞洗浄 46 件〕

胸部超音波検査 15 件／年（観察 5 件、胸水排液を含む穿刺 10 件）

次年度目標

1. 診療に関しては、従来通り、患者様の立場を尊重した、質の高い医療を提供したいと考えています。また、近隣医療施設と連携を保ち、協力しながら診療を進めていきます。
2. 研究に関しては、英文論文をより多く掲載させることを第 1 の目標とします。また、学会には積極的に参加し、当院からの研究の発信を積極的に行っていきます。
3. 学生教育は診療参加型実習となっており、附属病院での役割が重要になっています。より良い学生教育ができるよう積極的に取り組んでいきます。

研究・教育活動

英文原著

1. Yoshikawa H, Fujii M*, Iwakami S*, Takeda I, Hayakawa D, Takahashi K. Chylothorax ascribed to chronic heart failure in a woman of very advanced years. Geriatr Gerontol Int. 17: 1133-1135, 2017
2. Hara M, Iwakami S, Sasaki S, Fujii M, Takahashi K. A retrospective analysis of prognostic factors of nursing and healthcare-associated pneumonia. Juntendo Medical Journal 63: 354-361, 2017

和文報告その他

1. 宮脇太一、安部寿美子、住吉一誠、吉田隆司、原宗央、岩神直子、岩神真一郎：外来化学療法における通院距離の治療効果への影響。 田方医師会呼吸器研究会 2017 年 4 月 13 日 田方医師会館
2. 原宗央、松本直久、宮脇太一、岩神直子、藤井充弘、岩神真一郎、高橋和久：当院における肺炎球菌性肺炎症例の治療反応性に関する後方視的検討。 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 2017 年 4 月 22 日 東京国際フォーラム
3. Miyawaki T, Yagishita S, Suzuki Y, Matsumoto N, Hara M, Iwakami N, Fujii M, Iwakami S, Takahashi K. Cost-effect analyses of bevacizumab and pemetrexed for non-squamous non-small cell lung cancer in clinical practice. 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 2017 年 4 月 22 日 東京国際フォーラム

4. 劉左右、塩田智美、杉山愛、和田裕雄、関谷充晃、守尾嘉晃、岩神真一郎、家永浩樹、高橋和久：右心カテーテルを施行した呼吸器疾患における、動脈血液ガス分析同時測定の意義。 第 57 回日本呼吸器学会学術講演会 2017 年 4 月 22 日 東京国際フォーラム
5. 山田朋子、吉田隆司、宮脇太一、原宗央、岩神直子、藤井充弘、岩神真一郎：抗 IFN- γ 抗体陽性を示した播種性非結核性抗酸菌症の 1 例。 第 111 回日本呼吸器学会東海地方学会 2017 年 5 月 27 日 愛知県がんセンター中央病院 国際医学交流センター
6. 宮脇太一、安部寿美子、住吉一誠、吉田隆司、原宗央、岩神直子、岩神真一郎：義歯を誤嚥した気道異物の 1 例。 第 53 回日本呼吸器内視鏡学会中部支部会 2017 年 7 月 1 日 名古屋市立大学病院 病棟・中央診療棟 3F 大ホール
7. 宮脇太一、安部寿美子、住吉一誠、吉田隆司、原宗央、岩神直子、岩神真一郎：気道異物。 田方医師会呼吸器研究会 2017 年 7 月 13 日 田方医師会館
8. 岩神真一郎：身近に潜む呼吸器感染症～肺炎、結核、インフルエンザなど～。 青木クリニック講演会 2017 年 10 月 24 日 青木クリニック
9. 雨宮徳直、岩神真一郎：遷延性咳嗽にて受診した百日咳症例の臨床的特徴の検討。 第 19 回日本咳嗽研究会 2017 年 10 月 28 日 国際ファッションセンター2F
10. 原宗央、安部寿美子、吉田隆司、住吉一誠、宮脇太一、岩神直子、岩神真一郎。 ステロイド漸減中に再燃を認めた Nivolumab による薬剤性肺障害の 1 例。 田方医師会呼吸器研究会 2017 年 11 月 9 日 田方医師会館
11. 宮脇太一、河野加奈、宮下洋祐、住吉一誠、原宗央、岩神直子、岩神真一郎：Gefitinib により奏功が得られた心筋転移を伴う EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌の 1 例。 田方医師会呼吸器研究会 2017 年 11 月 9 日 田方医師会館
12. 宮脇太一、安部寿美子、吉田隆司、住吉一誠、原宗央、岩神直子、岩神真一郎：Gefitinib により奏功が得られた心筋転移を伴う EGFR 遺伝子変異陽性肺腺癌の 1 例。 第 112 回日本呼吸器学会東海地方学会 2017 年 11 月 11 日 三重県医師会館
13. 安部寿美子、吉田隆司、住吉一誠、宮脇太一、岩神直子、原宗央、岩神真一郎。 ステロイド漸減中に再燃を認めた Nivolumab による薬剤性肺障害の 1 例。 第 112 回日本呼吸器学会東海地方学会 2017 年 11 月 11 日 三重県医師会館
14. 岩神真一郎：市中肺炎の診断、治療と予防。 静岡県保険医協会東部支部講演会 2017 年 11 月 15 日 三島商工会議所

15. 岩神真一郎：抗菌薬の使い方．順天堂大学医学部附属静岡病院、 感染対策委員会研修会 2017 年
12 月 8 日 順天堂大学医学部附属静岡病院第 1 会議室
16. 岩神真一郎：抗菌薬の使い方．順天堂大学医学部附属静岡病院、 感染対策委員会研修会 2018 年
1 月 23 日 順天堂大学医学部附属静岡病院第 1 会議室
17. 宮脇太一、河野加奈、宮下洋祐、住吉一誠、原宗央、岩神直子、岩神真一郎：義歯を誤嚥した気道
異物の一例． 第 123 回内科症例検討会 2018 年 3 月 14 日 順天堂大学医学部附属静岡病院 G 棟 4F
面談カンファレンス室 2

2-5 腎臓内科

診療活動

腎臓内科は、腎疾患の終末像である末期腎不全（ESKD）を減少させる目標を掲げ、慢性腎臓病（CKD）（慢性腎炎、ネフローゼ症候群などの一次性腎疾患、糖尿病、血液疾患、自己免疫疾患による二次性腎疾患、多発性嚢胞腎などの遺伝性疾患）、急性腎障害（AKI）（薬剤性、環境因子）、水・電解質の異常や高血圧などを対象とし、診療に従事している。今年度も CKD に対してガイドラインに準拠した治療を行うとともに、腎生検などの当科に固有の検査を施行することにより、疾患特異的な治療を選択し、良好な経過が得られた。AKI に対し、可能な限り腎後性・腎前性などの要因を外来で検討し、迅速な対応を心掛けた結果、重症化を防止することができた。以上の成果として、当科の一日平均外来患者数が 40 名を超え、紹介患者数も増加したと考えられる。重症者の全身管理は、輸液や薬剤の選択・量の調整をはじめ、持続血液濾過透析療法（CHDF）をはじめとする血液浄化療法による回復へのサポートを行い、院内で AKI の発生防止と ICU 在室期間や予後の改善に貢献した。ESKD に対して、維持血液透析開始に必要な内シャント手術を自科で行い、他施設患者の急変時に対してもオンコール体制を整え対応したため、内シャント手術件数が増加した。在院日数の低減・入院病床の効率的運営のため、腎生検・内シャント手術はクリニカルパスを導入し、スタッフ間の情報共有および研修医教育の一環として、毎日朝・夕にカンファレンスを行っている。高齢化に伴う慢性腎臓病患者の増加に伴い、急性期を脱したが、在宅は ADL 的に困難なケースが増えており、退院支援および早期のリハビリ介入を積極的に行っている。

診療実績

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
外来患者数（1 日平均）	39.9 人	43.5 人	46.7 人
病床稼働率	102.7%	107.5%	107.6%
血液浄化件数	6482 件	7455 件	7388 件
血液浄化センター（10 床）稼働率	103.3%	119.2%	118.1%
腎生検	10 件	14 件	16 件
内シャント設置件数	94 件	120 件	140 件

次年度目標

腎生検の件数は増加しているが、入院ベッド状況が過密であり、救急対応のため予定検査入院が難しい状態が継続している。急性期から安定・回復期へ移行した患者の早期退院ないしリハビリ転院をすすめる、腎生検件数の増加を目指す。外来患者数、紹介患者数も徐々に増加しており、引き続きこの傾向の継続に努めたい。入院については、ベッドの稼働率は比較的良好な状況であったが、在院日数の長期化が依然として問題であると考えられる。急性期を脱したもの、ADL 的に帰宅が困難な患者の増加が最も在院日数を延長させていると考えられる。早期からのリハビリ介入および転院調整を行う。内シャント

手術件数は、地域の透析導入病院の縮小に伴い増加している一方で、手術待ち患者の増加が生じている。手術枠を効率的に運用することで対応する。

研修医・学生教育については、朝・夕のカンファレンスに必ず同席させ、一日の診療の見通しとまとめを必ず行う。研修医については、静岡腎セミナーおよび静岡腎不全カンファレンスにて発表させ、学会活動に関する研修サポートを行う。

研究活動は、日本腎臓学会・日本透析学会等において発表を行い、論文化を目指す。29年度は学位取得者が1名（原一彰）出たが、これ以外にも若い医師の研究活動支援し、腎臓内科全体の研究レベルの上昇に努める。

研究・教育活動

原著（英文）

1. Hara K, Hamada C, Wakabayashi K, Kanda R, Kaneko K, Horikoshi S, Tomino Y, Suzuki Y. Scavenging of reactive oxygen species by astaxanthin inhibits epithelial-mesenchymal transition in high glucose-stimulated mesothelial cells. PLOS ONE. 2017 Sep 19;12(9):e0184332.

和文（総説）

1. 清水 芳男. 高齢者における保存期 CKD のマネジメント. Geriatric Medicine （老年医学） 55(12);1329-33, 2017

和文（図書）

1. 清水 芳男 4 かゆみ 内科外来診断 navi 富野 康日己編 p9-11, 中外医学社 東京 2017

学会発表（国内）

1. 桑沢 雅子、若林 啓一、清水 芳男. 症例検討—診断・療法選択のピットフォール—周期的に嘔吐・脱水を繰り返し急性腎障害で搬送された60歳女性—第55回静岡腎セミナー. 2017年9月30日 静岡市 中島屋グランドホテル
2. 桑沢 雅子、原 一彰、若林 啓一、清水 芳男. 筋萎縮性側索硬化症（Amyotrophic lateral sclerosis）に合併したMPO-ANCA陽性顕微鏡的多発血管炎(MPA)の一例. 第55回静岡腎セミナー. 2017年9月30日 静岡市 中島屋グランドホテル
3. 肥後 雅秀、中野 岳彦、高橋 和弘、尾藤 史康、久保田 京子、久保田 真二、大原 和久、磯部 裕紀、渡邊 大貴、清水 芳男. 低体温循環停止法における下肢循環停止時間と血清クレアチニンおよび尿量との関連. 第50回静岡県腎不全研究会. 2017年9月17日. 静岡市もくせい会館
4. 清水 芳男、若林 啓一、林 陽子、戸塚 絢子、青山 留未、柳川 宏之. 薬疹と内シャント閉塞に関する一考察. 第62回日本透析医学会学術集会・総会 2017年6月18日. パシフィコ横浜
5. 遠藤 未来美、清水 芳男、佐藤 浩一. 味覚に着目したマウスからの簡便で確実な採尿方法の検討. 第60回日本腎臓学会学術総会. 2017年5月28日. 仙台国際会議場
6. 清水 芳男、若林 啓一、林 陽子、原 一彰、青山 留未、戸塚 絢子、桑沢 雅子、鈴木 祐介. 疱疹状皮膚炎に合併し、III型膜性増殖性糸球体腎炎（MPGN）様病理像を呈した一例. 第47回日本腎臓学会東部学術大会. 2017年10月29日. パシフィコ横浜

7. 若林 啓一. PD HD 併用療法におけるシャント血流量と心機能への影響. 第23回日本腹膜透析学会シンポジウム. 2017年10月7日
8. 明楽 麻依子:1、中田 純一郎:1、井尾 浩章:2、野原 奈緒:1、園田 彩乃:1、清水 友希:1、鈴木 祐介. *Helicobacter cinaedi* 菌血症を伴う両側下腿蜂窩織炎を発症した腹膜透析患者の1例. 2017年6月17日 第62回日本透析医学会, 2017年6月17日 パシフィコ横浜

2-6 糖尿病・内分泌内科

診療活動

糖尿病・内分泌内科では、現在 4 名の常勤と 2 名の非常勤医師(各々週 1 回) が、糖尿病や脂質異常症をはじめとする代謝疾患と、内分泌疾患の診療に従事している。

当院は、日本糖尿病学会認定教育施設でもあり、糖尿病を最も多く診療している。2 週間の糖尿病支援入院を行っており、患者さんに行動変容を起こしてもらえるよう、療養指導・行動療法に力を入れている。地域医療連携室の協力も得て、病診連携にて紹介された患者さんは、当院外来を受診することなく、直接入院をしていただけるシステムを運用している。退院後は、地元の病院・クリニックに戻っていただき、地域の先生方との連携を密に保つことを目指している。また 1 型糖尿病患者へのインスリンポンプ導入も積極的に行っている。内分泌疾患で最も多いのはバセドウ病、橋本病をはじめとした甲状腺疾患であるが、それ以外の下垂体疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、膵内分泌腫瘍等に関しても、各科と連携しながら診療を行っている。

診療実績

主科入院患者数(年間総数) 164 名

外来患者数(月平均) 1,846 名

外来インスリン治療患者数(月平均) 662 名

次年度目標

糖尿病診療をさらに充実させるためには、療養指導にあたることのできるコメディカルの育成が重要である。多職種からなる糖尿病チームを発足させ、院内スタッフの教育の充実、外来での患者さん向け勉強会の充実をはかっていく。また静岡県東部地域全体の糖尿病医療の底上げのために、地域の先生方、コメディカルの方々との連携も充実させていくよう努力したい。内分泌疾患の紹介も増えてきたため、内分泌疾患のクリニカルパスも作成し、負荷試験などの検査入院も円滑に行えるようにしていく。さらに学会発表や論文発表など、臨床研究についても力を入れていきたいと考えている。

研究・教育活動

英文原著

1. Sato J. et al “Comparison of the therapeutic effects of prednisolone and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in patients with subacute thyroiditis.” Endocrine ; 55: 209-214, 2017
2. Sato J. et al “A randomized controlled trial of 130 g/day low-carbohydrate diet in type 2 diabetes with poor glycemic control.” Clin Nutr ; 36: 992-1000, 2017
3. Sato J. et al “One year follow-up after a randomized controlled trial of a 130 g/day low-carbohydrate diet in

patients with type 2 diabetes mellitus and poor glycemic control” PLoS One; 12: e0188892, 2017

4. Sato J. et al “Probiotic reduces bacterial translocation in type 2 diabetes mellitus: A randomised controlled study” Sci Rep ; 7: 12115, 2017
5. Sato J. et al “Type 2 Diabetes and Bacteremia” Ann Nutr Metab; 71 Suppl 1: 17-22, 2017

学会発表

1. 佐藤淳子ほか「2 型糖尿病患者の腸内細菌叢に対するプロバイオティクスの効果」第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会, 愛知県(日本), 2017.5.18-20(2017.5.20), 口演
2. 山崎望, 新田周作, 富田裕之, 佐藤元律, 青山周平, 古川康彦, 佐藤淳子「糖尿病ケトアシドーシスによる痙攣重積発作で意識障害が遷延した 1 例」第 232 回日本内科学会東海地方会, 愛知県(日本), 2017.6.11, 口演
3. 佐藤元律, 青山周平, 中村優飛, 山崎望, 伊藤南, 古川康彦, 佐藤淳子「インスリン必要量が週数相応に増加せず血糖管理に難渋した 1 型糖尿病合併双胎妊娠の 1 例」第 91 回日本糖尿病学会中部地方会, 石川県(日本), 2017.10.14-15, 口演
4. 佐藤淳子「腸内フローラと糖尿病」第 16 回日本更年期と加齢のヘルスケア学会学術集会, 東京都(日本), 2017.10.28, シンポジウム
5. Junko Sato et al. “Probiotics Reduces Bacterial Translocation in Japanese Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.” American Diabetes Association 77th Scientific Sessions, San Diego, CA, June 10, 2017, Poster presentation

市民公開講座

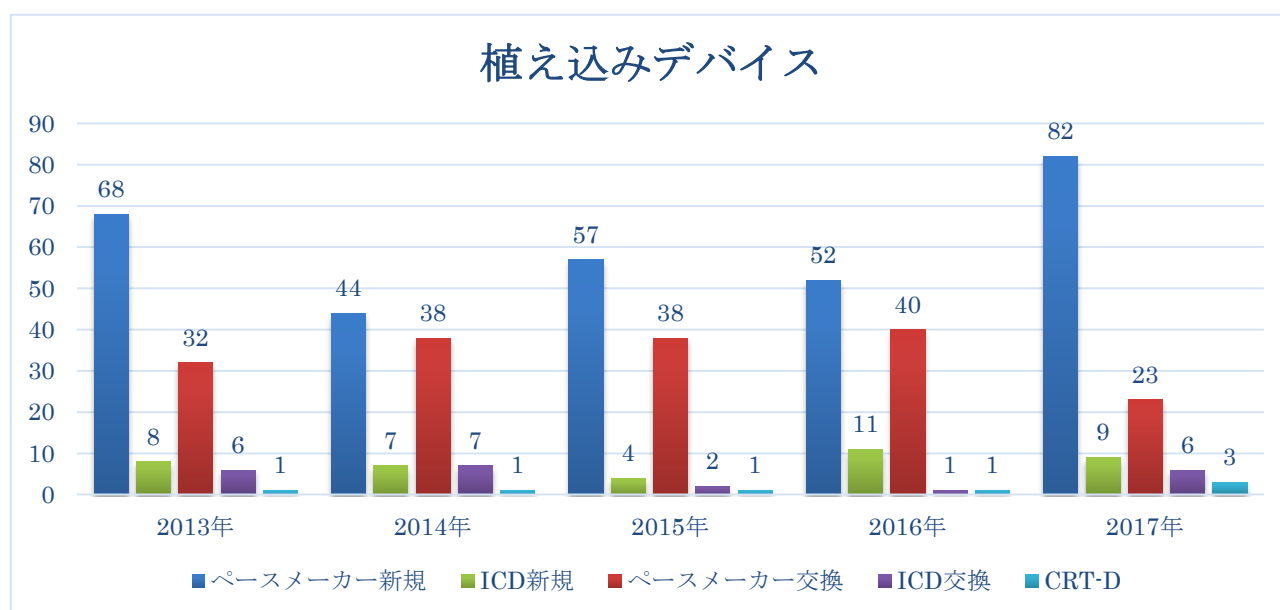
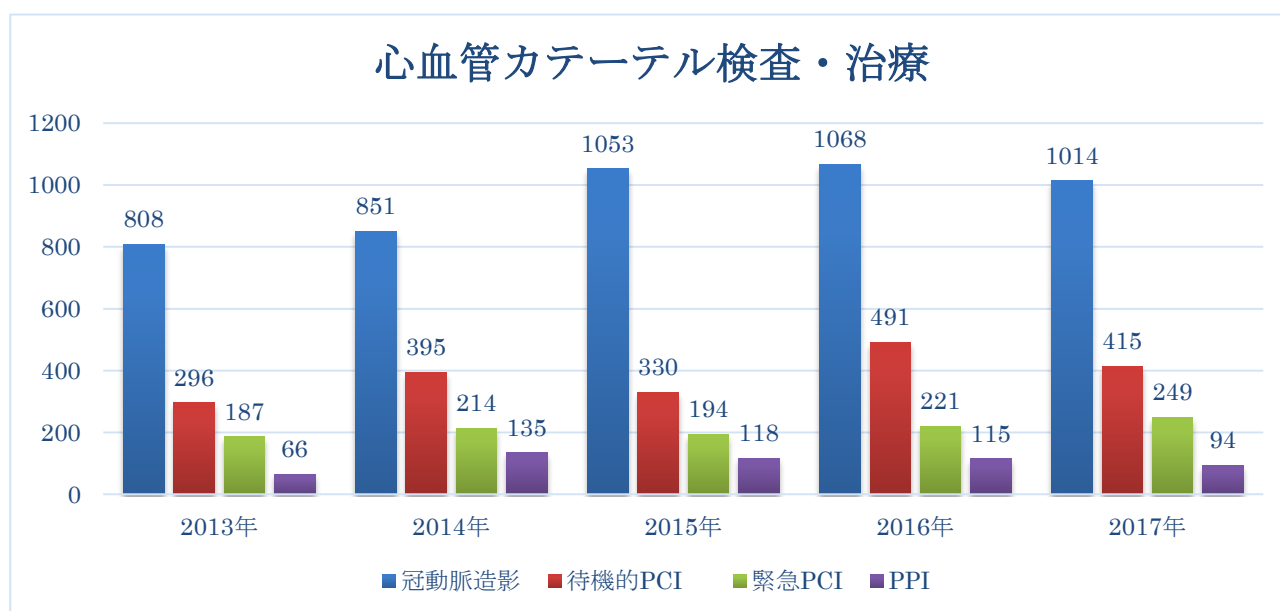
1. 佐藤淳子 伊豆の国市市民講座「糖尿病について」2017 年 6 月 29 日 伊豆の国市市役所 韮山福祉・保健センター
2. 佐藤淳子 伊豆市市民健康講座「糖尿病はどうしてこわい」2018 年 1 月 25 日 修善寺生きいきプラザ

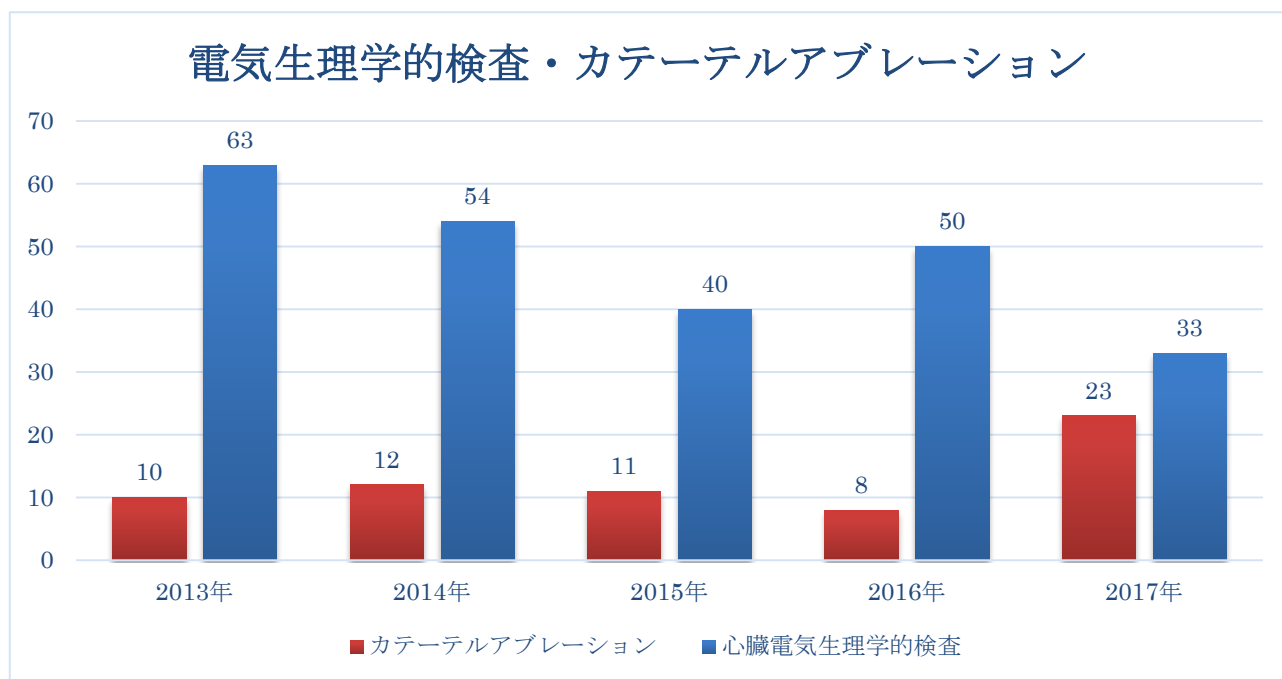
2-7 循環器科

診療活動

順天堂大学医学部附属病院としての先進高度医療への取り組みと静岡県東部地域の第三次救急救命センターとしての機能を更に充実させる。また、伊豆長岡町立病院を引き継いだ歴史的経緯と医療情勢の現況から地元の病院としての任務も果たせるように診療を行っている。世界に信頼される日本の医療として、診療情報を学術的価値の高いものとするに止まらず、国家成長戦略の一環並びに高齢化社会の医療としてより効率のよい診療形態を追及している。

診療実績





次年度目標

診療の質をさらなる充実と効率化を実現し、示唆に富む症例の報告及び現在進行中の臨床試験を完遂させて学術論文として完成させることを次の目標とする。

研究活動

原著(英文)

1. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H : Impact of serum albumin levels on long-term outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention. Heart Vessels. 2017 Apr 20
2. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H : Independent and Combined Effects of Serum Albumin and C-Reactive Protein on Long-Term Outcomes of Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention. Circ J. 2017 Aug 25;81(9):1293-1300
3. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H : Prognostic Impact of the Geriatric Nutritional Risk Index on Long-Term Outcomes in Patients Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention. Am J Cardiol. 2017 Jun 1;119(11):1740-1745
4. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Iwata H, Kasai T, Miyauchi K, Daida H : Low Docosahexaenoic Acid,

Dihomo-Gamma-Linolenic Acid, and Arachidonic Acid Levels Associated with Long-Term Mortality in Patients with Acute Decompensated Heart Failure in Different Nutritional Statuses. *Nutrients*. 2017 Aug 30;9(9).

5. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H : Pre-procedural neutrophil-to-lymphocyte ratio and long-term cardiac outcomes after percutaneous coronary intervention for stable coronary artery disease. *Atherosclerosis*. 2017 Oct; 265:35-40
6. Ouchi S, Miyazaki T, Shimada K, Sugita Y, Shimizu M, Murata A, Kato T, Aikawa T, Suda S, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Kasai T, Miyauchi K, Daida H : Decreased circulating dihomogamma-linolenic acid levels are associated with total mortality in patients with acute cardiovascular disease and acute decompensated heart failure. *Lipids Health Dis*. 2017 Aug 14;16(1):150.
7. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Doi S, Konishi H, Naito R, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Suwa S, Daida H : Prognostic impact of nutritional status assessed by the Controlling Nutritional Status score in patients with stable coronary artery disease undergoing percutaneous coronary intervention. *Clin Res Cardiol*. 2017 Nov;106(11):875-883
8. Suwa S, Ogita M, Miyauchi K, Sonoda T, Konishi H, Tsuboi S, Wada H, Naito R, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Isoda K, Daida H : Impact of Lipoprotein (a) on Long-Term Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statin After a First Percutaneous Coronary Intervention. *J Atheroscler Thromb*. 2017 Nov 1;24(11):1125-1131
9. Naito R, Miyauchi K, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Tamura H, Okazaki S, Isoda K, Daida H : Clinical Outcomes in Diabetic Patients Who Underwent Percutaneous Coronary Intervention during the Plain Old Balloon Angioplasty (POBA)-, Bare Metal Stents (BMS)- and Drug-eluting Stents (DES)-eras from 1984 to 2010. *Intern Med*. 2017;56(1):1-9
10. Hassan A, Dohi T, Miyauchi K, Ogita M, Kurano M, Ohkawa R, Nakamura K, Tamura H, Isoda K, Okazaki S, Yatomi Y, Daida H : Prognostic impact of homocysteine levels and homocysteine thiolactonase activity on long-term clinical outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention. *J Cardiol*. 2017 Jun;69(6):830-835
11. Wada H, Ogita M, Miyauchi K, Tsuboi S, Konishi H, Shitara J, Kunimoto M, Sonoda T, Iso T, Ebina H, Aoki E, Kitamura K, Tamura H, Suwa S, Daida H : Contemporary sex differences among patients with acute coronary syndrome treated by emergency percutaneous coronary intervention. *Cardiovasc Interv Ther*. 2017 Oct;32(4):333-340

12. Ohsaka H, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Isoda K, Suwa S, Yanagawa Y : Acute Coronary Syndrome Evacuated by a Helicopter From the Scene. *Air Medical Journal*, 2017; 36: 179-181
13. Takahashi N, Isoda K, Hiki M, Fujimoto S, Daida H : Thrombolytic Therapy and Aspiration of Clots were Effective in the Removal of a Transient Inferior Vena Cava (IVC) Filter that Captured a Large Thrombus. *Intern Med*, 2017; 56: 1369-1373
14. Wada H, Dohi T, Miyauchi K, Shitara J, Endo H, Doi S, Naito R, Konishi H, Tsuboi S, Ogita M, Kasai T, Hassan A, Okazaki S, Isoda K, Shimada K, Suwa S, Daida H : Preprocedural High-Sensitivity C-Reactive Protein Predicts Long-Term Outcome of Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J*, 2017; 81:90-95
15. Fujino M, Ishihara M, Ogawa H, Nakao K, Yasuda S, Noguchi T, Ozaki Y, Kimura K, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Ako J, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y; J-MINUET Investigators : Impact of symptom presentation on in-hospital outcomes in patients with acute myocardial infarction. *J Cardiol*. 2017;70:29-34
16. Kuji S, Kosuge M, Kimura K, Nakao K, Ozaki Y, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M; J-MINUET Investigators : Impact of acute kidney injury on in-hospital outcomes of patients with acute myocardial infarction-Results from the J-MINUET substudy. *Circ J*. 2017;81:733-739
17. Ishihara M, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Fujino M, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Tobaru T, Oshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H; J-MINUET Investigators : Long-term outcomes of non-ST-elevation myocardial infarction without creatine kinase elevation-The J-MINUET study. *Cir J*. 2017;81:958-965
18. Ogita M, Suwa S, Ebina H, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Hokimoto S, Funayama H, Kokubo N, Kozuma K, Uemura S, Tobaru T, Saku K, Oshima S, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M; J-MINUET investigators : Off-hours presentation does not affect in-hospital mortality of Japanese patients with acute myocardial infarction: J-MINUET substudy. *J Cardiol*. 2017;70:553-558
19. Nishida K, Nakatsuma K, Shiomi H, Natsuaki M, Kawai K, Morimoto T, Kozuma K, Igarashi K, Kadota K, Tanabe K, Morino Y, Hibi K, Akasaka T, Abe M, Suwa S, Muramatsu T, Kobayashi M, Dai K, Nakao K, Tarutani Y, Fujii K, Kimura T; RESET and NEXT investigators : Second-Generation vs. First-Generation Drug-Eluting Stents in Patients With Calcified Coronary Lesions — Pooled Analysis From the RESET and NEXT Trials — *Circ J*. 2017 [Epub ahead of print]

20. Shiozaki M, Inoue K, Suwa S, Lee CC, Chikata Y, Ishiura J, Kimura Y, Fukuda K, Tamura H, Fujiwara Y, Sumiyoshi M, Daida H : Utility of the 0-hour/1-hour high-sensitivity cardiac troponin T algorithm in Asian patients with suspected non-ST elevation myocardial infarction. *Int J Cardiol.* 2017;249:32-35
21. Hashimoto T, Ako J, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Yasuda S, Suwa S, Fujimoto K, Nakama Y, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Uematsu M, Hirata K, Tanabe K, Shibata Y, Owa M, Tsujita K, Funayama H, Kokubo N, Kozuma K, Uemura S, Tobaru T, Saku K, Oshima S, Nakai M, Nishimura K, Miyamoto Y, Ogawa H, Ishihara M; J-MINUET investigators : A low eicosapentaenoic acid/arachidonic acid ratio is associated with in-hospital fatal arrhythmic events in patients with acute myocardial infarction: J-MINUET substudy. *Heart Vessels.* 2017 [Epub ahead of print]

学会発表(国際)

1. T. Sonoda, H. Wada, T. Dohi, K. Miyauchi, S. Doi, H. Konishi, R. Naito, S. Tsuboi, M. Ogita, T. Kasai, S. Okazaki, K. Isoda, S. Suwa, H. Daida: Preprocedural neutrophil-lymphocyte ratio and long-term cardiac outcomes after percutaneous coronary intervention for stable coronary artery disease. ESC Congress 2017, 27 Aug,2017, Barcelona.
2. N. Takahashi, M. Ogita, K. Miyauchi, H. Wada, R. Naito, H. Konishi, S. Tsuboi, T. Dohi, T. Kasai, S. Okazaki, K. Isoda, S. Suwa, H. Bujo, H. Daida: Impact of LR11 as residual risk on long term clinical outcomes in patients with coronary artery disease treated with statin after first percutaneous coronary intervention. ESC Congress 2017, 29 Aug,2017, Barcelona.
3. Hideki Ebina, Manabu Ogita, Satoru Suwa, Yukio Ozaki, Kazuo Kimura, Junya Ako, Teruo Noguchi, Satoshi Yasuda, Kazuteru Fujimoto, Yasuharu Nakama, Takashi Morita, Wataru Shimizu, Yoshihiko Saito, Atsushi Hirohata, Yasuhiro Morita, Teruo Inoue, Atsunori Okamura, Toshiaki Mano, Kazuhito Hirata, Kengo Tanabe, Yoshisato Shibata, Mafumi Owa, Kenichi Tsujita, Hiroshi Funayama, Nobuaki Kokubu, Ken Kozuma, Shiro Uemura, Tetsuya Tobaru, Keijiro Saku, Shigeru Oshima, Kunihiro Nishimura, Yoshihiro Miyamoto, Hisao Ogawa and Masaharu Ishihara, on behalf of J-MINUET investigators: Off-hours presentation does not affect long-term clinical outcomes of Japanese patients with acute myocardial infarction: J-MINUET Substudy AHA Scientific Sessions 2017, Anaheim, CA, November 12,2017
4. Hirokazu Konishi, Katsumi Miyauchi, Hideki Wada, Ryo Naito, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Tomotaka Dohi, Takatoshi Kasai, Hiroyuki Daida: Effect of pemaifibrate (k-877), A novel selective peroxisome proliferator-activated receptor α modulator (spparm α), in atherosclerosis model using low density lipoprotein receptor knock-out swine with balloon injury. AHA Scientific Sessions 2017, Anaheim, CA, November 13,2017
5. Mitsuhiro Takeuchi, Hideki Wada, Tomotaka Dohi, Shuta Tsuboi, Manabu Ogita, Takatoshi Kasai, Shinya Okazaki, Kikuo Isoda, Satoru Suwa, Katsumi Miyauchi, Hiroyuki Daida: Relationship Between the Prognostic Nutritional Index and Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Stable Coronary Artery

Disease American College of Cardiology 67th Annual Scientific Sessions & Expo, March 12, 2018 Orlando, USA.

6. Norihito Takahashi, Manabu Ogita, Koichi Nakao, Yukio Ozaki, Kazuo Kimura, Junya Ako, Teruo Noguchi, Satoshi Yasuda, Satoru Suwa, Kazuteru Fujimoto, Yasuharu Nakama, Takashi Morita, Wataru Shimizu, Yoshihiko Saito, Atsushi Hirohata, Ysasuhiro Morita, Teruo Inoue, Atsunori Okamura, Toshiaki Mano, Kazuhito Hirata, Kengo Tanabe, Kunihiro Nishimura, Yoshihiro Miyamoto, Hisao Ogawa, Masaharu Ishihara: Prognostic Impact of B-Type Natriuretic Peptid on Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Non-ST-Segment Elevation Acute Myocardial Infarction Without Creatine Kinase Elevation: Japanese Registry of Acute Myocardial Infarction Diagnosed by Universal Definition(J-MINUET) Substudy American College of Cardiology 67th Annual Scientific Sessions & Expo, March 12, 2018 Orlando, USA.

学会発表(国内)

1. 高橋 徳仁、坪井 秀太、太田 洋、荻田 学、青木 映莉子、園田 健人、磯 隆史、海老名 秀城、國本 充洋、設樂 準、小西 宏和、諏訪 哲:腹部大動脈閉塞に対しEVTを施行したLeriche症候群の一例 日本心血管インターベンション治療学会第37回東海北陸地方会、名古屋、2017年5月12日
2. 磯 隆史:腹痛で緊急来院し、診断・治療選択に難渋した40歳代男性の一例 第7回豊橋ライブデモンストラーションコース、豊橋、2017年5月25日
3. 塩澤 知之、林 英守、松本 紘毅、川口 裕子、田淵 晴名、関田 学、諏訪 哲、住吉 正孝、中里 祐二、代田 浩之:特発性心室頻拍に対する右室流出路アブレーション後にDressler's syndromeを合併した一例 カテーテルアブレーション関連大会2017、札幌、2017年7月7日
4. 園田 健人、荻田 学、坪井 秀太、和田 英樹、内藤 亮、小西 宏和、土肥 智貴、葛西 隆敏、岡崎 真也、磯田 菊生、諏訪 哲、宮内 克己、代田 浩之:PCI施行後の冠動脈疾患患者における腎機能増悪と長期予後の関連 第65回日本心臓病学会学術集会、大阪、2017年10月1日
5. 園田 健人:右冠動脈起始異常を有する高度石灰化病変に対し、mother-child techniqueによるローターブレードを施行した1例. 日本心血管インターベンション治療学会第38回東海北陸地方会、金沢、2017年10月7日
6. 堂垂 大志、高橋 徳仁、小西 宏和、阿部 寛史、竹内 充裕、藤原 圭、磯 隆史、海老名 秀城、園田 健人、塩澤 知之、坪井 秀太、荻田 学、諏訪 哲:OCTが有用であったA lotus root-like appearanceを呈した急性冠症候群の一例 日本心血管インターベンション治療学会第38回東海北陸地方会、金沢、2017年10月7日
7. 宮内 克己、宮崎 彩記子、林 英守、田中 亮太、野尻 宗子、諏訪 哲、住吉 正孝、中里 祐二、卜部 貴夫、服部 信孝、代田 浩之: Registry of Japanese Patients with Atrial Fibrillation Focused on Anticoagulant Therapy in the New Era: 1-Year Follow-up of the RAFFINE Registry 第82回日本循環器学

会学術集会、大阪、2018 年 3 月 23 日

8. 小西 宏和、宮内 克己、和田 英樹、内藤 亮、坪井 秀太、荻田 学、土肥 智貴、葛西 隆敏、諏訪 哲、代田 浩之:Effect of Pemafibrate (K-877) in Atherosclerosis Model Using Low Density Lipoprotein Receptor Knock-out Swine with Balloon Injury 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日
9. Hideki Ebina, Manabu Ogita, Satoru Suwa, Koichi Nakao, Kazuo Kimura, Junya Ako, Teruo Noguchi, Satoshi Yasuda, Kazuteru Fujimoto, Yasuharu Nakama, Takashi Morita, Kunihiro Nishimura, Yoshihiro Miyamoto, Masaharu Ishihara: Off-hours Presentation Does not Affect Long-term Clinical Outcomes of Japanese Patients with Acute Myocardial Infarction: J-MINUET Substudy 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 24 日
10. 久慈 正太郎、小菅 雅美、木村 一雄、中尾 浩一、尾崎 行男、阿古 潤哉、野口 暉夫、安田 聡、諏訪 哲、藤本 和輝、中間 泰晴、森田 孝、清水 渉、斎藤 能彦、廣畑 敦、森田 康弘、井上 晃男、岡村 篤徳、真野 敏昭、平田 一仁、田辺 健吾、柴田 剛徳、大和 眞史、辻田 賢一、船山 大、國分 宣明、上妻 謙、西村 邦宏、宮本 恵宏、小川 久雄、石原 正治:Impact of Acute Kidney Injury on Short- and Long-term Mortality after ST-Segment Elevation Myocardial Infarction and Non-ST-Segment Elevation Myocardial Infarction 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 25 日
11. 久慈 正太郎、小菅 雅美、木村 一雄、中尾 浩一、尾崎 行男、阿古 潤哉、野口 暉夫、安田 聡、諏訪 哲、藤本 和輝、中間 泰晴、森田 孝、清水 渉、斎藤 能彦、廣畑 敦、森田 康弘、井上 晃男、岡村 篤徳、真野 敏昭、平田 一仁、田辺 健吾、柴田 剛徳、大和 眞史、辻田 賢一、船山 大、國分 宣明、上妻 謙、西村 邦宏、宮本 恵宏、小川 久雄、石原 正治:Combined Impact of Chronic Kidney Disease and Acute Kidney Injury on Long-term Mortality after Acute Myocardial Infarction: J-MINUET Substudy 第 82 回日本循環器学会学術集会、大阪、2018 年 3 月 25 日

2-8 小児科

診療活動

小児科は平成 10 年に発足し、以後「多くの common disease に対する日常診療から神経疾患・アレルギー疾患などの慢性疾患、さらに NICU を退院した児のフォローアップといった幅広い診療活動を通して地域医療に貢献すること」を基本理念にあげている。平成 28 年 4 月より新小児病棟(2C 病棟)がスタートし、付き添いなしの入院に対応できるように体制を整えた。当院以南には 24 時間・365 日小児の診療を行っている医療機関はないため、救急患者の受診は院内でも 1, 2 を争うほど多い。

専門外来の充実はこちら数年の課題であったが、常勤医によるアレルギー外来・神経外来・発達外来を開設、また、本院や浦安病院よりサポートいただき心臓外来・腎臓外来を開設している。

診療実績

入院患者の疾患別分類

大分類	入院患者数	大分類の割合(%)
01.出生前障害	0	0
02.未熟児/新生児	25	3.49
03.免疫、アレルギーおよびその関連疾患	159	22.21
04.感染症	29	4.05
05.栄養障害および水、電解質異常	7	0.98
06.消化器疾患	51	7.12
07.呼吸器疾患	232	32.4
08.心血管系疾患	1	0.14
09.血液疾患	4	0.56
10.新生物および類縁疾患	1	0.14
11.腎尿路系疾患	19	2.65
12.内分泌疾患	66	9.22
13.代謝性疾患および先天性代謝異常	10	1.4
14.神経、筋疾患	78	10.89
15.精神・心身疾患	3	0.42
16.骨、関節疾患	5	0.7
17.皮膚疾患	7	0.98
18.眼疾患	1	0.14
19.耳鼻咽喉科疾患	13	1.82
20.その他	5	0.7
合計	716	100.00

入院実数、外来患者数

	平成29年度
入院延べ人数	4,304
入院実数	716
外来患者数	12,740

次年度目標

当科基本理念に沿った診療を引き続き心がけ、幅広い診療を維持していきたい。

新小児病棟は順調にスタートしているが、29年度は外来患者数、入院患者数ともに減少した。原因を検討したところ、最大の要因は病診連携の不足であり、昨年度たくさんの患者さんをご紹介いただいたクリニックからの紹介が何か所かで減少していた。紹介患者さんへの丁寧な対応や迅速は返信など基本的なことから、地域医師会への出席、さらに積極的な広報活動などを通してより多くの患者さんへの対応をしたいと考えている。

外来業務は若い医師にとって貴重な修練の場であり、多くの若い医師に担当させたいが、30年度は科長の寒竹が先頭に立ち外来業務を推進することにした。

研究・教育活動

原著

1. Yamazaki S, Ohkawa N, Kantake M, Koyama M, Urushihara N, Hamazaki M and Shimizu T. : a Case Report. Intraperitoneal Abscess in a Preterm Infant SM J Pediatr. 2: 1005 2017
2. 馬場洋介、山田啓迪、大塚宜一、寒竹真人、清水俊明 小児気管支喘息重症持続型における呼吸機能評価とIL-33 アレルギーの臨床 37(11):1072-5
3. Miyabayashi K, Furukawa T, Ohtsuki M, Kishiro M, Shimizu T Lobar occlusion of pulmonary arteriovenous malformations with Amplatzer vascular plug Pediatr Int 59:837-8

総説

1. Masato Kantake Stress, HPA Dysfunction, Inflammation, and Psychomotor Disability in Preterm Birth Infants. Advances in medicine and Biology. 115; pp13-22
2. 寒竹正人 専門領域とステロイド 新生児疾患;今ここでステロイドを再考するーcommon disease から専門領域までー 小児科診療 診断と治療社 491-495

講演

1. 寒竹正人 新生児期のステロイド投与によるグルココルチコイドレセプター遺伝子のメチル化 第10回京都NICU懇話会
2. 有井直人 てんかん治療の実際 ～小児科医の立場から～ 静岡県病院薬剤師会東部支部例会 三島

2017.4.12

3. 有井直人 子どもの成長と成長曲線の活用ポイントについて 第 17 回静岡県東部こども健康セミナー 三島 2017.5.27
4. 有井直人 乳幼児からお年寄りまで、すべての年齢で発症する てんかんの正しい知識について 2017 年青木クリニック講演会, 伊東 2017.10.17
5. 有井直人 小児のけいれん 済生会川口総合病院 小児の健康教室, 川口 2017.11.15
6. 有井直人 小児の成長障害について 熱海市 子どもの成長セミナー, 熱海 2017.11.29

学会発表

1. 寒竹正人、大川夏紀、山崎晋、秋本智史、宮林和紀、山田啓迪、井福真友美、齋藤暢知、清水俊明 CLD 児における出生 1 ヶ月以降のステロイド投与はグルココルチコイドレセプター遺伝子メチル化を誘導する 第 53 回日本周産期・新生児医学会、横浜 2017.7.17
2. 寒竹正人 次世代シーケンサーは新生児医療の現場に役立つのか 第 62 回日本新生児成育医学会 2017.10.13.
3. 秋本智史、馬場洋介、江原尚弘、河畠恵、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人、清水俊明 当科における尿定量培養陽性例の検討 尿路感染症診断における課題 第 49 回日本小児感染症学会総会・学術集会、金沢 2017.10.22
4. 宮林和紀、馬場洋介、田所愛弓、山田啓迪、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人、清水俊明 小児における気管切開患者の背景と入院管理の特徴 第 120 回日本小児科学会学術集会、品川 2017.4.14
5. 宮林和紀、馬場洋介、田所愛弓、山田啓迪、岩崎卓朗、有井直人、寒竹正人、堀越泰雄、清水俊明 非典型的な経過から早期診断した非白血性白血病の 1 例 第 31 回日本小児救急医学会、東京 2017.6.24
6. 佐藤由梨亜、馬場洋介、松田明奈、江原尚弘、秋本智史、岩崎卓朗、有井直人、久田健、竹内典子、大楠美佐子、石和田稔彦、清水俊明 脾摘後に莢膜血清型 23B 型肺炎球菌による細菌性髄膜炎を発症した小児例 第 49 回日本小児感染症学会総会・学術集会 2017.10.21
7. 佐藤由梨亜、馬場洋介、松田明奈、江原尚弘、秋本智史、岩崎卓朗、有井直人、久田健、竹内典子、大楠美佐子、石和田稔彦、清水俊明 莢膜血清型 23B 型肺炎球菌による細菌性髄膜炎を発症した小児例-当科における近年の IPD 分離株の動向- 第 144 回日本小児科学会静岡地方会 2017.11.12
8. 田所愛弓、西崎直人、足立優、横山美華子、毎熊敦子、小島千春、仲川真由、松井こと子、大日方薫、清水俊明 日齢 2 の多呼吸で発見され急性血液浄化療法を要した高カリウム血症の女児例 第 120 回日本小児科学会学術集会、東京 2017.4.14
9. 田所愛弓、櫻谷浩志、齊藤真人、西野智彦、掛川大輔、櫻井俊輔、藤永周一郎 大腿動脈血栓症を合併したが下肢切断を免れた難治性ネフローゼ症候群の 17 歳女性 第 52 回日本小児腎臓病学会学術集会、東京 2017.6.2
10. 田所愛弓、西崎直人、濱野敦 反復性尿路感染症があったものの診断に時間を要した膣部異所性尿管・重複腎盂尿管の女児例 第 26 回日本小児泌尿器科学会学術集会、愛知 2017.7.6
11. 田所愛弓、西崎直人 診断に時間を要した膣部異所性尿管・重複腎盂尿管の女児例 第 28 回日本夜尿症学会学術集会、北海道 2017.7.15
12. 田所愛弓 左腎梗塞を認めた交通外傷の 1 歳男児例 第 18 回静岡県小児救命救急研究会、静岡 2017.7.17
13. 田所愛弓、櫻谷浩志、齊藤真人、西野智彦、富井祐治、掛川大輔、藤永周一郎 血漿交換と CHDF で救

命しえた治療抵抗性中毒性表皮壊死症の女児例 第 39 回日本小児腎不全学会学術集会、兵庫
2017.9.21

14. 松田明奈、平井紗依子、中野聡、箕輪圭、鈴木光幸、時田章史、清水俊明 ビタミン D 単体液体サプリメントで治療を行ったビタミン D 欠乏性くる病の 1 例 第 27 回日本外来小児科学会年次集会 2017.9.2
15. 松田明奈、仲川真由、遠藤周、春名英典、田久保憲行、久田研、清水俊明 多臓器不全を伴う高アンモニア血症に対して持続血液透析(CHD)を行い救命し得た CPS1 欠損症疑いの新生児例 第 39 回日本小児腎不全学会学術集会 2017.9.21

診療活動

順天堂大学医学部附属静岡病院外科は、科長(教授)を中心に、前任准教授 2 名、准教授 3 名を含め、15 人の医局員で運営されています。医局員は、消化器、乳腺、ヘルニア、アッペの手術はもちろんのこと、上部内視鏡検査、大腸ファイバー検査、ERCP 検査、上部消化管造影検査、注腸造影検査、腹部超音波検査、胆道造影検査、超音波内視鏡検査など、消化器疾患に必要なすべての検査を経験し、指導を受けています。また消化器疾患に必要な ENBD, PTCD, EST などの処置も上級医師とともに勉強しています。医局員は、日本外科学会外科専門医修練プログラムに従って、学年毎に難易度の高い手術を経験していきます。近年は、腹腔鏡手術が盛んで、当院でも積極的に取り入れており、若い医局員が少しでもはやく腹腔鏡手術をマスターできるよう、学会や研究会参加したり、全国のラボに勉強に行ったり、医局では腹腔鏡手術のトレーニングが出来るよう器具を揃えています。またマニュアルを作り、腹腔鏡手術を定型化することは医局員の技術を向上させる近道と考えています。

外科は担当医制にチーム医療体制をとっており、朝夕 2 回の回診、週 2 回の術前カンファレンス、毎週月曜日の入院患者検討会と診療を第一とし、医局員全体のチームワークを大切にしています。

当施設は日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会の認定施設であり、またかがん治療拠点病院として消化器系の悪性疾患(食道がん・胃がん・肝がん・胆道がん・膵がん・結腸がん・直腸がん)や乳がんの治療にあたっています。とくに胃がん、大腸がん、食道がん、肝臓がんには 3D ビデオカメラシステムの導入により、より安全な腹腔鏡手術を行い、さらに食道・胃・大腸の早期がんに対しては内視鏡による治療(ESD)を積極的に取り入れております。また乳がんに対しても、乳腺専門医(前任准 教授)により乳房温存手術やセンチネルリンパ節生検などの縮小手術を施行しています。さらに形成外科と協力して、乳房再建手術も施行しています。また本年度より、消化管手術においてもロボット手術が保険収載されたことより、ロボット手術の導入に向け準備を進めています。

3 次救命救急センターでは、外科専門医取得に必要な鈍的外傷による腹部実質臓器損傷や管腔臓器損傷、消化管穿孔の緊急手術を行っており、さらに上部消化管出血などの救急疾患の内視鏡治療を扱い、地域の救急医療に貢献しています。

さらに、平成 27 年度文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に静岡病院の事業計画は高い評価を受け採択され、静岡災害医学研究センターが開設されました。外科でも当センターに 7 つの課題が採択され、医局員が研究面でも全力を尽くしています。

診療実績

症例数・手術件数(平成 28 年度)1 月～12 月

(1/3)

			一般手術		鏡視下手術	
甲状腺	腫瘍	良性	腫瘍摘出			
		悪性	亜全摘			
			片葉切			
			リンパ節郭清			
			その他			
副甲状腺	腫瘍	良性	腫瘍切除			
			その他			
縦隔	腫瘍		膿瘍ドレナージ			
	乳び胸		胸管結紮			
			その他			
食 道		食道破裂				
		裂孔ヘルニア	根治術			
	腫瘍	良性	抜去		腫瘍核出術 VATS-CTA3	7
			その他			
		悪性	CTA3		VATS-CTA2	
			CTA2			
胃	潰瘍		その他	1		
			胃全摘		ドレナージ	
			大網充填	5	大網充填	
			広範囲胃切			
	腫瘍	悪性	部分切除	2	部分切除	3
			幽門側切除	17	幽門側切除	16
			噴門側切除	2	噴門側切除	
			全摘術	12	全摘術	
			残胃全摘	1		
			バイパス術	3	バイパス術	
			胃瘻造設		胃瘻造設	
			試験開腹			
			その他	2		
十二指腸		良性	胃潰瘍穿孔広範		小腸部分切除 部分切除	
			潰瘍穿孔大網充	1		
			その他	1		
		悪性	小腸部分切除			
			その他			
	その他	カルチノイド	部分切除			

小 腸	腫瘍	良性	部分切除		部分切除	
		悪性	小腸瘻造設			
			小腸部分切除	1		1
	出血・穿孔		小腸部分切除			
			小腸瘻造設			
			小腸縫縮			
	腸閉塞		癒着剥離	13	癒着剥離	
			小腸部分切除	32	小腸部分切除	1
			小腸瘻造設			
			バイパス術	5		
			その他	2		
	血栓症		試験開腹			
			小腸広範囲切除			
			その他			
虫 垂	虫垂		虫垂切除術	63	虫垂切除術	3
			回盲部切除			
			盲腸切除			
			その他			

(2/3)

			一般手術		鏡視下手術	
大 腸	憩室炎		Hartman 手術			
			その他			
	穿孔		Hartman 手術	20		
			ドレナージ術			
			その他			
	捻転		Hartman 手術		Hartman 手術	
			その他		その他	
	腫瘍	良性	人工肛門閉鎖	3		
			人工肛門造設	2		
			その他			
		悪性	回盲部切除	6	回盲部切除	13
			右結腸切除	4	右結腸切除	9
			横行結腸切除	2	横行結腸切除	4
			左結腸切除	3	左結腸切除	4
			S 状結腸切除	3	S 状結腸切除	15
			人工肛門関連			
			Hartman 手術	4		
			その他			
	その他		結腸全摘術			9
			結腸部分切除			
			回盲部切除			
			S 状結腸切除			
			人工肛門造設			
			その他	16		

直 腸	直腸脱	良性	根治術	1		
	腫瘍	良性	結腸部分切除	1		
		悪性	経肛門切除			
			前方、低位前方	9	前方、低位前	36
			骨盤内臓全摘	1	大腸全摘	
			Miles 術	4	Miles 術	3
			Hartman 手術	4	Hartman 手術	2
			人工肛門関連	10		
			その他			
肛 門	痔核		根治術	2		
肝 臓	腫瘍	肝嚢胞・膿瘍	開窓術	2	開窓術	4
		良性	門脈圧亢進症			
		悪性	RFA	6	RFA	
			区域切除	3	区域切除	
			部分切除	6	部分切除	5
			葉切除	2		
			その他			
	破裂		肝縫合			
			その他			
胆 嚢	胆石・胆嚢炎	良性	胆嚢摘出術	19	胆嚢摘出術	57
	腫瘍	悪性	拡大胆摘			
			その他			
胆 管	結石	良性	総切ドレナージ	4		
			胆管空腸吻合			
	腫瘍	悪性	胆管切除術			
			PD	1		
			試験開腹			
膵 臓	腫瘍	悪性	DP	5	DP	
			PD	5		
			全摘術			
			バイパス術			
			試験開腹			

(3/3)

その他	リンパ節腫大		リンパ節生検	3	リンパ節生検	
	悪性黒色腫		ソ径リンパ節郭			
	皮膚(下)腫瘍		腫瘍切除			
	皮下膿瘍		ドレナージ術			
	熱傷		デブリードマン+			
	腹腔内出血		止血術	3		
	腹腔腫瘍		切除			
	腹腔内膿瘍		ドレナージ術	1		
	外傷					
		腹部外傷	その他	6		

乳 腺	腫瘍	良性	腫瘍切除	4		
			部分切除			
			葉状腫瘍			
		悪性	乳房温存	39		
			胸筋温存乳房切	29		
			リンパ節郭清	12		
			その他	1		
ヘルニア	ソ径ヘルニア		根治術	76	TAPP	8
	閉鎖孔ヘルニ		根治術		根治術	
	大腿ヘルニア		根治術			
	腹壁癒痕ヘル		根治術	2	根治術	8
	臍ヘルニア		根治術	2		
末梢血管	下肢静脈瘤		ストリッピング			
	その他		内シャント術			
脾臓			脾臓摘出	3		
			副脾摘出			

総 計

胃 癌	手術	58 例
大腸癌	手術	103 例
小腸癌	手術	2 例
十二指腸癌	手術	0 例
直腸癌	手術	54 例
食道癌	手術	8 例
膵 癌	手術	11 例
肝 癌	手術	22 例
胆嚢癌	手術	0 例
胆管癌	手術	2 例
乳 癌	手術	64 例
甲状腺癌	手術	0 例
その他	手術	0 例

次年度目標

平成 30 年度の目標は、より安全な医療の提供で、その一つとして低侵襲手術があげられます。結腸・直腸がん、胃がん、食道がんに対する腹腔鏡手術はすでに定型化され、より安全になり、手術創も小さく、術後の経過も極めて良好になっております。肝臓がんの腹腔鏡手術は安全性を第一に考え、肝部分切除術や肝外側区域切除術に対して、徐々に症例数が増加しています。このように現代は鏡視下手術全盛の時代ですか、平成 30 年度はさらにロボット手術を導入することにより手術精度を向上させ、手術の安全性をより一層高めたいと考えております。手術時間の短縮、鏡視下手術の定型化により医局員のラーニングカーブの向上を目指します。また研究面では、静岡災害医学研究センターを有効に利用して、質の高い研究を推進していき、臨床、教育、研究を推進し、大学附属病院として相応しい医局を目指していきたいと考えています。

研究・教育活動

1,英文原著

1. Toshiaki Iba, Tetsuya Sasaki, Kazutoshi Ohshima, Koichi Sato, Isao Magaoka, Jecko Thachil: The Comparison of the Protective Effects of α - and β -Antithrombin against Vascular Endothelial Cell Damage Induced by Histone in Vitro. *Thrombosis Hemostasis Open* 2017;1:e3-e10.DOI <https://doi.org/10.1055/s-0037-1603926>. ISSN 2512-9465.
2. Toshiaki Iba, Marcello Di Nisio, Jecko Thachil, Hideo Wada, Hidesaku Asakura, Koichi Sato, Daizoh Sato: A Proposal of the Modification of Japanese Society on Thrombosis and Hemostasis (JSTH) Disseminated Intravascular Coagulation (DIC) Diagnostic Criteria for Sepsis-Associated DIC. *Clinical and Applied Thrombosis/ Hemostasis*, 1-7, 2017 DOI: 10.1177/1076029617720069
3. Toshiaki Iba, Akiyoshi Hagiwara, Daizoh Saitoh, Hideaki Anan, Yutaka Ueki, Koichi Sato, Satoshi Gando: Effects of combination therapy using antithrombin and thrombomodulin for sepsis-associated disseminated intravascular coagulation. *Annals of Intensive Care* (2017) 7: 110 DOI 10.1186/s13613-017-0332-z
4. Hiroshi Maekawa, Shinobu Shioya, Hajime Orita, Mutsumi Sakurada, Tomoyuki Kushida and Koichi Sato : Change of Plasma Levels of Adipocytokines During 120 Hours of Fasting After Endoscopic Treatment. *Journal of Nutritional Disorders & Therapy* (2017)7:3 DOI 10.4172/2161-0509.1000217
5. Momoko Ishimine, Hyeon-Cheol Lee, Hirofumi Nakaoka, Hajime Orita, Toshiyuki Kobayashi, Konomi Mizuguchi, Mikumi Endo, Ituro Inoue, Koichi Sato, Takehiko Yokomizo: The relationship between TP53 gene Status and carboxylesterase 2 expression in human colorectal cancer. *Predictive Biomarkers in Cancer Therapy*,
6. Orita Hajime, Satoshi Tokuda, Shunsuke Sakuraba, Tomoyuki Kushida, Mutsumi Sakurada, Hiroshi Maekawa, Seishi Koshihara, Koichi Sato: Maintenance therapy for elder colorectal cancer patients with Bevacizumab : single center experience, *Journal of cancer research*, in press
7. Shunsuke Sakuraba, Hajime Orita, Shuhei Ueda, Satoshi Tokuda, Tomoaki Ito, Tomoyuki Kushida, Mutsumi Sakurada, Hiroshi Maekawa, Ryo Wada, Koichi Sato: A Case of Segmental Arterial Mediolysis Presenting as Mucosal Gastric Hematoma. *Case Reports in Gastrointestinal Medicine*, Volume 2017, Article ID 3634967, 4 pages
8. Satoshi Tokuda, Hajime Orita, Tomoaki Ito, Koichi Sato, Hiroshi Maekawa, Mutsumi Sakurada, Tomoyuki Kushida, Hideo Shimizu, Shinya Munakata, Shunsuke Sakuraba, Shuhei Ueda, Hisaki Kato, Riku Yamamoto, Kentaro Imaizumi, Kazuhiko Fujita: One-stage laparoscopic surgery for left renal cell carcinoma and cecal cancer, *International Journal of Case Reports and Images*, in press
9. Akihiro Koizumi, Hajime Orita, Tomoyuki Kushida, Mutsumi Sakurada, Hiroshi Maekawa, Ryo Wada, Koichi Sato: The rapidly resected case of mucinous cystadenoma of the appendix by laparoscopic operation. *International Journal of Case Reports and Images*, in press

2,和文原著

1.瀬沼 幸司、佐藤 浩一、和田 了:診断に難渋した 20cm 大乳腺嚢胞内癌の 1 例.日臨外会誌 78(5):931-934,2017

3,国際発表

1.Hajime Orita, 「The efficacy of Gasdermin gene family for tumor marker in colorectal cancer」 Biomarkers & Clinical Research 2017, Baltimore USA, 18th-20th Oct,2017

2.Satoshi Tokuda, 「The study of the depression markers in gastrointestinal cancer」 Biomarkers & Clinical Research 2017, Baltimore US A, 18th-20th Oct,2017

4,国内発表

1.前川博、佐藤浩一、櫻田睦、折田創、櫛田知志、清水秀穂、内田隆行、宗像慎也、水口このみ、櫻庭駿介、徳田智史、上田脩平、加藤永記、山本陸:絶食による血中 adipokine の変動について.第 117 回日本外科学会総会、神奈川(パシフィコ横浜)2017.4.27

2.折田創、片岡太郎、田中成和、加藤永記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、水口このみ、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知志、櫻田睦、前川博、和田了、城石俊彦、佐藤浩一:大腸炎におけるパイロトーシス誘導分子ガスダーミン D の働き及び癌化の解明.第 117 回日本外科学会総会、神奈川(パシフィコ横浜)2017.4.28

3.上田脩平、佐藤浩一、前川博、櫻田睦、折田創、櫛田知志、清水秀穂、内田隆行、宗像慎也、水口このみ、櫻庭駿介、徳田智史、李智榮、加藤氷記、山本陸「左卵巣静脈原発平滑筋肉腫の一例」、日本外科系連合学会総会、徳島(ホテルクレメント徳島)2017.6.30

4.加藤氷記、折田創、山本陸、李智榮、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一、ポスターセッション「術後 11 年目で腎転移をきたした直腸癌の一例」、日本外科系連合学会総会、徳島(ホテルクレメント徳島)2017.6.30

5.山本陸、李智榮、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、水口このみ、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一「腸重積をきたした回腸脂肪腫の一例」、日本外科系連合学会総会、徳島 (ホテルクレメント徳島)2017.6.30

6.櫻庭駿介、「当院における胃 ECD 症例の検討」、第 6 回御茶ノ水消化器外科フォーラム、東京(御茶ノ水トライエッジカンファレンス)2017.7.1

7.前川博「膵癌組織における CHF α , CDO1, AC1 遺伝子のメチル化の検討」第 48 回日本膵臓学会大会、京都(京都市勧業館みやこめっせ)2017.7.14

8.清水秀穂、ポスターセッション、日本乳癌学会総会、福岡(マリンメッセ福岡)2017.7.14

9.徳田智史、折田創、櫻庭駿介、宗像慎也、内田隆行、清水秀穂、櫛田知志、櫻田睦、前川博、佐藤浩一「消化器癌症例を用いたうつ病マーカーの検討」、第 72 回日本消化器外科学会総会、石川(石川県立音楽堂)2017.7.21

10.村井勇太、前川博、小泉明博、加藤氷記、山本陸、上田脩平、櫻庭駿介、徳田智史、宗像慎也、清水秀穂、折田創、櫛田知志、櫻田睦、佐藤浩一「原発性小腸癌の一例」、静岡県外科医会第 237 回集談会、静岡 (静岡

商工会議所 4 階 401,402 会議室)、2017.8.26

11.宗像慎也、「内分泌細胞癌成分を有したstage4 結腸癌」、大腸癌 Expert Meeting、静岡(沼津リバーサイトホテル「駿河」)、2017.9.1

12.折田創、「食道がん」、臨床腫瘍勉強会、静岡(順天堂大学静岡病院「G 棟 4 階視聴覚室」)、2017.9.12

13.折田創、「当院における腹腔鏡内視鏡合同手術への取り組み」ポスターセッション、JDDW2017、福岡(マリンメッセ)、2017.10.14

14.徳田智史、「当院における抗血栓薬服用症例に対する取り組み」ポスターセッション、JDDW2017、福岡(マリンメッセ)、2017.10.14

15.山本陸、「高齢者に対する膵頭十二指腸切除術の周術期合併症の検討」ポスターセッション、JDDW 2017、福岡(マリンメッセ)、2017.10.13

16.宗像慎也、「潰瘍性大腸炎モデルにおける凝固線溶系からの新規治療戦略」、第 72 回日本大腸肛門病学会学術集会、福岡、2017.11.11

17.小泉明博、和田了、佐藤浩一、前川博、櫻田睦、折田創、櫛田知志、清水秀穂、桜庭駿介、徳田智史、上田脩平、加藤氷記、山本陸、村井勇太「胃線扁平上皮癌の 1 例」ポスターセッション、第 72 回日本臨床外科学会総会、東京、2017.11.2

18.村井勇太、小泉明博、加藤氷記、山本陸、上田脩平、桜庭駿介、徳田智史、宗像慎也、清水秀穂、折田 創、櫛田知志、櫻田睦、和田了、佐藤浩一「原発性小腸癌 5 例の検討」ポスターセッション、第 72 回日本臨床外科学会総会、東京、2017.11.24

19.佐藤将盛、小泉明博、村井勇太、山本陸、加藤永記、上田脩平、徳田智史、桜庭駿介、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一:成人の十二指腸膜様狭窄に対し内視鏡的 切開術を施行した 1 例.第 79 回日本臨床外科学会総会、(東京国際フォーラム)2017.11.24

20.新田周作、櫛田知志、徳田智史、桜庭駿介、上田脩平、折田創、櫻田睦、前川博、佐藤浩一、加藤永記、山本陸、小泉明博、村井勇太、清水秀穂:正中弓状靱帯圧迫症候群による下膵十二指腸動脈瘤の破裂により腹腔内出血をきたした症例.第 79 回日本臨床外科学会総会(東京国際フォーラム) 2017.11.24

21.山本陸、宗像慎也、村井勇太、小泉明博、加藤氷記、上田脩平、徳田智史、 桜庭駿介、清水秀穂、櫛田知志、折田創、櫻田睦、前川博、和田了、佐藤浩一:原発性小腸癌 5 例の検討.第 79 回日本臨床外科学会総会、(グランドプリンスホテル新高輪、国際間パミール)2017.11.25

22.桜庭駿介、折田創、上田脩平、徳田智史、水口このみ、内田隆行、宗像慎也、清水秀穂、櫛田知 志、櫻田睦、前川博、和田了、佐藤浩一:大腸癌における原発巣部位別に検討した HER-2 発現の検討. 第 79 回日本臨床外科学会総会、(グランドプリンスホテル新高輪、国際間パミール)2017.11.26

23.上田脩平、佐藤浩一、前川博、田中顕一郎、櫻田睦、折田創、櫛田知志、清水秀穂、宗像慎也、桜庭駿介、徳田智史、加藤氷記、山本陸、小泉明博、村井勇太:感染源不明の敗血症性ショックに対して PMX-DHP が著効した 1 例.第 22 回エンドトキシン血症救命治療研究会(東京コンファレンスセンター品川) 2018.1.19

24.村井勇太:経皮経肝胆道ドナレージ後右肝動脈仮性動脈瘤の 1 例.第 54 回日本腹部救急医学会総会(京王プラザホテル 4 階・花) 2018.3.8

25.小泉明博:肝嚢胞自然破裂を来たした 1 例.第 54 回日本腹部救急医学会総会(京王プラザホテル 4 階・花)
2018.3.8

26.前川博、村井勇太、小泉明博、加藤氷記、上田脩平、徳田智史、櫻庭駿介、氷室貴規、宗像慎也、田中 颯
一郎、櫛田知志、折田創、櫻田睦、佐藤浩一:遠位胆管癌症例の補助科学治療法の効果についての検討. 第
72 回 静雄県癌治療研究会(静岡第一ホテル 2 階・富士)2018.3.17

5, その他

1.佐藤浩一:「“がん治療の最前線”胃がんについて」サンデークリニック、ラジオ 2017. 5.14、21

2.櫻田睦:「“がん治療の最前線”胃がんについて」サンデークリニック、ラジオ 2017.6.25、7.2

2-10 脳神経外科

診療活動

平成 29 年度は約 870 名の入院患者の診療に当たり、6 割が脳血管障害、2 割が神経外傷、10%弱が脳腫瘍症例であり、その割合はほぼ例年通りであった。うち、脳血管障害では、54%が虚血性血管障害、21%が脳内出血、20%が動脈瘤関連であった。虚血性脳血管障害の中でも、脳塞栓症の割合が 24%と増加傾向が顕著となっている。その要因として、平成 27 年度より導入した血栓回収療法の影響が大きいと思われる。地域からの紹介もあり、平成 29 年度では 53 件の実施例を数えるに至った。本年度からは、MRI を Skip するプロトコールを導入するなど、再開通までの時間短縮に努め、良好な治療成績が得られている。

出血性脳卒中に対しては、従来通り開頭術と内視鏡下血腫除去術を中心に積極的に外科的治療を行っており、脳内出血に対する手術例も増加の傾向にある。また、脳動脈瘤に対しては、従来通り開頭術を第一に治療に当たっているが、徐々に血管内治療の件数も増加の傾向にあるとともに、複雑な外科的処置を要する症例も増加しておりより高度な治療が求められる傾向にある。

診療実績

病床数	58 床
外来新患数	1230 人
年間入院数	870 人
手術総数	546 件
腫瘍(脳、脊髄、眼窩)	47
動脈瘤	67
AVM	5
その他の血管障害	87
外傷	137
感染症	6
脊髄・脊椎疾患	5
機能外科	7
その他	117
血管内手術	68
緊急手術数	330 (60.4%)
集光照射	23

次年度目標

診療活動では、脳血管障害を中心に高齢者への対応が求められており、保存的治療が中心となる虚血性疾患に対しても症例ごとの病態、病因検索を行いつつ、それぞれの症例に対して適した治療方針を選択し、地

域住民の健康寿命の延伸に寄与していく。中枢性疾患に対しては新生児から超高齢者まで、外科的介入で改善かえられる症例には積極的に手術治療を行うとともに、より高度な診療に対応できるよう医局員全体のレベルアップをサポートしていく。

研究活動では、腫瘍性疾患、脳血管障害を中心に様々な研究に取り組んでおり、今後は結果の総括により教室の業績につなげられるよう医局員の支援体制を整えたい。

研究活動

英文原著

1. Kodama T, Tsutsumi S, Abe E, Nonaka S, Suzuki T, Ishii H, Ito M, Yasumoto Y : Supratentorial acute subdural hematoma presenting immediately after evacuation of spontaneous cerebellar hemorrhage . Neurosurg Emerg , 2017;22(1):70-73
2. Ishikawa K, et al.: A comparison between evacuation from the scene and interhospital transportation using a helicopter for subarachnoid hemorrhage. Am J Emerg Med, 2017;35(4):543-547
3. Mori K, et al.: Validation of effectiveness of keyhole clipping in nonfrail elderly patients with unruptured intracranial aneurysms. J Neurosurg, 2017;127(6):1307-1314.
4. Noda K, et al.: Chronic subdural haematoma presenting as freezing of gait. BMJ Case Rep, 2017.
5. Otani N, et al. : “Birdlime” technique using TachoSil tissue sealing sheet soaked with fibrin glue for sutureless vessel transposition in microvascular decompression: operative technique and nuances. J Neurosurg, 2017;1-8
6. Teramoto S, et al.: Novel Anatomic Classification of Spontaneous Thalamic Hemorrhage Classified by Vascular Territory of Thalamus. World Neurosurg, 2017;104:452-458
7. Toyooka T, et al.: Effect of Fibrin Glue Injection Into the Cavernous Sinus for Hemostasis During Transcavernous Surgery on the Cerebral Venous Draining System. Oper Neurosurg (Hagerstown), 2017;13(2):224-231

和文原著

1. 大坂裕通、日域 佳、吉澤俊彦、大森 一彦、石川浩平、大出靖将、山本拓史、市川訓基、小池道明、柳川洋一:脳内出血発症に血管閉塞機転の関与が示唆された急性リンパ性白血病の一例 日本救急医学会中部地方会誌 (1880-3547)12 巻:58-61

著書

1. 山本拓史:慢性硬膜下血腫と内科的疾患ー特に抗血小板薬・抗凝固薬とその対策ー慢性硬膜下血腫の診断・治療・手術 メディカ出版 大阪 36-42, 2017
2. 山本拓史:内視鏡を用いた多房性慢性硬膜下血腫の治療 慢性硬膜下血腫の診断・治療・手術 メディカ出版 大阪 144-152, 2017
3. 山本拓史:猟銃(散弾銃)による頭部外傷 慢性硬膜下血腫の診断・治療・手術 メディカ出版 大阪 209-218, 2017

学会発表(国外)

1. 山本拓史:Endoscopic hematoma evacuation for spontaneous cerebellar hemorrhage. 6th World Intracranial Hemorrhage Conference(WICH 2017), アメリカ, May. 2017

学会発表(国内)

1. 井口 整, 池村涼吾, 上田哲也, 関口和哉, 中嶋伸太郎, 藤田修英, 長谷川浩, 上野英明, 渡邊瑞也, 中尾保秋, 山本拓史:剪定鋏による経鼻的穿通性頭部外傷の1例. 第92回日本脳神経外科学会中部支部学術集会, 長野, Apr. 2017
2. 山本拓史, 渡邊瑞也, 上野英明, 中尾保秋:非典型的脳動脈瘤における術中所見と手術手技. 第24回静岡脳神経外科ビデオシンポジウム, 静岡, Jun. 2017
3. 児玉琢磨, 藤田修英, 堀越 恒, 谷口 敬, 井口 整, 長谷川浩, 井関征祐, 上野英明, 渡邊瑞也, 中尾保秋, 山本拓史:頭蓋内内頸動脈解離により多発性脳梗塞を発症した小児の1例. 第93回日本脳神経外科学会中部支部学術集会, 三重, Sep. 2017
4. 鈴木一幹:経時的に増大した破裂解離性内頸動脈瘤に対し血管内治療を行った1例. 第133回日本脳神経外科学会関東支部学術集会, 東京, Sep. 2017
5. 西岡和輝:開頭トラッピング術が有用であった外側後脈絡叢動脈遠位部破裂動脈瘤の一例. 第133回日本脳神経外科学会関東支部学術集会, 東京, Sep. 2017
6. 山本拓史:非典型的(偽性)中大脳動脈瘤に対する浅側頭動脈—中大脳動脈(STA—MCA)バイパス術を併用した外科的治療. 日本脳神経外科学会第76回学術総会, 愛知, Oct. 2017
7. 中尾保秋:片麻痺で発症した特発性脊髄硬膜外血腫の2例. 日本脳神経外科学会第76回学術総会, 愛知, Oct. 2017
8. 渡邊瑞也:前頭蓋窩硬膜動静脈瘻に対する外科的治療と ICG 血管造影の有効性. 日本脳神経外科学会第76回学術総会, 愛知, Oct. 2017
9. 上野英明:治療に難渋した脳動静脈奇形(AVMs)に合併した髄液鼻漏の一例. 日本脳神経外科学会第76回学術総会, 愛知, Oct. 2017
10. 井関征祐:当院における後方循環の血栓回収症例の検討. 日本脳神経外科学会第76回学術総会, 愛知, Oct. 2017
11. 鈴木一幹:感染性心内膜炎による心原性脳塞栓症に対し急性期血栓回収療法を施行した1例. 日本脳神経外科学会第76回学術総会, 愛知, Oct. 2017
12. 藤田修英:高齢者脳内出血における予測死亡率と内視鏡手術における死亡率改善効果の検討. 日本脳神経外科学会第76回学術総会, 愛知, Oct. 2017
13. 山本拓史, 渡邊瑞也, 中尾保秋:ペプタメン AFを用いたクモ膜下出血患者急性期の栄養管理. 第38回東海クモ膜下出血研究会, 愛知, Oct. 2017
14. 山本拓史:心原性脳塞栓症と抗凝固療法～神経内視鏡的血腫除去術の現状とピットフォールを含めて～第24回一般社団法人日本神経内視鏡学会 ランチョンセミナー, 神奈川, Nov. 2017
15. 山本拓史:神経内視鏡下血腫除去術の年次推移の現状と課題. 第24回一般社団法人日本神経内視鏡学会, 神奈川, Nov. 2017
16. 井関征祐:DWI ASPECTS 低値の症例に対する血栓回収療法. 第33回 NPO 法人日本脳神経血管内

治療学会学術総会, 東京, Nov. 2017

17. 鈴木一幹:急性期解離性脳動脈瘤に対しステント併用コイル塞栓症を施行した2例. NPO 法人第 33 回日本脳神経血管内治療学会学術総会, 東京, Nov. 2017
18. 宮原 怜:頭蓋内圧亢進症に続き短期間で広範な髄膜膠腫症へ進展した神経膠芽腫の 1 例. 第 134 回一般社団法人日本神経外科学会関東支部学術集会, 東京, Dec 16. 2017
19. 山本拓史:バルーンディバイスの試作と応用. シーボルト神経内視鏡ワークショップ 2018, 佐賀, Jan. 2018
20. 鈴木一幹:外傷性頭蓋内出血に対しイダルシズマブを使用した 2 例. 第 23 回日本脳神経外科救急学会, 奈良, Feb. 2018
21. 山本拓史:急性期から回復期へのシームレスな栄養療法～早期回復に向けた脳卒中症例における経腸栄養～. 第 33 回日本静脈経腸栄養学会学術集会ランチョンセミナー, 神奈川, Feb. 2018
22. 児玉琢磨:スポーツが契機と考えられる外傷性内頸動脈解離の 2 例. 第 41 回日本脳神経外傷学会, 東京, Feb. 2018
23. 山本拓史:内視鏡血腫除去術の基本と応用. STROKE2018 教育ビデオセミナー, 福岡, Mar. 2018
24. 山本拓史:抗凝固療法における頭蓋内出血への対応と実際～外科的処置の必要性を含めて～. STROKE2018 ランチョンセミナー, 福岡, Mar. 2018
25. 山本拓史:非弁膜症性心房細動による心原性脳塞栓症患者における左心耳形状の検討. STROKE2018, 福岡, Mar. 2018
26. 中尾保秋:Terson 症候群をきたしたクモ膜下出血 11 例の検討. STROKE2018, 福岡, Mar. 2018
27. 渡邊瑞也:破裂末梢性後下小脳動脈瘤の手術例. STROKE2018, 福岡, Mar. 2018
28. 上野英明:単一施設における血栓回収療法の経年変化の検討. STROKE2018, 福岡, Mar. 2018
29. 井関征祐:急性期脳梗塞 M2 閉塞に対する血栓回収療法. STROKE2018, 福岡, Mar. 2018
30. 鈴木一幹:当院における高齢者急性期脳梗塞に対する血栓回収療法の治療成績. STROKE2018, 福岡, Mar. 2018
31. 西岡和輝:脳底動脈閉塞症にて発症した乳頭状線維弾性腫の一例. STROKE2018, 福岡, Mar. 2018

その他

1. 山本拓史:脳腫瘍や頭部のがんについて. SBS ラジオ サンデークリニック, Jan 8 Jan 15. 2017
2. 山本拓史:急性期脳卒中診療と抗凝固療法. リクシアナエリア座談会, AF・VTEdo-net 掲載
3. 山本拓史、中尾保秋、木村孝興、菅 康郎:災害時における症候性てんかん患者の服薬管理と重積発作への対応に関する検討. 平成 27/28 年度静岡災害医学研究センター紀要 順天堂大学大学院医学研究科 静岡災害医学研究センター p52-53

2-11 整形外科

診療業務

本年の総手術数は1,177件で昨年の1,183件、一昨年の1065件とほぼ同数であった。外傷の件数は591と昨年の664より減少、慢性疾患がやや増加したので外傷／慢性疾患の割合は50／50となった。麻酔科・手術室には緊急手術にも快く対応して頂いているが、準夜帯以降の手術の手術待ち時間が長くなる傾向にある。手術件数を保つのは現在の体制では限界を感じている。新棟の完成を待ちたい。

ひとの流れ

6月に移動したのは二村Drが湘南鎌倉H、田中将Drが浦安、松尾Drが越谷市立、根岸Drは院生として最成H、高田Drが北習志野Hへ転勤していった。一方、赴任してきたのは糸井Drが京都大学から復帰。守屋、木下、牛牧Drが新規赴任した。さらに半年交替で練馬Hから長谷川、上原Drが赴任した。

診療実績

年 間 患 者 数（平成29年1月1日～12月31日）

	外来（年間）			入院（年間）
	のべ患者数	新患者数	リハビリ患者数	入院患者総数
順天堂静岡病院	34,848	3,095	13	1,017

疾患別入院患者数(平成 29 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

1. 外傷	704	人
1) 骨折・脱臼		
脊椎骨折(外傷性)	64	人
大腿骨頸部骨折	141	人
四肢の骨折(脱臼骨折を含む)	324	人
脱臼(骨折のないもの)	21	人
骨粗鬆症等に伴う胸・腰椎圧迫骨折	13	人
抜釘目的の入院	19	人
その他	24	人
2) 捻挫・靱帯損傷等		
膝関節(半月板損傷を含む)	21	人
足関節	2	人
その他	3	人
3) 神経・腱損傷		
アキレス腱	2	人
手伸筋腱・屈筋腱	11	人
脊髄損傷	7	人
末梢神経損傷	8	人
その他	8	人
4) その他の外傷性疾患	36	人
2. 疾患	546	人
1) 脊椎疾患		
頸椎疾患	64	人
腰椎疾患	73	人
急性腰痛症	9	人
脊髄・脊椎腫瘍(転移性腫瘍を含む)	7	人
その他	9	人
2) 変形性関節症		
変形性膝関節症	49	人
変形性股関節症	141	人
その他の関節症	18	人
3) 関節リウマチ等の膠原病疾患	13	人
17	17	人
5) 化膿性疾患	61	人
6) その他の関節疾患	27	人
7) 四肢・骨盤の骨・軟部腫瘍		
悪性腫瘍(転移性腫瘍を含む)	27	人
良性腫瘍	8	人
8) その他の疾患	23	人
計	1250	人

年間手術の術式別一覧(平成 29 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

1. 外傷		関節外科	
鎖骨骨折	22 件	半月板手術	件
上腕骨骨折	67 件	切除	13 件
肘関節骨折	29 件	縫合	0 件
前腕骨骨折	21 件	変形性足関節手術	件
手関節骨折	44 件	固定	9 件
手部(手指骨折・舟状骨骨折等)	20 件	人工関節	0 件
骨盤骨折	19 件	含 再置換	0 件
大腿骨近位端骨折	89 件	足関節靱帯縫合・修復術	1 件
(転子下骨折を含む)		離断性骨軟骨炎に対する手術	0 件
大腿骨骨幹部骨折	20 件	(部位別表記:) 膝	0 件
大腿骨顆部・脛骨顆部骨折	13 件	肘	3 件
膝蓋骨骨折	5 件	その他	2 件
下腿骨骨折	36 件	関節授動術	件
アキレス腱断裂	1 件	(部位別表記:) 膝	1 件
足関節骨折	26 件	肘	0 件
足部骨折	35 件	その他	4 件
脊椎骨折	8 件	その他	31 件
胸腰椎骨折	9 件	4. 脊椎外科	
開放創のデブリートマン	100 件	前方除圧固定術	件
切断	6 件	(部位別:) 頸椎	6 件
		胸椎	0 件
その他		腰椎	1 件
2. 手外科		後方除圧固定術	件
腱鞘切開	27 件	(部位別:) 頸椎	15 件
腱に対する手術	16 件	胸椎	7 件
(腱縫合/腱移行/腱移植術等)		腰椎	12 件
血管吻合・移植術	0 件	後側方固定術	件
(再接着術を含む)		(部位別): 頸椎	6 件
上肢絞扼生神経障害に対する手術	36 件	胸椎	1 件
(手根管症候群/肘部管症候群等)		腰椎	8 件
神経剥離・縫合・移植術	7 件	椎体間固定術	件
(根管/肘部管以外)		側方進入	0 件
先天異常	0 件	後側方進入	10 件
3. 関節外科		椎弓切除・形成術	件
人工肩関節置換術	8 件	(部位別:) 頸椎	22 件
人工肩関節再置換術	0 件	胸椎	0 件
肩腱板修復術	17 件	腰椎	18 件
肩関節脱臼制動術	4 件	ヘルニア摘出術	件
人工肘関節置換術	0 件	(部位別:) 頸椎	0 件
人工肘関節再置換術	0 件	胸椎	0 件
手関節・指関節関節手術	1 件	腰椎	12 件
関節形成術	0 件	腫瘍摘出術	7 件
関節固定術	0 件	思春期側湾矯正術	0 件
人工関節置換術	0 件	成人脊柱変形矯正術	0 件
人工股関節置換術	161 件	斜頸	0 件
含 再置換術	16 件	転移性脊椎腫瘍に対する手術	2 件
変形性股関節症に対する骨切り	6 件	5. 腫瘍	
人工膝関節置換術	53 件	転移性骨腫瘍手術	2 件
含 再置換術	0 件	良性腫瘍摘出術	6 件
変形性膝関節症に対する骨切り	0 件	悪性腫瘍切除術	0 件
膝靱帯再建術	0 件	生検術	2 件
AOL	8 件	その他	1 件
POL	0 件	6. 抜釘術	
MOL	0 件	抜釘術	41 件
MPFL	0 件	計	1177 件
他	4 件	(内デイ・サージェリー)	85 件

研究・教育活動

原著(英文)

1. Morohashi I, Iwase H, Kanda A, Sato T, Homma Y, Mogami A, Obayashi O, Kaneko K:
Acoustic pattern evaluation during cementless hip arthroplasty surgery may be a new method for predicting complications.
SICOT J. 2017;3:13. doi: 10.1051/sicotj/2016049. Epub 2017 Feb 13. PMID:28186872
Kanda A, Kaneko K, Obayashi O, Mogami A, Morohashi I:
Treatment of postoperative sciatic nerve palsy after total hip arthroplasty for postoperative acetabular fracture: A case report.
Ann Med Surg (Lond). 2016 Sep 10;11:39-41. doi: 10.1016/j.amsu.2016.08.017. eCollection 2016 Nov. PMID:27672438
2. Komatsu J, Nagura N, Iwase H, Igarashi M, Ohbayashi O, Nagaoka I, Kaneko K:
Effect of intermittent administration of teriparatide on the mechanical and histological changes in bone grafted with β -tricalcium phosphate using a rabbit bone defect model.
Experimental and Therapeutic Medicine 15, 19-30, 2018.
Doi: 10.3892/etm.2017.5424
3. Maeda M, Iwase H, Kanda A, Morohashi I, Kaneko K, Maeda M, Kakinuma Y, Takei Y, Amemiya S, Mitsui K:
A study of the blood flow restriction pressure of a tourniquet system to facilitate development of a system that can prevent musculoskeletal complications.
Am J Disaster Med. 2017 Summer;12(3):139-145. doi: 10.5055/ajdm.2017.0267.
4. Futamura K, Baba T, Mogami A, Morohashi I, Kanda A, Obayashi O, Sato K, Ueda Y, Kurata Y, Tsuji H, Kaneko K:
Malreduction of syndesmosis injury associated with malleolar ankle fracture can be avoided using Weber's three indexes in the mortise view.
Injury. 2017 Apr;48(4):954-959. doi: 10.1016/j.injury.2017.02.004. Epub 2017 Feb 14.
PMID:28219637
5. Futamura K, Baba T, Mogami A, Morohashi I, Obayashi O, Iwase H, Kaneko K:
A biomechanical study of sacroiliac rod fixation for unstable pelvic ring injuries: verification of the "within ring" concept.
International Orthopaedics. 2017 Dec 15. doi: 10.1007/s00264-017-3713-x. [Epub ahead of print]

原著(邦文)

1. 前田浩行、大林 治、金子和夫、岩瀬秀明、神田章男、諸橋 達、雨宮将太、武井裕輔、三井和幸、前田睦浩:
EHD 現象を利用した新しいターニケットの開発 -合併症がおきない至適圧力の検討-
臨床バイオメカニクス 38, 389-392, 2017.

総説

著書

学会発表

1. 田中 将:
強直性脊椎障害に伴った脊椎損傷の治療成績と問題点ー非骨傷性頸髄損傷の麻痺回復の予後予測.
第46回日本脊椎脊髄病学会学術集会, Apr., 13-15, 2017. (札幌)
2. 高橋良介:
化膿性脊椎炎の保存治療の治療成績と問題点.
第46回日本脊椎脊髄病学会学術集会, Apr., 13-15, 2017. (札幌)

3. 二村謙太郎:
Weber の 3 つの指標を参考にすれば syndesmo-sis の整復不良は回避できる.
第 90 回日本整形外科学会学術集会, May, 18-21, 2017. (仙台)
4. 最上敦彦:
大腿骨遠位端脆弱性骨折の治療戦略.
第 90 回日本整形外科学会学術集会, May, 18-21, 2017. (仙台)
5. 田中 将:
強直性脊椎障害に伴った脊椎損傷の治療成績.
第 90 回日本整形外科学会学術集会, May, 18-21, 2017. (仙台)
6. 松尾智次:
大腿骨遠位骨幹部骨折(infraistmal fractures)に対する順行性髓内釘の治療成績.
第 90 回日本整形外科学会学術集会, May, 18-21, 2017. (仙台)
7. 諸橋 達:
坐骨神経痛として治療されてきた殿部痛に対する股関節注射による鑑別.
第 90 回日本整形外科学会学術集会, May, 18-21, 2017. (仙台)
8. 東村 潤:
我々の腓骨長整復方法.
第 15 回静岡外傷・スポーツ障害研究会, May, 27, 2017. (静岡)
9. 松井謙太郎、上田泰久、普久原朝海、坂なつみ、乾貴博、稲垣直哉、岡田寛之、宇田川和彦、二村謙太郎(9番目)、他8名:
若手にコミットする教育活動 JOIN Trauma の取り組み. -シンポジウム
第 43 回日本骨折治療学会, Jul., 7-8, 2017. (郡山)
骨折 39(Suppl.), S18, 2017.
10. 最上敦彦:
医療安全を考慮した大腿骨近位部骨折の新たな治療戦略 -Hook Pin nail を用いた転子部骨折治療を中心に-
第 43 回日本骨折治療学会, Jul., 7-8, 2017. (郡山)
骨折 39(Suppl.), S63, 2017.
11. 二村謙太郎、三宅喬人、田中 将、神田章男、諸橋 達、最上敦彦、大林 治、岩瀬秀明、金子和夫:
不安定型骨盤輪骨折に対する Sacro-Iliac Rod Fixation の生体力学試験 WITHIN RING CONCEPT の検証
第 43 回日本骨折治療学会, Jul., 7-8, 2017. (郡山)
骨折 39(Suppl.), S71, 2017.
12. 内藤聖人、杉山陽一、木下真由子、後藤賢司、岩瀬嘉志、最上敦彦、大林 治、金子和夫:
橈骨遠位端骨折受傷時における長母指伸筋腱損傷の調査.
第 43 回日本骨折治療学会, Jul., 7-8, 2017. (郡山)
骨折 39(Suppl.), S74, 2017.
13. 最上敦彦、二村謙太郎、大林 治、岩瀬秀明:
上腕骨近位端骨折用新型髓内釘(ARISTOPHN)の初期臨床データ解析.
第 43 回日本骨折治療学会, Jul., 7-8, 2017. (郡山)
骨折 39(Suppl.), S116, 2017.
14. 守屋秀一、井上尚美、小河裕明、藤谷晃亮、金子和夫、佐藤克己:
上腕骨近位部及び骨幹部に骨折線を有する症例の治療経験.
骨折 39(Suppl.), S259, 2017.
15. 東村 潤、大林 治、最上敦彦、諸橋 達、神田章男、二村謙太郎、三宅喬人、辻 英樹:

経肘頭脱臼骨折の治療経験.

第43回日本骨折治療学会, Jul., 7-8, 2017. (郡山)

骨折 39(Suppl.), S306, 2017.

16. 杉山陽一、宮本英明、木下真由子、内藤聖人、最上敦彦、大林 治、金子和夫:
超音波エラストグラフィを用いた掌側ロッキングプレート固定後の正中神経弾性変形の調査.
第43回日本骨折治療学会, Jul., 7-8, 2017. (郡山)
骨折 39(Suppl.), S353, 2017.
17. 26)岡田寛之、松村健太郎、二村謙太郎、坂なつみ、乾 貴博、上田泰久、依光正則、善家雄吉、松原全裕、JOIN Trauma:
骨折バイエルを科学的に創る JOIN Trauma Fracture Meeting の試み.
第43回日本骨折治療学会, Jul., 7-8, 2017. (郡山)
骨折 39(Suppl.), S367, 2017.
18. 渡 泰士、馬場智規、平中崇文、最上敦彦、本間康弘、越智宏徳、尾崎 友、松本幹生、金子和夫:
骨折手術シミュレーターを用いた術中透視画面の位置の違いによる手術結果の検討.
第43回日本骨折治療学会, Jul., 7-8, 2017. (郡山)
骨折 39(Suppl.), S368, 2017.
19. 牛牧誉博:
関節突起の minor fracture で見逃しを防ぎえた頸椎屈曲伸延損傷.
第40回静岡整形外科脊椎研究会, Sep., 9, 2017. (静岡)
20. 最上敦彦:
高齢者大腿骨遠位部骨折治療の問題点と工夫.
第66回東日本整形災害外科学会, Sep., 14-16, 2017. (東京)
21. 糸井 陽
棘突起接触を温存しない腰椎後方展開法の問題点.
第24回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 Sep., 22-23, 2017. (新潟)
22. 守屋秀一:
当院での鏡視下バンカートブリストー変法の術後成績と問題点.
第44回肩関節学会, Oct., 6-8, 2017. (東京)
23. 前田浩行、岩瀬秀明、大林治、金子和夫、前田睦浩、大磯沙穂、蟻沢駿哉、雨宮将太、武井裕輔、三井和幸:
EHD現象を利用した新しいターニケット装置の開発.
第5回看護理工学会学術集会, Oct., 14-15, 2017. (金沢)
プログラム・抄録集: 78.
24. 最上敦彦、諸橋 達、神田章男、大林 治、岩瀬秀明、金子和夫:
大腿骨頸部骨折の骨接合術の適応と手術方法.
第44回日本股関節学会学術集会, Oct., 20-21, 2017. (東京)
抄録集: 197.
25. 諸橋 達、岩崎英二、東村 潤、神田章男、最上敦彦、大林 治、金子和夫:
変形性股関節症 118 症例に対するヒアルロン酸注射の効果の検討.
第44回日本股関節学会学術集会, Oct., 20-21, 2017. (東京)
抄録集: 317.
26. 長谷川延彦、野沢雅彦、金 勝乾、鎌田孝一、前田公一、桑原宏朋、林健太郎、坂本優子、櫻本浩司、浅 良輔、並木康治:
寛骨臼回転骨切り術における術前貯血と術中回収血併用療法の有効性について.
第44回日本股関節学会学術集会, Oct., 20-21, 2017. (東京)

抄録集: 360.

27. 神田章男、大林 治、最上敦彦、諸橋 達、金子和夫:
骨盤骨切り術後の人工股関節全置換術.
第 44 回日本股関節学会学術集会, Oct., 20-21, 2017. (東京)
抄録集: 446.
28. 諸橋 達、岩崎英二、東村 潤、神田章男、最上敦彦、大林 治、金子和夫:
THA 再置換術 180 関節のアプローチ別脱臼率の比較～前回アプローチに関わらず direct lateral アプローチが有用～
第 44 回日本股関節学会学術集会, Oct., 20-21, 2017. (東京)
抄録集: 455.
29. 東村 潤、諸橋 達、岩崎英二、神田章男、最上敦彦、大林 治:
人工股関節全置換術後に認めた異所性骨化のアプローチ別の影響.
第 44 回日本股関節学会学術集会, Oct., 20-21, 2017. (東京)
抄録集: 532.
30. 諸橋 達、岩崎英二、東村 潤、神田章男、最上敦彦、大林 治、金子和夫:
Direct anterior Approach による THA 術後異所性骨化による可動域制限び対して骨化巣切除を行った1例.
第 44 回日本股関節学会学術集会, Oct., 20-21, 2017. (東京)
抄録集: 536.
31. 牛牧誉博、馬場智規、越智宏徳、尾崎 友、本間康弘、渡 泰士、松本幹生、金子和夫:
高齢者の変形股関節症に対する dual mobility cup を用いた人工股関節全置換術.
第 44 回日本股関節学会学術集会, Oct., 20-21, 2017. (東京)
抄録集: 648.
32. 前田浩行、大林治、金子和夫、前田睦浩、武井裕輔、三井和幸:
整形外科及びブラットの研究におけるターニケットの新たな駆動評価と至適圧力の検討.
第1回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会, Oct., 28-29, 2017. (大阪)
プログラム・抄録集: S180.
33. 諸橋 達:
当院における外反母趾及びリウマチ足趾変形に対する矯正骨切りの比較検討-固定デバイスと皮膚障害の関連について-
第 42 回日本足の外科学会・学術集会, Nov., 9-10, 2017.(名古屋)
34. 大澤秀臣:
歳女性の尺骨に発生した脆弱性・疲労骨折の 1 例.
第 187 回静岡県整形外科医会集談会, Nov., 18, 2017. (静岡)
35. 雨宮将太、武井裕輔、前田浩行、諸橋達、神田章男、岩瀬秀明、金子和夫、前田睦浩、寺阪澄孝、下大川丈晴、三井和幸:
整形外科手術における患者の負担軽減が可能なターニケットの開発に関する研究.
第 44 回日本臨床バイオメカニクス学会, Nov. 24-25, 2017. (松山)
プログラム・抄録集:133
36. 諸橋達、岩瀬秀明、神田章男、佐藤太一、本間康弘、最上敦彦、大林治、金子和夫:
人工股関節全置換術におけるステム挿入時に発生する打ち込み音の解析および術後中期における画像評価との関連.
第 44 回日本臨床バイオメカニクス学会, Nov. 24-25, 2017. (松山)
プログラム・抄録集:172.
37. 糸井 陽

“牽引性”“脊髄損傷を信じてもらえますか？

第 19 回圧迫性脊髄研究会 January 20 (東京)

38. 諸橋 達

ショットシステム Optimys と Taper-wedge 型インプラントの術中骨折と早期沈下症例の比較検討

第 48 回日本人工関節学会学 February 23-24 (東京)

39. 神田 章男

新たな Palm size navigation “HipAlign” と術中透視画像によりカップ設置角の比較検討

第 48 回日本人工関節学会 February 23-24 (東京)

40. 高橋 良介

強直性脊椎障害の骨折に対して SUK devise を用いた術中整復法

第 41 回静岡県整形外科脊椎研究会 February 17 (静岡)

41. 高橋 良介

強直性脊椎障害の骨折に対して SUK devise を用いた術中整復法

第 13 回お茶の水脊椎セミナー February 24 (東京)

42. 糸井 陽

環椎後弓スクリューの有用性とピットフォール

第 58 回関東整形災害外科学会 March 16-17 (東京)

43. 神田 章男

股関節 direct lateral approach の有用性

第 58 回関東整形災害外科学会 March 16-17 (東京)

44. 最上 敦彦

骨粗鬆症を基盤とした大腿骨近位部骨折-骨接合術における新たな治療戦略

若手外傷外科医から診た重度四肢開放骨折の今と未来- (アドバイザー)

第 58 回関東整形災害外科学会 March 16-17 (東京)

講演・その他

1. 二村謙太郎

Current Concept Review(カレントコンセプトレビュー)

第 128 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, Apr., 7-8, 2017. (神戸)

2. 最上 敦彦

脆弱性骨盤輪骨折に対する手術適応と方法

第 128 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 座長, Apr., 7-8, 2017. (神戸)

3. 諸橋 達:

前方アプローチ THA 術後異所性骨化による可動域制限に対して骨化巣切除を行った治療経験.

第 10 回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス, Apr., 15, 2017. (東京)

4. 最上敦彦:

第 5 回伊豆整形外科外傷スプリングセミナー(ISSOT), 代表世話人, Apr., 15, 2017. (三島)

5. 最上敦彦:

第 90 回日本整形外科学会学術集会, 座長(外傷:大腿骨骨折), May., 18-21, 2017. (仙台)

6. 二村謙太郎:

骨盤輪:Occult instability を見逃すな!

若手整形外傷医のための FRACTURE MEETING 2017 in FUKUSHIMA BY JOIN TRAUMA(代表世話人), Jul., 6, 2017. (福島)

7. 大林 治:

デュピュイトラン拘縮の治療について.

静岡県東部整形外科医会, Jul., 21, 2017. (静岡)

8. 大林 治:
第2回静岡東部整形外科骨・感染症セミナー、座長、Jul., 27, 2017. (沼津)
9. 糸井 陽:
第40回静岡整形外科脊椎研究会、座長、Sep., 9, 2017. (静岡)
10. 大林 治:
Next lecture Meeting in Mishima
消化管出血をいかにマネジメントするか 座長、Sep., 14, 2017. (三島)
11. 神田章男:
大腿骨頸部・転子部骨折外科的治療の近未来～健康寿命を延ばす～
第12回津軽エリア大腿骨頸部骨折ネットワーク研究会、特別講演、Nov., 10, 2017. (弘前)
12. 神田章男:
新たな Palm size navigation 'Hip Align'と術中透視画像によるカップ設置角の比較検討.
第11回御茶ノ水 HIP JOINT カンファレンス、Nov., 18, 2017. (東京)
13. 最上敦彦:
第23回救急整形外傷シンポジウム、座長、Nov.. 24-25, 2017. (北谷)
14. 最上敦彦:
尺側手部重度損傷の1例.
第21回順天堂大学整形外科手肘外科研究会、Dec., 2, 2017. (東京)
15. 最上 敦彦
下腿関節内骨折に対する手術の工夫(シンポジウム)
第129回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会、座長、Dec. 6-7, 2017. (富山)

2-12 脳神経内科

診療活動

平成 29 (2017) 年度の静岡病院脳神経内科では、大熊泰之教授の保健看護学部長就任により、4 月から私が診療科長を拝命し大変な責任を感じております。平成 12(2000)年に最初にローテーションで 3 か月間赴任し、一度本郷でチーフレジデント、大学院での研究をさせていただきました。その後平成 17 年(2005 年)より再び赴任し、その後一貫して当院での診療に携わってまいりました。

静岡病院は臨床神経学のほぼすべての領域といってもよいくらいのさまざまな患者が来院され、研修医のみならず私自身もおおくの経験をつまさせていただきました。これまでは自分是指導を受ける立場でしたが、今後は将来の医療を担う若手の育成に従事してゆきたいと考えています。

当科は静岡県東部地区の数少ない神経内科専門の診療科で、そのニーズは大変大きく、地域医療への貢献が求められます。外来診療では、初診や紹介患者は来院してから待ち時間を最小限にするよう、可及的速やかな初期対応を心がけております。また入院患者の診療でも医師同士の連携を密に行い、私も 1 日 1 回は必ず病棟を自分で回診するなどのサポートを通じ、医療安全の面でも最善を尽くしております。研究面では、恵まれた環境を生かして約 18 年の間 1 度も欠かさず地方会発表を継続し、発表例を含め、臨床的意義のある症例は論文として発表して参りました。今後も当科の伝統として継続してゆきたいと考えています。

初期研修医の教育も重要です。静岡病院は 1 ヶ月ずつのローテーションなので、まず神経学のエッセンシャルを吸収していただければと思います。1 年目に脳内をローテーションして興味を持ち、2 年目にも選択してくれる研修医も出てきて、大変ありがたいことであると感じます。学生さん (M4 から M5) も 2 週間ごとに 4 名ずつ静岡病院脳神経内科をラウンドし、これらの教育を通じて静岡病院の初期研修医を増やし、さらには神経学教室への入局者増加に貢献したいと考えております。

当科の人事ですが、30 年 4 月から安藤真矢が病棟医長に就任し、診療及び教育にリーダーシップを発揮してくれています。また城 崇之が大学院修了後に赴任し大変多くの患者を的確に対応してくれております。両 2 名は後進の面倒見もよく、当科の貴重な戦力です。さらに今後は診療、教育のみならず、臨床研究も行ってくれると期待しています。第 4 土曜日には、本郷より金井数明医師が応援医師として ALS を中心とした症例の電気生理学的診断を行っております。この地域は ALS 患者が多い印象があり、この点からも地域医療に多大な貢献を頂いております。これまでの歴代教授・医局長・教室の諸先生のご理解に感謝するとともに、今後とも一層のご指導・ご支援を賜ればありがたく存じます。

【スタッフ (H29 年 12 月現在)】

野田和幸 (科長, 先任准教授), 大熊泰之 (教授), 城 崇之 (助教), 安藤真矢 (医局長兼病棟医長, 助教) 2 名の助手はローテーションで、卒後 3-5 年目の各先生が 3 ヶ月ごとに 2 名ずつ勤務し、病棟・救急外来等で活躍してくれました。

診療実績

外来患者数ですが、初診月平均 154 人、再診月平均 1700 と微増とでした。

例年通り沼津、三島、伊豆半島全域をはじめ、熱海、湯河原、御殿場、裾野、富士、富士宮などから通院しておられます。静岡市、東京都、山梨県からもパーキンソン病や運動障害の患者さんが通院されました。富士市の池辺クリニック、静岡市の城西クリニック、富士宮市の東静岡神経センター、三島市の森本神経内科クリニックといった、当科出身の諸先生方からも随時ご紹介頂き、大変光栄に思います。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

【週間外来表（29 年 12 月現在）】

	曜日	月	火	水	木	金	土
午前	1 診	城	野田	安藤	野田	城	交代制
	2 診	EMG 野田		安藤	初診医（野田）	第 4 筋電図（金井）	
午後	1 診	城		安藤	野田	城	
		BTX 野田					

病棟は 4B 病棟で眼科と脳神経内科の 2 科体制になって 3 年経ちました。看護師さんらスタッフも眼科は動ける患者さんが多いものの入退院が激しく、脳神経内科は介護度が高く大変だと思いますが、慣れてきたようです。入院患者の総数は 507 人（兼科含む）で昨年とほぼ横ばいでした。今年度もパーキンソン病や運動ニューロン病などの変性疾患が最も多く（157 人）、ここ数年脳血管障害（90 人）を上回っています。これは当科の大きな特徴です。平均在院日数は、ほぼ年間を通じて 20 日以内を達成できしており、MSW や退院支援ナースの働きには常に感謝しています。

病病連携、病診連携の重要性も常に認識しています。また長岡リハビリテーション病院、松崎研一郎院長はじめスタッフの皆様には、患者さんだけでなく教室員が毎度お世話になっております。さらに日頃からお世話になっている病院・医院の先生方や施設の方々にも心から御礼申し上げます。

研究・教育活動

（1）パーキンソン病等 Movement disorders の病態および治療に関する研究：

大熊は関東パーキンソン病勉強会の主要メンバーとして、数々の共同研究に参加してきました。パーキンソン病の姿勢異常の研究では自治医大ステーションクリニック藤本先生が論文投稿目前まで来ています。また新しい共同研究として、東京女子医大飯嶋先生を中心に嗅覚障害とレム睡眠行動異常(RBD)を中心に調べており、昨年症例登録が終了しました。解析結果が楽しみです。

重度嗅覚障害をとまなうパーキンソン病患者において、ドネペジルが認知症発症を予防できるかどうかを前向きに調べる DASH-PD 試験も 3 年が経過しました（厚生労働科学研究費補助金[現 AMED 臨床研究・治験推進研究事業]；平成 24 年～28 年度[分担研究者]）。イベント発生率が少ない関係で 1 年間延長になりましたが、当院では全国で 4 番目に多い 12 例をエントリーしてフォローしています（大熊、野田）。さらにドネペジルの歩行に対する効果を客観的にみるために、患者さんの携帯歩行計記録を行っています。

大熊はオランダの Prof. Bas Bloem と共同で、日内変動とすくみ足を有するパーキンソン病における転倒の前方視的調査を行いました。また携帯歩行計を用いてパーキンソン病や関連疾患の歩行解析を行っています。パーキンソン病患者さんの家庭での転倒とすくみ足を客観的に評価する試みを継続していま

す。

野田は不随意運動を呈する例を昨年までに多数英文で症例報告しました。今後も診療と並行して、症例報告を継続します。また伊豆半島はALSの多発地帯である疑いがあり、金井先生とも協議し開始してゆく所存です。これについては統計処理の専門家との共同研究が必要かと考えています。

(2) 脳血管障害に関する研究：

脳血管障害グループの先生からの依頼で、心房細動の実態把握と予後調査のための患者登録研究(RAFFINE)に参画し、17例登録を行い、引き続き観察中であります。

(3) 神経免疫学的研究：

多発性硬化症に対して使用できるようになった種々のDisease modifying therapy(DMT)を試みて症例を蓄積しています。本郷から毎週伊豆長岡に来ている横山先生にコンサルテーションする例も増えています。

【研究業績、活動等】

原著・症例報告

1. Noda K, Hattori, N, Okuma Y, Yamamoto T. Chronic subdural haematoma presenting as freezing of gait. R BMJ Case Rep 2017, bcr-2017-221469, 2017
2. Ando M, Fiesel FC, Hudec R, Caulfield TR, Ogaki K, Górka-Skoczylas P, Kozirowski D, Friedman A, Chen L, Dawson VL, Dawson TM, Bu G, Ross OA, Wszolek ZK, Springer W. The PINK1 p.I368N mutation affects protein stability and ubiquitin kinase activity. Mol Neurodegener. 12: 32, 2017
3. Puschmann A, Fiesel FC, Caulfield TR, Hudec R, Ando M, Truban D, Hou X, Ogaki K, Heckman MG, James ED, Swanberg M, Jimenez-Ferrer I, Hansson O, Opala G, Siuda J, Boczarska-Jedynak M, Friedman A, Kozirowski D, Aasly JO, Lynch T, Mellick GD, Mohan M, Silburn PA, Sanotsky Y, Vilariño-Güell C, Farrer MJ, Chen L, Dawson VL, Dawson TM, Wszolek ZK, Ross OA, Springer W. Heterozygous PINK1 p.G411S increases risk of Parkinson's disease via a dominant-negative mechanism. Brain. 140: 98-117, 2017.
4. Puschmann A, Fiesel FC, Caulfield TR, Hudec R, Ando M, Truban D, Hou X, Ogaki K, Heckman MG, James ED, Swanberg M, Jimenez-Ferrer I, Hansson O, Opala G, Siuda J, Boczarska-Jedynak M, Friedman A, Kozirowski D, Rudzinska-Bar M, Aasly JO, Lynch T, Mellick GD, Mohan M, Silburn PA, Sanotsky Y, Vilariño-Güell C, Farrer MJ, Chen L, Dawson VL, Dawson TM, Wszolek ZK, Ross OA, Springer W. Reply: Heterozygous PINK1 p.G411S in rapid eye movement sleep behaviour disorder. Brain. 140: e33, 2017
5. Youn J, Okuma Y, Hwang M, Kim D, Cho JW. Falling direction can predict the mechanism of recurrent falls in advanced Parkinson's disease. Sci Rep. 7:3921, 2017
6. Ouma S, Fukae J, Fujioka S, Yamamoto S, Hatano T, Yoritaka A, Okuma Y, Kashiwara KI, Hattori N, Tsuboi Y. The risk factor for the wearing-off phenomenon in Parkinson's disease in Japan: A cross-sectional,

multicenter study. Intern Med 56:1961-1966, 2017

7. Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Sakakibara R, Shimo Y, Hattori N, Kuwabara S, Yamamoto T, Kaji Y, Hirano S, Numao A, Hirata K; Kanto NMPD investigators. Characterizing restless legs syndrome and leg motor restlessness in patients with Parkinson's disease: A multicenter case-controlled study. Parkinsonism Relat Disord. 44:18-22, 2017
8. Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Sakakibara R, Shimo Y, Hattori N, Kuwabara S, Yamamoto T, Kaji Y, Hirano S, Kadowaki T, Hirata K; Kanto NMPD investigators. Impact of sleep-related symptoms on clinical motor subtypes and disability in Parkinson's disease: a multicenter cross-sectional study. J Neurol Neurosurg Psychiatry. 88: 953-959, 2017
9. Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, Miyamoto M, Sakakibara R, Shimo Y, Hattori N, Kuwabara S, Yamamoto T, Kaji Y, Hirano S, Suzuki S, Haruyama Y, Kobashi G, Hirata K; Kanto NMPD investigators. The prevalence, course and clinical correlates of migraine in Parkinson's disease: A multicenter case-controlled study. Cephalalgia. 333102417739302. 2017

著書・総説

1. 大熊泰之. Parkinson 病における姿勢異常と転倒 神経内科 86:153-160, 2017
2. 高梨雅史、大熊泰之. 各種病型と臨床症候 PSP-PNLA. Clinical Neuroscience vol.35, 2017
3. 大垣光太郎, 西岡健弥, 服部信孝. パーキンソン病の遺伝子研究 遺伝子医学MOOK 別冊 シリーズ: 最新遺伝医学研究と遺伝カウンセリング シリーズ 2「最新精神・神経遺伝医学研究と遺伝カウンセリング」 125-131, 2017

学会発表

1. Okuma Y, Mitoma H. Objective identification of freezing of gait in Parkinson's disease patients using a triaxial accelerometer 21th International Parkinson's disease and movement disorders congress, Vancouver, June 4-8, 2017
2. Iijima M, Orimo S, Terashi H, Suzuki M, Hayashi A, Shimura H, Mitoma H, Kitagawa K, Okuma Y. Efficacy of Istradefylline for Gait Disorders in Patients with Parkinson's Disease. World Congress of Neurology, Kyoto, Sep 15-21, 2017
3. Asako Yoritaka, Chigumi Ohtsuka, Tetsuya Maeda, Masaaki Hirayama, Takashi Abe, Hirohisa Watanabe, Hidemoto Saiki, Genko Oyama, Jiro Fukae, Yasushi Shimo, Taku Hatano, Sumihiro Kawajiri, Yasuyuki Okuma, Yutaka Machida, Hideto Miwa, Chikako Suzuki, Asuka Kazama, Masahiko Tomiyama, Takeshi Kihara, Motoyuki Hirasawa, Hideki Shimura, Eisei Oda, Mikako Ito, Kinji Ohno, Nobutaka Hattori. A

randomized double-blind multi-center trial of hydrogen water for Parkinson's disease. 23rd World Congress of Neurology, Kyoto, Sep 16-21, 2017

4. 頼高朝子、阿部隆志、大塚千久美、前田哲也、平山正昭、渡辺宏久、齋木英資、大山彦光、深郎、下泰司、波田野琢、河尻澄宏、大熊泰之、町田裕、三輪英人、鈴木智香子、風間明日香、富山誠彦、木原武士、平澤基之、志村秀樹、小田英世、服部信孝. パーキンソン病に対する水素水の多施設共同二重盲検無作為化試験. 第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス . 2017. 26-28 東京
5. 飯嶋 睦、吉井 均、鈴木圭輔、野川 茂、長田高志、平田幸一、北川一夫、服部信之、大熊泰之. パーキンソン病のレム睡眠行動障害と嗅覚障害、運動・非運動症状との関連性の検討. 第 11 回パーキンソン病・運動障害疾患カンファレンス 2017. 26-28 東京
6. 加茂 晃、石黒雄太、小川 崇、正島由理、安藤真矢、大垣光太郎、野田和幸、大熊泰之. 抗 Gal-C 抗体陽性で長大な脊髄病変を主徴とした 31 歳男性例. 第 220 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 3 月 4 日, 2017
7. 小川 崇、正島由理、安藤真矢、大垣光太郎、大熊泰之、野田和幸、進行性非流暢性失語で発症した V180I 変異を伴う CJD の 79 歳女性例. 第 221 回日本神経学会関東・甲信越地方会, 東京, 6 月 3 日, 2017
8. 代田健祐、林田有紗、安藤真矢、大垣光太郎、服部信孝、大熊泰之、野田和幸、過眠症を呈しモダフィニル、メチルフェニデートが奏功した Neuromyelitis optica spectrum disorders の 67 歳女性例. 第 222 回日本神経学会関東・甲信越地方会・東京, 9 月 2 日, 2017
9. 服部安莉、杉山瑞穂、安藤真矢、大垣光太郎、服部信孝、大熊泰之、野田和幸. EB virus 罹患後急性散在性脳脊髄炎を発症した 23 歳男性例. 第 223 回日本神経学会関東・甲信越地方会、東京・12 月 2 日 2017

講演

1. 大熊泰之、講演. 神経難病について. 平成 28 年度静岡県難病指定医研修、沼津. 1 月 15 日, 2017
2. 大熊泰之. 講演. パーキンソン病の歩行障害. 大塚製薬社内講演会 東京, 2 月 22 日 2017
3. 大熊泰之. 講演. パーキンソン病の診断と治療: 歩行障害を中心にして. ハッピーフェイスセミナー, 多治見 3 月 1 日 2017
4. 大熊泰之. 講演. パーキンソン病の最新治療と今後の動向について. パーキンソン病講演会 東部保健所. 沼津. 3 月 6 日 2017
5. 大熊泰之. 講演. パーキンソン病関連疾患の歩行障害ー研究の歴史と展望ー. ハッピーフェイスセ

ミナー．岡山。6月22日2017

6. 大熊泰之．講演．パーキンソン病と歩行障害．長野パーキンソン病学術講演会．長野, 7月14日. 2017
7. 大熊泰之．講演．パーキンソン病とチーム医療．パーキンソン病講演会：チームでパーキンソン病を考える．名古屋. 7月20日 2017

その他

1. 大熊泰之，座長：パーキンソン病ハッピーフェイスセミナー（演者：柏原健一先生，パーキンソン病の診断と治療）2月8日．三島
2. 大熊泰之．総合司会・オーガナイザー．パーキンソン病友の会講演会．パーキンソン病とうまくつきあうために．三島．9月23日
3. 大熊泰之．座長：脳神経内科同窓会，御茶ノ水神経懇話会．（演者：舩山 学先生．）10月．東京

2-13. 心臓血管外科

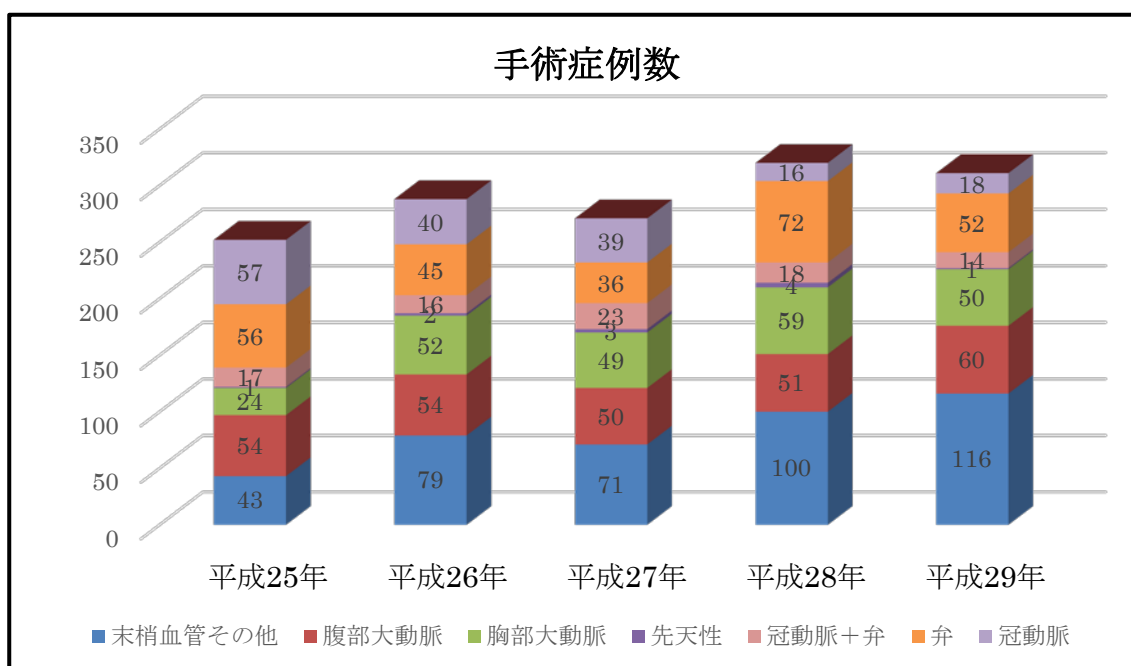
診療活動

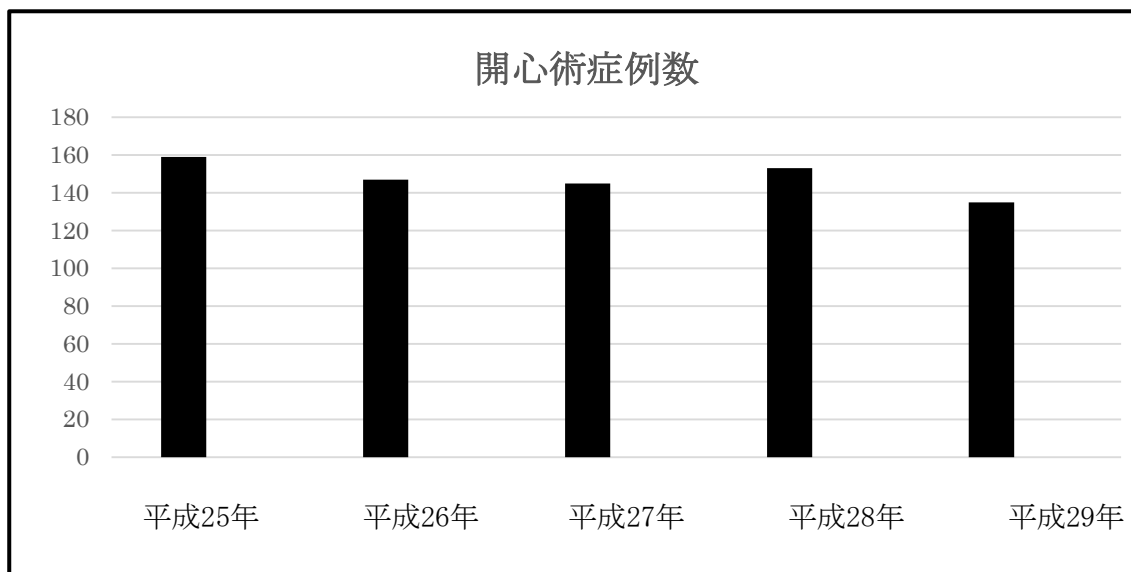
順天堂大学医学部附属静岡病院心臓血管外科では、平成 29 年の 1 年間で心臓・大血管（腹部大動脈を含む）手術 198 例、末梢血管手術その他 113 例で計 311 例の手術を施行しました。緊急手術はそのうち 58 例でした。このうちいわゆる開心術（心拍動下冠動脈バイパス術＋体外循環症例）は 135 例あり、これは成人開心術では静岡県東部地域で第 1 位の症例数でした。これはひとえに、院内で循環器科、麻酔科、手術部をはじめとする医師やコメディカルの方々、および地域の皆さまの御支援・御協力によって達成できたものと考えており、この場をお借りして深く御礼申し上げます。手術成績は、緊急手術を合わせて院内死亡率は約 5%でした。いわゆる開心術に限定すれば、お断りすることなく重症例を多く引き受けている当科において、全国平均（Japan SCORE）とほぼ同等の成績でした。

なお、平成 24 年度より胸部のステントグラフト実施施設として認定され、当科で腹部のみならず胸部の大動脈瘤についてもステントグラフト治療が実施できるようになっています。また、下肢静脈瘤についても積極的に外科治療を行い、良好な成績を上げています。平成 29 年度からは低侵襲心臓外科手術（MICS）も開始し、大動脈弁置換術・僧帽弁形成術/置換術を右開胸で 5-8cm の小さい皮切で施行しています。これまで施行した MICS15 例（大動脈弁 13 例、僧帽弁 2 例）では手術・院内死亡 0 と良好な成績を挙げています。

地域の皆さまに頼りにされる診療科として医療に貢献すべく、成人の心臓血管手術全般でいっそうの手術成績の向上を図っていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

診療実績





次年度目標

平成 29 年度は、臨床面では前年度に比べて、開心術数、全手術数ともにわずかに昨年を下回りました。静岡東部地域で各施設とも開心術症例が減少している中において、成人開心術症例数は、静岡県東部で第 1 位を保ちました。今後とも地域の方々にはいっそう信頼していただけるように、たゆまぬ努力が必要であると肝に銘じています。手術成績自体は、全国平均（Japan SCORE）並みですが、動脈の性状が悪い症例や重症の透析例なども積極的にお引き受けしており、引き続き成績向上に向けてたゆまぬ努力を続けてまいります。麻酔科・手術部の方々のご協力に感謝を申し上げます。

さらに、低侵襲心臓手術（MICS）に力を入れ、全対象症例数のうちの MICS の割合を 3 割程度に引き上げ、静岡東部地域の MICS における中心施設としての立場を確立すべく努力してまいります。

平成 30 年度も引き続き、臨床面においては手術成績の向上により重点を置いて、県東部地域の基幹病院としての地位を確固たるものとすることを目標といたします。また研究面では、静岡病院発（静岡病院のスタッフが筆頭著者・責任著者となっているもの）の英文論文を作成すること、および科学研究費を獲得することを二つの目標として掲げますが、同時に、当科の知名度の向上に寄与すべく各種地方会や研究会に積極的に演題を発表していきます。

すなわち、診療・研究・教育の 3 分野で、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構における基幹施設にふさわしい活動を年間通じて継続してまいりますので、みなさま方からのご指導・ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

研究・教育活動

① 原著（英文）

1. Surgical treatment of left atrioventricular fistula due to mitral annular abscess after mitral valve replacement for active endocarditis. Nakanishi K, Tambara K, Saito Y. Surg Perioper Care. 2017; 2:

1027-1028.

2. Aortic injury due to paragliding: a case report. Omori K, Jitsuiki K, Majima T, Takeuchi I, Yoshizawa T, Ishikawa K, Ohsaka H, Tambara K, Yanagawa Y. Int J Sports Phys Ther. 2017; 12:390-401.
3. Efficacy of off-pump coronary artery bypass grafting using skeletonized bilateral internal thoracic arteries in diabetic patients. Saito Y, Tambara K, Dohi S, Inaba H, Yamamoto T, Tsuruta R, Hirose H, Amano A. Juntendo Medical Journal. 2017; 63 :257-263.

② 学会発表（国内）

1. 腱索断裂により生じた急性僧帽弁閉鎖不全症に対し僧帽弁形成術ならびにサムスカが著効した一例. 齋藤 洋輔, 丹原圭一, 佐藤友一郎, 宮崎豪. 心不全治療学術講演会. 2017 年 5 月 19 日.
2. Outcomes and future perspectives of aortic valve replacement for aortic stenosis with intermediate and low surgical risk patients. 町田 洋一郎, 桑木賢次, 山本平, 畑博明, 森田照正, 土肥静之, 松下訓, 梶本完, 嶋田晶江, 遠藤大介, 李 智榮, 天野 篤. 第 70 回日本胸部外科学会定期学術集会. 2017 年 9 月 26 日.
3. 感染性大動脈瘤に対しステントグラフト内挿術で奏効した自験例の検討. 町田 洋一郎, 土肥静之, 山本平, 畑博明, 森田照正, 桑木賢次, 松下訓, 梶本完, 嶋田晶江, 遠藤大介, 李 智榮, 天野 篤. 第 25 回日本血管外科学会関東甲信越地方会. 2017 年 10 月 28 日.
4. 一次性僧帽弁閉鎖不全に対する非対称性人工弁輪の有用性. 丹原圭一, 齋藤洋輔, 佐藤友一郎, 宮崎 豪. 第 79 回日本臨床外科学会総会. 2017 年 11 月 24 日
5. プラザキサを内服している急性大動脈解離に対しブリズバインドが奏効した 1 例. 齋藤 洋輔, 丹原圭一, 佐藤友一郎, 宮崎豪. 日本ベーリンガーインゲルハイム 社内勉強会. 2017 年 12 月 19 日.
6. MICS-AVR. 宮崎 豪, 丹原圭一, 齋藤洋輔, 佐藤友一郎. 第 11 回静岡県東部心臓外科・循環器科連携の会. 2018 年 2 月 2 日.
7. Coronary artery bypass grafting attenuates morbidity and mortality for patients with low and high body mass. 町田 洋一郎, 山本平, 畑博明, 森田照正, 桑木賢次, 土肥静之, 松下訓, 梶本完, 嶋田晶江, 遠藤大介, 李 智榮, 天野 篤. 第 48 回日本心臓血管外科学会学術総会. 2018 年 2 月 19 日.
8. MRSA 感染症診療の実際. 丹原圭一. ファイザー社内勉強会. 2018 年 3 月 16 日.
9. 成人三心房心に対して右肋間小開胸で異常隔壁切除術を施行した一例. 宮崎 豪, 丹原圭一, 齋藤洋輔, 町田洋一郎. 第 177 回日本胸部外科学会地方会. 2018 年 6 月 23 日.

2-14 呼吸器外科

診療活動

当科では原発性肺癌を中心に、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、膿胸、胸部外傷など様々な胸部疾患に対して幅広く外科診療を行っている。その範囲は伊豆半島のみならず静岡県東部全域に及ぶ。

特に肺がん診療においては癌専門病院で手術が断られるような、心臓を含めた他臓器疾患が併存するハイリスク症例の手術にも対応しており、その重要な役割を担っている。大学病院の特性を生かし、呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内科・腎臓内科などとの連携を行い緻密な術後管理が可能である。

また高齢化社会という背景のもと患者の高齢化も進んでいるが、当院では高齢という理由のみで手術を回避することは行わない。術前のリスク評価を十分に行ったうえ、可能であれば高齢者であっても手術を行い、根治を目指す環境を備えている。

難症例に対しては、大学本院からのヘルプを仰ぎ拡大手術も積極的に行っている。

診療実績

総手術総数(平成 29 年 1 月～12 月)

疾患別手術総数	223 例 (前年度+42 例)
原発性肺癌	58 例 (前年度 +4 例)
転移性肺腫瘍	18 例 (前年度+10 例)
肺良性腫瘍	5 例 (前年度 +1 例)
縦隔腫瘍	13例 (前年度 +1 例)
胸壁腫瘍	7 例 (前年度 ±0 例)
自然気胸	64例 (前年度+25 例)
胸部外傷	6例 (前年度 -3 例)
膿胸	16 例 (前年度 -2 例)
その他	36 例 (前年度 +6 例)

次年度目標

特に、肺癌、転移性肺腫瘍、気胸の手術数は増加の一途を辿っている。今後、年間 250 例を超える症例を目標とする上で、患者の高齢化とともに、併存疾患のあるいわゆるハイリスク症例が増加することが予想される。そういった社会背景のニーズに合った手術治療を絶え間なく提供していくことが当科の担う役割である。近隣の病院・開業医の先生方と更なる連携を深めて診療を行っていく次第である。また、研究・学会活動の面でも国内に関わらず、国外へ新たな知識を得るために前進する次第である。

研究・教育活動

① 論文業績

なし

② 学会発表

1. 星野浩延, 市之川英臣, 尾泉広明, 鈴木健司: Cornelia de Lange 症候群の右自然気胸に対して胸腔鏡補助下右肺中葉部分切除術を施行した一例 第 28 回 静岡呼吸器外科医会, 静岡, 2017.2.18
2. 小森和幸、服部有俊、松永健志、高持一矢、王志明、川越いづみ、鈴木健司: 高悪性度神経内分泌肺癌の切除例の検討 第 34 回日本呼吸器外科学会総会、福岡、2017.5.18
3. 星野浩延, 市之川英臣, 尾泉広明, 鈴木健司: 外傷性血気胸に対する治療アプローチ 第 34 回 日本呼吸器外科学会総会, 福岡, 2017.5.19
4. 堂垂大志、星野浩延、小森和幸、市之川英臣: 多発肋骨骨折に対する固定方法を考える 第 29 回 静岡呼吸器外科医会, 浜松, 2017.6.17
5. 星野浩延, 松永健志, 高持一矢, 王志明, 鈴木健司: 縦隔悪性腫瘍手術において、左腕頭静脈切離後に抗凝固療法は必要か 第 70 回 日本胸部外科学会定期学術集会, 北海道, 2017.9.29
6. Komori K, Hattori A, Matsunaga T, Takamochi K, Oh S, Suzuki K: Clinicopathological characteristics of multifocal ground-glass opacities of the lung located in the same lobe: oncological outcomes and the surgical management 31st EACTS annual meeting, Vienna, 2017.10.10
7. 市之川英臣、星野浩延、小森和幸: 審査胸腔鏡（生検）目的で手術を予定していたが結果的に完全切除となった 1 例 第 30 回日本内視鏡外科学会総会, 京都. 2017.12.7

2-15 形成外科

診療活動

形成外科は、小児から成人までの形成外科的疾患を対象とし、地域の医療機関や院内他科との連携を取りながら診療活動を行っている。診療にあたってはわかりやすい説明を心がけ、患者さんが自分、もしくは自分の家族だったらどうするかという視点に立ち、優しい医療を提供するよう心掛けている。また火曜日の午後に予約制でフットケア外来を開設しており、形成外科、循環器科、糖尿病内科、スキンケアナースとの連携によりさまざまな足病変に対する下肢救済を目的とした診療を行っている。

診療実績

新患者数 630 名(719 名)

入院患者数 190 名(197 名)

入院手術 197 件(224 件)

外来手術 368 件(395 件)

内訳:外傷 156(177) 先天異常 13(9) 腫瘍 315(338) 瘻痕・ケロイド 7(11) 難治性潰瘍 33(54)

炎症・変性疾患 13(25) レーザー治療 2(5)

*()内は平成 28 年

次年度目標

平成 28 年は全年に比して新患者数、外来手術件数、入院患者数は横ばいであった。外傷の手術件数は一昨年に大きく増加したが若干の減少はあるもののその水準は維持している。救急車受け入れをはじめとする救急外来対応や救急科からの院内紹介件数が増加したためと考えられる。今後さらに多彩な形成外科的疾患への対応が必要とされる。一方で褥瘡、足潰瘍等の難治性潰瘍患者増加に伴い入院在院日数の増加が生じている。他科、他院との調整を行い短縮に努める。また眼瞼下垂をはじめとした顔面の整容を重視した手術が増えており、形成外科は整容的な面での **quality** を求められることが多い。多くの患者さんに対応するとともにその日々の処置から外来診療、手術を行う際今後も一層丁寧にそして安全に留意しより多くの患者さんのニーズに応えるべく努力していきたいと考える。

研究・教育活動

発表

1. 松本茂

塩基性線維芽細胞増殖因子徐放化ゼラチンシートを用いたマウス皮膚潰瘍モデルに対する有効性
第 8 回静岡県創傷治癒研究会 (2017 年 静岡)

2. 松本茂、佐藤瑠美子、野尻岳、水野博司

中顔面骨骨折に対し IMF スクリューを用いて連結したハロー型骨延長器の使用経験

2-16 眼科

診療活動

当科は9名の医師により診療を行っているが、外来患者数、手術件数ともに順調に推移している。当科の特徴として、白内障手術、緑内障手術、網膜・硝子体手術のみならず角膜移植に代表される角膜手術、眼瞼手術まで幅広い眼疾患の治療を行っている。白内障手術は、我が国において年間約140万件行われており年々増加傾向にあるが、当院においても平成28年度は年間で前年比約300件増加してその後も増加傾向を維持している。眼内レンズ二次挿入においては新術式(眼内レンズ強膜内固定術)を開発し、平成24年度に国内外の学会で賞を受賞した。新術式は多焦点眼内レンズの二次挿入を可能とする画期的な術式であり、県外からも手術希望患者が来院している。現在国内外の学会にて普及を図っている。緑内障手術は、従来の線維柱帯切除術のみならず、シャント手術も導入して手術成績の向上を図っており、今後緑内障手術件数も増加が予想される。網膜・硝子体手術の手術件数は静岡県内随一であり、糖尿病網膜症、血管閉塞疾患、黄斑前膜、黄斑円孔など種々の眼底疾患の増加に対しても、最新の手術機器を用いて治療を行い、良好な治療成績を得ている。難症例に対しても積極的に治療を行っている。また、当院は静岡県内で最も多くの角膜移植術を行っているが、最近の角膜内皮移植術(DSAEK)の導入により、特に水疱性角膜症の治療成績が格段に向上した。術後視力の早期回復、拒絶反応の減少が可能となった。最近の高齢化社会の到来による加齢黄斑変性に対しても、抗VEGF薬を用いて多数の患者の治療を行っている。

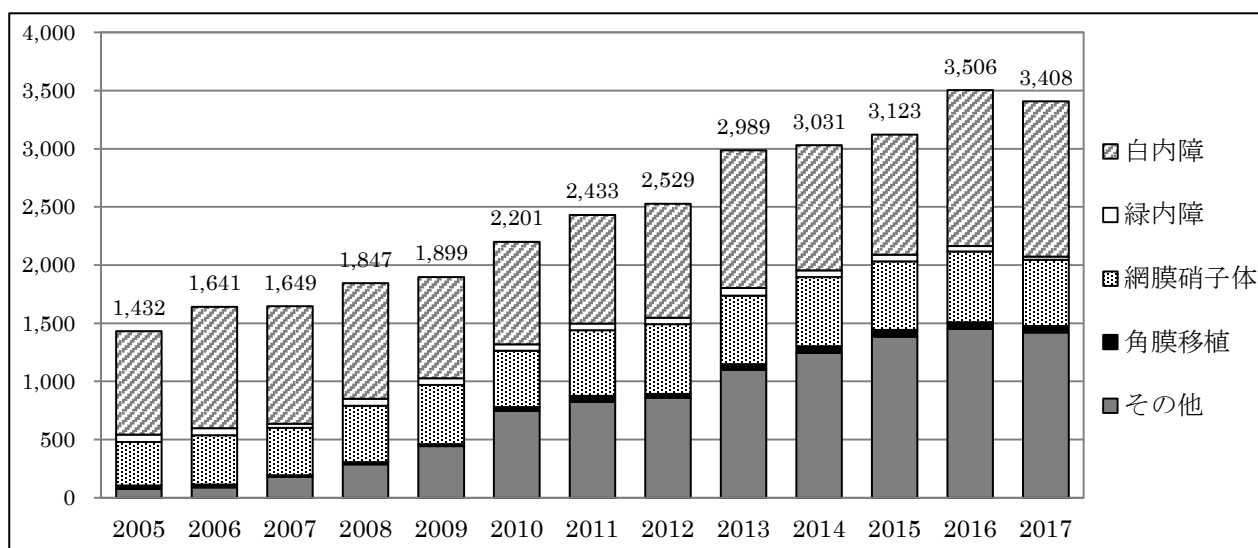
診療実績

患者数

新患	1,666
のべ再来患者数	31,231

手術件数

白内障手術	1,335
緑内障手術	26
網膜・硝子体手術	571
角膜移植	53
その他	1,423
総手術件数	3,408



次年度目標

平成 29 年度は前年度と比較して外来患者数、手術件数ともに伸びが一段落したが、外来診療枠の変更や手術枠の工夫を行いさらなる増加を図りたい。当院で開発した新しい眼内レンズ二次挿入術もわが国で普及し始め、海外での発表も熱心に行っているが、順天堂大学静岡病院から国内のみならず欧米の眼科医にも情報を発信することは重要であると考え。平成 30 年度の目標としては、臨床面でのさらなる充実とともに、後期研修医の教育に重点をおき、知識の更なる習得と手術の錬度を上げることを目標としたい。

研究・教育活動

原著(英文)

1. Miura-Karasawa M, Toshida H, Ohta T, Murakami A. Papilloma and sebaceous gland hyperplasia of the lacrimal caruncle: a case report. International Medical Case Reports Journal 2018;11, 91-95.

原著(和文)

1. 朝岡聖子, 根岸貴志, 村上晶: 小児上斜筋麻痺に対する上斜筋縫縮術の効果. 眼科臨床紀要 10(3): 215-217, 2017.
2. 朝岡聖子, 本田理峰, 山口昌大, 舟木俊成, 村上晶, 松田章: バルベル緑内障インプラントにおけるチューブのよじれを整復した 1 例. あたらしい眼科 34(6): 899-902, 2017.06.
3. 大谷洋揮, 土至田宏, 柏木広哉, 松崎有修, 小森翼, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, 太田俊彦: 虹彩腫瘍の角膜後面接触による水疱性角膜症に対し角膜内皮移植術が有効であった 1 例. 臨床眼科 72(3): 359-362, 2018.03.

総説

1. 市川浩平, 太田俊彦: 【こんなときどうする 眼外傷】隅角解離, 虹彩離断, 毛様体解離. MB

OCULISTA No.56 15-23, 全日本病院出版会, 2017 年 11 月.

2. 太田俊彦: 落屑症候群で水晶体脱臼・亜脱臼を生じている患者がいます. 対応を教えてください. あたらしい眼科 34(臨増):197~201, 2017.
3. 松崎有修, 太田俊彦:【これでわかる眼内レンズ度数決定のコツ】前房深度からみた IOL 度数計算のコツ. MB OCULISTA No.63 66-71, 全日本病院出版会, 2018 年 3 月.

著書

1. 土至田宏: 合併する全身疾患. どう診てどう治す? 円錐角膜. 島崎潤・前田直之・加藤直子編集. メジカルビュー社 p12-13, 2017 年 9 月.

学会発表(国際)

1. Matsuzaki Y, Ohta T, Beiko G, Brierley L, Agarwal A, Agarwal A: PMMA IOL Implantation Using L-shaped Scleral Pocket Incision. 米国白内障・屈折矯正手術学会 (ASCRS), ロサンゼルス(米国), 2017 年 5 月 5 日~9 日 (一般講演).
2. Kohei Ichikawa, Yusuke Matsuzaki, Toshihiko Ohta, George Beiko, Lawrence Brierley, Amar Agarwal, Athiya Agarwal: PMMA IOL implantation using L-shaped scleral pocket incision. 欧州白内障屈折矯正手術学会 (ESCRS), リスボン, 2017 年 10 月 7 日~11 日 (e-Poster).
3. Toshihiko Ohta: No Capsule, No Problem: Intrasccleral Haptic Fixation of IOLs. Skills Transfer Course 米国眼科学会 (AAO), ニューオリンズ(米国), 2017 年 11 月 11 日~14 日 (Instructor).
4. Kohei Ichikawa, Yusuke Matsuzaki, Hiroshi Toshida, Toshihiko Ohta, Akira Murakami: Long-term postoperative results of Y-fixation technique used for intrasccleral posterior chamber intraocular lens fixation. 米国眼科学会 (AAO), ニューオリンズ(米国), 2017 年 11 月 11 日~14 日(ポスター).(Selected as Best Poster).
5. Ohta T: Management of Posterior Capsule Rupture. Video Symposium. The 32nd APAO (アジア太平洋眼科学会), 香港, 2018 年 2 月 7 日~11 日. (招待講演).
6. Ohta T: Challenging Cataract/Complicated Cataract Case 4 (Accommodators Team). Video Symposium. The 32nd APAO (アジア太平洋眼科学会), 香港, 2018 年 2 月 7 日~11 日. (招待講演).
7. Ohta T: Pearls of Intrasccleral Haptic Fixation: Management of IOL Dislocation. Video Symposium. The 32nd APAO (アジア太平洋眼科学会), 香港, 2018 年 2 月 7 日~11 日. (招待講演).

学会発表(国内)

1. 土至田宏: 理論に基づくコンタクトレンズの選択. 第 121 回日本眼科学会総会, 東京都, 2017 年 4 月 6 日~4 月 9 日(教育セミナー3).
2. 土至田宏, 舟木俊成, 小野浩一, 關保, 大竹博司, 加藤卓次, 渡部草太, 田淵照人, 海老原伸行,

- 村上晶: レチノールパルミチン酸エステル点眼液のドライアイ患者に対する治療効果. 第 121 回日本眼科学会総会, 東京都, 2017 年 4 月 6 日～4 月 9 日(一般講演).
3. 松崎有修, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 林雄介, 桑名亮輔, 土至田宏, 太田俊彦, 村上晶: 眼内レンズ強膜内固定術施行眼の長期術後成績. 第 121 回日本眼科学会総会, 東京都, 2017 年 4 月 6 日～9 日(一般講演).
 4. 林雄介, 土至田宏, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 桑名亮輔, 松崎有修, 太田俊彦, 小野純治, 村上晶: Host 結膜断端部反転縫合を用いた結膜有茎弁移植術を併用した翼状片手術の術後成都. 第 121 回日本眼科学会総会, 東京都, 2017 年 4 月 6 日～4 月 9 日(一般講演).
 5. 太田俊彦, 松島博之, 小早川信一郎, 永田万由美, 西村栄一: 効果的な眼内レンズ選択と使用法. 第 32 回 JSCRS 学術総会, 福岡県, 2017 年 6 月 23 日～25 日 (インストラクションコース).
 6. 土至田 宏, 林 雄介, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 古賀 暖子, 桑名 亮輔, 松崎 有修, 太田 俊彦: 帯状角膜変性に対する EDTA 塗布併用ケラテクトミー術後の屈折値の変化. 第 32 回 JSCRS 学術総会, 福岡県, 2017 年 6 月 23 日～25 日 (一般講演).
 7. 林雄介, 土至田宏, 朝岡聖子, 市川浩平, 古賀暖子, 桑名亮輔, 松崎有修, 太田俊彦, 小野純治: 結膜有茎弁移植術併用翼状片手術の術後屈折値の変化. 第 32 回 JSCRS 学術総会, 福岡県, 2017 年 6 月 23 日～25 日 (学術展示).
 8. 小森翼, 太田俊彦: 多焦点 IOL 亜脱臼例に対し多焦点 IOL 強膜内固定術を施行した 1 例. 第 32 回 JSCRS 学術総会, 福岡県, 2017 年 6 月 23 日～25 日 (レースレポート).
 9. 土至田宏: HCL ケースの培養結果と蛋白濃度. 第 60 回日本コンタクトレンズ学会総会, 大阪府, 2017 年 7 月 14 日～16 日 (学術展示).
 10. 土至田宏: 原理と角膜への影響. オルソケラトロジー講習会 第 60 回日本コンタクトレンズ学会 (講演), 大阪府, 2017 年 7 月 14 日～16 日 .
 11. 土至田宏: 副交感神経除神経家兎ドライアイモデルにおけるレチノールパルミチン酸エステル点眼液の治療効果. 第 37 回日本眼薬理科学会. 高山市, 2017 年 9 月 1 日.
 12. 太田俊彦, 江口秀一郎, 小早川信一郎, 松島博之, 西村栄一: IOL 縫着術と強膜内固定術 A to Z. 第 71 回 日本臨床眼科学会, 東京都, 2017 年 10 月 12 日～15 日 (インストラクションコース).
 13. 太田俊彦, 大内雅之, 飯田嘉彦, 永田万由美: 白内障術中後囊破損への対処法. 第 71 回 日本臨床眼科学会, 東京都, 2017 年 10 月 12 日～15 日 (インストラクションコース).
 14. 松崎有修, 小森翼, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, 土至田宏, 太田俊彦: 巨大角膜を合併した長眼軸長眼に対し眼内レンズ強膜内固定術を施行した 1 例. 第 71 回 日本臨床眼科学会, 東京都, 2017 年 10 月 12 日～15 日(一般講演).
 15. 大谷洋揮, 土至田宏, 松崎有修, 小森翼, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, 太田俊彦: 虹彩腫瘍の角膜構面接触による水疱性角膜症に対し角膜内皮移植が有効であった 1 例. 第 71 回 日本臨床眼科学会, 東京都, 2017 年 10 月 12 日～15 日(学術展示).
 16. 小森翼, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 土至田宏, 太田俊彦: 重度の隅角、毛様体解離例に対する毛様溝インジェクターを用いた整復術. 第 71 回 日本臨床眼科

- 学会, 東京都, 2017 年 10 月 12 日～15 日(一般講演).
17. 太田俊彦: 後囊破損の対処法-Mt. Fuji technique-. B の会, 横浜市, 2017 年 11 月 17 日.
 18. 土至田宏: Review “Tears and Ocular Surface”. 京都 Cornea Club, 京都市, 2017 年 11 月 24 日～25 日.
 19. 土至田宏: シンポジウム. Characteristics and Impact of Parasympathetic Denervation Animal Model for Dry Eye Diseases. 京都 Cornea Club, 京都市, 2017 年 11 月 24 日～25 日.
 20. 大谷洋揮, 小森翼, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 土至田宏, 太田俊彦: 眼球破裂における束状網膜剥離の治療に関する検討. 第 56 回 日本網膜硝子体会総会, 東京都, 2017 年 12 月 1 日～3 日(学術展示).
 21. 松崎有修: 白内障手術プレミアリーグ～OPL in Japan～(破囊対策ユナイテッド). 第 6 回 JSCRS ウィンターセミナー, 東京都, 2017 年 12 月 9 日～10 日.
 22. 太田俊彦: 基本とトレンド: 白内障手術～日本一受けたい授業～「強膜内固定」. 第 6 回 JSCRS ウィンターセミナー, 東京都, 2017 年 12 月 9 日～10 日.
 23. 太田俊彦: 後囊破損時の対処法. 順天堂大学眼科 合同症例検討会, 東京都(本院), 2017 年 12 月 16 日(特別講演).
 24. 小森翼, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 土至田宏, 太田俊彦: IOL 偏位に対し IOL 強膜内固定術を施行した Marshall 症候群の 1 例. 順天堂大学眼科 合同症例検討会, 東京都(本院), 2017 年 12 月 16 日.
 25. 小森翼, 土至田宏, 朝岡聖子, 大谷洋揮, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 太田俊彦: 複数回の再発を繰り返した翼状片の 1 例. 第 319 回 症例検討会, 東京都(本院), 2018 年 1 月 17 日.
 26. 土至田宏, 小森雅彦, 柳田和夫, 堀田喜裕: (公財) 静岡県アイバンクから斡旋されたドナー角膜の使用状況. 第 70 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2018 年 1 月 20 日.
 27. 松崎有修, 小森翼, 大谷洋揮, 朝岡聖子, 市川浩平, 林雄介, 桑名亮輔, 土至田宏, 太田俊彦: 白内障術中の後囊破損への対処法 -Mt. Fuji Technique-. 第 70 回静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2018 年 1 月 20 日.
 28. 市川浩平, 小森翼, 大谷洋揮, 林雄介, 桑名亮輔, 松崎有修, 土至田宏, 太田俊彦: 当院における過去 5 年間の開放性眼外傷の検討. 第 41 回日本眼科手術学会学術総会, 京都府, 2018 年 1 月 26 日～28 日(一般講演).
 29. 林雄介, 小森翼, 大谷洋揮, 市川浩平, 桑名亮輔, 松崎有修, 土至田宏, 太田俊彦: 眼打撲による水晶体脱臼に対し眼内レンズ強膜内固定術を施行した 2 例. 第 41 回日本眼科手術学会学術総会, 京都府, 2018 年 1 月 26 日～28 日(一般講演).
 30. 太田俊彦, 小早川信一郎, 西村栄一: 白内障手術における眼内レンズの選択と活用法. 第 41 回日本眼科手術学会学術総会, 京都府, 2018 年 1 月 26 日～28 日(インストラクションコース).
 31. 土至田宏: 静岡県アイバンクドナー使用状況. 角膜カンファレンス 2018, 広島市, 2018 年 2 月 15 日～17 日(一般講演).

32. 土至田宏, 須藤史子: 副交感神経徐神経家兎モデルにおける神経再生を介したドライアイ治療の試. 第 17 回日本再生医療学会総会, 横浜市, 2018 年 3 月 21 日～23 日 (ポスター).

その他

1. 土至田宏: 原理と角膜への影響. オルソケラトロジー講習会 第 121 回日本眼科学会総会, 東京都, 2017 年 4 月 6 日～4 月 9 日.
2. 土至田宏: コンタクトレンズに関する医療情報(発展講習). 平成 29 年度 医療機器・販売業の管理者に対する継続的研修. 静岡市, 2017 年 7 月 1 日.
3. 太田俊彦: IOL 位置異常眼の対処法—IOL 強膜内固定術を中心に—. 太田式 強膜内固定術 特別講習会(参天製薬). 東京都中央区, 2017 年 9 月 2 日.
4. 土至田宏: 神奈川県眼科医会 コンタクトレンズ販売管理者継続的研修. 横浜市, 2017 年 9 月 7 日.
5. 土至田 宏: CL 装用と感染症(第 39 回). 日本コンタクトレンズ学会誌 59(1):42-43, 2017.
6. 太田俊彦: 高齢者の目の病気とは?. 公開講座合同開催 in 三島キャンパス(第 10 回順天堂保険看護学部 公開講座・第 59 回順天堂大学医学部附属静岡病院 市民公開講座). 三島市, 2017 年 9 月 16 日.
7. 土至田 宏: 献眼の理解深める 沼津で勉強会. 静岡新聞 平成 29(2017)年 10 月 12 日号, p23, 2017
8. 太田俊彦: IOL 位置異常眼の対処法. 第 11 回 Midland Seminar of Ophthalmology 学術講演会. 名古屋市, 2017 年 10 月 21 日.
9. 土至田宏: 原理と角膜への影響. オルソケラトロジー講習会 第 71 回 日本臨床眼科学会, 東京都, 2017 年 10 月 12 日～15 日.
10. 大谷洋揮: 外傷による眼球破裂の 1 例. 第 2 回静岡網膜硝子体フォーラム, 沼津市, 2017 年 11 月 30 日.
11. 松崎有修: 視器の構造. 第 40 回 眼科コメディカル講習会, 静岡市, 2018 年 1 月 21 日.
12. 太田俊彦: IOL 位置異常眼の対処法. 第 5 回雪明・新潟眼科フォーラム, 新潟市, 2018 年 2 月 18 日.
13. 太田俊彦: 強膜内固定術法について、IOL の選択、条件、製品開発に望むこと. 興和創薬社内勉強会, 東京都, 2018 年 2 月 20 日.

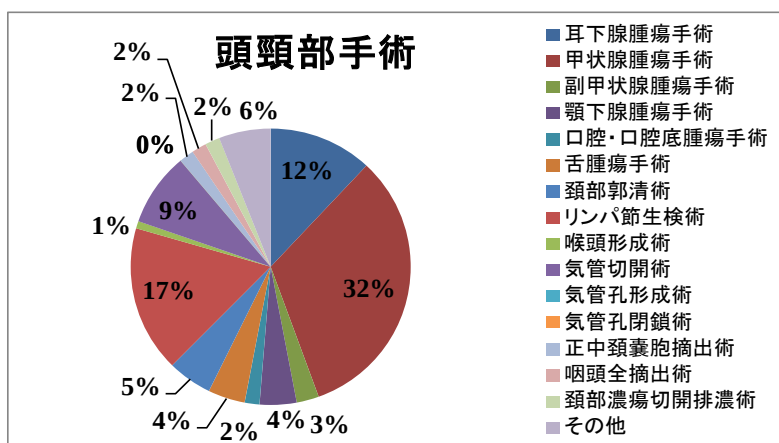
2-17 耳鼻咽喉科

診療活動

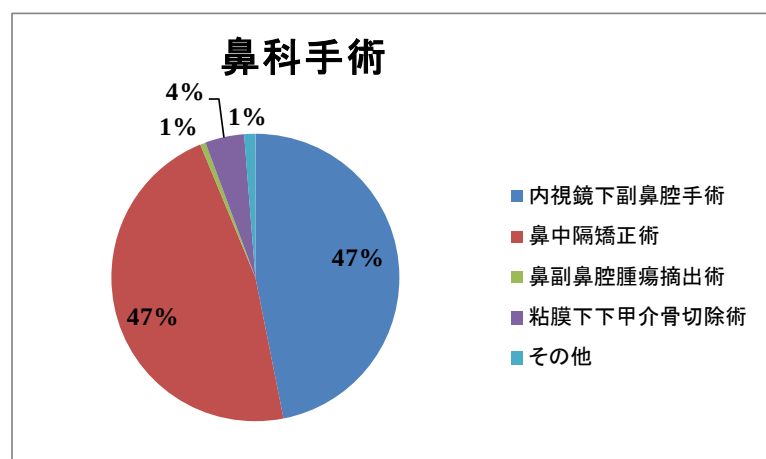
現在当科は、医師 6 人体制で診療にあたっています。そのうち、小生も含め 4 人が、当院勤務が 6 年目に入り、多くの患者さんや他施設の先生から、「以前は、耳鼻科医師がコロコロ変わっていたけど、今は、ほとんど変わらなくなった」と喜んでいただいています。その間、県内で行われる学会、研究会には、積極的に演題を出し、当科の診療内容を認識してもらうように努めていました。その甲斐あってか、我々が赴任する以前に比べ、紹介患者が約 3 割増えております。さらに月平均初診患者数は、全科で 3 位、マイナー科では 1 位になりました。また、手術症例で最も多いのは、鼻副鼻腔炎手術ですが、最近では腫瘍患者が、増えてきており、中でも一番多い甲状腺腫瘍に関しては、耳鼻科より、内科、外科の診療所の紹介が多いです。平成 26 年 2 月より田方歯科医師会と合同で、「がん医科歯科連携」をすすめています。当科では、9 割以上の癌患者さんは、口腔ケアの重要性およびその意義を理解され受診されております。今後のより一層、治療後の QOL の向上・維持に努めます。

診療実績（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

頭頸部手術	
耳下腺腫瘍手術	14
甲状腺腫瘍手術	38
副甲状腺腫瘍手術	3
顎下腺腫瘍手術	5
口腔・口腔底腫瘍手術	2
舌腫瘍手術	5
頸部郭清術	6
リンパ節生検術	20
喉頭形成術	1
気管切開術	10
気管孔形成術	0
気管孔閉鎖術	0
正中頸嚢胞摘出術	2
咽頭全摘出術	2
頸部濃瘍切開排膿術	2
その他	7

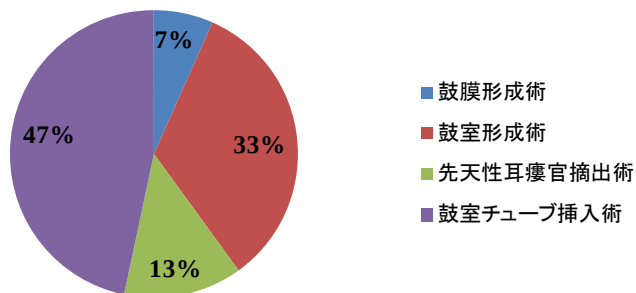


鼻科手術	
内視鏡下副鼻腔手術	75
鼻中隔矯正術	75
鼻副鼻腔腫瘍摘出術	1
粘膜下甲介骨切除術	7
その他	2



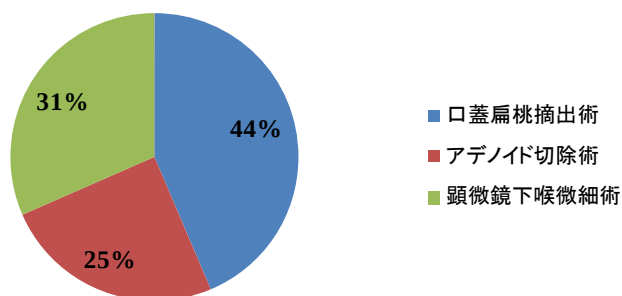
耳科手術	
鼓膜形成術	2
鼓室形成術	10
先天性耳瘻官摘出術	4
鼓室チューブ挿入術	14

耳科手術



咽喉頭手術	
口蓋扁桃摘出術	58
アデノイド切除術	33
顕微鏡下喉微細術	42
その他	0

咽喉頭手術



次年度目標

- ① 「がん医科歯科連携」の推進
- ② 学会活動などを通して、病診連携をさらに強化し、新たな施設からの紹介患者の獲得

研究・教育活動

英文原著

1. Kusunoki T, Saito K, Ikeda K. One device of surgery for external auditory canal cholesteatoma. *Jacobs Journal of Otolaryngology* 2017;3(1):40
2. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Wada R, Ikeda K. Primary malignant lymphoma of the uvula. *Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery*. 2017;2(2):1-2.
3. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Hara S, Kobayashi Y, Tou M, Wada R, Ikeda K. Facial nerve palsy due to parotid abscess with Warthin's tumor. *Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery*. 2017;2(3):1-3.
4. Ikeda S, Ito S, Homma H, Ono N, Okada H, Kidokoro Y, Shiozawa A, Kusunoki T. Orbital injury in endoscopic sinus surgery for sinonasal inflammatory disorders: Juntendo's Ten-Year experience. *Int J. Otolaryngology and Head & Neck Surgery*. 2017; 6:65-70.

5. Ikeda K, Ito S, Homma H, Ono N, Okada H, Shiozawa A, Kusunoki T. Endonasal endoscopic anterior skull base surgery for sinonasal malignancies: Juntendo's experience. Juntendo Medical Journal 2017; 63:279-384.
6. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Hara S, Kobayashi Y, ToM, Wada R, Ikeda K. Cervical fistula caused by submandibular sialolithiasis. Clinics and Practice 2017;7:148-149.
7. Kusunoki T, Ikeda K. A simple voice training method by emphasizing abdominal respiration and refractory laryngeal granulomas. M J Otol. 2017;1-3 : 002.
8. Kusunoki T, Nakagawa H, Tsukamoto M, Toyoda Y, Kamiya K, Okada H, Hara S, Hatakeyama H, Furukawa M, Ikeda K. Earwax phenotype related to risk factor of middle ear cholesteatoma. M J Otol. 2017;1-2: 003.
9. Nakagawa H, Toyoda Y, Albrecht T, Tsukamoto M, Praetorius M, Ishikawa T, Kamiya K,
10. Kusunoki T, Ikeda K, Serkan Sertel. Are ATP-binding cassette transporter and earwax associated with the incidence of cholesteatoma? Medical Hypotheses. 2018;114:19-22.

和文原著

1. 本間博友、*楠 威志：再発を繰り返す術後性上顎嚢胞に対する下甲介粘膜下経路上顎洞手術. 耳鼻臨床 110:62-63, 2017. *Corresponding author
2. 原 聡、城所淑信、*楠 威志：セツキシマブによる重度のインフュージョンリアクション症例と対応. 耳鼻臨床 110:430-431, 2017. *Corresponding author
3. 楠 威志：近年の咽後膿瘍の特徴とその診療ポイント 耳鼻臨床 110:716-717, 2017.
4. 矢内 彩、和田 了、*楠 威志：顎下腺に発生した唾液腺導管癌. 耳鼻臨床 111:158-159, 2018. *Corresponding author
5. 城所淑信、*楠 威志：咽喉頭を初発症状とした Steven-Johnson 症候群. 耳鼻臨床 111:, 302-303, 2018. *Corresponding author

科研費

1. 楠 威志 H30 年度科学研究費補助金 基盤研究 C 新規採択
2. 城所淑信 H30 年度科学研究費補助金 若手研究 新規採択

2-18 麻酔科

診療活動・診療実績

1)手術室業務

麻酔科の基本業務である手術麻酔は、昨年度同様前年に比べ増加している。常勤麻酔科医の人数はママさん麻酔科医として復帰した 1 名が増員となっているが、それ以上に、手術室運用の効率化を図ったことが、手術件数増加の一助となっている。特に、午前中にできるだけ多くの手術をこなして、空き手術室をなくすことが、夕方時間外への延長する手術を減らすことに有効に働いている。これだけ定時手術を詰め込むと、手術室の効率化が図られるが、ともすれば、緊急症例に対応できなくなることも危惧される。しかし、この部分は、各科との良好なコミュニケーションをもち、どの程度待機できる症例なのかを把握し、定時手術とのバランスを考えて手術室の運営を行うことで、弊害をできるだけ減らすことが重要だと考えており、実際良好な状況となり、緊急手術症例も増加している。しかし、それほどまだ多くの常勤医が増えたわけではないので、無理に症例数を増加させようすると常勤医の疲弊が起こり、ひいては、以前のような麻酔科医の減少を引き起こす結果となる。麻酔科医は、手術室業務だけでなく、臨床研究も行える環境を整えなければならない。麻酔科医が研究面にも充実した日々を送れるためにも、もう少し麻酔科医が増え、身体的にも、気力的にも充実した医師業務を行える環境の構築が必要だと考える。

手術室としてみれば、年間手術症例数は、過去最高の症例数 8151 例となった。今年度は、麻酔開始と手術室看護師が連携を取りながら、手術室の更なる効率化運用を求めた結果である。午前中の手術を極力増加することを行った結果、効率運用の指標である手術室稼働率は 68.1% (修正稼働率 89.9%) となっている。この午前中に手術室運用を効率化させることが、時間外へ延長する手術を減少させ、看護師の人的余裕と緊急手術の開始時間が前倒しになることにつながっている。効率的運用が功を奏し、麻酔科管理症例数も 4339 例となり、H23 年度から減少してきていた症例数も平成 26 年以降毎年増加に転じている。また、神経ブロックに長けた常勤専門医の積極的な指導により、近年増加している抗凝固剤を使用している症例に対しても安全に疼痛管理ができる神経ブロックの併用全身麻酔症例が増加したことも重要な変化である。

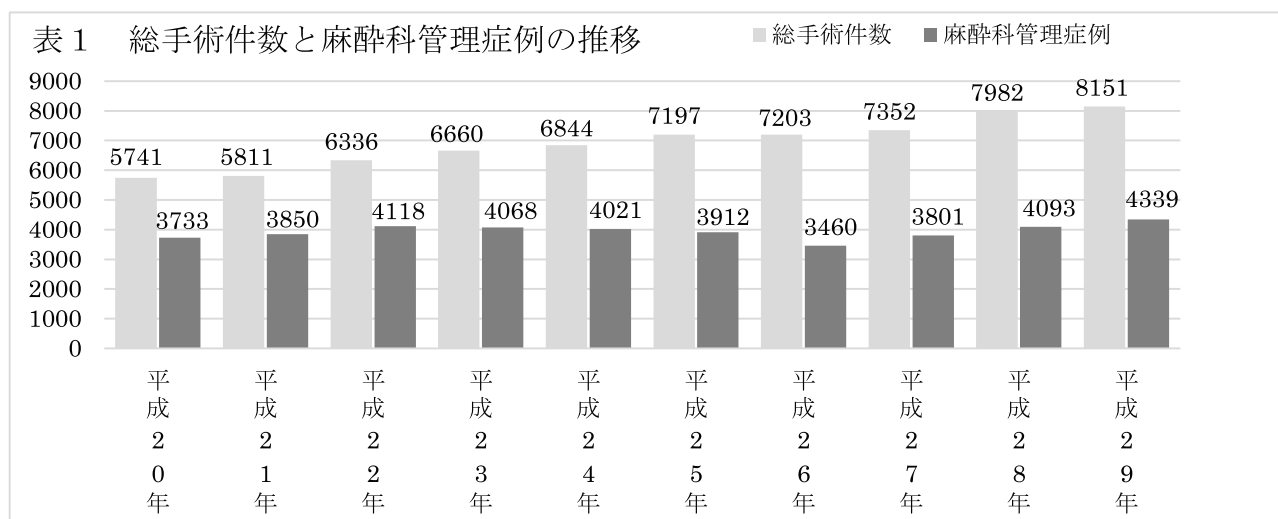
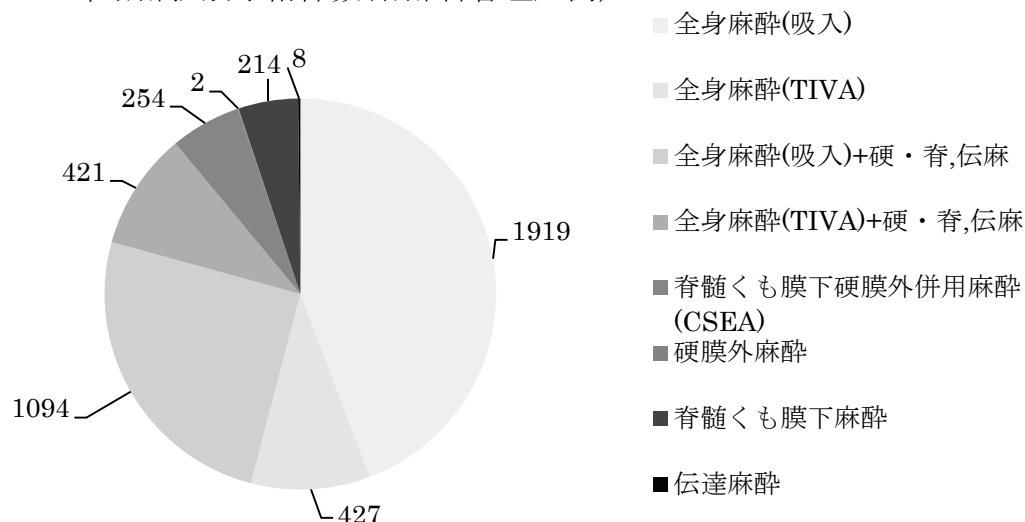


表2 2017年麻酔法別手術件数(麻酔科管理症例)

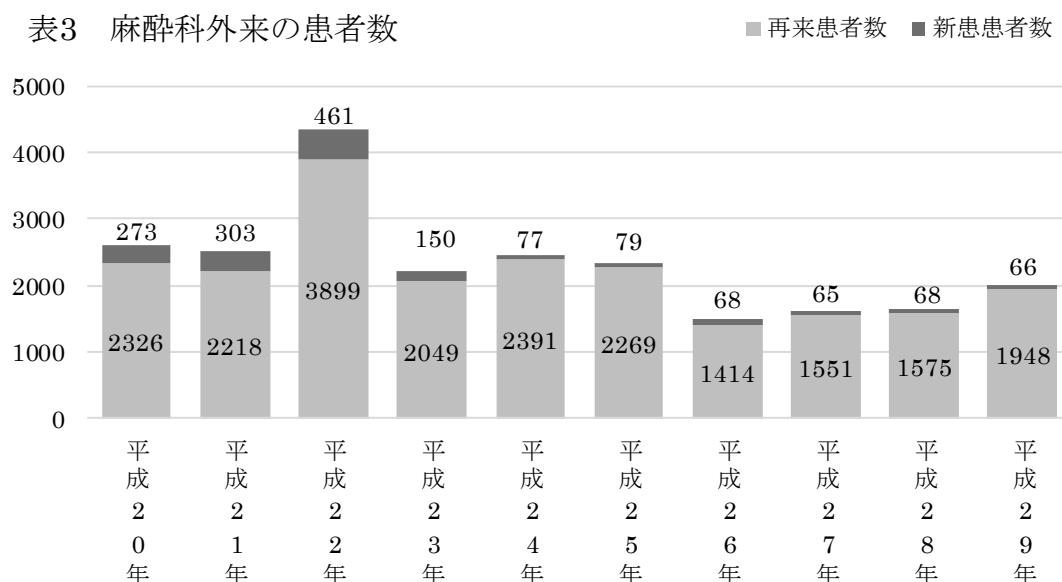


2) ペインクリニック業務、緩和ケア業務

ペインクリニックは火曜日と金曜日に行っており、症例数は新患患者 66 名、再診患者 2014 例で、のべ患者数は 2080 例であった。また、外来業務には術前チェック症例も入っており、余裕を持って合併症を抱える患者の準備を行え、患者の安心にも繋がっている。

緩和ケアは、1 日/週ではあるが、外来業務も始めた。入院中に緩和ケアサポートチームが介入した患者をシームレスに外来でもフォローアップしていくことは、厚生労働省ががん拠点病院に求めている要件である。事実、がんサバイバーは増えてきており、家庭に帰ってからも、外来化学療法をはじめ身体やメンタル面での不調をサポートとする場所が必要であり、今後その需要は増加すると考えられる。

表3 麻酔科外来の患者数



3) 集中治療室管理業務

3E-ICU の管理業務では、入室が 862 例(月平均 71.8 例) あり、延べ人数は 2885 名であった。算定条件を満たしたものは 769 名であり 89.2%の患者が算定できていた。

次年度目標

常勤麻酔科医がさらに増加するよう努力する。常勤医の増加は、手術室業務に没頭し、麻酔科学講座としての研究業務を改善する特効薬であることには違いない。さらに、麻酔科業務に余裕ができれば、麻酔科医のサブスペシャリティであるICU業務やペインクリニック、緩和ケアを行うことで幅のある麻酔科医を育てながら、順天堂大学麻酔科・ペインクリニックの魅力を発信できると信じている。

教育研究活動

原著（英文）

1. Keito Kou, Takeshi Omae, Saiko Wakabayashi and Sonoko Sakuraba, A case in which a capnometer was useful for diagnosing laryngospasm following administration of sugammadex, JA Clinical Reports (2017)3:41 DOI 10.1186/s40981-017-0111-8
2. Yui Yamane, Takeshi Omae, Keito Kou and Sonoko sakuraba, Successful use of femoral nerve block with dexmedetomidine for fracture fixation of an intracapsular fracture of the femoral neck in a patient with severe aortic stenosis: a case report, JA Clinical Reports (2017)3:53 DOI 10.1186/s40981-017-0126-1
3. Takeshi Omae, Eiichi Inada, New-onset atrial fibrillation:an update, Journal of Anesthesia Published online:09 March 2018

総説

1. 尾前毅、周術期心房細動、臨床麻酔 Vol.41 No.8 P1077-1085 2017.8
2. 尾前毅、OPCAB の周術期管理、Cardiovascular Anesthesia Vol.21 No.1 P1-5 2017

学会発表（国際）

1. Keito Kho, Takeshi Omae, Sonoko Sakuraba, and Saiko Wakabayashi, Perioperative carvedilol therapy in cardiac surgery, ASA 2017.10.21-25,Boston

学会発表（国内）

1. 小松茜 尾前毅, 重症心疾患合併症患者に対する骨接合術に大腿骨神経ブロックによる麻酔法を選択した一症例, 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 15 回学術集会 2017.9.9 名古屋市
2. 草野有佳里 洪景都 久米村正輝 尾前毅 岡崎敦, スガマデスク投与後に起きた喉頭痙攣と気管支痙攣との鑑別にカプノメーターが有用であった一例, 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 15 回学術集会 2017.9.9 名古屋市
3. 櫻庭園子 太田正孝 岡崎敦, opioid switching 後に Opioid Induced Hyperalgesia を呈した癌性痛患者の 1 例, 日本麻酔科学会東海・北陸支部第 15 回学術集会 2017.9.9 名古屋市

その他

1. 尾前毅, 心臓血管麻酔に関する最近の話題 心臓手術の周術期輸液管理

- 平成 29 年静岡県麻酔科医会総会 第 11 回中部臨床麻酔研究会合同開催 2017.4.8 静岡市
2. 岡崎敦（開催企画者），BLS 講習会 BLS ヘルスケアー プロバイダーコース
日本 ACLS 協会静岡東部トレーニングサイト 2017.5.20 伊豆の国市
 3. 岡崎敦、長谷川陽子（ファシリテーター），がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会における講義
順天堂大学静岡病院緩和ケア研修会 2017.6.3～4 伊豆の国市
 4. 尾前毅, ProsCons 循環 心疾患患者の非心臓手術に TEE を積極的に使用するか？ — 積極使用する —
日本麻酔科学会 第 64 回学術集会 2017.6.10 神戸市
 5. 岡崎敦（開催企画者），ACLS 講習会 ACLS プロバイダーコース
日本 ACLS 協会静岡東部トレーニングサイト 2017.6.17～18 伊豆の国市
 6. 岡崎敦，～痛みメカニズムに応じた疼痛管理の実践～ 慢性痛治療戦略
ペインクリニック仁の会 2017.7.22 名古屋市
 7. 尾前毅，心臓血管麻酔専門医コースレクチャー（講師）
日本心臓血管麻酔学会 第 22 回学術大会 2017.9.18 自治医科大学（栃木県）
 8. 岡崎敦（ファシリテーター），がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会における講義
静岡医療センター緩和ケア研修会 2017.10.8 清水町
 9. 尾前毅，周術期輸液管理・血行動態について，日本光電工業(株)社内講演会 2017.11.15 横浜市
 10. 岡崎敦，原因に応じた鎮静剤の選択，三島市医師会外科系医会 学術講演会 2017.12.5 三島市
 11. 久米村正，輝超音波ガイド下抹消神経ブロックの手技
東京女子医科大学神経ブロックワークショップ 2017.12.16 東京都
 12. 洪景都，超音波ガイド下抹消神経ブロックの手技
東京女子医科大学神経ブロックワークショップ 2017.12.16 東京都
 13. 岡崎敦（ファシリテーター），がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会における講義
国際医療福祉大学熱海病院 緩和ケア研修会 2018.1.27-28 熱海市

2-19 放射線科

診療活動

平成 29 年度の検査件数は前年と比し若干増加した。翌診療日までの読影率は概ね 8 割強程度を保っている。3D 画像など容量が大きく画像作成までに時間のかかる検査はさらに増加しており、man power の低下も相まって読影率は引き続き低下しつつある。外傷などに対する緊急血管造影、塞栓術や腸腰筋膿瘍などに対するドレナージなどの処置対応は迅速に行われている。放射線治療部門では月間の照射件数が 350～550 件程度で癌拠点病院としての責務を果たしていると言えよう。

業務実績

CT :	37,601 件
MRI :	13,900 件
核医学検査、PET-CT :	3,061 件

次年度目標

平成 29 年度は前年に引き続きネットワークシステムへの順応、電子カルテ対応などは安定していた。本年度も引き続き放射線科医、技師その他スタッフの新しい知識の習得、向上につとめ、放射線室全体の人的な底上げをはかるべく勉強会などを充実させていく予定である。また当院本来の三次救急システムにより貢献できるように緊急時の 3D 画像作成など、引き続き「現場で役に立つ医療」を第一に考えていく。CT がさらに一台新規稼働し、放射線科医、放射線技師ともに慢性的な man power の不足について何らかの対応策の必要性がより高まっている。

研究活動

2015 年 日本医学放射線学会秋季臨床大会 silver medal 受賞 : 松波 環
2017 年 JJR (日本医学放射線学会雑誌) 論文掲載 : 松波 環

2-20 メンタルクリニック

診療活動

患者数は県内トップクラスの外来患者数を維持しています。新患数でも県内1を維持しています。病棟からのコンサルテーション数も多く、せん妄や抑うつなどを身体科と連携して治療しています。自殺企図患者などを救急科による身体的治療と並行して、必要に応じて地域の精神科病院に転院させるネットワークも構築され、順調に機能しています。他院で受け入れ困難な精神疾患患者の身体疾患も、各科と連携して受け入れています。

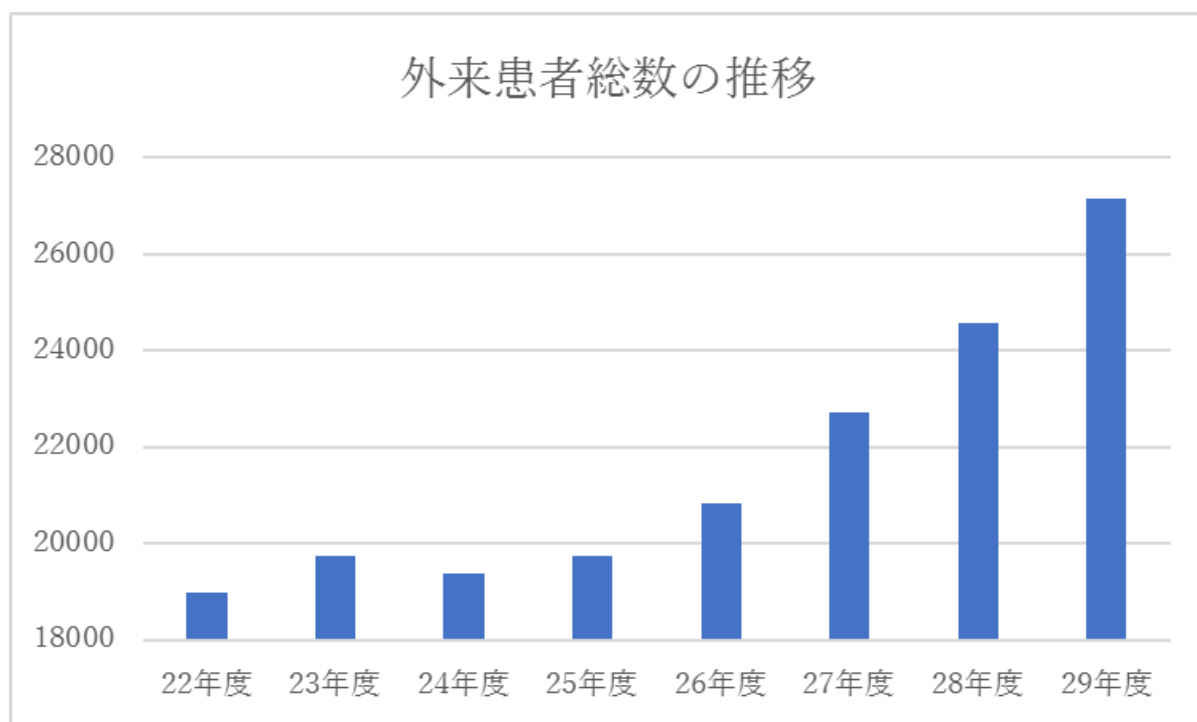
児童思春期の患者も引き続き多数来院しており、他院では対応できないケースを受け入れることも多くなっています。児童に限らず、近年は非薬物療法のニーズが高いことに応え、臨床心理士と連携して、ペアレントトレーニング・ソーシャルスキルトレーニング・認知行動療法・遊戯療法などの非薬物療法を充実させてきました。成人の発達障害患者も増加傾向にあります。

研究では、桐野は functional MRI と脳波の同時測定による functional connectivity の研究を継続しています。児童思春期のメンタルヘルスなどのテーマで講演依頼も多く、地域医療に貢献しています。

次年度の目標

児童思春期・発達障害・認知症など専門外来を新設し、児童のグループ療法などの非薬物療法を充実させていきたいと考えています。

診療実績



H29 初診

H30

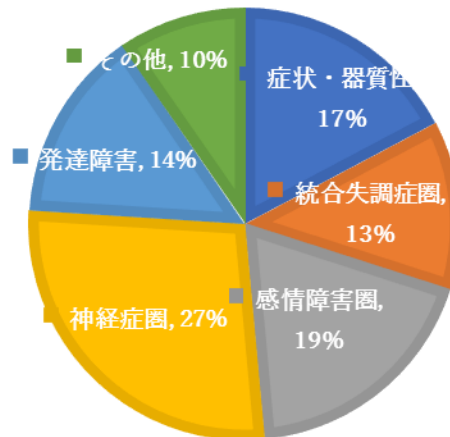
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
F0	16	14	8	6	13	14	10	6	12	11	38	47	195
F1	1	1	0	1	2	1	0	1	1	1	1	2	12
F2	7	8	13	16	12	11	9	20	14	5	13	15	143
F3	22	19	15	19	12	13	23	15	14	10	24	24	210
F4	20	14	30	25	36	32	27	32	23	18	28	25	310
F5	1	4	3	6	4	4	3	0	1	1	3	0	30
F6	0	0	1	0	2	1	1	1	0	2	0	0	8
F7	1	4	4	4	4	4	1	1	4	3	5	4	39
F8	5	3	7	7	7	7	5	7	4	6	7	9	74
F9	0	8	7	8	0	0	4	5	4	2	4	8	50
G40	2	0	2	1	2	2	0	1	0	0	1	1	12
その他	6	2	2	5	4	4	7	3	4	4	0	5	46
合計	81	77	92	98	98	93	90	92	81	63	124	140	1129
再診	1968	2141	2078	2217	2266	2122	2240	2284	2161	2153	2052	2354	26036
初診 再診 合計	2049	2218	2170	2315	2364	2215	2330	2376	2242	2216	2176	2494	27165

H29 兼科

H30

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
F0	21	24	16	15	10	9	23	19	20	29	19	33	238
F1	3	1	3	4	4	5	3	3	3	2	1	2	34
F2	4	4	2	3	4	5	2	6	3	1	5	1	40
F3	2	0	2	2	0	0	5	2	5	2	5	3	28
F4	0	2	3	2	1	5	3	4	4	3	6	3	36
F5	0	0	0	5	3	3	0	1	0	0	2	0	14
F6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F7	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	4
F8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
F9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
その他	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	4
合計	31	32	26	32	22	27	36	37	36	39	42	42	402

H29年度 新患者の内訳



研究活動

英文原著

1. **Kirino E**, Tanaka S, Fukuta M, Inami R, Arai H, Inoue R, Aoki S: Simultaneous rsfMRI and EEG Recordings of Functional Connectivity in Patients with Schizophrenia. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 71(4): 262–270, 2017 doi: 10.1111/pcn.12495.
2. Tanaka S, **Kirino E**: Reorganization of the thalamocortical network in musicians. *Brain Research* 1664: 48-54, 2017 doi: 10.1016/j.brainres.2017.03.027
3. **Kirino E**: Three-dimensional stereotactic surface projection in the statistical analysis of SPECT data for distinguishing between Alzheimer's disease and depression. *World Journal of Psychiatry* 7 (2): 121-127, 2017 DOI: 10.5498/wjp.v7.i2.121, ISSN 2220-3206 (online)
4. Tanaka S, **Kirino E**: The parietal opercular auditory-sensorimotor network in musicians: a resting-state fMRI study *Brain Cogn.* 120: 43-7, 2018 doi: 10.1016/j.bandc.2017.11.001. PMID:29122368
5. **Kirino E**: Serum prolactin levels and sexual dysfunction in patients with schizophrenia treated with antipsychotics: comparison between aripiprazole and other atypical antipsychotics. *Annals of General Psychiatry* 2017 Nov 28; 16: 43 doi: 10.1186/s12991-017-0166-y.
6. Tanaka S, **Kirino E**: Dynamic reconfiguration of the supplementary motor area network during imagined music performance. *Frontiers in Human Neuroscience*. 2017 Dec 12; 11:606. doi: 10.3389/fnhum.2017.00606. eCollection 2017. PMID:29311870
7. **Kirino E**, Tanaka S, Fukuta M, Inami R, Inoue R, Aoki S: Functional connectivity of the caudate in schizophrenia evaluated with simultaneous resting-state fMRI and EEG recordings *Neuropsychobiology* (in press)

和文原著

1. **桐野衛二**, 田中昌司, 福田麻由子, 稲見理絵, 井上令一, 新井平伊: 統合失調症におけるdefault mode networkのfMRIと脳波の同時計測を用いた検討. *日本薬物脳波学会雑誌* 17 (1):33-41, 2017
2. **桐野衛二**, 田中昌司, 福田麻由子, 稲見理絵, 新井平伊, 井上令一: 成人自閉症スペクトラム障害患者におけるfunctional connectivityのrs-fMRIを用いた検討. *日本薬物脳波学会雑誌* 18 (1): (印刷中)
3. **桐野衛二**, 田中昌司, 福田麻由子, 稲見理絵, 新井平伊, 井上令一: 統合失調症のfunctional connectivityのrs-fMRI・脳波同時計測を用いた検討. *日本薬物脳波学会雑誌* 19 (1): (印刷中)

和文総説

1. **桐野 衛二**: 疾病・臨床病態概論 ('17) 第5回 精神疾患・精神系疾患・神経系疾患 放送大学オンライン授業2017 <http://www.ouj.ac.jp/hp/kamoku/H29/daigakuin/B/seikatu/6910050.html>

2. **桐野衛二**: 日本臨床神経生理学会 認定医・専門技術師 試験問題解説シリーズ第10回問題5. 臨床神経生理学 45 (4):202-203, 2017
3. **桐野 衛二**:「精神医学のフロンティア」機能的MRIと脳波の安静時同時記録による統合失調症患者の脳内機能的連絡の検討. 精神神経学雑誌 (印刷中)

和文報告

1. Inami R, **Kirino E**, Fukuta M, Arai H, Inoue R: Simultaneous rsfMRI and EEG Recordings of Functional Connectivity in Patients with Schizophrenia. 平成28年度順天堂精神医学研究所紀要: 8-18, 2017
2. **桐野 衛二**: いわゆる 3Q の臨床応用と神経学的基盤. 平成 28 年度順天堂精神医学研究所紀要: 1-7, 2017
3. **桐野衛二**, 田中昌司, 福田麻由子, 稲見理絵, 新井平伊, 井上令一: 成人自閉症スペクトラム障害患者におけるfunctional connectivityのrs-fMRIを用いた検討. 平成29年度順天堂精神医学研究所紀要: 1-8, 2018
4. Inami R, **Kirino E**, Inoue R: Functional connectivity in schizophrenia evaluated with simultaneous resting-state fMRI and EEG recordings 平成29年度順天堂精神医学研究所紀要: 9-20, 2018

英文学会発表

1. Tanaka S, **Kirino E**: A network for auditory-motor coupling: comparison between musicians and nonmusicians. Annual Meeting of The Cognitive Neuroscience Society. San Francisco, March 25-28, 2017.

和文学会発表(招待講演)

1. **桐野衛二**: 医療とカウンセリング-精神科医とカウンセラーの連携の現場より-. 三島カウンセリング研究会 公開講座 三島市 Via701, 2017 年 7 月 1 日
2. **桐野衛二**: 疾病・臨床病態概論 ('17) 第5回 精神疾患・精神系疾患・神経系疾患 放送大学オンライン授業2017. <http://www.ouj.ac.jp/hp/kamoku/H29/daigakuin/B/seikatu/6910050.html>
3. **桐野衛二**, 田中昌司, 福田麻由子, 稲見理絵, 新井平伊, 井上令一: 統合失調症の functional connectivity の rs-fMRI・脳波同時計測を用いた検討. 第 20 回日本薬物脳波学会学術集会 シンポジウム「脳波の臨床応用の可能性について」, 福島, 2017 年 9 月 22~23 日(発表 23 日)
4. **桐野衛二**: 救急医療における精神科疾患についてー精神科症状を呈する傷病者への対応ー 平成 29 年度田方メディカルコントロール研修会 駿東伊豆消防本部 田方中消防署 2017 年 11 月 30 日

和文学会発表

1. 服部亜紀, 鎌形康司, **桐野衛二**, 武中祐樹, 倉持麻奈, クリスティーナ・アンディカ, 堀正明, 青木茂樹: 自閉症スペクトラム障害のDiffusional Kurtosis Imagingによる予備的研究 第46回日本磁気共鳴医学会大会, 金沢, 2018年9月7日~9日
2. **桐野衛二**, 田中昌司, 福田麻由子, 稲見理絵, 新井平伊, 井上令一: 統合失調症の皮質線条体ネットワークのrs-fMRI・脳波同時計測を用いた検討. 第21回日本薬物脳波学会学術集会, 南房総市 2018年9月14~15日.

その他 (広報活動を含む)

1. 丹羽真一, **桐野衛二**, 太田克也: 精神科薬物療法における過剰な鎮静の問題点とその対策(座談会). 臨床精神医学 46 (5): (広告記事 1-10) 2017

主な競争的資金の獲得状況

平成 26-30 年度 基盤研究(C) (研究代表者) 課題番号 21591532「機能的MRIと脳波の同時計測によるdefault mode networkの検討」 ¥5,070,000 (直接経費¥3,900,000)

2-21 皮膚・アレルギー科

診療活動

当科は、全身の皮膚や毛髪、爪における炎症性疾患から腫瘍性疾患、感染症、美容面まで全ての問題を対象として、内科的治療から外科的治療までを担当している。皮膚に生じた問題については、まず当科にご相談いただきたい。

外来診療は、午前は他の医療機関からの紹介患者を中心として一般外来を、午後は外来診療と並行して、入院患者および外来患者を対象に、主に局所麻酔による手術をおこなっている。皮膚生検が必要な場合は、原則としてその場で直ちに実施している。当科外来内には全身型紫外線照射器、エキシマライト、赤外線照射器、Q スイッチ・アレキサンドライトレーザー、炭酸ガスレーザー、イオン導入器などの機器に加えて局所麻酔手術用の専用手術室を備えており、効率的に手術をおこなっている。入院病床は、重症薬疹や皮膚感染症、自己免疫性水疱症などを中心に、ほぼ常時満床となっている。

本年度は順天堂大学からの派遣医師が一時的に減員となり、殆どの期間を医師 4 名体制で診療にあたった。そのような状況下で診療効率を上げるために、前年度に続いて看護師の外来・病棟業務の一体化を図り、業務の効率化に大きく貢献した。

今後は地域の各医療機関ならびに院内各診療科との連携をさらに強化し、医療安全を重視しながら地域の基幹病院として最高レベルの医療を提供することで、地域医療に貢献する所存である。

診療実績

【外来・入院・手術】

	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29
外来(1 日平均)	99.3	96.4	96.8	92.0	95.2
新患(年間総人数)	2850	2448	2225	2021	1845
紹介率(%)	17	19	22.5	29.1	34.2
逆紹介率(%)	8.5	9.1	20.7	27.4	31.0
入院(年間新入院患者総数)	286	172	205	201	248
手術(年間件数)	569	680	560	591	628

【皮膚悪性腫瘍】

	平成 25	平成 26	平成 27	平成 28	平成 29
基底細胞癌	19	12	22	16	24
有棘細胞癌(ボーエン病を含む)	10	12	27	30	33
悪性黒色腫	2	2	11	8	0
悪性リンパ腫(菌状息肉症含む)	8	5	4	4	5

次年度目標

- ① 専門外来の拡充: 午前は従来通り初診・紹介患者を中心とした一般外来とする一方で、午後の外来を再編する。尋常性乾癬やアトピー性皮膚炎、難治性蕁麻疹に対する生物学的製剤(バイオ製剤)による治療体制を強化するために、乾癬・アトピー性皮膚炎外来(バイオ外来)を開始する。また、健康保険適用外の治療手段を導入し、若手医師の教育や新規治療法の開発を目的とした美容皮膚科外来を開始する。
- ② 院内・院外連携の強化: 医局員間の連携を向上させるために、全医局員が全てのカンファレンスに出席出来るように勤務体制を変更する。また、近隣医療機関との連携を密にするために、積極的に地域の研究会等に出席して交流をはかる。
- ③ 人員の確保: 当科は皮膚疾患全般の患者が偏りなく来院し、高度な皮膚外科修練が可能である点、レーザーをはじめとした機器も充実していることから、皮膚科の臨床修練に最適な施設である。次年度からは新たな基礎研究・臨床研究を開始し、多くの若手医師が当科での研修を希望すべく指導体制を整えたい。

研究活動

英文原著

1. Sakamoto A, Kato K, Hasegawa T, Ikeda S: An agonistic antibody to EphA2 exhibits anti-tumor effects on human melanoma cells. *Anticancer Res* 38:3273-3282, 2018

和文原著

1. 稲毛明子, 吉池高志: ケトン体高値の色素性痒疹 皮膚科の臨床 59:603-6, 2017
2. 清水智子, 稲毛明子, 坂本淳, 吉池高志: 右頬部有棘細胞癌の近傍に出現した悪性黒色腫の1例 *Skin Cancer* 32:66-70, 2017
3. 本間由希子, 石井智子, 吉池高志, 和田了: 多発性石灰化上皮種の1例 石灰化上皮腫の当施設集計と併せて 皮膚科の臨床 59:1729-32, 2017

和文著書

1. 長谷川敏男: 疥癬, ケジラミ症. 今日の治療指針 2019 年版-私はこう治療している 福井次矢, 高木誠, 小室一成編, 医学書院, 東京 in press

診療活動

前立腺肥大症の手術に HoLEP 手術を導入し、28 症例行った。出血量、手術時間、術後のカテーテル抜去時間に著明な改善が見られた。

遺伝性の多発性嚢胞腎(難病指定)のサムスカによる治療中の患者が増加した。

腹腔鏡下に副腎腫瘍、腎癌および腎盂尿管癌の手術を行っている。腹腔鏡下腎摘除術は後腹膜アプローチで行っている。出血も少なく輸血症例はなかった。術後の回復も問題なかった。

大きな腎癌に対して開腹で根治的腎摘除術を行っている。今年も下大静脈浸潤のある腎癌には心臓血管外科と手術を行った。所属リンパ節に転移のある症例、肺転移のある症例に関しても可能なものは手術を行った。

4 センチ以下の小径腎癌では開腹による腎部分切除を積極的に行っている。転移のある腎細癌に対して分子標的薬による治療を行っている。オプジーボによる治療を開始した。

浸潤性膀胱癌に対して膀胱全摘症例が増加した。腹腔鏡下膀胱全摘除を開始した。転移性膀胱癌に対し、抗がん剤(GC 療法)やキートルーダによる治療を行っている。

前立腺癌に対しては開腹で前立腺全摘を行っている。腹腔鏡と同じ手技で膀胱頸部温存および膀胱—尿道吻合での連続吻合を行っている。今年度はロボット手術(ダビンチ)の導入予定である。

ホルミウムヤグレーザー発生装置を2台導入し、経尿道的尿管結石破砕術(TUL)の件数が増加した。TUL においてはホルミウムヤグレーザーを用いて破砕するだけでなく、バスケット鉗子を用いて回収し残石がないようにしている。硬性鏡だけでなく軟性尿管鏡(コブラ)も用いて腎盂腎杯結石の治療を行っている。ハイビジョンのモニターになったこともあり、手術時間の短縮および手術成功率が向上した。経皮的腎砕石術(PNL)の症例が増加した。

近隣の病院からの紹介による尿路通過障害に伴う腎盂腎炎の症例が多かった。ステント留置数は極めて多くなった。DIC を伴う症例が多く、全身状態の管理に大変な患者が多かった。

去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム-223(ゾーフィゴ)の治療が当院で可能になった。

結節性硬化症の腎血管脂肪腫に対し、アフィニートールによる治療を行っている。

診療実績

(1) 腹腔鏡下手術

腹腔鏡下副腎摘除術 6 例

腹腔鏡下腎摘除術 4 例

腹腔鏡下腎尿管全摘除術 6 例

(2) 開腹手術

根治的腎摘除術 17 例

腎部分切除術 4 例

腎尿管全摘除術 2 例

膀胱全摘除術 4 例

膀胱部分切除術 3 例

前立腺全摘除術 9 例

(3) 内視鏡手術

TUR-Bt 91 例

TUR-P 1 例

PVP 6 例

HoLEP 11 例

ESWL 41 例

TUL 116 例

PNL 3 例

尿管ステント留置 61 例

腎瘻造設 21 例

次年度目標

HoLEP を手術に導入し症例数が安定した。次年度は前立腺肥大症の標準術式として件数を増やしたい。前立腺癌に対し、ロボット支援手術(ダビンチ)を導入したい。

研究・教育活動

研究業績

原著

1. 藤田和彦、精索静脈瘤、今日の治療指針 2018、2018;p1192-1193
2. 今泉健太郎、「学術特集 今、話題になっていること—泌尿器科編 尿道造影は必要か？」日本医事新報 2017 年 5/27 号
3. 中島晶子、前立腺癌術後 PSA 上昇に対するクルクミンの効果 帝京医学雑誌 40 巻 6 号 263 ページ
4. Shimizu F, Muto S, Taguri M, Ieda T, Tsujimura A, Sakamoto Y, Fujita K, Okegawa T, Yamaguchi R, Horie S. Effectiveness of platinum-based adjuvant chemotherapy for muscle-invasive bladder cancer: A weighted propensity score analysis. Int J Urol. 2017 May;24(5):367-372. doi: 10.1111/iju.13324. Epub 2017 Mar 9

報告

1. 藤田和彦、肝嚢胞を伴った左腎細胞癌に対して腹腔鏡下腎摘除術と肝嚢胞ドレナージを行った一例。日本泌尿器内視鏡学会、徳島、2017.11
2. 中島 晶子、下大静脈腫瘍塞栓を伴う類上皮性腎血管筋脂肪腫の一例 第 67 回日本泌尿器科学会中部総会(@大阪国際会議場)2017.11.25
3. 中島 晶子、前立腺癌に対する EBRT 後の PSA 再燃に関する予測因子の検討 第 105 回日本泌尿器科学会総会(@城山観光ホテル)2017.4.22
4. 野口尊弘、経尿道的前立腺核出術の well being 改善に対する検討～術前後における膀胱血流、テストステロン測定 of 検討 第 17 回メンズヘルス医学会 2017.10.7
5. 今泉健太郎、尿路結石症に伴う閉塞性腎盂腎炎における重症度予測スコアの作成第 106 回日本泌尿器科学会総会 2018.4.21 京都

6. 今泉健太郎、エベロリムスを導入した結節性硬化症(TSC)に伴う腎血管筋脂肪腫(AML)の2症例 第67回日本泌尿器科学会中部総会 2017.11.25 大阪
7. 今泉健太郎、エベロリムスを導入した結節性硬化症(TSC)に伴う腎血管筋脂肪腫(AML)の2症 第133回静岡県泌尿器科医会 H30.1.20 三島
8. 今泉健太郎、当院における去勢抵抗性前立腺癌に対するアビラテロンの使用経験 第105回日本泌尿器科学会総会 H29.4.22 鹿児島
9. 中島 晶子、熱川温泉病院院内講演 入院患者の排尿管理について 2017.11.9
10. 今泉健太郎 順天堂大学医学部附属静岡病院におけるCRPC治療 CRPC Chemotherapy Expert Meeting in 伊豆熱海 2017.9.11 (サノフィ)

2-23 産婦人科・総合周産期母子医療センター

診療活動(診療科紹介)

平成 20 年 8 月に静岡病院が静岡県東部地域で初めての総合母子周産期センターに指定されてから、平成 30 年で 10 年目となった。総合母子周産期センターの最も重要な役割である、救急の母体搬送は 121 件であり、ここ数年間、120 件以上で推移している。分娩件数は 847 件で双胎妊娠管理も多く、当院の新生児センターと協力して静岡県東部地域の周産期医療の中心的な役割を果たしている。妊娠 25 週未満の母児管理が困難である切迫早産・前期破水症例、重症妊娠高血圧症候群症例、胎児発育不全症例や、産褥大量出血症例など、極めてハイリスク症例が多くみられる。手術件数は 928 件と前年とほぼ同数だが、腹腔鏡下手術が約 100 件に増加した。悪性腫瘍手術件数は 72 件で前年とほぼ同数だが、合併症を伴う悪性腫瘍症例や、手術以外の化学療法、放射線治療の症例数も増加している。

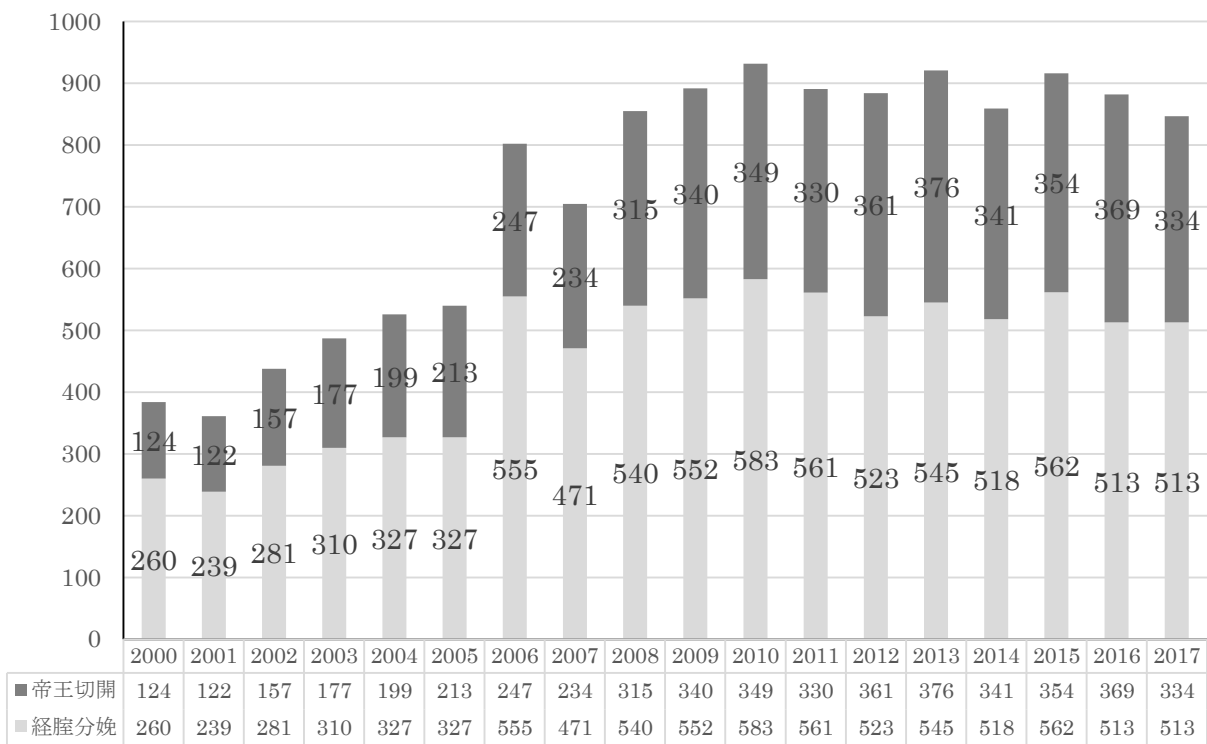
周産期だけでなく、婦人科疾患全般に対しても静岡県東部の基幹病院として役割を果たせるよう今後も引き続き努力していきたい。

診療実績

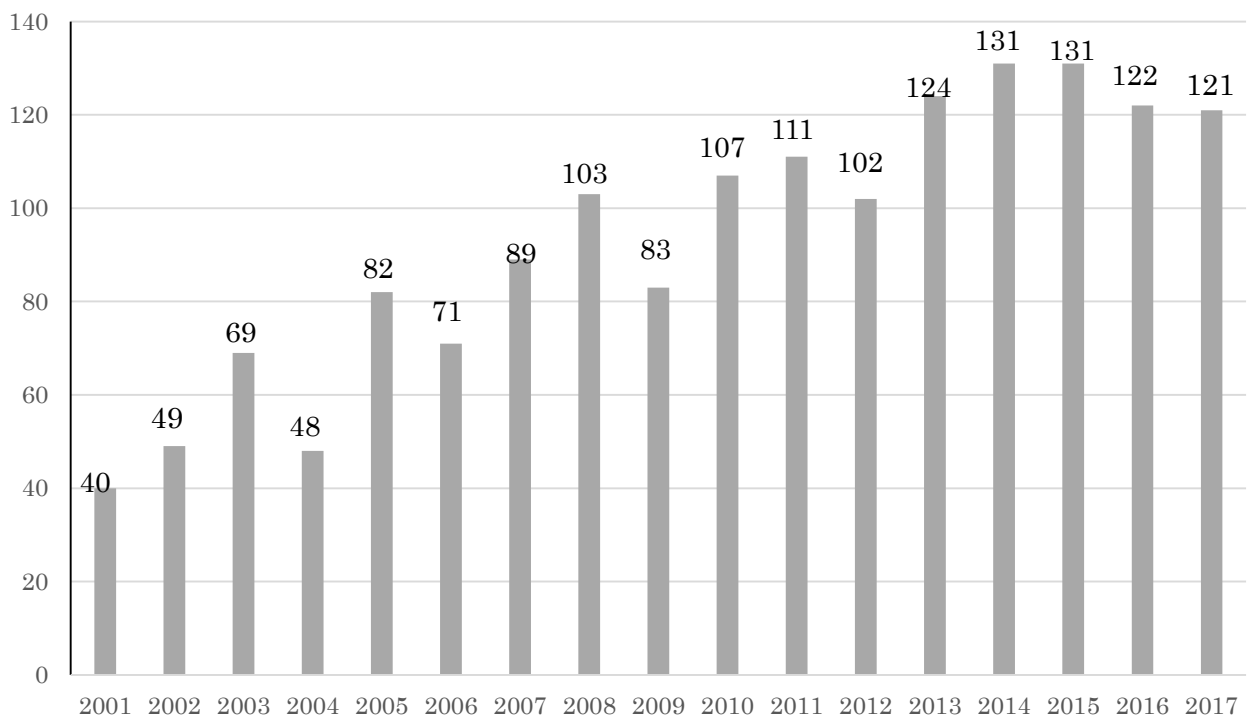
【手術件数】

		2013	2014	2015	2016	2017
腹腔鏡	卵巣	47	59	59	65	83
	子宮	0	0	1	0	1
	子宮外妊娠	6	20	12	21	15
	その他	4	0	1	0	0
開腹手術	帝王切開術	376	341	354	369	334
	良性	182	221	214	309	341
	悪性	62	53	73	78	72
悪性手術内訳	子宮頸癌	10	12	14	15	5
	子宮体癌	27	16	34	36	39
	卵巣癌	22	20	24	25	23
	その他	3	5	1	2	5
腔式手術	円錐切除	18	12	16	36	34
	頸管縫縮術	15	19	13	14	16
	子宮脱根治術	10	7	5	13	9
	腔閉鎖術	15	2	14	24	10
	その他	13	2	9	8	13
合計		810	789	859	937	928

【分娩件数推移】



【母体搬送数推移】



次年度目標

現在当科は 11 人の医師が、外来・病棟診療にあたっている。産科では 2008 年度から増加した分娩件数および母体搬送件数の維持と増加を、婦人科では悪性腫瘍症例件数の増加や標準治療の quality 向上を引き続き、目標にしている。研究活動では、昨年度と同様に国内外の学会発表や、英語論文を中心とした業績の研鑽を積む。また新生児科と協力して、次世代シークエンサーを使用し母体ストレスが胎児・新生児に及ぼす影響に関する研究や、最新の超音波を用いた婦人科疾患および産科疾患の臨床研究を行う。

研究活動

総説(和文)

1. 【助産師のための産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 いいところ取り 何が変わった? どこがポイント?】 新規追加 CQ「選択的帝王切開時に注意することは?」
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中利隆
ペリネイタルケア 36 巻 P548-552. 2017
2. 【「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017」の新規項目と改正点】 CQ416(新規) 選択的帝王切開時に注意することは?
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中利隆
臨床婦人科産科 71 巻 P744-748. 2017
3. 【子どもの生活習慣病-スクリーニングと早期予防】 生活習慣病のスクリーニングと早期予防
周産期からの生活習慣病を予防するにはどうしたらよいか
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中利隆、三橋直樹
小児内科 49 巻 P1459-1463. 2017

学会発表 (国際)

1. The estimation of the prognosis for fetal critical aortic stenosis with the left atrium area and the Doppler pattern in pulmonary veins.
Sachi Sukegawa, Yuka Yamamoto, Toshitaka Tanaka, Naoki Mitsuhashi
Department of OB&GYN, Juntendo University Shizuoka Hospital, JAPAN
27th ISUOG's World Congress, Wien (Sep. 2017 Wien)

学会発表 (国内)

1. 当院における妊娠 28 週未満の早産に対する母体ステロイド投与状況
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中里美、田中利隆、熊谷麻子、北村絵里、助川幸、村田佳菜子、村瀬佳子、矢田昌太郎、

山本祐華、金田容秀、三橋直樹

第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会 2017.4 広島

2. Six cases of emergency cesarean hysterectomy in which electrothermal bipolar vessel sealing system was used.

Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University Shizuoka Hospital

Kumagai Asako, Tanaka Toshitaka, Kitamura Eri, Sukegawa Sachi, Murata Kanako, Murase Yoshiko, Tanaka Satomi, Yata Shotaro, Yamamoto Yuka, Kaneda Horoshi, Mitsunashi Naoki

第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会 2017.4 広島

3. Onset of Adult T-cell Leukemia-lymphoma during the treatment of peritoneal cancer recurrence: case report.

Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University Shizuoka Hospital

Kaneda Horoshi, Kumagai Asako, Kitamura Eri, Sukegawa Sachi, Murata Kanako, Murase Yoshiko, Tanaka Satomi, Yata Shotaro, Yamamoto Yuka, Tanaka Toshitaka Mitsunashi Naoki

第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会 2017.4 広島

4. 産婦人科診療ガイドライン産科編 2017 解説講習 CQ416 選択的帝王切開時に注意することは?

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中利隆

第 69 回日本産科婦人科学会学術講演会 2017.4 広島

5. 当院で経験した大網妊娠の一例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

西澤しほり、田中里美、正岡駿、伊藤早紀、助川幸、村瀬佳子、植木典和、矢田昌太郎、山本祐華、金田容秀、田中利隆、三橋直樹

平成 29 年度静岡産科婦人科学会春季学術集会 2017.5 静岡

6. 妊娠初期に診断となった若年性陰癌の 1 例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

正岡 駿、矢田 昌太郎、熊谷 麻子、助川 幸、西澤 しほり、村瀬 佳子、田中 里美、山本 祐華、金田 容秀、田中 利隆、三橋 直樹

第 133 回関東連合産科婦人科学会総会 2017.6 東京

7. 帝王切開後術瘢痕部に発生した異所性内膜症の 1 例

東部地域病院 婦人科

伊藤早紀、宮井健太郎、村田佳菜子、中原万里子、田中美香

第 42 回日本外科系連合学会学術集会 2017.6 徳島

8. 当院における早産の母体ステロイド投与状況

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中里美、田中利隆、正岡駿、熊谷麻子、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、矢田昌太郎、山本祐華、
金田容秀、三橋直樹

第 53 回日本周産期・新生児医学会学術集会 2017.7 神奈川

9. 当院における常位胎盤早期剥離 50 症例の後方視的検討

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

村瀬佳子、田中利隆、正岡駿、熊谷麻子、助川幸、西澤しほり、田中里美、矢田昌太郎、山本祐華、
金田容秀、三橋直樹

第 53 回日本周産期・新生児医学会学術集会 2017.7 神奈川

10. 妊娠初期に診断した若年性腫瘍の 1 例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

正岡 駿、矢田 昌太郎、熊谷 麻子、助川 幸、西澤 しほり、村瀬 佳子、田中 里美、山本 祐華、
金田 容秀、田中 利隆、三橋 直樹

第 59 回婦人科腫瘍学会 2017.7 熊本

11. 地域における胎児診断への取り組み（胎児診断例の周産期管理）（シンポジウム）

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中利隆、山本祐華、正岡 駿、熊谷麻子、助川 幸、西澤しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太
郎、金田容秀、三橋直樹

第 53 回日本小児循環器学会総会・学術集会 2017.7 静岡

12. 『産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017』の解説 ～正期産新生児に関する変更点～

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中利隆

第 35 回静岡県東部周産期研究会 2017.7 静岡

13. COMT 不全は angiotensin II に対する昇圧感受性亢進を惹起する

順天堂大学 産婦人科

植木典和、金崎啓造、板倉敦夫、竹田省

第 41 回日本産科婦人科栄養・代謝研究会 優秀賞 2017.8 奈良

14. COMT 不全は angiotensin II に対する昇圧感受性亢進を惹起する

順天堂大学 産婦人科

植木典和、金崎啓造、板倉敦夫、竹田省

第 38 回日本妊娠高血圧学会 学術奨励賞 2017.9 熊本

15. ここが変わった! 2017 産科ガイドライン

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中利隆

第8回羽衣セミナー 2017.9 静岡

16. 災害時における妊婦の適切なトリアージの構築に関する研究
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
伊藤早紀、田中利隆、正岡駿、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、植木典和、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀、三橋直樹
第45回日本救急医学学会総会・学術集会 2017.10 大阪
17. 帝王切開後に形成された子宮仮性動脈瘤の1例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
正岡駿、渋谷亮介、伊藤早紀、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、植木典和、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹
平成29年度静岡産科婦人科学会秋季学術集会、2017.11 静岡
18. 災害時における妊婦の適切なトリアージの構築に関する研究
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
伊藤早紀
第36回静岡県東部周産期研究会 2017.11 静岡
19. HELLP 症候群に尿崩症を合併した2例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
植木典和、正岡駿、伊藤早紀、助川幸、西澤しほり、村瀬佳子、田中里美、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹
第134回 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 2017.12 栃木
20. 妊娠24週に診断し、保存的に妊娠継続した Hyperreactio Luteinalis（黄体化過剰反応）の一例
順天堂大学医学部附属浦安病院 産婦人科
柳原康穂、小泉朱里、渋谷亮介、大科恭子、大塚彩、氏平崇文、山本祐華、宮国泰香、太田剛志、菊池盤、野島美知夫、吉田幸洋
第134回 関東連合産科婦人科学会総会・学術集会 2017.12 栃木
21. 双胎間輸血症候群に対して胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術後、羊膜穿破をきたし一児子宮内胎児死亡した1例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
西澤しほり、田中里美、正岡駿、伊藤早紀、助川幸、村瀬佳子、植木典和、矢田昌太郎、金田容秀、田中利隆、三橋直樹
第38回静岡周産期新生児研究会 2018.3 静岡
22. 胎児発育不全の産科管理
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中里美

第 37 回静岡県東部周産期研究会 2018.3 静岡

2-24 救急診療科

診療活動

救急診療科では、救命救急センターに常駐する救急専従医が、緊急度・重症度の高い救急患者の受け入れを、各診療科と協力しながら実践し、病状に対応した迅速な診断、適切な治療へと病名にとらわれずに円滑に進めていき、必要に応じて適切な専門診療科へと引き継いでいる。平成 24 年 10 月に新体制となりスタッフが増員され、救急診療科が主科として担当する疾患は、多発外傷、急性中毒、熱傷、環境障害(熱中症、偶発性低体温症)、などの外因性重症救急疾患と、来院時心肺停止、痙攣、アナフィラキシーショック、麻痺を伴わない意識障害など緊急蘇生処置を要する疾患などに拡大された。それらの疾患には、救急外来での初期対応から ICU 入室後の全身・集中管理までを行っている。また、平成 25 年秋から、平日の日勤帯に限定した ER 外来も部分的に開始している。その他の活動としては、救命救急センターの病床管理、救急隊専用ホットラインの対応、ドクターヘリの運用、メディカル・コントロール(救急隊・救命士・救急応答事務員の指導/研修、事後検証)、救急外来トリアージの指導・事後検証などを行っている。平成 25 年度に日本救急医学会指導医指定施設、平成 27 年度に日本集中治療学会研修施設、平成 29 年度に日本外傷学会研修施設に認定された。

診療実績

救急診療科単独での診療実績ではないが、診療各科と協力して活動した。

平成 29 年

救急外来受診患者総数	12,826
救急入院患者総数	4,864
救急車搬送件数	4,727
ドクターヘリ運航件数	1,175 件

次年度目標

- ドクターヘリ活動及び研究に積極的に介入し、適正かつ有効なドクターヘリ運用を目標とする。
- メディカル・コントロール活動の推進による救急隊との連携を強化する。
- 学生教育や若手研修医への研修カリキュラムを強化し、将来の救急医療を担う人材を育成する。
- 国際交流を深め、視野の広い医療人を育成する。

研究・教育活動

英文論文

1. Yanagawa Y, Omori K, Ishikawa K, Ohsaka H. A second analysis of patients with decompression illness transported via physician-staffed emergency helicopters. J Emerg Trauma Shock. 2017;10(1):50-51.

2. Ohsaka H, Omori K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Yanagawa Y. A case of massive subcutaneous emphysema in comparison to pneumothorax due to lung injury, following laryngeal edema. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(3):190-1.
3. Ishikawa K, Jitsuiki K, Takeuchi I, Yoshizawa T, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A lethal case of gastroenterobronchial fistula. *Am J Emerg Med*. 2017 Mar;35(3):518.e3-518.e4.
4. Oode Y, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Ishikawa K, Obinata M, Yanagawa Y. Vacuum Phenomenon as a Mechanism of Gas Production in the Abdominal Wall. *J Emerg Med*. 2017 Feb;52(2):e51-e52.
5. Ishikawa K, Omori K, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ito H, Shimoyama K, Fukunaga T, Urabe N, Kitamura S, Yanagawa Y. Clinical significance of fibrinogen degradation product among traumatized patients. *Air Medical Journal* 2017; 36:59-61.
6. Yanagawa Y, Ishikawa K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Oode Y, Omori K, Ohsaka H. Fibrinogen degradation product levels on arrival for trauma patients requiring a transfusion even without head injury. *World J Emerg Med* 2017;8(1):1-4.
7. Nagasawa H, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. A patient suffering traumatic injury due to swerving to avoid hitting a deer. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(1):11-3.
8. Jitsuiki K, Yoshizawa T, Takeuchi I, Hayashi C, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. Prolonged hypoglycemia after an insulin glargine overdose in a patient with type 2 diabetes mellitus. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(1):24-7.
9. Yanagawa Y, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Kando Y, Fukata M, Ohsaka H. Cardiac arrest at high elevation with a favorable outcome. *Ame J Emerg Med* 2017; 35: e7.
10. Yanagawa Y, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ishikawa K, Osaka H, Saito K. A case in which a patient intoxicated by synthetic cannabinoids was diagnosed by a mass spectrometry analysis. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(4):280-281.
11. Jitsuiki K, Hashimoto A, Yoshizawa T, Yanagawa Y. An infant case of intraoral penetrating injury with a toothbrush causing retropharyngeal and upper mediastinal emphysema. *J Indian Soc Pedod Prev Dent*. 2017 Apr-Jun;35(2):181-183.
12. Yoshizawa T, Iwazaki M, Jitsuiki K, Ishikawa K, Ohsaka H, Yanagawa Y. Suffocation due to Thoracic Deformity Caused by Acromegaly. *Intern Med*. 2017;56(8):949-951.
13. Jitsuiki K, Ishikawa K, Koike K, Yanagawa Y. Oral injury due to blank shot of a rifle. *J Emerg Trauma Shock*. 2017 Apr-Jun;10(2):84-85.
14. Yanagawa Y, Omori K, Kando Y, Kitamura S. Acute type A aortic dissection mimicking hemorrhagic stroke. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(5):324-326.
15. Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Iso T, Ishikawa K, Ohsaka H, Yanagawa Y. Lethal non-occlusive mesenteric ischemia after pelvic fracture due to falling down. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(5):314-316.
16. Yoshizawa T, Yanagawa Y, Ishikawa K, Ohsaka H, Jitsuiki K, Omori K, Ito H, Sugita M. An analysis of the factors associated with the outcomes of acute non traumatic aortic disease in patients transported to the emergency department. *SAS J. Med.*, 2017;3:87-92.
17. Nagasawa H, Ishikawa K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Takahashi R, Iso T, Kondo A, Omori K, Yanagawa Y. Lethal aortic injury after falling while paragliding. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(6):385-386

18. Omori K, Jitsuiki K, Majima T, Takeuchi I, Yoshizaw T, Ishikawa K, Ohsaka H, Tambara K, Yanagawa Y. Aortic injury due to paragliding: case report. *Int J Sports Phys Ther*. 2017 Jun;12(3):390-401.
19. Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ishikawa K, Ohsaka H, Koike H, Yanagawa Y. A report concerning nocturnal landing and take-off training in cases where VIPs suddenly become severely ill. *SAS J. Med.*, Volume-3; Issue-8 (Aug, 2017); p-223-225
20. Nagasawa H, Ishikawa K, Takahashi R, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. A case of real spinal cord injury without radiologic abnormality in a pediatric patient with spinal cord concussion. *Spinal Cord Ser Cases*. 2017 Aug 17;3:17051.
21. Jitsuiki K, Ishikawa K, Nagasaw H, Takeuchi I, Iso T, Kondo A, Ohsakah H, Omori K, Yanagawa Y. Clinical profile of patients with cardiac arrest induced by aortic disease. *Resuscitation*. 2017 Aug 19. pii: S0300-9572(17)30343-X.
22. Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Yanagawa Y. Management of Mass Casualties Using Doctor Helicopters and Doctor Cars. *Air Med J*. 2017 Jul - Aug;36(4):203-207.
23. Ohsaka H, Omori K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Isoda K, Suwa S, Yanagawa Y. Acute Coronary Syndrome Evacuated by a Helicopter From the Scene. *Air Med J*. 2017 Jul - Aug;36(4):179-181.
24. Takeuchi I, IshikawaK, Nagasawa H, Takahashi R, Jitsuiki K, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. A case of delayed onset of pneumothorax after a stab injury to the neck. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(7):448-449.
25. Kondo A, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. Multiple purulent arthritis, epidural Abscess, and panophthalmitis Induced by *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *Equisimilis* infection. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(7):438-440.
26. Jitsuiki K, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. The smaller superior mesenteric vein sign in acute superior mesenteric artery ischemia. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(6):406-407.
27. Yanagawa Y, Kondo A, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Omori K. Kounis syndrome should be excluded when physicians treat patients with anaphylaxis. *Ann Allergy Asthma Immunol*. 2017 Oct;119(4):392. D
28. Yanagawa Y, Kondo H, Okawa T, Ochi F. Lessons learned from the total evacuation of a hospital after the 2016 Kumamoto Earthquake. *J Emerg Manag*. 2017 Jul/Aug;15(4):259-263.
29. Nagasawa H, Ishikawa K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. The clinical profile of patients with cardiac arrest induced by hemorrhagic stroke. *Resuscitation*. 2017 Sep 9. pii: S0300-9572(17)30604-4.
30. Nagasawa H, Omori K, Maeda H, Takeuchi I, Kato S, Iso T, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Ohsaka H, Yanagawa Y. Bite Wounds Caused by a Wild Boar: A Case Report. *Wilderness Environ Med*. 2017 Aug 31. pii: S1080-6032(17)30191-6.
31. Jitsuiki K, Ishikawa K, Omori KK, Yanagawa Y. A Case of Tetraplegia after *Proteus mirabilis* Infection. *J Emerg Trauma Shock*. 2017 Jul-Sep;10(3):163-164.
32. Ishikawa K, Omori K, Ohsaka H, Yanagawa Y. A Pregnant Woman with Pneumomediastinum after Tooth Treatment. *J Emerg Trauma Shock*. 2017 Jul-Sep;10(3):162-163.
33. Jitsuiki K, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Clinical

profile of patients with cardiac arrest induced by aortic disease. *Resuscitation*. 2017 Aug 19. pii: S0300-9572(17)30343-X.

34. Yanagawa Y, Jitsuiki K. The introduction of an education and training course for recruiting members for a local Disaster Medical Assistance Team in Shizuoka prefecture in 2017. *Sch. J. App. Med. Sci.*, 2017; 5(10E):4151-4154.
35. Omori K, Jitsuiki K, Obinata M, Yoshizawa T, Ishikawa K, Osaka H, Oode Y, Yanagawa Y. A lethal case of thoracic aortic dissection with bilateral patellar subluxation likely due To Ehlers-Danlos syndrome. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):627-629.
36. Omori K, Ohsaka H, Iso T, Kato S, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ishikawa K, Kanda A, Yanagawa Y. A case of sudden death due to aortic dissection in a 13-year-old patient. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):630-634.
37. Jitsuiki K, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Iso T, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. Marchiafava-Bignami disease induced by chronic alcohol intake. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):639-641.
38. Takeuchi I, Nagasawa H, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A case of thrombotic microangiopathy induced by suspected bacterial infection. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):642-645.
39. Jitsuiki K, Yanagawa Y, Takahashi R, Itoi A, Matsunami T, Takeuchi I, Kondo A, Mogami A. The Successful Treatment of a Patient with Multiple Injuries, Including Unstable Thoracic Cage and Pelvic Fracture. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):648-651.
40. Kondo A, Nagasawa H, Takeuchi I, Ohsaka H, Jitsuiki K, Omori K, Ishikawa K, Yanagawa Y. Diabetes insipidus induced by sodium-glucose cotransporter-2 inhibitor treatment. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):646-647.
41. Ishikawa K, Omori K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Ohsaka H, Yanagawa Y. Rhinoceros horn: Hidden spread injury. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):613-614.
42. Nomura T, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Sugita M. Risk factors of occurrence of rib fracture or pneumothorax after chest compression for patients with cardiac arrest. *Sch. J. App. Med. Sci.*, 2017; 5(10B):3897-3900.
43. Ohsaka H, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ishikawa K, Omori K, Wada R. Suffocation Due to Saburrainthe Upper Esophagus as a Result of Achalasia. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(10):688-690.
44. Nagasawa H, Omori K, Takeuchi I, Takahashi R, Jitsuiki K, Kondo A, Ishikawa K, Ohsaka H, Ito H, Yanagawa Y. Accuracy of the prehospital diagnosis of pelvic fractures diagnosed by traumatic PAN scans. *Sch. J. App. Med. Sci.*, 2017; 5(10F):4252-4256.
45. Takeuchi I, Kondo A, Nagasawa H, Jitsuiki K Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. A Fatal Case of Japanese Spotted Fever. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(11):801-804.
46. Jitsuiki K, Fujita N, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Kondo A, Ohsaka H, Omori K, Yanagawa Y. Tonic Convulsion as the Initial Sign of Acute Cerebral Ischemia in an Adult. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(11):792-794.
47. Nagasawa H, Kondo A, Takeuchi I, Jitsuiki K Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Yanagawa Y. Usefulness of Gram Stain for Decision-Making Regarding Treatment for Disseminated Nocardiosis. *Sch J Med Case Rep* 2017; 5(11):786-788.

48. Fujiwara K, Yanagawa Y, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Ohsaka H, Ishikawa K, Omori K, Suwa S. Tetanus diagnosed by clinical symptoms based on its current status in Japan. Sch J Med Case Rep 2017; 5(11):783-785.
49. Ohsaka H, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Fujiwara K, Kondo A, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Gastric Emphysema Accidentally Found By Computed Tomography for the Evaluation of Trauma. Sch J Med Case Rep 2017; 5(12):850-1.
50. Yanagawa Y, Omori K, Iwasaki H, Kitamura S. An Analysis of Patients with Traumatic Intracranial Hemorrhaging Transported By Private Car. Scholars Journal of Applied Medical Sciences, 2017; 5(11B):4402-4404.
51. Kondo A, Yanagawa Y, Ohsaka H, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ishikawa K, Omori K, Sugita M. Relationship between the Occurrence of Hyponatremia and the Hormone Levels in the Emergency Department. Journal of Applied Medical Sciences, 2017; 5(12A): 4817-21.
52. Yanagawa Y, Omori K, Ishikawa K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Yoshizawa T, Sato J, Matsumoto H, Tsuchiya M, Osaka H. Difference in First Aid Activity During Mass Casualty Training Based on Having Taken an Educational Course. Disaster Med Public Health Prep. 2017 Nov 20:1-4.
53. Ohsaka H, Hayashi C, Omori K, Yanagawa Y. A Case of Traumatic Vacuum Phenomenon in the Sleeve of a Nerve Root Due to Nerve Root Avulsions. J Emerg Trauma Shock. 2017 Oct-Dec;10(4):216-217.

和文論文

1. 石川浩平, 竹内郁人, 日域佳, 近藤彰彦, 大森一彦, 大坂裕通, 柳川洋一. 過疎地域における多数傷病者発生時の分散搬送の重要性. 日本集団災害医学会雑誌 2017;22(2):232-7.

国内発表

1. 日域佳, 吉澤俊彦, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 柳川洋一. 開渠側溝に潜む危険. 日本脳神経外科救急学会雑誌 2017;21 (3): 315.
2. 柳川洋一, 日域佳, 竹内郁人, 吉澤俊彦, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 佐藤潤, 松本英之, 土屋勝. 日本集団災害医学会雑誌 2017; 21(3): 462.
3. 石川浩平, 竹内郁人, 日域佳, 吉澤俊彦, 大森一彦, 大坂裕通, 柳川洋一. 遷延するショックの原因として後縦隔血腫による心外閉塞性因子が考えられた多発性外傷例. 日本集中治療医学会 2017; 24: 132.
4. 大森一彦, 竹内郁人, 日域佳, 吉澤俊彦, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一. パラグライダー墜落による外傷性大動脈損傷を含めた多発外傷の1例. 日本集中治療医学会 2017; 24: 147.
5. 日域佳, 柳川洋一, 吉澤俊彦, 石川浩平, 竹内郁人, 大森一彦, 大坂裕通, 作田梨奈, 吉池高志. ステロイドパルス療法と免疫グロブリン大量静注療法が著効した重症薬疹の一例. 日本集中治療医学会 2017; 24: 168.
6. 竹内 郁人, 日域 佳, 石川 浩平, 大森 一彦, 大坂 裕通, 大出 靖将, 中尾 保秋, 山本 拓史, 柳川 洋一. 熱傷を主訴に来院したくも膜下出血の1例. 日本臨床救急医学会雑誌 2017;20(2):424.
7. 佐々木 洋介, 大森 一彦, 磯 隆史, 加藤 英, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 日域 佳, 大坂 裕通, 石川 浩平, 柳川 洋一. 大動脈解離で突然死した13歳男児の一例. 日本臨床救急医学会雑誌 2017;20(2):394.
8. 柳川 洋一, 石川 浩平, 竹内 郁人, 日域 佳, 吉澤 俊彦, 大森 一彦, 大坂 裕通. 遷延するショックの原因として後縦隔血腫による心外閉塞性因子が考えられた多発外傷例. 日本集中治療医学会雑誌

2017;24:S82-2.

9. 長澤 宏樹, 大森 一彦, 竹内 郁人, 日域 佳, 吉澤 俊彦, 石川 浩平, 大坂 裕通, 柳川 洋一. 鹿との遭遇で受傷した自動車交通外傷の一例. 日本外傷学会雑誌 2017;31(2):279.
10. 柳川 洋一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 日域 佳, 近藤 彰彦, 磯 隆史, 石川 浩平, 大坂 裕通, 大森 一彦. 外傷画像診断におけるピットフォール Traumatic vacuum phenomenon. 日本外傷学会雑誌 2017;31(2):243.
11. 柳川 洋一, 石川 浩平, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 日域 佳, 近藤 彰彦, 大坂 裕通, 大森 一彦. 災害・集団発生中毒 CBRNE を疑われた事案に関して,ドクヘリは患者搬送に関わるべきなのか?中毒研究 2017;30(2):169.
12. 長澤 宏樹,近藤 彰彦,竹内 郁人,日域 佳,磯 隆史,石川 浩平,大森 一彦,大坂 裕通,柳川 洋一. 早期ドレナージが診断,治療に有用であった Nocardia 感染症の一例. 第 20 回日本救急医学会中部地方会プログラム p20.
13. 竹内 郁人,長澤 宏樹,高橋 良介,日域 佳,磯 隆史,近藤 彰彦,大森 一彦,石川 浩平,大坂 裕通,柳川 洋一. 一口の有機リン系農薬の誤飲により CH-E1IU/L まで低下した一例.第 20 回日本救急医学会中部地方会プログラム P21.
14. 柳川 洋一,長澤 宏樹,竹内 郁人,日域 佳,近藤 彰彦,大坂 裕通,石川 浩平,大森 一彦. 救急医療人の確保と育成:医療過疎地域にあっても,都心部では学ぶことのできない幅広く濃厚な臨床研修機会を提供する. 第 20 回日本救急医学会中部地方会プログラム P15 シンポジスト
15. 石川 浩平, 竹内 郁人,日域 佳,近藤 彰彦,大森 一彦, 大坂 裕通,柳川洋一. “サウナ”は重症熱中症となる重要なキーワードとなり得るか. P 116
16. 柳川洋一, 長澤 宏樹,竹内 郁人,高橋良介, 日域 佳,磯隆史, 近藤 彰彦,大坂 裕通,石川 浩平,大森 一彦. FAST:high echoic (avascular) area を探せ.日本救急医学会雑誌 2017; 28 (9): 503.
17. 長澤 宏樹,石川 浩平,竹内郁人,日域 佳,高橋良介, 磯隆史,近藤 彰彦,大森 一彦, 大坂 裕通,柳川洋一. パラグライダー中の高所墜落から大動脈損傷を負い,救命し得なかった一例. 日本救急医学会雑誌 2017; 28 (9): 631.
18. 竹内 郁人,石川 浩平,長澤 宏樹,日域 佳,近藤 彰彦,大森 一彦, 大坂 裕通,柳川洋一.縦隔気腫から遅発性に気胸が生じた頸部刺創の一例. 日本救急医学会雑誌 2017; 28 (9): 688.
19. 近藤 彰彦,高橋良介,竹内郁人,日域 佳,石川 浩平,大坂 裕通,大森 一彦,柳川洋一. 搬送時や入院時の体勢に留意すべき reverse chance fracture の一例. 日本救急医学会雑誌 2017; 28 (9): 724.
20. 杉山由希乃, 鈴木めぐみ, 鬼塚味佳, 田上佑一, 中村沙織, 森島克明, 松尾正人, 多田真也,石倉美穂子, 勝間田敏宏, 日域佳, 石川浩平, 大森一彦, 大坂裕通, 柳川洋一. 富士山登山中に心肺停止状態から救命できた事例. 日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 225.
21. 大坂 裕通, 大森 一彦,石川 浩平,近藤 彰彦,柳川洋一. 静岡県東部における消防防災ヘリからドクターヘリの連携.日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 242.
22. 石川 浩平, 竹内 郁人, 日域 佳,近藤 彰彦,大森 一彦, 大坂 裕通,柳川洋一. 有機化学物質に暴露された患者のドクターヘリ搬送は是か非か. 日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 189.
23. 大森一彦, 竹内 郁人, 日域 佳,磯隆史, 近藤 彰彦,石川 浩平, 大坂 裕通,柳川洋一. 心肺停止患者に対するドクターヘリでの対応の検討. 日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 172.
24. 近藤 彰彦,高橋良介, 竹内郁人,日域 佳,石川 浩平,大坂 裕通,大森 一彦, 柳川洋一. ドクターヘリ診療における EFAST の活用についての検討. 日本航空医療学会雑誌 2017;18(2): 117.

25. 大森一彦, 竹内 郁人, 日域 佳, 近藤 彰彦, 石川 浩平, 大坂 裕通, 柳川洋一. ドクターヘリはへき地救急医療にとって有益のみ与えるか. 第 21 回へき地・離島救急医療学会

優秀演題賞

1. 柳川洋一 外傷画像診断におけるピットフォール Traumatic vacuum phenomenon. 日本外傷学会

国際発表等

1. Yanagawa Y, Omori K, Ishiwaka K, Yoshizawa T, Jitsuiki K, Takeuchi I, Osaka H. Analysis of patients with decompression illness transported via physician-staffed emergency helicopters. 14th international symposium on maritime health, Manila Phillipine March 22-24, 2017.
2. Yanagawa Y, Ishikawa K, Nagasawa H, Takeuchi I, Kato S, Jitsuiki K, Iso T, Yoshizawa T, Ohsaka H, Omori K. Risk factors for the occurrence of traumatic vacuum phenomenon after chest compression for patients with cardiac arrest. 2nd International Conference on: Applied Physics, System Science and Computers Dubrovnik, Croatia, September 27-29, 2017
3. Yanagawa Y. Chairman of section of clinical application, 2nd International Conference on: Applied Physics, System Science and Computers Dubrovnik, Croatia, September 27, 2017
4. Ishikawa K, Takeuchi I, Jitsuiki K, Kondo A, Omori K, Osaka H, Yanagawa Y. A Comparison between evacuation from the scene and interhospital transportation using a helicopter for subarachnoid hemorrhage. Air Medical Transport Conference (AMTC) 2017 Oct 16 - 18, 2017, Fort Worth, Texas

オスキー

- 1月14日 静岡 DMAT 隊員養成研修 インスト参加 柳川洋一
1月31日 山梨県 DMAT 技能維持研修 インスト参加 柳川洋一
2月15日 静岡県消防学校 JPTEC ディレクター参加 大森一彦
2月26日 第11回静岡 MCLS 標準コース ディレクター参加 柳川洋一
4月3日 順天堂静岡 ICLS ディレクター、インスト参加 スタッフ総員
6月14日 第42回 TSA ICLS ディレクター参加 柳川洋一
7月31日 - 8月2日 保健看護学部 ICLS インストラクター参加 スタッフ総員
8月27日 JPTEC インストラクターコース世話人参加 柳川洋一
9月9日-10日 JATEC 順天堂大学救急グループ共催 コーディネーター、インスト参加
10月15日 静岡 Local DMAT 隊員養成研修 インスト参加 柳川洋一
10月29日 JPTEC 標準コース(函南) ディレクター参加 大森一彦
11月26日 第5回駿東田方 MCLS 標準コース ディレクター参加 柳川洋一
11月13日 静岡消防学校 MCLS マネージメントコース 管理世話人参加 柳川洋一
11月17日 沼津市立 JMECC ディレクター参加 柳川洋一
12月13-14日 平成29年度第6回日本 DMAT 隊員養成研修 インスト参加 柳川洋一

研究会開催

- 2月6日 静岡東部救急研究会開催

講演

- 3月2日 田方医師会災害研修 熊本地震での当院の活動、CBRNE 災害に関して 柳川洋一
- 3月3日 市民公開講座 日本における災害医療の現状 柳川洋一
- 11月20日 静岡県東部におけるドクターヘリの現状と課題 柳川洋一
- 6月26日 伊豆の国市立長岡南小学校職業講話「フライトドクター」 大森一彦
- 9月22日 三島市立山田小学校職業講話「フライトドクター」大森一彦

海外留学生受け入れ

- 台湾医学生 2名
- フィリピン医学生 1名
- イラン医学生 1名
- タイ医学生 1名
- オーストラリア医学生 3名
- ブラジル医学生 1名

メディア関連

- 伊豆日日新聞 静岡県知事ドクヘリ格納庫視察対応 柳川洋一
- 毎日新聞 ヒートショックの解説 柳川洋一
- ラジオ(エフエム三島・函南ボイスキュー) ドクヘリ紹介 石川浩平

その他

- 事後検証会複数回開催(当院)
- 静岡県メディカルコントロール協議会(県、駿東田方、伊東・熱海、賀茂)参加
- 減圧症勉強会参加(当院)

2-25 病理診断科

診療活動

当院病理施設は静岡県東部では少数である日本病理学会認定施設の一つです。当科常勤医師 1 名、検査室の臨床検査技師 5 名で、病理標本作成から病理診断提出までの病理診断書作成業務を多数例（日本病理学会試算的に病理専門医 3 人を要するとされる業務量）担い、さらに、院内 CPC・各科カンファレンス、当科選択の研修医・医学部 5・6 年生の病理診断学の教育、他科の医学的研究における病理学的支援、順天堂大学保健看護学部の必修講義（14 回/年）、日本病理学会中部支部のセカンドオピニオン担当を行い、かつ、当科自身の研究活動（主に消化器系腫瘍の病理）も若干行っています。前述の業務量は常勤医 1 名のみで行うには諸条件的に好ましくないため、現在は、本院から八尾主任教授・准教授全員が、練馬病院から松本特任教授・若手病理医師全員が随時来院し、順天堂大学の全体的支援を受けた形で精度の高い病理診断業務を維持しつつ、診療活動を行っています。

診療実績

平成 29 年度

（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

組織診断：6852 例

細胞診断：7346 例

病理解剖診断：20 例

次年度目標

病理医不足はおおむね全国的な傾向であり（本邦の病理医師数は、対国民人口的には米国の 1/5 程度のみと極めて少ない）、当院も同等な状況にある。一般に、病理専門医は全身の病理学に精通しているものの、現在のように細分化され、各々高い診療レベルにある各科の臨床医が望む臓器特異的病理診断学のすべてにおおむね対応するには、その専門的経験を相当数重ねた超ベテランの病理医を複数置くか、あるいは大学本院のように臓器特異的病理学に卓越した病理医を多数備えることが望まれる。従って、「常勤の病理専門医数を単に増やす」は本当の解決策ではない。そのため、当院のように大都市から離れた地域に位置する総合病院にとっては、病理組織像のデジタル化による IT 的病理診断業務の実現（遠隔業務も含む）、順天堂大学医学部病理部門全体としての業務上支援が、合理的な対策の一つと言える。日常業務の適切な遂行はもとより、当院運営陣のご理解・ご指導を基に、前年度に加え、この業務的改築を継続し、各科の診療に貢献することが当科の主な目標である。

研究・教育活動

【英文原著】

1. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Wada R, Ikeda K : Primary malignant lymphoma of the uvula. Otorhinolaryngol Head Neck Surg, 2:1-2, 2017
2. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Hara S, Kobayashi Y, Tou M, Wada R, Ikeda K : Facial nerve palsy due to parotid abscess with Warthin's tumor. Otorhinolaryngol Head Neck Surg, 2(3):1-3, 2017
3. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yanai A, Hara S, Kobayahi Y, To M, Wada R, Ikeda K : Cervical fistula caused by submandibular sialolithiasis. Clinics and Practice, 7:985, 2017

【和文原著】

1. 瀬沼幸司、佐藤浩一、和田 了: 診断に難渋した 20 cm 大乳腺嚢胞内癌の 1 例. 日臨外会誌 78:931-934, 2017

【和文総説】

1. 和田 了: 図説「胃と腸」所見用語集 2017, 病理, 線維筋症. 胃と腸 52:696, 2017

【講演・発表(主なもの)】

1. 和田 了: 読影に役立つ胃癌病理の基礎知識. 第 115 回東京胃会(特別講演)2017.3.17(東京都)

2-26 リハビリテーション科

業務内容

1:診療業務

2016 年 7 月にリハビリテーション科ができて二年目をむかえました。2017 年 1 月に藤原俊之教授が本郷に赴任して 5 病院全体も統括された新体制となりました。これからは本郷のリハビリテーション科に直接入局する Dr も誕生する予定です。当院では 10 月よりリハ業務の電子カルテ化が成されました。この業務の電子化に振り回された一年でしたが、徐々に慣れて効率化されて来ると考えます。

2:ひとの流れ

3 月に松下君と奥田さんが退職し、4 月に PT に小川さん、佐久間さんと宮下君が、OT に飯倉さんが入職しました。また、6 月で前田医師が東京リハビリテーション病院へ転勤しました。

業務実績

平成 29 年度 依頼件数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
272	284	297	316	317	292	323	302	332	352	319	343	3749

平成 29 年度 区分別依頼割合

区分	依頼件数	割合
脳血管	1,482	35.8%
廃用症候群	248	6.0%
運動器	1,089	26.3%
呼吸器	569	13.8%
心大血管	560	13.5%
がん	188	4.5%

平成 29 年度 実施件数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
3,543	3,795	4,347	4,082	4,406	3,923	4,021	4,213	4,214	4,122	4,210	4,531	49,675

次年度目標

平成 29 年度は、10 月より電子カルテ上でのリハビリオーダーリングシステムおよびリハビリ管理システムの稼働が開始され、各科からのリハビリ指示件数も増加し、業務効率の向上が図れました。

次年度は、引き続きリハビリテーション医の適切な評価のもと、有効な早期リハビリテーションを実施し、患者の早期回復・他院へ向け尽力するよう以下を目標としていきます。

1. 有効な早期リハビリテーション介入を実践する
2. 稼働実績の改善・効率の向上
3. 室内教育の充実・資格取得の推奨

研究・教育活動

発表、報告

1. 下島健斗、渡邊大輔、鳥屋優太
開心術後に心房細動を発症した症例への心臓リハビリテーションの経験
第 21 回静岡県理学療法士学会 静岡 H29.6.25
2. 阿妻伸幸、渡邊大輔、鳥屋優太、石井啓太、河原一剛
肺癌術後症例における運動対応能に関わる因子の検討
第 33 回東海北陸理学療法士学会 福井 H29.11.11-12
3. 小池教文、小林敦郎、吉川雄太郎、下島健斗
デュシェンヌ歩行を呈す変形性股関節患者の骨形態について
第 33 回東海北陸理学療法士学会 福井 H29.11.11-12
4. 石井啓太、渡邊大輔
TPPV 装着 ALS 患者に対する Blom®スピーチカニューレの導入と問題点
第 27 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 宮城 H29.11.17-18
5. 河原一剛、渡邊大輔、鳥屋優太
小児期より運動制限を継続してきた微小変化型ネフローゼ症候群患者に対する運動指導の経験
第 8 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会 宮城 H28.3.17-18

2-27 臨床検査科

(特任教授 田内一民)

診療活動

臨床検査科の主な業務は以下の 6 つに大別される。

1. 検体検査の質の保証: 日常の内部精度管理を徹底し、精度保証された検査データを利用者に提供する。
検体検査とは患者血液、尿、体液、喀痰などを試料とし、その濃度、細胞などを調べる検査をいう。また外部精度管理(日本医師会、日本臨床検査技師会、静岡県医師会主催の外部精度管理調査)に参加し検査データの標準化を確認する。異常値の出た時の対策・対応・指示。インシデント・アクシデント対応。
2. 機器試薬の検討と選別、検査項目取捨選択。
3. 外注検査項目の選択と精度管理。
4. 検査技師を中心とした検査関係者の教育・指導: 研修会、勉強会を行い検査知識・技術の向上を目指す。
5. 検査の説明・案内・広報: 検査データ利用者に対して、検査の意義、検査データの解釈などについて周知、広報を努める。
6. その他

診療実績

1. 日本医師会精度管理調査での点数 99.3 点、
2. 静岡県医師会精度管理調査は全て A ランクで問題点なし。
3. 日臨技精度管理調査では(A)(B)評価 99.0%
4. 検査技師を対象に勉強会「知得会」を開催(第 47～50 回)。
5. 院内の検査データの意義、検査結果の考え方について作成した検査説明パンフレットを改訂(基準範囲について前文の改訂、測定単位の訂正)し、採血室・受付等に配布(H29.12)。
6. 検査依頼書、報告書の変更。

次年度目標

1. 検査の質の保証: 向上と維持。
2. 「検査結果の考え方」改訂と配布。6 病院共用基準値に変更。
3. 検査依頼書、報告書の検討。共用基準値変更による単位等の変更。

研究・教育活動

1. 第 34 回 静岡県臨床検査精度管理調査報告書、H29.10
2. 日本総合健診医学会第 45 年次 臨床検査精度管理報告書、H29.12
3. 日本総合健診医学会施設調査票集計結果報告(平成 28 年度) 日本総合健診医学会誌 44(6) 2017 143～203

3. 部門報告

3-1 薬剤科

業務内容

薬剤師：33名うちGCPセンター（調剤業務兼務）に3名、薬剤管理指導業務担当7名、手術室業務1名 注射薬払い出しおよび無菌製剤業務1名、外来調剤業務18名、外来・入院化学療法2名、医薬品情報室1名にて業務をおこなっている。

- | | |
|------------|--|
| ① 調剤 | 外来・入院調剤 |
| ② 製剤 | 約束処方・院内特殊製剤 |
| ③ 注射薬の取り揃え | 入院一般注射薬・化学療法用注射薬（外来・入院とも） |
| ④ 注射薬の無菌製剤 | 中心静脈栄養・化学療法（外来・入院とも） |
| ⑤ 薬品管理 | 薬品発注・在庫管理・麻薬管理 |
| ⑥ 医薬品情報提供 | 院内医薬品集の発行・新規採用薬中止薬の案内・副作用情報等の提供 |
| ⑦ 薬剤管理指導業務 | 科ごとに薬剤師を担当させているが、ICU・CCUは持参薬管理のみ
ブレアボイド報告 |
| ⑧ 手術室業務 | 麻酔薬の準備・使用後の確認など麻酔科医業務支援および麻薬管理 |
| ⑧ その他 | 学会発表など |

1. 調剤業務

処方内容については、調剤監査システムにて相互作用、重複投与等のチェックを行った後処方せんを発行し調剤を実施している。外来および退院処方については「薬剤情報提供書(あなたのおくすり)」を添付して患者への医薬品情報提供を行っている。合わせて、お薬手帳用薬剤一覧も毎回発行・配布している。外来処方せんは院内にて調剤を行い、院外処方せんについては希望者のみとしている。

● 2017年度調剤業務（処方せん枚数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来	25,187	25,908	26,448	26,153	26,726	26,144	26,382	26,324	26,347	25,816	25,231	27,946
入院	12,136	12,497	11,878	12,497	12,023	11,538	12,084	12,204	12,413	12,140	11,492	12,114
合計	37,323	38,405	38,326	38,650	38,749	37,682	38,466	38,528	38,760	37,956	36,723	40,060
院外	351	345	350	353	339	365	330	374	367	359	345	372

2. 製剤

院内製剤は点眼薬、点鼻薬、点耳薬、軟膏、処置薬などを調製している無菌的な操作の必要なものはクリーンベンチ内で調製している。

3. 注射薬の取り揃え

入院一般注射薬：前日までにオーダーされている注射薬を個人別にセットし、

専用カートにて各病棟に払い出す。金曜日は土曜日・日曜日分を、土曜日は月曜日分のセットをしている。

●2017 年度注射薬取り揃え件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
外来	3,307	3,455	3,286	3,494	3,388	3,190	3,157	3,250	3,217	3,296	3,163	3,266
入院	20,953	21,849	19,447	20,056	20,113	20,104	22,648	21,860	22,207	23,665	21,907	24,096

4. 注射薬の無菌製剤

外来・入院化学療法：前日までにオーダーされている外来化学療法の注射薬を個人別にセットし、担当者がレジメン内容の監査を行なう。

実施日当日は治療続行の指示に従って、がん治療センターの安全キャビネット内で直前に混注業務を行っている。

中心静脈栄養（IVH）：当日 13:00 まで（土曜及び休日は 8:00）にオーダーされたものを、クリーンベンチ内で調製し病棟に払い出している。

●2017 年度無菌製剤件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
外来化学療法	522	517	508	547	555	503	525	509	501	541	492	582
入院化学療法	139	158	166	174	172	140	143	169	100	155	180	142
IVH	142	242	183	104	45	111	108	141	143	158	144	229

5. 薬品管理

採用薬は平成 30 年 3 月 31 日時点で内服薬：941 品目・注射薬：512 品目、合計 1453 品目である。

6. 医薬品情報提供業務

医薬品の安全かつ、適正使用のための情報収集および情報提供を実施。

院内医薬品集の作成（毎月更新）・新規採用薬、採用中止薬、包装・剤形変更の情報は薬剤科からのお知らせにて院内配布。

7. 薬剤管理指導業務

内科、外科、脳外科、産婦人科、眼科、耳鼻科、整形外科、泌尿器科、神経内科、呼吸器外科、形成外科に、科ごとに配置している。持参薬の検索、服薬指導、薬歴から相互作用、併用禁忌などの薬学的管

理を行なっている。

医療安全対策のひとつとしてプリアボイド報告（薬学的ケアの実施によって、副作用・相互作用・治療効果不十分などを回避あるいは軽減した事例の報告）を行っており 2017 年度は 1 件の報告を行った。

●2017 年度薬剤管理指導算定件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
算定件数	1017	1001	1054	1027	1132	1035	1112	999	991	1004	1000	1036

8. その他

学会発表

1. 植松卓也：当院における C 型肝炎に対する interferon-freeDAAs の治療成績 第 27 回日本医療薬学会年会 千葉幕張メッセ 11 月 3 日～5 日
2. 野田貴義，勝又博司：重症筋無力症における周術期薬物投与の介入 第 27 回日本医療薬学会年会 千葉幕張メッセ 11 月 3 日～5 日
3. 青木鈴加 1，小柴聖史 1，木下史一 1，小林淳司 1，勝又博司 1，菅尾高裕 1，小池道明 2
1 順天堂大学医学部附属静岡病院薬剤科 2 順天堂大学医学部附属静岡病院血液内科
第 27 回日本医療薬学会年会 千葉幕張メッセ 11 月 3 日～5 日

論文

1. 植松卓也：不眠または痛みを合併する新規がん化学療法導入患者における重度倦怠感の発症リスクに関する研究 医療薬学 2017 第 43 巻 3 号

平成 30 年度の目標

- ① 研究活動の充実と臨床スキル（薬学的管理）の向上
6 病院合同研究会の開催 人事交流によるキャリアパスの取得など。
- ② 改正薬剤師法に準拠した医薬品適正使用および医療安全への貢献
医薬品安全管理マニュアルの見直し
- ③ 調剤のロボット化、IT 化をすすめる。

3-2 栄養科

栄養科では、外来患者及び入院患者には栄養食事指導を実施し、加えて入院患者には早期治癒退院のための栄養サポートやきめ細やかな給食サービスを行なっている。

以下の項目を重点的に、管理栄養士 8 名（内パート 1 名含む）、その他職員 26 名（パート事務員 1 名派遣補助員 5 名を含む）、業務委託 24 名（7 人工／日）、計 60 名で業務を遂行している。

業務内容

（１）栄養管理業務

- ① 医師の指示のもとに、外来患者および入院患者へ栄養食事指導を実施した。
糖尿病の教育入院(2 週間)が毎週定期的にあり、入院中には患者に寄り添った栄養食事指導を行い、退院後も定期的にフォローアップを行った。糖尿病療養指導士の取得者は 3 名である。
栄養指導実施件数の推移は 27 年度 2,276 件、28 年度 2,722 件、29 年度 3,352 であった。
- ② 栄養サポートチーム（NST）を中心に、患者の栄養状態改善を図るため、毎週木曜日に NST 回診を実施した。管理栄養士が活動をまとめる中で、NST リンクナースを中心に活動はより充実し、また回診方法等の定期的な見直しを行った。NST 専門療法士取得者は、管理栄養士 2 名、看護師 2 名、薬剤師 1 名となり、それぞれの立場から専門性を発揮し、連携を深めた。
NST 介入延べ患者数の推移は 27 年度 601 人、28 年度 627 人、29 年度 844 人であった。

（２）給食管理業務

- ① 適時適温給食の実施、安心で安全な食事の提供を行なった。
- ② 医師の指示に従い、また患者の状態に寄り添った個々人の対応を行なった。
- ③ 年 4 回の嗜好調査により患者の希望を捉え、献立作成に生かした。
- ④ 選択メニューを実施し、患者満足度を向上させた。

次年度目標

- ① 外来・入院を問わず、多くの患者に対し栄養食事指導を実施し、入院中の食事の説明や、退院後の食事療法が継続できるよう具体的に指導し、積極的に取り組む。
- ② 引き続き、糖尿病療養指導士等の専門性の高い資格の取得を目指し、患者の背景に合ったオーダーメイドの栄養指導を行うようにする。
- ③ NST 業務において、管理栄養士が専従となり、栄養管理が必要な全ての患者に対して適正な栄養療法を実践していけるよう推進する。
- ④ 摂食嚥下チームを立ち上げ、他職種が連携し摂食嚥下に関する問題解決を図り、適切な食形態で安心・安全な食事を提供できるよう努める。
- ⑤ 給食における重点課題は、2015 年版食事摂取基準や各治療ガイドラインを遵守しつつ、より丁寧な献立作成を行い、出来る限り個別に対応する。また、極力献立を統一し、食材の無駄をなくし、システムにおいて合理化を促進する。

①給食実施状況 (単位:食)

区分	食種名	食数
一般食	常食	187,200
	授乳食	8,859
	お祝い膳	847
	学童食	1,561
	小児食	3,402
	離乳食	735
	軟食	72,723
	流動食	5,803
	小計	281,130
特別食	エネルギー塩分食	69,303
	蛋白コントロール食	23,671
	糖質調整食	18,891
	胃腸病食	18,563
	脂質制限食	6,909
	低残渣食	2,171
	無菌食	2,130
	注腸食	27
	濃厚流動食	33,435
	ミルク	28,803
	小計	203,903
患者合計		485,033
職員合計		80,552
付添い合計		1,112
おやつ合計		3,143
5回食合計		1,040

②栄養食事指導実施状況 (単位:件)

区分	指導名	入院	外来	合計
個人指導	糖尿病食	460	1007	1467
	腎臓病食	147	145	292
	減塩食	380	41	421
	肝臓病食	22	7	29
	胃腸病食	318	5	323
	肥満食	2	22	24
	脂質異常食	48	32	80
	痛風食	0	2	2
	貧血食	2	2	4
	高血圧食	80	12	92
	その他	218	36	254
	小計	1677	1311	2988
集団指導	指導名	回数	人数	
	糖尿病教室	24	159	
	心臓病教室	23	106	
	糖尿病会食	10	32	
	母親教室	12	67	

③NST介入延べ人数(各科別)

診療科	延べ人数
膠原病内科	9
消化器内科	59
呼吸器内科	68
血液内科	84
腎臓内科	16
糖尿・内分泌内科	6
外科	65
脳神経外科	77
循環器科	135
心臓血管外科	104
呼吸器外科	7
脳神経内科	18
整形外科	42
形成外科	28
救急診療科	42
小児科	2
眼科	0
耳鼻咽喉科	3
産婦人科	29
皮膚科	16
泌尿器科	34
メンタルクリニック	0
合計	844

3-3 放射線室

業務内容

当放射線室は放射線技師 30 名によって、1 モダリティー1 名を原則としているが、ここ 5 年間に増加を辿る 3D 等の画像処理要員として CT 室においては 3 台において 4 名の技師を配置している。また、放射線治療室においては安全性に鑑み技師 2 名、認定看護師 1 名の配置としている。また、女子事務員 5 名を加え放射線室スタッフは 35 名の運営となっている。

昨年度より完全RIS化とDR化に移行し、高画質と安定したデータ送信が可能となった。平成 23 年 4 月から実施している早朝より待つ患者さんに対し、技師全員が輪番制によって早朝出勤し、一般撮影にあたっている。また、ポータブル撮影に於いては前日のオペ患者さんを対象に月曜日から金曜日まで業務開始 1 時間前より輪番制にてポータブル撮影を行っている。現在、月平均 150 件から 200 件程であるが、他部署等の環境が整い次第、より多くの患者さんに利便性を提供したいと鋭意努力中である。

放射線室内月例研究発表会も 80 回目を迎え、平成 29 年度は 28 名の技師発表、6 名の外部講師により、何れも前年度を上回る研究会となった。

放射線室 実績 平成 29 年

(単位:件)

月	画 像 診 断									骨密度	治療
	一 般 撮 影	ポータ ブル 撮 影	造 影	CT 腹部	CT 頭部	MRI	CINE DSA	核医 学検 査	PET CT		
1	13,440	3,036	280	1,791	1,229	1,054	179	78	78	99	415
2	13,413	2,796	420	1,724	1,244	1,109	218	75	81	87	381
3	15,071	3,084	324	1,908	1,283	1,218	226	74	92	100	741
4	15,275	2,870	358	1,868	1,234	1,072	192	66	77	117	575
5	15,595	3,189	347	1,972	1,194	1,123	211	74	79	100	628
6	16,593	2,774	399	1,978	1,272	1,303	211	95	87	140	437
7	16,699	2,764	340	2,043	1,187	1,225	204	78	76	104	516
8	16,811	2,987	397	2,073	1,367	1,288	190	98	89	114	592
9	15,708	2,910	369	1,993	1,235	1,150	197	89	75	85	407
10	16,066	3,421	316	2,113	1,465	1,180	234	91	80	98	441
11	16,601	3,269	431	2,067	1,341	1,160	221	108	83	119	454
12	16,255	3,380	369	2,080	1,268	1,320	212	85	81	107	460
1ヶ月平均	15,628	3040	362.5	1967.5	1276.6	1183.5	207.9	84.25	81.5	105.8	503.9
設置台数(台)	4	5	3	2	1	3	2	1	1	1	1
合 計	187,527	36,480	4,350	23,610	15,319	14,202	2,495	1,011	978	1,270	6,047

マンモグラフィ 約 2,000 件/年、 CT3D処理 約 26,000 件/年

平成 29 年度研究活動

- 1、沼端 健人、平入 哲也、阿瀬川 敏:眼窩 CT 撮影時の高信号アーチファクト低減の検討
第 22 回静岡県放射線技師学会大会 静岡県沼津市 2017.05.28
- 2、上半 隼也、原 保和、七尾 光広、阿瀬川 敏:コニカミノルタ Aero DR Oneshoto 長尺システムの物理評価及び、視覚評価 第 22 回静岡県放射線技師学会大会
静岡県沼津市 2017.05.28
- 3、沼端 健人、平入 哲也、阿瀬川 敏:眼窩 CT 撮像時の高信号アーチファクト低減の検討
第 33 回日本診療放射線技師学会大会 北海道函館市 2017.09.22
- 4、平入 哲也、阿瀬川 敏:バックボード上体幹部撮像時における Dual energy CT の有用性の検討
第 5 回日本 CT 技術学会 石川県金沢市 2017.06.24
- 5、杉山 拓也、篠田 雅弘、田爪 健二、平入 哲也、清水 匡大、武川 彰宏、阿瀬川 敏:
当院の急性期脳梗塞における再開通療法の現状と時間短縮に向けた検討
第 20 回日本救急医学会中部地方学会大会 岐阜県高山市 2017.11.18
- 6、武川 彰宏、田爪 健二、杉山 拓也、坂元 慎介、落合 史朗、永徳 一真、原 保和:
当院の胃静脈瘤塞栓術前 CTAP 撮影において 第 11 回静岡 IVR 懇話会 静岡県静岡市 2017.11.25
- 7、吉原 綾乃、七尾 光広:新生児病室ポータブル撮影における放射線防護の検討 平成 29 年
度静岡県放射線技師会東部地区会 静岡県 三島市 2018.01.27

業務拡大に伴う統一講習終了

篠田 雅弘	大宮 真	小野 直人	
愛甲 泰久	長谷川 公彦	落合 史朗	
杉山 正則	坂元 慎介	有坂 英里	
七尾 光広	伊藤 周子	佐藤 朗	上半 隼也

資 格

認定団体

第 1 種放射線取扱主任者	3 名	国 家
第 1 種放射線作業環境測定士	3 名	国 家
第 2 種放射線作業環境測定士	3 名	国 家
臨床実習指導教員	2 名	日放技
放射線治療専門技師	1 名	放射線治療専門技師機構
放射線治療品質管理士	1 名	放射線治療品質管理機構
救急救命撮影認定技師	2 名	日本救急救命技師認定機構
肺癌 CT 健診認定技師	1 名	肺癌 CT 健診認定機構
X 線 CT 認定専門技師	5 名	日本 X 線 CT 認定専門技師認定機構
血管撮影・インターベンション専門放射線技師	3 名	日本血管撮影・IVR 専門 7 技師認定機構
健診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師 B 認定	6 名	マンモグラフィ健診精度管理中央委員会
Ai 認定技師	2 名	日放技
PET/CT 研修終了技師	5 名	日本核医学学会
放射線管理士	2 名	日放技

医療画像情報精度管理士	1 名	日放技
放射線機器管理士	1 名	日放技
日本放射線技師格アドバンス放射線技師	3 名	日放技
医療福祉学研究科修士	1 名	国際医療福祉大学
保健衛生学修士	1 名	金沢大学

次年度計画

- 早朝出勤による、一般撮影の全科患者さんへの提供
- 他部署との連携等の環境が整い次第休日出勤による CT,MRI、骨密度等の検査提供
- 災害対策の一環とし、放射線室内連絡網の連絡訓練
- 学会または、研究会への積極的な参加と 10 例以上の研究発表
- 放射線室内研究発表会の継続と受講
- 複数の認定技師養成(女性技師 5 名のマンモ認定 A 認定の取得)

以上を次年度目標とし、達成された目標は継続。達成が未完であった場合は更なる目標に追加する。

3-4 検査室

業務内容

日常業務

中央検査室では、臨床検査技師²26名と看護師3名(採血業務)で下記の検査業務を行なった

- 1、検体検査(生化学・血液・凝固機能・免疫血清・尿一般・細菌)
早朝より当直技師と早出技師で緊急検査対応
- 2、生理機能検査(循環機能・呼吸機能・脳波・聴力・心臓超音波・腹部超音波)
- 3、病理検査(組織診・細胞診)
- 4、採血(早朝7時より4名から6名体制で開始)
- 5、輸血検査(製剤管理、交差適合試験)
- 6、当直体制を検体検査と輸血管理・検査の2名体制

活動状況

- 1、第65回日本輸血細胞治療学会発表(土屋)
- 2、静岡県標準化事業 第18回・第19回東部意見交換会開催(児玉)
- 3、順天堂6病院情報交換会を行ない業務の標準化等を進める
- 4、毎月1回の勉強会(知得会)の開催 検査室若手技師発表
- 5、日本臨床検査標準協議会より精度保証施設認証
- 6、感染対策研修会発表(鈴木美)

資格取得

- | | |
|------------------|---------|
| 1、心電図認定技師 | 1名 |
| 2、2級臨床検査士資格(延べ数) | 20 認定取得 |
| 3、細胞検査士 | 3名 |
| 4、超音波認定技師 | 2名 |
| 5、有機溶剤作業主任者 | 1名 |
| 6、緊急検査士 | 3名 |
| 7、衛生工学衛生管理者 | 1名 |

業務実績

平成 29 年度検査件数

	検体検査数	病理検査数 細胞診数	生理検査数 腹部エコー数	採血件数	委託検査数	総検査数
4 月	327,994	1,016	3,607	8,283	11,346	352,246
5 月	355,450	1,040	4,521	8,266	12,271	381,548
6 月	361,227	1,240	4,546	8,630	13,953	389,596
7 月	347,915	1,167	4,008	8,577	12,860	374,527
8 月	358,288	1,230	4,236	9,095	13,132	385,981
9 月	350,739	1,233	4,109	9,169	13,244	378,494
10 月	357,449	1,203	4,250	8,857	13,564	385,323
11 月	366,174	1,250	4,170	8,955	13,154	393,703
12 月	357,487	1,253	4,277	8,899	13,714	385,630
1 月	367,041	1,134	4,181	8,753	11,997	393,106
2 月	345,440	1,156	4,183	8,745	14,092	373,616
3 月	376,873	1,255	4,413	9,626	14,814	406,981
計	4,272,077	14,177	50,501	105,855	158,141	4,600,751
平均	356,006	1,181	4,208	8,821	13,178	383,396

検体検査数の内訳

	生化学	血清	一般	輸血検査 血型	血液 凝固	細菌	計
4 月	239,825	32,238	7,936	3,107	39,896	5,092	328,094
5 月	257,382	33,459	9,173	3,284	46,763	5,389	355,450
6 月	257,761	35,365	8,847	3,157	50,771	5,326	361,227
7 月	254,662	34,104	8,543	3,286	42,258	5,062	347,915
8 月	261,767	34,836	8,925	3,451	43,539	5,770	358,288
9 月	256,219	33,521	10,188	3,283	42,457	5,071	350,739
10 月	260,177	34,982	8,733	3,656	44,310	5,591	357,449
11 月	267,966	34,297	9,531	3,431	45,799	5,150	366,174
12 月	260,733	34,100	8,753	3,577	44,865	5,459	357,487
1 月	268,376	35,170	8,792	3,609	45,697	5,397	367,041
2 月	252,781	33,254	8,348	3,964	42,244	4,849	345,440
3 月	276,220	36,194	9,473	3,459	45,871	5,656	376,873
計	3,113,869	411,520	107,242	41,264	534,470	63,812	4,272,177
平均	259,489	34,293	8,937	3,439	44,539	5,318	356,015

次年度目標

- 1、採血待ち時間、迅速検査結果報告時間の短縮を図る
- 2、学会発表、院内研修会発表、検査室内発表を活発に行う
- 3、各種認定資格取得(各認定検査技師、各 2 級臨床検査士)を目指す

3-5 手術室

業務実績

1) 手術件数の推移

昨年度より手術件数としては、300 件の増加であった。手術室稼働率は 68.1%であり、稼働状況は良好であると考えられる。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 25 年度	595	548	585	654	657	558	676	595	609	570	567	617	7,231
平成 26 年度	575	572	630	621	655	576	652	559	609	592	578	668	7,287
平成 27 年度	628	547	631	646	658	578	650	579	604	590	633	689	7,433
平成 28 年度	666	656	728	698	705	671	670	619	657	647	652	657	8026
平成 29 年度	587	626	703	691	743	715	735	691	704	678	717	736	8326

2) 手術室の有効利用

手術のインターバルの短縮をはかり、手術室の稼働率は良好であった。病棟からの手術出しの遅延も少なくなってきたおり、定刻の手術時間には開始できている。今後も各部門と連携し有効利用に努める。また、手術枠の調整も視野に入れて手術室有効利用を検討していく必要がある。

3) 手術室看護師の業務効率化

業務委託の拡大と共に、器械出しの器材、衛生材料のピッキング業務を委託し看護師の業務の効率化に繋がっている。今後も、業務効率化のために業務の評価、修正を適宜行っていく。また、業務の効率化を図るため、ルール of 可視化を行い、マニュアルの見直し修正を継続している。今年度はキットの細分化により効率もあがっている。

4) 手術室看護師の知識と技術向上

手術室看護師に必要な専門的知識、周手術期の看護力向上のため、各科医師、麻酔科医師、コメディカルと連携をとり学習会の回数を増やした。知識、技術の向上のためには、適切に OJT が行える指導者育成が課題である。また、術前術後訪問、術前カンファレンスを行い、安全で安心な周手術期看護が提供できるようにする。

5) コスト削減の推進

各診療科、用度課と連携をとり、手術室内の診療材料、衛生材料などの在庫の見直しを行った。

次年度目標

1) 手術室の有効利用

インターバルの短縮、各部門との連携を図り、手術室利用の向上に努める。手術枠の調整や手術予定表と看護師の配置を調整し、効率的な業務を管理する。

2) 手術室看護師の能力の向上

平成 30 年度手術室ラダーの開始により、個々のスキルアップ、目標の指標とする。ラダーの活用により、個々の能力を可視化し、目標設定ができる環境を整える。

また、各種マニュアルの見直しを行い、マニュアル活用により危機管理、感染対策、安全対策を整え安全に手術が遂行されるように環境整備をする。

3) コスト削減の推進

各診療科、用度課と連携をとり、手術室内の診療材料、衛生材料などの在庫の見直しを行う。看護師がコスト意識を持ち責任のある物品管理ができる。

3-6 血液浄化センター

業務内容

腎臓内科専門医師 4 名・看護師 8 名・医療工学技士 9 名、看護助手 1 名により運営された。移動困難な重症例は病室へ出張し、血液浄化療法を施行した。合併症の加療のため入院した維持透析患者の血液透析の管理を行い、他科からの依頼による単純血漿交換・二重濾過血漿分離交換・エンドトキシン吸着・血液吸着・顆粒球吸着などの血液浄化療法および腹水の濃縮還元療法を行った。近年、外科領域・神経内科・膠原病内科などにおけるエンドトキシン吸着・二重濾過膜血漿交換・血液吸着などの件数が増加し、血液浄化療法の適応が拡大している。

診療実績

	HD	ECUM	PMX	PE	DFPP	血漿吸着	血液吸着	CHDF	CART	合計
24 年度	5,332	135	51	30	32	76	18	666	33	6,373
25 年度	5,752	71	94	29	64	65	21	608	64	6,768
26 年度	5,981	122	101	56	37	52	29	572	72	7,022
27 年度	5,136	120	137	56	7	52	90	838	84	6,520
28 年度	6,006	62	136	27	5	29	164	968	58	7,455
29 年度	5,650	80	168	56	31	144	161	1021	77	7,388
合計	33,857	590	687	254	169	366	483	4,673	388	41,526

研究・教育活動

図書

1. 清水 芳男 4 かゆみ 内科外来診断 navi 富野 康日己編 p9-11, 中外医学社 東京 2017

学会発表

1. 肥後 雅秀、中野 岳彦、高橋 和弘、尾藤 史康、久保田 京子、久保田 真二、大原 和久、磯部 裕紀、渡邊 大貴、清水 芳男. 低体温循環停止法における下肢循環停止時間と血清クレアチニンおよび尿量との関連. 第 50 回静岡県腎不全研究会. 2017 年 9 月 17 日. 静岡市もくせい会館
2. 清水 芳男、若林 啓一、林 陽子、戸塚 絢子、青山 留未、柳川 宏之. 薬疹と内シャント閉

次年度目標

業務では、血液浄化実施件数は 7,388 件であり、引き続き 7,000 件を超えている。他院からの血液浄化療法依頼に積極的に対応し、院内での透析導入数、血液透析以外の浄化療法の件数が大幅に増加したことによると考えられる。高齢者の透析導入が全国的に増加しており、転倒や抜針事故などに配慮し、さらなる医療安全の確保に努める。

研究活動では、臨床工学技士による発表が行なえた。一方、医師からの業績が少なかったことが、反省点としてあげられる。現在、投稿および準備中のものも含め、平成 30 年度には、研究業績を増やすことにも力を注ぎたい。

3-7 臨床工学会

業務内容

人員：医師 1 名、臨床工学技士 11 名

◆血液浄化業務

- ・血液透析(HD)・血液濾過透析(HDF)・単純血漿交換(PE)・二重膜濾過血漿交換(DFPP)
- ・持続的緩徐式血液濾過透析(CHDF)・エンドトキシン吸着(PMX)・顆粒球吸着療法(GCAP)
- ・白血球除去療法(LCAP)・腹水濾過濃縮再静注療法(CART)・各種血液および血漿吸着療法

◆心臓カテーテル検査室業務

- ・心臓カテーテル検査時の IVUS 等の操作業務や IABP・PCPS の操作業務
- ・ペースメーカー・ICD・CRTD 等の埋め込み業務やプログラマー操作業務
- ・ペースメーカー外来でのプログラマー操作業務

◆手術室業務

- ・人工心肺装置操作業務・自己血回収装置操作業務・X投透視診断装置(C アーム)補助業務
- ・術中モニタリング業務・麻酔器及び各種機器の保守点検業務

◆高気圧酸素療法業務

◆医療機器中央管理業務

- ・人工呼吸器(成人用 40 台 小児新生児用 16 台)・シリンジポンプ 255 台・輸液ポンプ 225 台

◆各機器点検業務

- ・人工呼吸器始業点検業務・輸液ポンプ・シリンジポンプ始業点検業務
- ・手術室内各機器の始業点検業務・新生児センターの保育器・人工呼吸器始業点検業務
- ・ドクターヘリ搭載機器動作確認点検業務・ドクターカー搭載機器動作確認点検業務

業務実績

血液浄化業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
HD	494	499	469	451	427	461	434	460	424	495	537	499	5650
ECUM	10	8	7	4	6	6	2	4	8	14	4	7	80
PMX	15	3	10	10	14	4	16	10	21	20	20	25	168
PE	14	0	2	7	3	5	3	4	4	7	7	0	56
DFPP	1	3	3	5	2	0	0	0	3	7	3	4	31
PA	6	9	9	16	37	12	24	5	16	1	1	8	144
HA	9	25	11	14	15	11	25	28	7	2	2	12	161
CHDF	99	109	53	40	36	62	107	40	93	132	107	143	1021
CART	6	10	5	8	4	5	6	4	3	5	14	7	77
合計	654	666	569	555	544	566	617	555	579	683	695	705	7388

心臓カテーテル室業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ポリグラフ	CAG	29	33	32	27	19	18	37	25	30	18	18	14	300
	PCI	58	49	53	56	45	55	51	45	65	61	43	27	608
	PPi	6	11	9	4	13	2	7	9	4	4	6	0	75
	PTA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右心カテ	2	3	4	0	1	1	0	2	0	4	5	3	25
	左心カテ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	両心カテ	2	1	1	3	0	1	4	0	2	0	0	3	17
	EPS	2	4	6	4	7	5	8	9	6	5	10	3	69
	Abration	1	2	1	1	2	3	5	3	3	4	6	0	31
	IVUS	61	53	54	56	57	57	59	55	65	65	50	26	658
	FFR	27	29	35	25	19	21	35	19	27	12	13	8	270
	OCT	2	10	9	4	5	7	3	1	4	2	1	2	50
	Rota	7	4	2	4	1	3	3	3	2	0	0	3	32
	CROSSER	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	IABP	14	6	4	8	5	3	5	5	8	14	11	7	90
	PCPS	5	1	0	1	3	2	2	1	4	3	1	3	26
Pacemaker	植え込み	5	9	10	8	8	4	8	9	11	6	9	2	89
	交換	2	2	5	1	1	1	4	1	0	3	2	3	25
ICD	植え込み	1	1	0	0	1	1	1	2	0	0	1	1	9
	交換	2	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5
CRT	植え込み	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	4
	交換	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	ILR	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	2	0	6
	SICD	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	合計	226	221	226	202	189	185	234	191	235	201	180	105	

人工心肺装置操作業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	11	10	5	9	10	11	15	13	10	11	14	7	126

高気圧酸素療法業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	12	8	64	49	28	16	16	53	32	33	44	27	382

次年度目標

平成 29 年度の各種臨床業務件数は全ての業務が前年度と比較して増加傾向であった。

血液浄化業務や心臓カテーテル室業務件数が臨床工学室業務の中で多くの業務量を占めている。

例年、多忙な業務状況となっているが各臨床業務の対応として下記の各項目を平成 30 年度の検討事項及び目標事項とする。

◇臨床業務件数増加に対応するため、増員及び各業務の人員配置人数の再検討を行う。

◇現在の保守管理機器以外に必要な機器の再検討を行い、安全な医療機器を提供する。

◇手術室機器保守管理および臨床業務の内容を検討して、手術室業務の充実を図る。

◇時間外労働を減少するために、勤務体制の検討をして労働環境の改善を行う。

◇個人の能力向上のため、積極的に各種認定技師資格を取得できる環境をつくる。

◇関連学会に積極的に参加して知識及び技術の向上を習得する。

3-8 輸血室

業務内容

輸血室は平成 28 年度から新たな体制となり、現在、輸血検査 (ABO・Rh 血液型、交差適合試験、不規則抗体スクリーニング、不規則抗体の同定)、輸血製剤の管理 (赤十字血液センターへの輸血製剤の発注、輸血製剤の在庫管理・払い出し、自己血の保管管理・払い出し)、末梢血幹細胞の凍結保管管理の業務を行っています。輸血製剤を払い出す時は使用する単位数のみ払い出すようにしています。払い出された輸血製剤が使用されない場合には品質劣化を防ぐために 30 分以内に返却することになっています (「30 分ルール」の導入)。また、緊急時の O 型赤血球輸血に対応するための「緊急輸血セット」の運用を開始しました。大量出血時のフィブリノーゲン補充のためにクリオプレシピテートの院内調製を開始しました。新生児の輸血に対応するために赤血球製剤の小容量バッグへの小分け分離業務を開始しました。

業務実績

年間輸血検査件数

- ・血液型検査 (ABO、Rh) 10475 件 (時間外 2684 件)
- ・不規則抗体検査 9046 件 (時間外 2102 件)
- ・交差適合試験 9785 件 (時間外 3300 件)

年間輸血使用量

赤血球製剤 13325 単位、自己血 348 単位、新鮮凍結血漿 4876 単位、
血小板製剤 18655 単位
診療科別輸血使用量 別表

廃棄 (有効期限切れ、払い出し後の未使用・温度管理不備)

赤血球製剤 99 単位 (廃棄率 1.1 %)
新鮮凍結血漿 64 単位 (廃棄率 1.1 %)
血小板製剤 40 単位 (廃棄率 0.02%)

平成 29 年度 診療科別輸血使用量

	赤血球製剤	自己血	新鮮凍結血漿	血小板製剤
血液内科	3024	0	176	9705
心臓血管外科	2507	0	1848	3390
循環器科	1346	0	462	210
外科	1205	0	340	276
救急診療科	998	0	878	600
整形外科	642	305	112	200
消化器内科	626	0	166	150
産婦人科	672	66	284	300
脳神経外科	650	0	110	240
泌尿器科	338	14	6	410
腎臓内科	228	0	0	20
呼吸器外科	84	0	22	10
呼吸器内科	128	0	12	120
新生児科	53	0	20	0
形成外科	54	0	0	0
麻酔科	666	13	648	220
膠原病内科	56	0	140	20
皮膚科	14	0	0	0
耳鼻咽喉科	6	0	8	0
小児科	2	0	6	0
糖尿病・内分泌内科	26	0	4	0
脳神経内科	132	0	140	52
眼科	0	0	0	0
放射線科	0	0	0	0
メンタルクリニック	12	0	10	0
計	13469	398	5392	15923

次年度目標

緊急輸血や大量輸血への対応も含めて輸血の適正使用を実践するための整備を少しずつ進めることができました。今後は自己血輸血についても安全で適正な自己血採血が実施されるように体制の整備を進めたいと考えています。また、輸血検査についても一層のレベルアップを図りたいと考えています。

研究活動

学会発表(国内)

1. 土屋明実、岩尾憲明、小池道明

「当院における新鮮凍結血漿 (FFP) の適正使用に向けた取り組み」

第 65 回 日本輸血・細胞治療学会総会(平成 29 年 千葉)

3-9 看護部

【理念】

私たちは「仁」の心をもって、患者さんご家族が満足できる最善の看護をめざします。

【基本方針】

1. 専門職としての倫理を遵守し、思いやりのある看護を実践します。
2. 根拠に基づく安全な看護を提供します。
3. 教育・実践・研究を通して看護の発展に貢献します。
4. 他の医療職者と協働し、健全な病院運営に参画します。

【ビジョン】

大学附属病院、基幹病院(救急・高度・特殊・専門・地域医療など)としての機能強化し、看護の質向上を目指す。

【H29 年度 目標】

1. 決められたルールを守り、患者さんに安心安全な看護を提供する。
2. 患者・家族の意思決定を支援し、つながる看護を行う。
3. 認め合い、支えあえる職場環境をつくる。

【H29 年度 目標の評価】

目標1に関しては、誤薬発生率は 2.08%から 1.85%へと減少した。与薬、転倒・転落事故予防手順の周知に取り組み、85%の部署で周知できたことが要因と考える。膀胱留置カテーテル感染率は、15 部署中 12 部署で前年度より感染率は下がった。サーベランスは、各部署カンファレンスを活用し、抜去のタイミングを判断できるようになったことが要因と考える。手指衛生遵守率は 70%達成した部署は 24 部署中 1 部署で、手指衛生の意識の低いスタッフの意識向上が課題である。クリニカルパスの電子化は 100%達成できた。パス使用率は 40.3%で目標の 45%は達成出来なかった。パス使用率の低い診療科は検証会を開き、パス使用率向上を目指す。

目標2に関しては、介護支援連携指導書は 170 件から 191 件へ、退院時共同指導書は 140 件から 169 件へと増加した。退院支援委員会で事例検討を通し、病棟看護師と退院支援看護師とのコミュニケーションが向上し退院支援の増加につながったと考える。外来、病棟連携は、カンファレンスが開催できるようになり目標の 130 件を達成した。しかし、カンファレンスができない部署もあり、カンファレンスが開催できる環境づくりが課題である。次年度は、さらに外来、病棟連携を強化し、外来より入院支援ができるシステム構築に取り組む。

目標3に関しては、H26 年度よりワークバランス INDEX 調査を実施し、明らかとなった課題の中から「勤務が終われば気兼ねなく帰れる」に焦点をあて取り組み「気兼ねなく帰れる」は 51.9%から 57.5%と帰宅しやすい環境へと改善している。超過勤務時間は、外来部門では月 1 人平均 15 時間以内であった。病棟部門は病棟間で差があり目標値を達成できなかった。次年度は超過勤務時間とタイムカードの乖離是正に取り組む。離職率は 10.8%から 10.2%と減少した。早期離職率(新卒 1 年以内の離職)は 2.5%から 9.0%へと上昇し、正規職員への

採用不可が要因であった。

次年度は各自に課せられた役割を自覚し、時間管理を行い、地域連携を強化し最善の看護が提供できるよう取り組んでいく。また、スタッフが働きがい、働きやすさを感じられるよう職場環境を整えていきたい。

平成 29 年度 看護部 BSC

	戦略目標	重要成功要因	成果指標	目標値	結果
財務の視点	病院運営に 参画	看護が 関係する 収益の向上	平均在院日数 病床利用率 救命センター 算定率	11 日以下 97.4%以上 53.2%以上	11.8 日 97.9% 58.1%
顧客の視点	患者・職員 満足度の向上	安心・安全な 療養環境の 提供 職員満足度の 向上	患者認証実施 誤薬発生率 転倒・転落率 中心静脈カテーテル関連血 流感染率 尿道留置カテーテル関連尿 路感染率 手指衛生遵守率 褥瘡推定発生率 早期離職率 離職率 超過勤務時間 ワークライフバランス INDEX 調査	0 件 2.05‰以下 1.44‰以下 改善した部署 1/3 改善した部署 8/15 70%以上 1.16%以下 2 名以内 (2%) 10%以下 15 時間 20 分 気兼ねなく帰れる 52%以上	3 件 1.85‰ 1.56‰ 3/4 12/15 達成部署 1/26 1.24% 6 名 (9%) 10% 15 時間 05 分 気兼ねなく帰れる 57.5%
業務プロセスの視点	チーム医療 の実践	多職種との 連携の向上	介護支援連携指導書 退院時共同指導書 医科歯科連携 リンパ浮腫指導件数 糖尿病指導件数 母乳外来件数 フットケア実施数	170 件以上 140 件以上 50 件以上 50 件以上 50 件以上 10 件/月 新規 12 件/月 平均	191 件 169 件 69 件 156 件 377 件 15.8 件/月 16.6 件/月

学習と成長の視点	専門職としての知識・技術の向上	臨床実践能力向上	ラダー看護実践力調査	ラダー別 A 評価 80%以上	ラダーⅠ 91.5% ラダーⅡ 88.9% ラダーⅢ 79.4% ラダーⅣ 80.8%
		自己教育力の向上	個人目標達成度	80%以上	75.7%
			看護研究発表者	15 題以上	26 題
			雑誌投稿者数	5 名以上	2 名
			院外研修参加数	57%以上	34.1%

平成 29 年度 看護部委員会 成果と課題

	成 果	課 題
医療安全	1. 与薬事故件数は目標値 377 件を下回り 244 件と減少した。 2. 与薬、転倒・転落予防手順の周知に取り組み 85%の部署で周知できた。 3. インシデント対策のシンプル化を目指し、KYT を実施、根本原因追求に役立った。	1. 決められたルールを遵守し、点滴に関するインシデントの削減を図る。 2. 転倒・転落事故 3b 以上を減らす。 3. H29 年度の各部署取り組みの課題を次年度に引き続き取り組む。
感染対策	1. CLA-BSI 感染率が昨年より改善した部署が 1 病棟増えた。 2. UTI 感染率が改善した部署は 15 部署中 12 部署と 4 部署増え、カテーテル抜去のタイミングを判断できるようになった。 3. 手指衛生遵守率 70%達成した部署は目標値を大きく下回り、24 部署中 1 部署のみであった。	1. 手指衛生は、意識の低いスタッフの意識改革が課題。リンクナースに任せただけでなく補佐を育成する。 2. 感染管理を皆で実施し、遵守できるよう管理者の協力を得て、実施状況を確認し、指導・教育を継続する。
N S T ・ 褥 瘡	1. 褥瘡発生率は、1.12%と 1%未満の目標は達成出来なかった。 2. NST 件数は目標値 200 件を大きく上回り、720 件に介入できた。 3. 医科歯科連携は 50 件から 69 件へと介入件数は増えた。	1. 医療機器関連損傷が増えているため、次年度は改善できるよう取り組む。 2. リンクナース育成のため、年 2 回褥瘡回診にリンクナースを同行させ、ポジショニングや処置方法を学ぶ機会を設けている。次年度も継続する。
記録・必要	1. 看護計画共有数はリンクナースを活用し強化した。改善はみられたが目標達成には至っていない。 2. 記録の監査では、輸血記録、看護計画共有についてマニュアルを改定した。	1. 看護記録について、基礎、応用、監査についての研修は次年度も継続して行う。 2. 看護計画のマスター修正は継続して行う。 3. 次年度、診療報酬改訂があり、重症度、医療・看護必要度研修会の方法、内容について見直

度	3. 看護必要度は、一般病棟の評価は平均して28%達成できた。	していく。
クリニカルパス	1. クリニカルパスの電子化は 100%達成できた。 2. パス使用率は、40.3%で目標値 45%には届かなかった。 3. 患者用パスは 100 件を達成した。	1. 新規パスの作成を推進し、パス使用率 45%を目指す。 2. パス使用率の低い診療科は検証会を開き、パス使用率を上げる。 3. パスの質を高め医療安全、在院日数削減に寄与できる。
W R B	1. 超過勤務時間は外来部門において目標の 15 時間を下回った。 2. INDEX 調査の結果からは「気兼ねなく帰ることができる」の回答が 51.9%から 57.5%へと5.62%上昇した。	1. 病棟部門でも目標時間達成に向け業務を見直し改善を行っていく。 2. 適正な超過勤務取得に向け、時間管理の意識を持ち退勤時間との乖離を減らしていく。
災害対策	1. 院内ラウンドは計画通り実施できた。 2. 机上シミュレーションは全部署1回のみの開催であった。 3. アクションカードの運用マニュアルを作成した。 4. 災害ミニセミナーは計画通り開催できた。	1. 院内ラウンドを引き続き行っていく 2. 机上シミュレーションの実施計画を見直す。3. アクションカード運用の現状調査を実施し、全病棟で運用できるよう検討する。 4. 委員対象のセミナーを病院全職員対象とし、防災知識の底上げを図る。
退 院 支 援	1. 担当看護師制の課題を明確にし取り組んだ結果、自・他評価ともに上昇。 2. 介護支援連携指導書は 170 件から 191 件へ、退院時共同指導書は 140 件から 169 件へと増加した。 3. 病棟、外来の連携について、CF 件数は 130 件を達成したが、CF を開催していない部署もあった。	1. 在宅スタッフとの連携は、介護支援連携の向上が課題。ケアマネージャーが来院できる環境調整や地域づくり会議、訪問看護実習を通し、顔の見える関係作りを継続する。 2. 病棟、外来との連携は、CFが開催できていない部署の課題を明確にし、CFだ開催できる環境づくりを継続する。
マ ナ ー 向 上	1. 「ご来院皆様の声」苦情は例年に比べ20%と低値であった。苦情内容を自部署に置き換え、カンファレンスを強化した結果である。 2. ナーシングスキルの「医療従事者のための接遇」動画聴講とテストは 84%が実施した。目標の 100%は達成できなかった。 3. 身だしなみ、品位ある対応について部署内の評価結果は、全部署で達成目標をクリアした。	1. ナーシングスキルの「医療従事者のための接遇」を聴講していないスタッフへの教育を実施。 2. 身だしなみ、品位ある対応については、部署で自己・他者評価を実施、評価結果を基に各部署で指導を行う。できていない項目は、ナーシングスキルを活用し学習会を実施。

緩和サポ ー ト	1. リンクナースが、目標を立案することで積極的に緩和ケアが提供できる体制を構築した。 2. スクリーニング件数が増え、院内連携が強化された。 3. 告知・意思決定支援の場でリンクナースが活用され、指導管理料算定増に繋がった。	1. 緩和サポートチームの周知徹底、啓蒙活動実施。 2. リンクナース育成強化。 3. 院内・院外研修に参加できる体制整備。
----------------	---	--

平成 29 年度 看護部責任者・他部門看護師責任者の配置

平成 29 年 4 月 1 日

看護部

病棟	病床数	主な診療科	師長	主任
A棟 3階 3A	20	救命救急センター ICU・CCU	長友 節子	多田 真也・勝間田 敏宏
A棟 5階 5A	33	産婦人科	栗原 未黄	三角 百合子・勝又 理恵
MFICU	6			石井 彰子
A棟 6階 6A	56	脳外・形成・救急診療科	佐々木 史乃	山崎 裕也・飯田 沙耶香
A棟 7階 7A	56	外科・呼吸器外科	山本 希	飯田 敏秀・村田 文明
A棟 8階 8A	52	循環器・心外・血内	三枝 英美	島田 奈津美・綾部 彰美
A棟 9階 9A	36	混合（全個室）	間部 幸	山崎 小百合
B棟 3階 3B	38	耳鼻科・泌尿器・整形・救急	加藤 清美	長谷川 亜弥
B棟 4階 4B	47	脳内・眼科	宮澤 初美	渡邊 光香・森 みどり
B棟 5階 5B	46	整形	藍澤 真澄	瀧田 千草・古屋 曜子
C棟 2階 2C	16	小児科	佐々木 智子	増田 友香・長谷川 智美
C棟 3階 3C	37	消化器内科・外科	鈴木 美佐	加藤 和歌子・土屋 智洋
C棟 4階 4C	33	呼内・腎内・皮膚科	濱口 真知子	渡辺 ひとみ
C棟 5階 5C	44	婦人科・内科系	田村 美紀	山下 安奈
E棟 2階	12	NICU	土井 尚美	大木 直美
新生児センター	18	GCU		田爪 千里
E棟 3階 3E	20	救命救急センター 全科	野澤 陽子	松尾 正人
E棟 3階 3EICU	7	全科 術後ICU	川村 蘭子	鈴木 英子
病棟合計	577	16病棟 18看護単位	16	27

外来部門	ブロック	診療科	師長	主任
A棟 2階・(1階)	A	循環器・外科・心外・呼外 脳外・整形・形成・(泌尿器科)	杉山 希	望月 佳澄
B棟 2階	B	脳神経内科 耳鼻科 小児科	(宮澤 初美) (村田 文明) (佐々木 智子)	三島 めぐみ
A棟 2階	C	消内・血内・腎内 呼内・膠内・糖尿・麻酔科 メンタルクリニック	杉山 希	渡邊 あつ子・神谷 里美
E棟 1階	D	眼科		
A棟 1階		皮膚科	(土井 尚美)	一杉 あけみ
E棟 1階		産婦人科	(栗原 未黄)	
E棟 1階	救急外来		(野澤 陽子)	石倉 美穂子
D棟 地下	検査部門	アンギオ・シネアンギオ		
F棟 1階		回復室・CT室・内視鏡	櫻井 操	
G棟 1階		がん治療・予防医学センター		
F棟 2階		血液浄化センター		
F棟 地下		放射線治療		
A棟 4階・3階	手術・滅菌室		山口 礼	藤本 ゆうこ・内田 佳月
合計			3	8

看護部	役職	氏名	他部門	部門	師長	主任
	部長	堀江 みどり		医療安全推進センター		
	看護総務課 師長	廣瀬 典子		感染対策室		杉山 美和
	入院業務課 課長補佐	荻島 真弓		医療安全管理室	高橋 真紀子	
	外来業務課 課長	矢田 みどり		医療サービス支援センター		
	看護安全管理課 課長	小川 理恵子		医療福祉相談室	山下 小夜子	森 久美
	師長	長富 美恵子				
	看護教育課 課長	堀込 克代		患者・看護相談室	白川 啓子	
				療養支援	仁科 公江	
	役職者数（合計）	67				
	部長・課長	1・3				
	師長	26	(看護部 22 他部門 4)			
	主任	37	(看護部 35 他部門 2)			

3-9 (1) 看護総務課

1. 平成 29 年度採用者

・看護職：78名（助産師1名・看護師77名）

2. 平成 29 年度退職者

・看護職：66名（看護師62名・助産師4名）

・看護補助者：2名

3. 看護職員状況

1) 平成 24 年度～28 年度

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
看護職員 (助産師・看護師・准看護師)	601 名	633 名	680 名	710 名	704 名
退職者数	63 名	71 名	76 名	63 名	73 名
離職率	11.2%	11.9%	11.6%	9.3%	10.8%
早期離職率	8.1%	2.4%	3.4%	1.1%	2.4%

2) 平成 29 年度

職種	4/1 在籍者数	中途採用者数	退職者数	離職率	早期離職率
看護職員(助産師・看護師 准看護師)	705 名	0 名	66 名	11.1%	9.7%
パート看護師(助産師含む)	4 名	0 名	0 名		
介護福祉士	21 名	0 名	0 名		
看護補助者(派遣)					
看護部事務員(派遣)					

3) 専門・認定看護師

(1) 専門看護師 4 名 ・感染看護 1 名 ・慢性疾患看護 2 名 ・老人看護 1 名

(2) 診療看護師 1 名 ・クリティカルケア 1 名

(3) 認定看護師 19 名 ・皮膚・排泄ケア 2 名 ・がん化学療法看護 2 名 ・救急看護 4 名
 ・集中ケア 1 名 ・感染管理 2 名 ・緩和ケア 3 名 ・新生児集中ケア 2 名
 ・がん放射線療法看護 1 名 ・摂食・嚥下障害看護 1 名
 ・脳卒中リハビリテーション看護 1 名

4. 看護職員募集に関する取り組み 平成 29 年度看護師募集活動

- 1) 就職説明会 2 回 ・順天堂大学医療看護学部・順天堂大学保健看護学部
- 2) 病院見学会 4 回 ・他 2 回個別に見学者応対
- 3) オープンキャンパス 3 回 ・順天堂大学保健看護学部 病院見学会 (8/6・7 9/3)

5. ワークライフバランスの取り組み

- 1) 時間短縮勤務は、全員希望を受け入れている。今年度 4 月現在 26 名(看護師 25 名・介護福祉士 1 名)。
平成 30 年 3 月現在 25 名(看護師 23 名・介護福祉士 2 名)。
- 2) 変形労働時間制勤務は新たに 8A 病棟・6A 病棟で開始し 6 部署(3A・3E・3EICU・2C 病棟)で実施。
その他の病棟は 2 交代制勤務を実施しているが、長時間夜勤の改善を検討していきたい。
- 3) INDEX調査の結果より「勤務が終了すれば気兼ねなく帰ることができる」が 57.5%(5.6%改善)に上昇した。「定時で終われる業務である」が 26.0%(2%改善)と低いため、超過勤務の削減など今後も検討していく。

6. 看護補助者・看護事務について

- 1) 看護補助者の定数は 4 月現在、太陽技研 59 名、三幸コーポレーション 6 名、平成 30 年 3 月現在、太陽技研 64 名、三幸コーポレーション 4 名で運用している。急性期看護補助体制加算 25 対1は、平成 30 年 1 月のみ体調不良者などによりクリアできなかった。夜間急性期補助体制加算 100 対 1 は全ての月でクリアできた。

3-9 (2) 看護入院業務課

施設基準に関して

1. 一般病棟入院基本料及び急性期看護補助体制加算等について

- 1) 一般病棟入院基本料7対1・夜間配置加算は、12 カ月を通して取得できた。
- 2) 夜勤 72 時間制限は、1カ月管理では、12 カ月中、2 カ月クリアできなかった。
- 3) 看護職員夜間 12 対1配置加算1について、夜間看護体制評価 7 項目中 4 項目がクリアできている。
- 4) 重症度、医療・看護必要度については、すべての月で一般病棟及び特定病棟共に、基準を達成した。
しかし、病棟ごとにみると月により達成できていない病棟がある。

平成 29 年度 病棟別病床回転率 (数)

1. 一般病棟

病棟名対象科	平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
9A病棟:全科	4.0	3.4	4.4	3.8	4.1	3.8	3.9	4.4	3.6	4.4	3.1	3.4	3.1
8A病棟:循環器・心外・血内	2.1	1.9	2.1	2.4	2.4	2.2	2.6	1.7	2.2	2.6	2.2	1.5	1.6
7A病棟:外科・呼吸器外科	2.8	3.1	3.2	3.5	3.2	3.0	2.6	3.4	3.2	3.4	2.8	2.5	2.5
6A病棟:脳外・形成・救急	1.4	1.3	1.4	1.6	1.4	1.4	1.5	1.4	1.4	1.3	1.2	1.1	1.6
5A病棟:産婦人科	4.6	4.3	4.4	4.4	4.9	4.8	4.3	4.8	4.2	5.0	4.4	3.8	4.6
5B病棟:整形外科	1.2	1.3	1.2	1.5	1.4	1.8	1.3	1.5	1.2	1.6	1.2	1.2	1.6
5C病棟:産婦人科・内科(膠・血・呼・内分泌)	2.0	2.0	2.0	2.0	2.2	2.3	2.1	2.6	2.4	2.6	2.9	2.8	2.2
4B病棟:脳内・眼科	3.1	2.4	2.5	2.9	3.1	3.2	3.1	3.6	3.4	3.4	2.5	2.5	2.6
4C病棟:呼内・腎内・皮膚科	1.3	1.6	1.1	1.7	1.6	1.5	1.9	1.8	1.7	1.7	1.7	1.2	1.6
3B病棟:耳鼻科・泌尿器・整形・救急	2.9	3.1	2.5	3.1	2.9	3.6	3.2	3.4	3.0	3.8	3.1	3.0	3.3
3C病棟:消化器内科・外科	2.4	2.1	2.1	2.4	2.9	2.3	2.4	2.3	2.9	3.0	2.3	2.6	2.7
一般病床	2.4	2.4	2.4	2.7	2.7	2.7	2.6	2.8	2.7	3.0	2.5	2.3	2.5

2. 特定病棟

病棟名対象科	平成28年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2C病棟(小児病棟)	5.7	6.8	5.3	5.4	5.5	6.3	6.3	5.3	5.9	6.1	5.2	5.5	5.5
2E(NICU:12床)	2.3	1.8	2.8	2.9	1.8	3.2	3.2	3.2	3.8	3.0	3.3	2.7	2.8
2G(GCU)	2.5	1.8	2.2	2.6	2.2	3.2	2.7	3.7	3.2	2.7	2.6	2.2	2.5
3A病棟(ICU12・CCU8)	4.8	5.6	5.0	5.9	6.6	6.2	5.1	6.0	4.9	5.4	5.4	3.8	4.4
3E病棟:全科	5.1	5.3	5.3	6.1	6.6	6.6	5.6	5.5	5.1	5.0	4.6	4.7	4.8
3EICU(共有)	12.2	12.0	12.9	12.5	14.8	14.8	12.5	11.5	16.7	14.1	12.9	11.2	11.1
MFICU(6床)	2.3	2.2	2.6	2.2	1.8	2.7	2.7	2.4	1.6	2.4	2.0	2.0	1.7
特定病棟(96床)	4.6	5.1	5.2	5.4	5.6	6.1	5.4	5.4	5.9	5.5	5.1	4.6	4.7

平成 29 年度 入院患者ステージⅢ越えの割合 (点集計 %)

対象病棟	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般病棟	27.7	36.7	30.1	25.8	25.2	25.2	24.7	29.2	24.8	33.6	33.9	27.2
特定病棟	18.3	20.5	23.2	19.0	14.5	17.4	22.9	16.4	20.4	17.9	21.5	19.7

平成 29 年度の病床利用率が 98.4%であることから、ステージⅢ越えの患者の転院・在宅調整を早期より行い、回転数を上げていく必要がある。

3-9 (3) 看護外来業務課

1. 外来看護充実のための取り組み

1) 平成 27 年度「外来看護の可視化」を目的に外来看護記録用紙を作成し 133 件/月から、平成 28 年度は約 1000 件/月、平成 29 年度は 5000 件/月の入力ができ看護記録の定着が図れた。

看護計画立案件数は、平成 28 年度 130 件/年、平成 29 年度 200/件/月と徐々に増えてはいるが外来患者数からの割合は平成 29 年度 8.2%であった。平成 30 は看護計画立案の件数を増やしていく。

2) 泌尿器科外来の透視室を使用する検査や治療を泌尿器科外来看護師業務から、検査室看護師業務に移行し、外来業務の効率化が図れた。

3) 専門分野による看護指導件数

	平成 28 年度	平成 29 年度
母乳外来	271 件(延べ件数)	190 件(新患のみ)
フットケア件数	156 件	199 件
がん患者指導管理料算定件数	管理料(1)82 件 (2)21 件	管理料(1)162 件 (2)34 件
リンパ浮腫指導件数	118 件	156 件
糖尿病透析予防指導件数	76 件	377 件
骨粗鬆症指導件数	1210 件(※)	1582(※)108 件(※※)
間歇導尿指導件数	15 件	17 件
禁煙看護指導件数	—	7 件(平成 30 年 1 月より開始)

※ 学会認定骨粗鬆症マネージャー及び整形外科外来看護師による指導件数

※※ 学会認定骨粗鬆症マネージャーによる指導件数

4) 外来部門各資格者数(平成 29 年度 資格取得者を含む)

- ・がん化学療法看護認定看護師(1 名)
- ・がん放射線療法看護認定看護師(1 名)
- ・リンパ浮腫療法士(1 名)
- ・糖尿病療養指導士・糖尿病学内認定看護師(1 名)
- ・学会認定骨粗鬆症マネージャー(1 名)
- ・学会認定内視鏡検査技士(5 名)
- ・学会認定・臨床輸血看護師(3 名)
- ・快適 CIC 指導士(間歇導尿指導)(2 名)
- ・静脈注射造影剤コース院内認定看護師(3 名)
- ・日本禁煙学会禁煙認定指導看護師(2 名)

【平成 29 年度 資格取得者】

- ・日本禁煙学会禁煙認定指導看護師(1 名)
- ・アレルギー・リウマチ相談員(1 名)

2. 外来待ち時間調査実施

1) 実施期間

平成 30 年 2 月 13 日(火)～19(月)

・現在集計中にて結果を基に平成 30 年度取組みを計画していく。

手術室

- 1) 平成 29 年度の年間手術件数 8326 件、定時外も含む稼働率は、89.9%であり、昨年度より 300 件/年増加している。

手術室を効率よく運用するために、術間清掃内容や人員、部屋準備時の看護補助者業務の見直し等委託業者の協力を得、術間のインターバルを 20 分から 15 分に短縮した。

- 2) 平成 28 年度、手術室での褥瘡発生件数は 22 件であった。平成 29 年度は 20 件、このうち術中発赤重症化件数は 0 件であった。今後も皮膚・排泄ケア認定看護師指導のもと、各科ポジショニングマニュアル、褥瘡ケア用品の活用をおこない褥瘡予防に努めていく。
- 3) 手術室の物品管理は、師長・手術室事務員・SPD と 3 つの窓口があったが、今年度 7 月より物品管理を SPD 業務に移管したことにより手術 1 件当たり 1.1%のコスト削減ができ、物品管理を一元化したことにより請求もれがなくなった。また看護師が行っていた受払いと納品確認、期限切れチェックなども移管でき、今までそれに費やしていた時間を他の看護業務に使えるようになった。
- 4) 平成 30 年度手術ロボット(ダビンチ)が導入予定となり、医師・看護師共に学習会や周辺環境の確認・準備を行っている。

滅菌室

- 1) 今年度、日本ステリ株式会社から株式会社リジョイスカンパニーへ業者変更となり、変更直後は業務が安定せず、インシデントが多発した。その後、徐々にインシデントが減少し業務も安定し、業者からは後期にかけて教育システム強化の提案があり実施中。今後、質の向上が期待できる。

3-9 (4) 看護教育課

業務内容

1. 平成 29 年度 現任教育必修研修一覧

月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容（教育要綱参照）	単位	担当者*担当責任者
4	5（水）	8:00～16:10	新人看護職員研修	オンユアマーク研修1-①	オリエンテーション	4	教育課・他
	7（金）	8:30～16:40		オンユアマーク研修1-②	オリエンテーション	4	
	8（土）	8:30～16:40		オンユアマーク研修2-②	看護技術	4	
	9（日）	8:30～16:40		オンユアマーク研修2-②	看護技術	4	
	15（土）	午前9:00～12:00 午後13:15～16:15（午前午後入れ替え制）		オンユアマーク研修4	重症度・看護医療必要度研修	2	加藤・他
	19（水）	8:00～16:10		オンユアマーク研修5	オリエンテーションまとめ・メンタルヘルス	4	教育課・他
	27（木）	午前9:00～11:30 午後12:30～16:00（午前午後入れ替え制）		医療安全研修	誤薬防止・転倒転落予防		看護安全管理課・医療安全委員会
5	2（火）	午前 8:30～12:00 午後13:00～16:30（午前午後入れ替え制）	Iを目指す職員	実地指導者研修	実地指導者（エルダー）になるための学習	2	三角・教育課
	9（火）	17:15～18:30	IIを目指す職員	事例研究	研究方法論・文献検索方法	1	田爪・杉山
	9（火）						
	10（水）						
	11（木）						
	19（金）	8:30～12:00	IIIを目指す職員	実習指導者研修（1回目）	実習指導者の役割について	2	村田・長谷川・長谷川亜・鈴木由
	16（火）	9:00～16:10	IV以上を目指す職員	エキスパートコース（1回目）	SWOTを用いた現状分析	4	教育課・他
	19（金）	17:00～18:00	介護福祉士	ケーススタディー説明会	方法・スケジュール・発表方法について	1	教育課・他
	22（月）	午前 9:00～12:00 午後13:00～16:00（午前午後入れ替え制）	看護補助者	看護補助者技術研修	ベッドメイキング・環境整備	2	勝又理・内田佳
	23（火）						
6	1（木）	午前 9:00～12:20 午後13:20～16:40（午前午後入れ替え制）	新人看護職員研修	新採用者研修	フィジカルアセスメント	2	瀬田・渡辺あ・藤本・石田雄・（予定）土佐谷・田上・黒田・内田千・鈴木め・阿部・鬼塚・中村沙・野中
	2（金）	午前 8:30～12:00 午後13:00～16:30（午前午後入れ替え制）	IIを目指す職員	リーダーシップ研修2	後輩の成長を支援する指導者となるために	2	加藤和・増田
	5（月）						
	6（火）						
	9（金）						
	20（火）	17:00～18:30	介護福祉士	介護福祉士研修	口腔ケア・食事介助	1	山口嘉・摂食嚥下学内認定
	21（水）						
	26（月）	8:30～16:10	新人看護師以外	学内認定看護師教育課程静脈注射コース（1回目）		認定後4	石井・山崎裕・三島・石倉・教育課
	27（火）	17:00～18:15	新人看護職員研修	退院支援・連携			森
	28（水）						
	29（木）	17:00～17:45	IIIを目指す職員	他部署留学1	他部署研修説明会	1	教育課
	30（金）						
7	4（火）	8:30～12:00	IV以上を目指す職員	看護倫理1	看護実践に必要な倫理	2	大木・長富
	5（水）	午前 9:00～12:20 午後13:20～16:40（午前午後入れ替え制）	新人看護職員研修	看護記録基礎	看護過程1	2	古屋・記録委員会
	6（木）						
	13（木）	8:30～16:40	III	リーダーシップ研修3	問題解決技法	4	土屋智・鈴木英・松尾
	19（水）	午前 9:00～12:00 午後13:00～16:00（午前午後入れ替え制）	新人看護職員研修	新採用者研修	多重課題・3カ月の振り返り	2	山崎小・渡辺ひ・山田菜
	21（金）						
9	5（火）	午前 9:00～12:20 午後13:20～16:40（午前午後入れ替え制） *9月7日はAMのみ	Iを目指す職員	退院支援研修・看護記録応用	退院支援について・看護過程2	1	森・山下安
	6（水）						
	7（木）						
	11（月）	8:30～16:10	新人看護師以外	学内認定看護師教育課程静脈注射コース（2回目）		認定後4	石井・山崎裕・三島・石倉・教育課
10	4（水）	午前 8:30～12:00 午後13:00～16:30（午前午後入れ替え制）	新人看護職員研修	救急看護	急変時の対応・机上シミュレーション 救急カートについて	2	飯田秀・綾部・神谷・望月佳
	5（木）						
	17（水）	午前 8:30～12:00 午後13:00～16:30（午前午後入れ替え制）	IIIを目指す職員	看護記録応用	記録の監査方法・指導	2	多田・記録委員会
	18（木）						
11	17（金）	17:00～18:30	IIIを目指す職員・その他	実習指導リフレクション研修	平成26年度受講生と指導の経験を語る会	1	村田・長谷川・長谷川亜・鈴木由
	22（木）	17:00～18:30	介護福祉士 全員参加	ケーススタディー・研修報告会	ケーススタディー発表・研修報告	1	教育課
	27（月）	8:30～16:10	新人看護師以外	学内認定看護師教育課程静脈注射コース（3回目）		認定後4	石井・山崎裕・三島・石倉・教育課
12	1（金）	午前 8:30～12:00 午後13:00～16:30（午前午後入れ替え制）	新人看護職員研修	エンゼルケア	逝去時の看護	2	渡邊光・一杉・緩和認定予定（中村・渡辺・高島）・古橋/田代
	6（水）						
	11（月）	10:00～16:40 （受講人数によって変更あり）	IIを目指す職員	事例研究	事例研究発表会	4	田爪・杉山
	12（火）						
	14（木）						
	20（水）	13:00～16:10	IV以上を目指す職員	エキスパートコース（2回目）	成果発表	2	教育課

1	19 (金)	8:30~16:10	Ⅲを目指す職員	リーダーシップ研修3	問題解決技法成果発表	4	土屋智・鈴木英・松尾
	26 (金)	13:00~16:10	Ⅳ以上を目指す職員	看護倫理2	事例発表会	2	大木・長富
	31 (水)						
2	1 (木)	9:00~16:40	新人看護職員研修	メンバーシップ研修	メンバーシップ・1年間の振り返り	4	島田・勝間田
	2 (金)						
	15 (木)	13:00~16:30	Ⅲを目指す職員	他部署留学2	成果発表	2	教育課
3	5 (月)	8:30~16:10	新人看護師以外	学内認定看護師教育課程静脈注射コース (4回目)		認定後4	石井・山崎裕・三島・石倉・教育課
	7 (水)	午前 9:00~12:00 午後 13:30~16:40 (午前午後入れ替え制)	Ⅰを目指す職員	リーダーシップ研修1~2	リーダーになるための心構え	2	森み・飯田紗
	8 (木)						
	16 (木)	8:30~12:30	Ⅲを目指す職員	臨床実習指導者研修 (3回目)	実習指導実施報告会	2	村田・長谷川・長谷川 ^註 ・鈴木 ^註

平成 29 年度 キャリアアップ研修計画

【看護教育研究会】												
月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容（教育要綱参照）	単位	担当者					
9	13（水）	17:00～18:30	Ⅲ・Ⅳ	看護教育研究会（1回目）	伝達講習・研究・取り組み発表	発表者3 部属者1	教育課					
2	28（水）			看護教育研究会（2回目）	伝達講習・研究・取り組み発表							
【アラカルトコース】＊期日未定のコースは決定次第各部署へお知らせ予定												
月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容	単位	担当者					
未定		17:00～18:30	Ⅱ以上	看護研究1	看護で使える統計学	1						
			Ⅲ以上	看護研究2	論文クリティーク							
【中間管理者コースⅠ/ベーシック】 ＊主任昇格予定者受講必修研修												
月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容	単位	担当者					
6	14（水）	17:00～18:45	ラダーⅣ・管理Ⅰ（主任）＊本年度ファーストレベル受講予定者除く	中間管理者になるために	組織における看護部の役割・管理者の役割	全出席 10						
7	26（水）				社会保障制度・診療報酬							
9	20（水）				目標管理・看護と経済							
10	18（水）				人材育成・実践計画書記載方法							
11	15（水）				メンタルヘルス・労務管理							
12	20（水）				医療安全管理							
1	24（水）				退院支援・連携							
2	21（水）				看護倫理							
H30年4月実践報告					実践計画発表							
H31年2月実践報告					実践報告							
【専門看護コース】												
1. 退院支援、連携研修												
月	日	研修時間	ラダー	研修名	研修内容	単位	担当者					
6	27（火）	17:00～18:30	各部署にてチームリーダーを担うスタッフ	退院支援・退院調整	要項参照	全出席 9	退院支援					
7	25（火）											
10	24（火）											
12	19（火）											
2. 急変対応シュミレーションコース												
月	日	研修時間	受講予定部署		受講方法	単位	担当者					
7	2（土）	8:00～12:00	受講部署はリソースナースで厳選し決定予定		要項参照	3	リソースナース（救急領域）					
9	3（土）											
11	5（土）											
3. 重症度、医療、看護必要度研修												
月	日	研修時間	ラダー	研修内容		単位	担当者					
7	23（土）	9:00～12:00	Ⅰ以上	教育要項参照		各2	加藤					
10	22（土）											
1	21（土）											
4. リフレクション研修 自分たちの看護を振り返ってみよう												
月	日	研修時間	ラダー	研修内容		単位	担当者					
9	21（水）	17:00～18:30	なし	教育要項参照		2	田村・宮澤					
12	7（水）											
5. 高齢者看護 ー基礎編ー												
月	日	研修時間	ラダー	研修内容		単位	担当者					
6	16（水）	9:00～12:00		教育要項参照		6	古屋					
		9:00～12:00										
11	8（水）	13:00～16:00										
6. ①ケアに活かそう！サーベイランス（ビギナー）												
月	日	研修時間	ラダー	研修内容	受講方法	単位	担当者					
5	11（木）	17:00～18:30		教育要項参照		各1	杉山/長富					
2	1（木）											
②ケアに活かそう！サーベイランス（マスター）												
月	日	研修時間	ラダー	研修内容	受講方法	単位	担当者					
7	20（木）	17:00～18:30		教育要項参照		各1	杉山/長富					
2	1（木）											
7. 院内認定呼吸ケアナース研修												
月	日	研修時間	ラダー	研修内容	受講方法	単位	担当者					
6・7・8月		8:40～16:40		教育要項参照		12	鈴木英・多田					
10・11・12月												

8. がん看護研修

月	日にち	研修時間	ラダー	研修内容	受講方法	単位	担当者
10	6	17:00～18:30	経験年数3年以上	教育要項参照		1	がん化学療法認定 緩和ケア認定 放射線看護
11	16						
12	21						
1	18						
2	15						
3	15						

9. 摂食・嚥下障害看護コース

月	日にち	研修時間	ラダー	研修内容	受講方法	単位	担当者
6	15(木)	17:00～18:30	経験3年以上	教育要項参照		3	山口・摂食嚥下学内認定
7	6(木)						
10	7(木)						

2. 平成 29 年度 看護教育研究会 開催一覧

第 1 回 看護教育研究会 9 月 21 日(木)17:00～18:00	部署 氏名
<実践報告> シミュレーションを用いた新人教育	3EICU 松下美里
<研修報告> 改めて学んだ脳卒中リハビリ看護と今後の活動について	6A 倉田洋美
<研究> 脳血管疾患患者のミトン型手袋の早期解除への看護ケアに影響する 要因の検討 ―臨床経験年数 5 年以上の看護師に焦点をあてて―	3E 松尾正人

第 2 回 看護教育研究会 3 月 5 日(月)17:00～18:30	部署 氏名
<実践報告> 3E 病棟における転倒・転落防止の取り組み 多方向からのアプローチ	3E 松岡なつみ
<研修報告> 看護師のための認知症ケア研修に参加して ―研修を通して学んだこと―	4C 本間友美
<実践報告> 自動尿量測定器による交差感染防止に向けた取り組み	5C 足立美加
<実践報告> 保存期腎不全患者の療養支援に向けて	外来C 佐藤千香子
<研究> 生後 6 ヶ月～3 歳の第 1 子を育てる母親の育児満足感に影響を及ぼす 家族維持機能の要因探索	5A 勝又理恵

3. 平成 29 年度 院外教育活動

《 学会・研究会発表 》		
テーマ	発表場所	発表者(部署)
伊豆地域の医療施設、介護施設に所属する看護師に対する災害意識調査	日本災害看護学会 第19回年次大会	勝間田敏宏(3A)
富士山登山中、心肺停止状態から救命できた事例	第24回日本航空医療学会総会	杉山由都(3A)
急変対応振り返りシートの活用と今後の課題 ー1～3年目新規配属看護師に焦点をあててー	日本救急看護学会 学術集会	石田桃子(3A)
自転車競技における多数傷病者事故 診療看護師を有するフライトナースの活動	第3回日本NP学会 学術集会・総会	多田真也(3A)
フライトナースの災害時出動における整備状況	第23回日本集団災害医学会総 会・学術集会	多田真也(3A)
消防周りに関する勉強会効果の検討 アンケート結果より考察	第24回日本航空医療学会総会	中村沙織(3A)
脳血管疾患患者のミトン型手袋の早期解除への看護ケアに影響する 要因の検討ー臨床経験年数5年以上の看護師に焦点を当ててー	第19回日本救急看護学会	松尾正人(3E)
麻薬および類似薬・筋弛緩薬使用とフライトナースの管理実態調査	第24回日本航空医療学会 学術集会2017.11.10	松尾正人(3E)
減圧症合同勉強会の成果 ーチェックリストの活用状況から検討 ー	第24回日本航空医療学会 学術集会2017.11.10	鬼塚味佳(3E)
集中治療室で実践している急性冠症候群患者に対する セルフマネ ジメント教育の探求	第14回日本循環器看護学会 学術集会2017.9.9	野澤陽子(3E)
我が国のフライトナースの現状と課題	第19回日本救急看護学会 学術集会2017.10.07	野澤陽子(3E)
聞こえ、語ろう、苦痛のある初療患者に対する看護 社会的苦痛	第20回日本救急医学会中部地 方学術集会2017.11.18	野澤陽子(3E)
シミュレーションによる学習会を実施し、手指衛生の遵守率向上を目 指す	日本環境感染学会	平馬智実(3EICU)
転倒事例の分析 ー栄養アセスメントの視点からー	日本看護学会 看護管理	鈴木英子(3EICU)
「緊急入院から転院搬送までの看護」	静岡県小児救命救急研究会	井上大輔(2C)
基本的なモーニングケアが活動・意欲低下患者に与える変化	第48回日本看護学会 慢性期看護 学術集会	後藤香苗(3C)
筋萎縮性側索硬化症の診断を受けて間もない患者への支援	第22回日本難病看護学会 学術集会	小田切豪(4B)
長期療養バーキンソン病患者への退院支援 ー「困っていることはな いです」と答える高齢独居の患者への介入ー	第22回日本難病看護学会 学術集会	岸端彩花(4B)
実習指導の体験が臨床看護師としての成長に及ぼす影響	日本看護研究学会 東海地方学 術集会 椋山女学院	佐々木史乃(6A)
早産児におけるコット移床時期変更に関する検討	日本新生児看護学会学術集会	伊藤璃万(新生児センター)
緊急カテーテル治療に不安を抱いている家族への病状説明用紙を用 いた看護介入の評価ーSTAIを用いてー	第14回日本循環器学術集会	福田貴裕(救急外来)
緊急輸血シミュレーション訓練の取り組み	第20回救急医学会中部地方会	鈴木めぐみ(救急外来)
乳がん患者におけるアドバンスケアプランニングの実践	静岡県乳がんサポーターブケア 研修会	中村佳代子(医療サービス支援セン ター)
放射線治療とモーズ軟膏によりQOLの改善が図れた局所進行乳癌の一 例	静岡県中部WOC研究会 静岡県立総合病院	山田真紀(検査室)
術後早期合併症を併発した患者の早期退院に向けた退院調整と在 宅支援	日本ストーマ・排泄リハビリテー ション学会総会	浦岡歩(看護安全管理課)
感染経路別予防策のバンドルを作成し、実施状況を可視化する ー対 策実施状況の経過報告ー	日本環境感染学会総会	長富美恵子(看護安全管理課)

《 院外での講師としての教育活動 》

活動内容	活動場所	担当者(部署)
静岡県看護協会災害支援ナース地区研修	駿東伊豆消防本部 救急ワークステーション	勝間田敏宏(3A)
順天堂6病院学内認定 院内急変コース	順天堂大学医学部附属練馬病院	石田桃子(3A)
「救命救急看護」講義	順天堂大学保健看護学部	石田桃子(3A)
「救命救急看護」講義	順天堂大学保健看護学部	多田真也(3A)
「成人看護方法論Ⅰー2・呼吸音の聴取」講義	順天堂大学保健看護学部	多田真也(3A)
学内認定院内急変コース公開授業「看護師のキャリアビジョン」	順天堂大学医学部附属練馬病院	多田真也(3A)
小学生5年生へのゲストティーチャー、フライトナースの仕事内容に関する授業1時間	伊豆の国市立長岡南小学校	松尾正人(3E)
減圧症等を含めたドクターヘリの緊急出動とその運用	第19回潜水医学講座 小田原セミナー	鬼塚味佳(3E)
救命救急看護 DMATの活動とその実際	順天堂大学保健看護学部	野澤陽子(3E)
フライトナースによる救命救急実践事例の紹介	医療看護学部 高大接続プログラム	野澤陽子(3E)
看護師の仕事について ～職業講話～	函南町立函南中学校	野澤陽子(3E)
事例を用いて看護理論を学ぼう 講演 ～自己効力感～	静岡県看護連盟 伊豆地区・沼津A地区合同研修会	宮澤初美(4B)
成人看護方法論Ⅱ	順天堂大学保健看護学部	田村美紀(5C)
順天堂6病院学内認定看護師教育課程「摂食嚥下障害看護」	順天堂東京江東高齢者医療センター	山口嘉美(6A)
「看護過程」講義	順天堂大学保健看護学部	佐々木史乃(6A)
済生会看護専門学校講義「成人看護Ⅳ」	済生会看護専門学校	渡邊美佐子(7A)
ELNECーJ コアカリキュラム看護師のための緩和ケア研修	順天堂大学医学部附属浦安病院	渡邊美佐子(7A)
看護管理	順天堂大学保健看護学部	堀込克代(教育)
周産期看護方式論「NICU看護」	順天堂大学保健看護学部	大木直美(新生児センター)
第1回足を学ぶ会in IZU	三島市文化会館	渡邊あつ子(外来)
急性期病院における退院支援の実際について実践報告	脳卒中地域連携バス看護部会	山下小夜子(医療福祉相談室)
看護職について社会人講話	函南町立東中学校	山下小夜子(医療福祉相談室)
学内認定看護師教育課程 褥瘡ケアコース	順天堂大学医学部附属浦安病院	浦岡歩(看護安全管理課)
株式会社ホリスター 社内研修会	沼津商工会議所	浦岡歩(看護安全管理課)
株式会社リジョイスカンパニー 社内研修会	リジョイスカンパニー本社	杉山美和(看護安全管理課)
手指衛生セミナー in 静岡	静岡パルジェ貸会議室	杉山美和(看護安全管理課)

《誌上発表》

テーマ	書籍・雑誌名	著者(部署)
小児患者搬送システム(静岡県)	フライトナースハンドブック	多田真也(3A)
名探偵「ラウロ」は見た！「場所」「モノ」「人」で見るラウンド事件簿7	インフェクションコントロール	杉山 美和(看護安全管理課)

4. 公開講座

研修会のテーマ	急変させないために看護師ができること		
開催日時	平成29年 5月17日 17:00～18:00		
会場	順天堂大学医学部附属静岡病院 第一会議室		
参加人数	80人	院外からの参加者数	0人
研修会のテーマ	いつものケアで大丈夫？血流感染対策・尿路感染対策		
開催日時	平成29年 6月4日 17:00～18:00		
会場	順天堂大学医学部附属静岡病院 第一会議室		
参加人数	164人	院外からの参加者数	4人
研修会のテーマ	胸部レントゲンの見方と看護への活かし方		
開催日時	平成29年 7月6日 17:00～18:00		
会場	順天堂大学医学部附属静岡病院 第1会議室		
参加人数	44人	院外からの参加者数	0人
研修会のテーマ	みんなで考えよう！新生児の気になる症状Q&A		
開催日時	平成29年 9月6日 17:00～18:00		
会場	順天堂大学医学部附属静岡病院第一会議室		
参加人数	49人	院外からの参加者数	10人
研修会のテーマ	事例を用いて看護理論を学ぼう～エンパワメント～		
開催日時	平成29年 10月4日 17:00～18:00		
会場	第一会議室		
参加人数	37人	院外からの参加者数	0人
研修会のテーマ	もう1度振り返ってみよう！がん化学療法の副作用		
開催日時	平成29年 11月1日 17:00～18:00		
会場	順天堂大学医学部附属静岡病院		
参加人数	20人	院外からの参加者数	0人
研修会のテーマ	あなたが提供するハンドマッサージ ～手から伝わる緩和ケア～		
開催日時	平成29年 12月7日 17:00～18:00□		
会場	第1会議室		
参加人数	23人	院外からの参加者数	0人
研修会のテーマ	安全に経口摂取を続けるために～誤嚥、窒息予防～		
開催日時	平成30年 1月10日 17:00～18:00		
会場	順天堂大学医学部附属静岡病院 第一会議室		
参加人数	14人	院外からの参加者数	0人
研修会のテーマ	患者の安全を守ろう！目指せ医原性褥瘡ゼロ宣言		
開催日時	平成30年 2月7日 17:00～18:00		
会場	順天堂大学医学部附属静岡病院 第1会議室		
参加人数	45人	院外からの参加者数	1人
研修会のテーマ	がんの放射線療法の看護		
開催日時	平成30年 3月7日 17:00～18:00		
会場	順天堂大学医学部附属静岡病院第1会議室		
参加人数	25人	院外からの参加者数	0人

5. 平成 29 年度 教育活動状況

	項目	内容	期間
1	順天堂大学 医療看護学部実習	助産NICU実習	9月4日～15日
	順天堂大学 保健看護学部実習	①保健医療福祉に携わる職種の活動見学	5月31日
		②基礎看護実習Ⅰ	平成30年1月9日～19日
		③基礎看護実習Ⅱ	8月21日～9月15日
		④成人看護実習	10月2日～平成30年6月30日
		⑤看護総合実習	7月10日～7月22日
2	インターンシップ	当院の医療・看護を実際に体験し、就職後のリアリティーショックを緩和する	3月1日～3月16日
3	高校生1日ナース体験事業	看護実務体験を通して思いやりや看護する事の理解と関心を深め、看護職への志望を啓発する	7月27・28日
4	中学生職場体験	勤労観・職業観を養うための学習の一環として近隣の各事業所、施設等で職務体験を実施	5月22～23日 6月1～2日 10月30～31日
6	中学生社会人講話	職業人から体験談や職業観等を話し、生徒の職業に対する意識を高め、働く事の意義を考えさせる	1月27日
8	順天堂学内認定 看護師教育課程	①糖尿病看護	9月4日～2月26日
		②院内急変看護	
		③摂食嚥下障害看護	
		④認知症看護	
		⑤褥瘡ケア	
		⑤静脈注射コース	①6月19日
			②9月11日
			③11月27日
			④3月5日

3-9 (5) 看護安全管理課

看護事故について

1. 看護部のインシデント・アクシデントレポート総件数は1480件(H28年度に比較し135件増内訳は、与薬管理関連380件(3件増減)、チューブライン管理280件(25件増)、転倒・転落369件(88件増)であった。アクシデント(影響レベル3b以上)は看護部全体の1.62%(0.65%増)であった。
2. 与薬事故の目標値は平成28年度2.05%から平成29年度は1.79%へ下がり目標値をしまった。しかし、目標値の2.05%に16部署中5部署が達成できなかった。与薬事故のなかでは、点滴に関する事例が多くを占めており、点滴調整時・投与時ダブルチェックが正確に実施できていないことやマニュアル遵守不備、職場風土などが要因となっていた。また、点滴投与時6R確認不足によるインシデント発生事例は、静脈注射認定看護師取り消しを教育課と協働し開始した。21件が対象となったが、発生要因は上記と同様であった。
3. 転倒・転落事故の目標値は平成28年度1.44%から平成29年度は1.61%へ増加しており、目標値の1.44%には16部署中7部署が達成できなかった。発生要因としては、転倒アセスメントスコアー危険度Ⅱの患者のアセスメント不足による対応遅れや、スタッフ間の情報共有不足などが要因となっていたが、患者が一人で歩いて転倒した事例など防ぎきれない事例も発生していた。
4. 看護医療安全対策委員会では、与薬手順と転倒・転落防止グループに分かれそれぞれが各部署で手順の確認を行い、取り組み発表を行った。取り組み発表をすることで事例共有ができ、参考になる取り組みは、各部署で活用するように繋げていく必要がある。また、理学療法室と協働し転倒・転落予防研修を行い医療安全教育に努めた。また、インシデントレポートKYT手法をグループに分かれて学び、各部署でKYTを用いた事例検討をおこなった。
5. 医療安全管理室・看護医療安全対策委員会と協働し、新入職員の医療安全教育活動をおこなった。
6. 次年度に向けては、引き続き転倒予防への取り組み。与薬関連事故対策として手順遵守の徹底、ダブルチェック項目・方法の検討。自立して活動できるリンクナースの育成が課題である。

感染制御について

平成29年度、BSI/UTIサーベイランス実施、手指衛生の遵守、感染経路別対策の遵守を中心に取り組んだ。

1. 感染率が改善した病棟は、CLABSI(中心ライン関連血流感染)が3病棟、CAUTI(カテーテル関連尿路感染)が12病棟だった。
2. 標準予防策の遵守では、リンクナースが中心となり手指衛生強化を目指したが、手指衛生遵守率は57%と目標とする70%にはとどかなかった。アルコールゲルの使用量は、集中治療領域で目標に達成しているが、一般病棟での低迷が続いている。MRSAレベルゼロシステムは、手指衛生・防護具の適正使用・経路別対策遵守を中心に3部署で取り組んだ。
3. 感染経路別対策は、48%の実施状況ではあったが、可視化したことで、防護具の着用など経路別対策を意識できるようになってきた。
4. キャリアアップ研修(ICS(Infection control staff)コース)、リソースナース公開講座などの例年の研修会に加え、ナーシングスキルの遵守状況を確認するための防護具着脱チェックを実施した。遵守率は33%という結果であった。

褥瘡対策について

1. H29 年度褥瘡推定発生率は、全国平均 1.16%を下回る 0.38%を最低値とし、最高値も 1.73%にとどまった。前年度 2.0%を超えていたのに対し、年間を通して発生率を低減することができた。
2. 今年度より医療関連機器圧迫創傷の集計を開始したところ、年間 114 件の報告があった。次年度は、医療者の過誤を問われる医療関連機器圧迫創傷の低減が課題である。

3-10 救命救急センター

業務内容

静岡県東部地域の救急医療の「最後の砦」の三次救急医療機関として、院内全診療科と各部門の協力・連携のもと、「断らない救急医療」の実践を継続している。二次救急医療についても駿東田方地域の広域輪番制で対応不能な場合は当センターが対応しており、同様に一次救急医療を担当する休日夜間急患センターなどの対象外地域や診療時間の空白時は、当センターが対応することが多い。

病院前救急医療としては、静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院として、医師及び看護師の現場派遣と迅速な搬送を行うことで、特に伊豆半島と静岡市山間部の救急医療に重要な役割を果たしている。

入院診療ではICU13床、CCU7床を含む救急専用病床 40 床を利用し、重症傷病者の診療を行っている。

業務実績

平成 29 年

救急外来受診患者総数	12,826
救急入院患者総数	4,864
救急車搬送件数	4,727
ドクターヘリ運航件数	1,175 件

メディカルコントロール活動

消防機関とのメディカルコントロール(MC)体制を確保・発展するために、地域 MC 協議会より要請された救急救命士の病院内実習の指導を行い、当院に収容した院外心肺停止症例についての事後検証を行った。静岡県 MC 協議会及び推進作業部会に参加し、救急救命士の業務プロトコル策定と事後検証に参加した。

地域においては、駿東田方地域 MC 協議会が開催する事後検証会に参加した。

次年度目標

- 救急搬送収容業務の円滑化と迅速化のため、救急応答事務員による救急対応体制への移行を順次実施する。
- 周辺地域における救急医療連携を強化し、医療情報ネットワークを構築する。
- ドクターヘリ活動と研究により積極的に介入し、適正かつ有効なドクターヘリ業務を推進する。

3-11 ドクターヘリ運航対策室

業務内容

当院は静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院である。当院のフライトドクター及びナースがヘリでいち早く救急現場の傷病者と接触し、トリアージと応急処置を行い、適切な医療施設を選定して、目的地まで安全に搬送できるよう注意深い観察と対応を行っている。平成 16 年の指定以降、出動件数は年々増加傾向であり、当院を中心とする半径 70km の医療圏から年間 700 件以上の重症救急患者の広域ヘリ搬送を実施し、その約 6 割の患者を当院の救命救急センターに収容している。

次年度目標

- ・ ドクヘリ活動周知、啓発活動の継続
- ・ 消防との更なる連携強化
- ・ 県防災ヘリとの連携強化
- ・ 大規模災害、AACN 等の訓練への参加
- ・ 海上保安庁との連携強化
- ・ 自衛隊との連携強化

平成 29 年度ドクターヘリ出動件数・搬送人数

転 帰	人 数	
入 院	527	42.9%
外 来	356	29.0%
転 送	270	22.0%
キャンセル	76	6.2%
合 計	1229	100%

要請内容	件 数	
現場搬送	882	現場計 952
現場キャンセル	70	
病院間搬送	217	病院間計 223
病院間キャンセル	6	
合 計	1175	

平成29年/30年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	/1月	/2月	/3月	合計(人)
入 院	50	39	28	51	56	33	48	42	43	47	50	40	527
外 来	30	34	32	32	32	26	19	31	30	36	28	26	356
転 送	27	38	15	19	19	20	11	25	25	20	25	26	270
キャンセル	5	6	11	4	3	6	4	6	9	6	8	8	76
月別合計	112	117	86	106	110	85	82	104	107	109	111	100	1229

平成29年/30年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	/1月	/2月	/3月	合計(件)
救急現場	91	78	58	84	83	60	50	79	67	76	83	73	882
転院搬送	13	29	11	15	18	18	22	16	21	24	18	12	217
キャンセル	5	6	11	4	3	6	4	6	9	6	8	8	76
月別合計	109	113	80	103	104	84	76	101	97	106	109	93	1175

出動実績

(消防本部別)

出 動 内 容		消 防 本 部 名	転 院 搬 送		現場出動	計
			病 院	診療所		
現 場	952 (キャンセル70件含む)	下田消防	70	29	171	270
		駿東伊豆消防	20	8	346	374
		熱海市消防	11	0	31	42
		富士山南東消防	1	2	230	233
病院間	223 (キャンセル6件含む)	御殿場市・小山町消防	5	2	50	57
		富士宮市消防	1	0	48	49
		富士市消防	3	0	43	46
		静岡市消防	0	1	32	33
現 場	882	その他消防	0	0	1	1
病院間	217	小 計	111	42	952	1105
小 計	1099	消防との合流なし	70	0	0	70
キャンセル	76	合 計	181	42	952	1175
合 計	1175					

Ⅱ-1 (人数) (診療科別)

診 療 科 名	(人数)
循環器科	219
脳神経外科	130
整形外科	85
外 科	11
呼吸器内科	8
小児科	48
膠原病内科	0
呼吸器外科	1
腎臓内科	2
消化器内科	8
心臓血管外科	21
脳神経内科	3
産婦人科	5
眼科	2
泌尿器科	0
形成外科	1
耳鼻咽喉科	0
皮膚科	0
新生児科	4
血液内科	1
糖尿病・内分泌内科	0
救急診療科	604
合 計	1153

(収容先別)

出 動 別	当 院 (人数)	他 院 (人数)	合 計 (人数)
現 場	606	184	790
病 院 間	133	84	217
小 計	739	268	1007
現場のみ	15	131	146
合 計	739	268	1153

※1175件の出動中

2名診療	20件
3名診療	4件
4名診療	1件
5名診療	2件
6名診療	1件
11名診療	1件

／1229名(キャンセル76件を除く)

疾患別搬送件数

内因性疾患	件 数	内因性疾患	件 数
急性冠症候群	129	CO2ナルコーシス	1
心不全	30	低酸素血症	1
急性大動脈解離	35	気胸	2
大動脈瘤破裂	8	敗血症	8
大動脈瘤	2	感染症	3
完全房室ブロック	3	縦隔炎	1
心室細動	6	壊死性筋膜炎	1
心室頻拍	3	髄膜炎	1
心房細動	1	横紋筋融解症	1
不整脈	1	不正出血	2
ペースメーカー不全	1	破水	1
肺血栓塞栓症	1	流産	1
下肢動脈血栓塞栓症	1	卵巣茎捻転	1
徐脈	1	膀胱出血	1
頻脈	1	骨腫瘍	1
心筋症	3	肺癌	1
感染性心内膜炎	1	肝細胞癌破裂	2
胸痛	7	高カリウム血症	2
大動脈離断	1	低血糖	10
大血管転位症	2	脱水	5
脳内出血	19	迷走神経反射	13
くも膜下出血	14	ヒステリー	2
脳梗塞	16	ギランバレー症候群	1
脳卒中	67	多臓器不全	1
脳血管障害	4	心肺停止	73
一過性脳虚血発作	4	不明	12
意識障害	27		
意識消失発作	13		
けいれん発作	33		
てんかん	3		
頭痛	1		
腸閉塞	2		
消化管出血	9		
急性胃腸炎	2		
膵炎	2		
胆管炎	1		
腎不全	2		
急性腹症	2		
下血	1		
吐血	2		
肝性脳症	1		
閉塞性黄疸	1		
鎖肛	1		
肺炎	11		
過換気症候群	4	内因性疾患 小 計	633
呼吸不全	6		

外因性疾患	件 数	外因性疾患	件 数
交通外傷	14	顔面刺傷	1
転落外傷	14	頸部切創	2
頭蓋内出血	9	頸部刺創	1
腹腔内出血	2	上肢切創	3
頭蓋骨骨折	2	上肢挫滅創	1
脊椎骨折	12	上肢デグロービング損傷	1
鎖骨骨折	6	手指切創	3
胸骨骨折	8	手指挫滅創	5
肩骨折	5	手デグロービング損傷	4
肋骨骨折	16	下肢切創	2
骨盤骨折	27	下肢挫滅創	1
上腕骨骨折	6	下腿デグロービング損傷	9
前腕骨折	6	足指挫滅	1
手指骨折	6	動脈損傷	1
下腿骨骨折	19	全身擦過傷	2
下腿骨開放骨折	11	擦過傷	5
足部骨折	3	頭部外傷	40
足関節骨折	6	顔面外傷	10
足関節開放骨折	1	眼球損傷	1
多発骨折	3	胸部外傷	8
頸椎捻挫	9	腹部外傷	3
頭部打撲	7	多発外傷	20
胸部打撲	11	脊髄損傷	21
背部打撲	1	肝損傷	1
腹部打撲	4	腎損傷	1
腰部打撲	2	横隔膜損傷	1
上肢打撲	4	薬物中毒	6
下腿打撲	2	溺水	20
四肢打撲	1	減圧症	7
全身打撲	13	窒息	10
頭部挫創	9	熱中症	9
顔面挫創	7	一酸化炭素中毒	5
胸部挫創	1	高山病	1
上肢挫創	1	アナフィラキシー	19
下肢挫創	9	異物誤飲	1
手指挫創	10	蜂刺傷	1
足指挫創	1	縊首	6
脳挫傷	1	電撃傷	2
脳振盪	9	熱傷	29
頸部挫傷	1	化学熱傷	1
骨盤部挫傷	1	低体温	6
肺挫傷	2	酩酊	1
下腿挫傷	1	外傷性心肺停止	16
血気胸	4	不明	3
上肢切断	2	外因性疾患 小 計	596
手指切断	16	内・外因性疾患 合 計	1229

3-12 新生児センター

業務内容

当センターは静岡県に 3 か所ある総合周産期母子医療センターの新生児部門であり、東部地区を総括するセンターである。病床は重症児を診る NICU12 床、回復した児あるいは比較的軽症児をみる GCU18 床からなる。

業務内容としては新生児医療に特化して 24 時間・365 日体制で早産・低出生体重児と病的新生児の診察および入院診療を行っている。総合周産期母子医療センター産科部門には母児のハイリスクが予想される症例が母体搬送されており、産科とカンファレンスを重ねながら母児にとって最善となるべく管理を行っている。また当センターでは新生児専用救急車を有し、概ね富士宮以东の静岡県東部地域の産科医療機関からのホットライン連絡網による診察・入院依頼に対応している。このため夜間は当直医以外に搬送に備えた 2 名のバックアップ体制を敷いている。

業務実績

総入院数と院内/院外出生の割合

	入院数	前年度比
総入院数	436	+5%
院内出生	265	+11%
院外出生	171	-3%

出生体重別の入院数

	入院数	前年度比
超低出生体重児 (1000g 未満)	20	-26%
極低出生体重児 (1000g-1500g)	13	-58%

在胎週数別の入院数

在胎週数	入院数	前年度比
22-24	4	+33%
25-27	11	-52%
28-30	7	-46%
31-33	23	-32%

新生児救急車

	出動件数	前年度比
総出動件数	247	+2%
入院数	178	0%
三角搬送	22	-49%

次年度目標

29 年度は昨年を上回る入院患者数でほぼ満床の状態が続いているなかで、感染もよくコントロールされた 1 年間だった。30 年度の目標は、この状態を維持しながら、研究に力を入れていきたい。

もう一点、特筆すべきは当院の初期研修、産科・新生児科・小児科コースに 3 名の希望者があり研修をスタートしている。大学病院の機能のひとつである学生教育、研修医教育を通じて新戦力の発掘、育成に努めたい。新生児科は歴史もあり、診療レベルは全国有数である。産婦人科、小児科との連携も良好であり、こうした点を全国にアピールして幅広く人材を集めたいと考えている。

研究・教育活動

原著

1. Yamazaki S, Ohkawa N, Kantake M, Koyama M, Urushihara N, Hamazaki M and Shimizu T. : a Case Report. Intraperitoneal Abscess in a Preterm Infant SM J Pediatr. 2: 1005
2. 小嶋まゆき、池田奈帆、池野充、北村知宏、久田研、東海林宏道、土井崇、山高篤行、牧野真太郎、板倉敦夫、鏡雅代、清水俊明 超早産児として出生し、呼吸管理に難渋した Kagami-Ogata 症候群エピソードの 1 例 日本周産期・新生児医学会雑誌 53(4)1141-1146

総説

1. Masato Kantake Stress, HPA Dysfunction, Inflammation, and Psychomotor Disability in Preterm Birth Infants. Advances in medicine and Biology. 115; pp13-22
2. 寒竹正人 専門領域とステロイド 新生児疾患;今ここでステロイドを再考するーcommon disease から専門領域までー 小児科診療 診断と治療社 491-495

講演

1. 寒竹正人 新生児期のステロイド投与によるグルココルチコイドレセプター遺伝子のメチル化 第 10 回京都 NICU 懇話会

学会発表

1. 寒竹正人、大川夏紀、山崎晋、秋本智史、宮林和紀、山田啓迪、井福真友美、齋藤暢知、清水俊明 CLD 児における出生 1 ヶ月以降のステロイド投与はグルココルチコイドレセプター遺伝子メチル化を誘導する 第 53 回日本周産期・新生児医学会、横浜 2017.7.17
2. 寒竹正人 次世代シーケンサーは新生児医療の現場に役立つのか 第 62 回日本新生児成育医学会 2017.10.13.
3. Naho Ikeda, Hiromichi Shoji, Hiroki Suganuma, Natsuki Ohkawa, Yayoi Murano, Toshiaki Shimizu Incidence and risk factors of postnatal cytomegalovirus infection in very low birth weight infants. 13th World Congress of Perinatal Medicine, Beograd, Central Serbia. 2017.10.28
4. 淡路敦子、平林将明、森谷菜央、緒方公平、日根幸太郎、玉置一智、水書教雄、荒井博子、川瀬泰浩、与田仁志 急性腎不全を呈した重症新生児仮死の検討 第 53 回日本周産期・新生児医学会 2017.7.16
5. 淡路敦子、平林将明、森谷菜央、緒方公平、日根幸太郎、玉置一智、水書教雄、荒井博子、川瀬泰浩、与田仁志

志 当院で入院管理を行った母体バセドウ病より出生した新生児甲状腺機能亢進症の2例 第62回日本新生児成育医学会 2017.10.12

6. 淡路敦子、大川夏紀、田所愛弓、栗田健太郎、宮林和紀、江原尚弘、齋藤暢知、池田奈帆、寒竹正人 当院産科新生児室における新生児のUB値を用いた黄疸管理について 第16回日本新生児黄疸管理研究会、高松 2017.9.16
7. 淡路敦子、平林将明、森谷菜央、緒方公平、日根幸太郎、玉置一智、水書教雄、荒井博子、川瀬泰浩、与田仁志 急性腎不全にて腹膜透析を施行した新生児仮死 城南新生児未熟児研究会、東京 2017.11.1
8. 井福真友美、大川夏紀、江原尚弘、河畠恵、秋本智史、山崎晋、齋藤暢知、東海林 宏道、寒竹 正人、清水俊明 正期産児における血清 Total Bilirubin 値と Unbound Bilirubin 値による治療適応の検討 第120回日本小児科学会学術集会 2017.4.14
9. 井福真友美、大川夏紀、宮林和紀、秋本智史、山崎晋、寒竹正人、清水俊明 脊髄骨端異形成症と診断し、COL2A1 遺伝子異常を認めた1例 第53回日本周産期新生児医学会学術集会 2017.7.16
10. 秋本智史、田所愛弓、宮林和紀、山田啓迪、井福真友美、山崎晋、齋藤暢知、大川夏紀、寒竹正人 Basedow 病母体から出生し、甲状腺機能異常を認めた二絨毛膜二羊膜双胎児例 第11回新生児代謝内分泌研究会、東京 2017.9.23
11. 山田啓迪、大川夏紀、田所愛弓、宮林和紀、秋本智史、井福真友美、山崎晋、齋藤暢知、寒竹正人 Basedow 病母体から出生し、甲状腺機能異常を認めた二絨毛膜二羊膜双胎児例 静岡東部周産期研究会、沼津 2017.3.18
12. 宮林和紀、大川夏紀、秋本智史、井福真友美、山崎晋、齋藤暢知、寒竹正人、清水俊明 妊娠初期より梅毒治療をしたにも関わらず先天梅毒を発症した早産児の1例 第53回日本周産期・新生児医学会総会学術集会、横浜 2017.7.17
13. 宮林和紀、池田奈帆、栗田健太郎、江原尚弘、淡路敦子、齋藤暢知、大川夏紀、寒竹正人 静岡県東部における新生児救急車搬送の現状と課題 第37回静岡県周産期新生児研究会、静岡 2017.9.16
14. 宮林和紀、大川夏紀、淡路敦子、池田奈帆、東海林宏道、寒竹正人、清水俊明 SPINK5 遺伝子と CYP4F22 遺伝子の複合ヘテロ接合体変異により発症した Netherton 症候群に新生児・乳児消化管アレルギーを併発した1例 第62回日本新生児生育医学会学術集会、大宮 2017.10.13
15. 宮林和紀、池田奈帆、栗田健太郎、江原尚弘、淡路敦子、齋藤暢知、大川夏紀、寒竹正人 当院 NICU における新生児救急車搬送の現状と課題 第36回東部周産期研究会、静岡 2017.11.30
16. 田所愛弓、大川夏紀、宮林和紀、山田啓迪、井福真友美、齋藤暢知、池田奈帆、寒竹正人 新生児室における総ビリルビン値と遊離型ビリルビン値についての検討 第143回日本小児科学会静岡地方会、静岡 2017.6.4
17. 田所愛弓、大川夏紀、宮林和紀、淡路敦子、池田奈帆、東海林宏道、寒竹正人、清水俊明 産科病棟の新生児における遊離型ビリルビン値についての検討 第62回日本新生児成育医学会・学術集会、埼玉 2017.10.13
18. 栗田健太郎、齋藤暢知、江原尚弘、宮林和紀、淡路敦子、池田奈帆、大川夏紀、寒竹正人 母親の既往歴から判明した先天性 QT 延長症候群の2家系 第144回日本小児科学会静岡地方会 2017.11.12

3-13 がん治療センター

業務内容

当院は平成 19 年より静岡県東部・伊豆地域における「地域がん診療連携拠点病院」として指定を受け、駿東田方・熱海伊東・賀茂医療圏のがん診療の充実を目標に診療レベルの向上に努めている。

がん治療センターでは、がん患者さんが安心して治療が行える外来化学療法室を完備し、経験豊富な医師や看護師、薬剤師等が連携し治療にあたり、更に術前術後の化学療法や放射線療法、緩和ケア等を組合せた高度な集学的治療の推進に注力している。また、当センターは化学療法・放射線治療・緩和ケア・がん相談支援等の各部門を包括する役割も担っており、多職種が出席するカンサーボードを定期的開催し当院のがん治療レベルの向上にも取り組んでいる。

地域医療連携においては、周辺機関とのカンファレンスや研修会を定期的開催し、がん患者さんの療養生活に関する現状や課題について情報共有を推進している。また、5大がんの地域連携クリティカルパスの活用や歯科医療機関との連携による周術期口腔ケアも積極的に導入し、今後は在宅緩和ケアや就労に関する相談支援等も充実させ、患者さんご家族にとってより良い環境でがん治療が継続できるよう努力している。

また、地域への啓蒙活動として、一般市民を対象とした「市民公開講座」を伊豆の国市及び一般社団法人田方医師会との共催により毎月開催し毎回多数の参加を頂いている。

次年度目標

外来化学療法室の稼働状況を把握し安全かつ効率的な運用を行うことや、がん相談支援センター及び緩和ケアチームを院内外に向け広報し、介入件数の増加を図り患者の QOL を重視した治療を推進する。

また、5大がん地域連携クリティカルパスの活用や医科歯科連携体制の充実(院内への歯科医師の往診やがん以外の疾患も含めた医科歯科連携の取組み)等、がん診療に関する地域医療連携を推進する。

業務実績

【がん治療センター運営委員会】 6 回／年

【がん診療委員会(カンサーボード・レジメン審査)】 12 回／年

【周辺機関合同研修会・カンファレンス・連絡会等】

5 月 23 日	がん治療研修会(化学療法・放射線療法)
6 月 3-4 日	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
6 月 22 日	カンサーボードカンファレンス
7 月 3 日	がん治療研修会(がん早期診断・緩和ケア)
10 月 26 日	カンサーボードカンファレンス
11 月 16 日	口腔ケア勉強会
2 月 6 日	地域がん診療連絡会
2 月 22 日	カンサーボードカンファレンス
3 月 6 日	医科歯科連携打合せ

【市民公開講座】(がん関連テーマ)

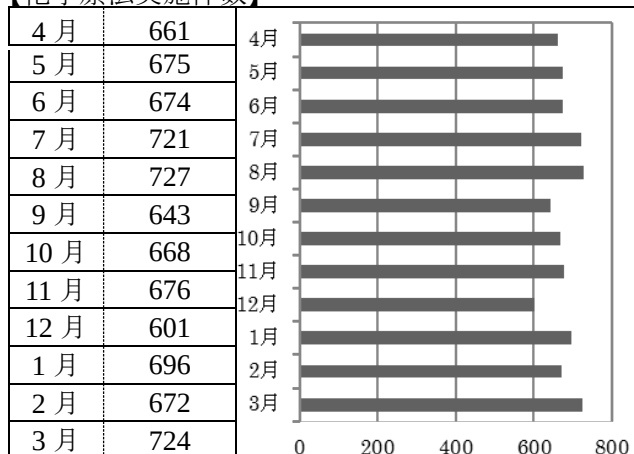
6 月 20 日	脳腫瘍を知ろう ～病気が見つかる症状と最新の治療～
8 月 8 日	「がん」について学ぼう ～これからの時代、知っておくべき「がん」の知識～

11 月 14 日	がんとわかったときからはじまる緩和ケア
12 月 25 日	産婦人科のがんについて ～子宮頸癌ってなに？～

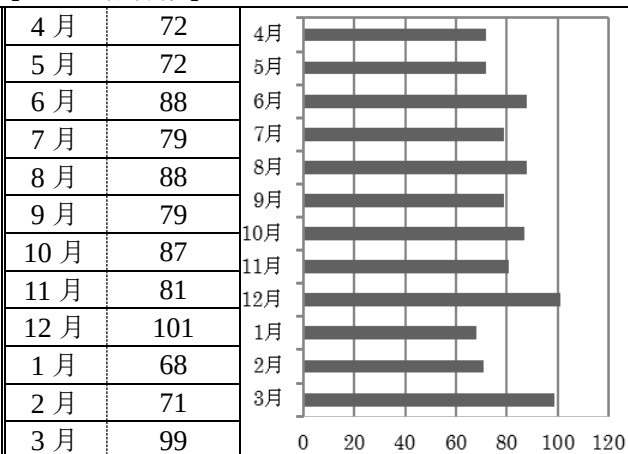
【がん登録件数】(H28.1.1～12.31)

総登録数	5 大がん内訳	肺がん	140	大腸がん	245	乳がん	90
1,469		胃がん	125	肝がん	72		

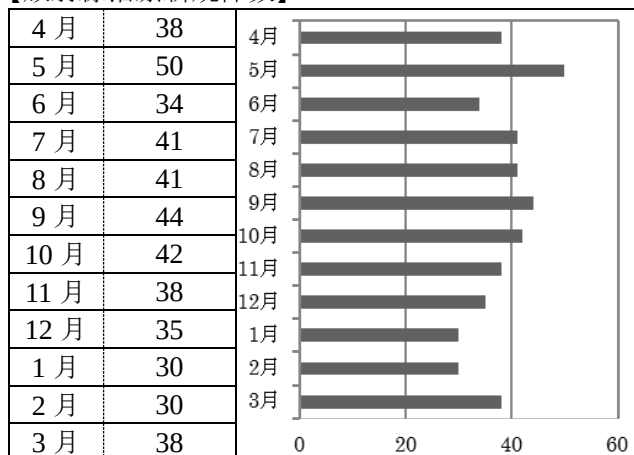
【化学療法実施件数】



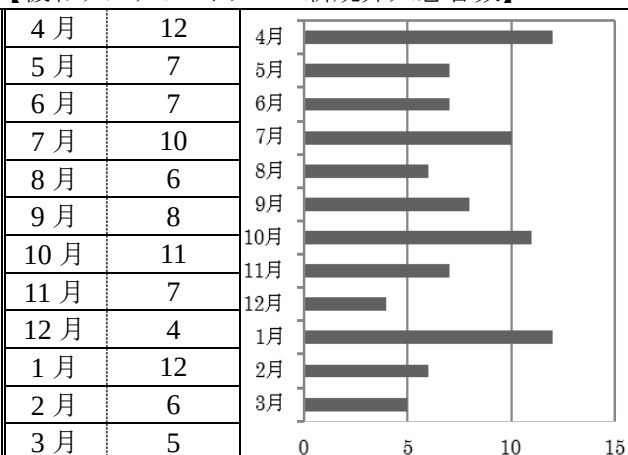
【がん手術件数】



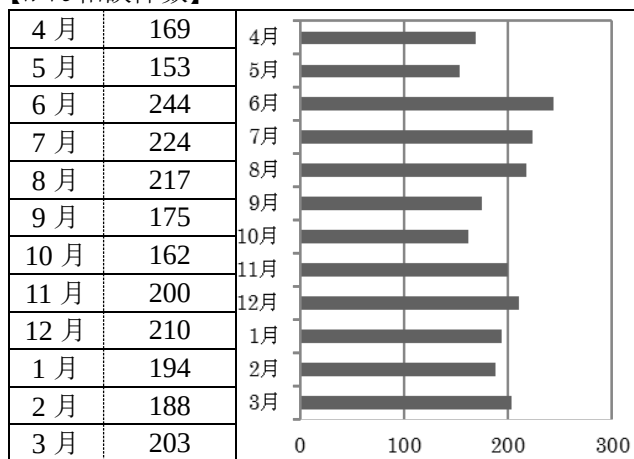
【放射線治療新規件数】



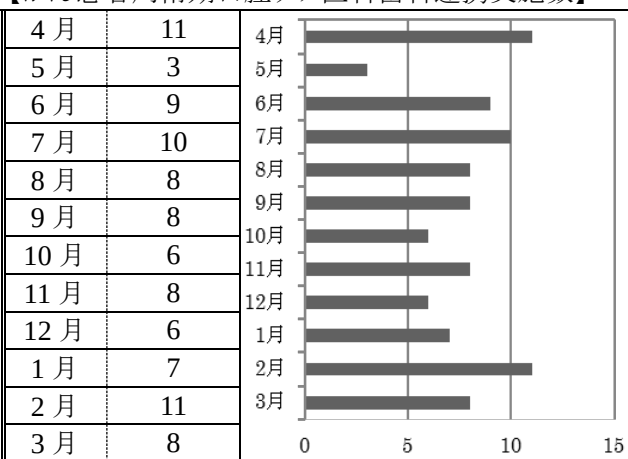
【緩和ケアサポートチーム新規介入患者数】



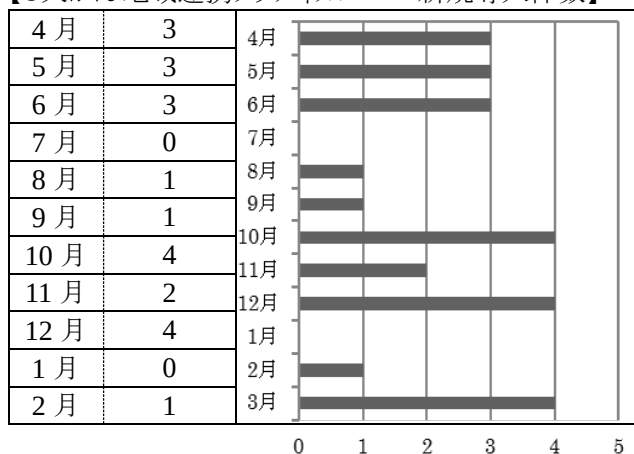
【がん相談件数】



【がん患者周術期口腔ケア医科歯科連携実施数】



【5大がん地域連携クリティカルパス新規導入件数】



連携届出施設数

肺がん	88
胃がん	103
大腸がん	99
肝臓がん	62
乳がん	30

3 月	4			
-----	---	--	--	--

3-14 予防医学センター

(1)人間ドック集計(平成 29 年度)

(1)-1人間ドック男女別、月集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率(%)
日 帰 り コ ー ス	男	9	11	11	13	11	9	11	12	9	9	11	8	124	60.2%
	女	6	7	12	7	2	9	11	8	3	6	8	3	82	39.8%
	小計	15	18	23	20	13	18	22	20	12	15	19	11	206	
1 泊 2 日 コ ー ス	男	4	3	5	6	5	4	5	6	6	5	3	5	57	66.3%
	女	3	2	2	2	3	1	3	1	5	1	2	4	29	33.7%
	小計	7	5	7	8	8	5	8	7	11	6	5	9	86	
が ん コ ー ス	男	3	0	0	1	1	3	0	0	0	1	1	2	12	54.5%
	女	1	1	1	0	1	3	0	0	0	1	1	1	10	45.5%
	小計	4	1	1	1	2	6	0	0	0	2	2	3	22	
P E T ー C T コ ー ス	男	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	5	62.5%
	女	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3	37.5%
	小計	0	2	1	0	0	1	1	0	1	1	0	1	8	
脳 ド ッ ク コ ー ス	男	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	1	7	63.6%
	女	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	36.4%
	小計	1	3	1	0	1	1	1	0	2	0	0	1	11	

(1)-2 人間ドック年齢別、男女別集計表

年齢		20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上	合計	比率(%)
区分										
総合日帰りコース	男	0	1	21	26	40	33	3	124	37.24%
	女	0	1	14	22	28	16	1	82	24.62%
	小計	0	2	35	48	68	49	4	206	61.86%
	比率(%)	0.00%	0.60%	10.51%	14.41%	20.42%	14.71%	1.20%	61.86%	
総合1泊2日コース	男	0	2	12	11	16	15	1	57	17.12%
	女	0	1	3	7	8	8	2	29	8.71%
	小計	0	3	15	18	24	23	3	86	25.83%
	比率(%)	0.00%	0.90%	4.50%	5.41%	7.21%	6.91%	0.90%	25.83%	
がんコース	男	0	0	4	2	1	3	2	12	3.60%
	女	0	1	3	2	0	4	0	10	3.00%
	小計	0	1	7	4	1	7	2	22	6.61%
	比率(%)	0.00%	0.30%	2.10%	1.20%	0.30%	2.10%	0.60%	6.61%	
P E T C Tコース	男	0	0	0	3	2	0	0	5	1.50%
	女	0	0	1	2	0	0	0	3	0.90%
	小計	0	0	1	5	2	0	0	8	2.40%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.30%	1.50%	0.60%	0.00%	0.00%	2.40%	
脳ドックコース	男	0	0	2	2	2	1	0	7	2.10%
	女	0	0	0	1	1	1	1	4	1.20%
	小計	0	0	2	3	3	2	1	11	3.30%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.60%	0.90%	0.90%	0.60%	0.30%	3.30%	
合計	男	0	3	39	44	61	52	6	205	62%
	女	0	3	21	34	37	29	4	128	38%
	小計	0	6	60	78	98	81	10	333	100.0%
	比率(%)	0.00%	1.80%	18.02%	23.42%	29.43%	24.32%	3.00%	100.0%	

(1)-3 年齢別総合判定区分集計

区分	～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～65	66～	合計
A: 異常はありません	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B: わずかな変化を認めますが日常生活上心配ありません	0	0	0	1	0	0	0	0	1
C: 経過観察を必要とします	0	2	4	6	5	8	3	8	36
D: 二次検査・精密検査を必要とします	0	3	7	13	11	5	11	14	64
E: 治療を必要とします	0	0	6	6	10	3	6	13	44
F: 治療・経過観察を継続してください	0	4	8	12	23	13	24	104	188
合 計	0	9	25	38	49	29	44	139	333

(2)次年度目標

人間ドックの人数拡大

各コースの充実した検査内容を丁寧に説明し、申込み受診者の要望にあったプランをお勧めする事で人数の拡大につなげる。

リピーターへのサービス

センター内の絵画更新により、視覚からのリフレッシュ効果を提供。

定期的に検査着やタオル等の劣化をチェックし、気持ちよく健診を受けて頂く。

サンダルでの転倒防止のため、ドックの方によっては、持参の履物を使用していただく。

3-15 GCP センター

業務内容

当院では、治験や臨床研究が倫理的にまた安全に実施することができるか審査するために、治験審査委員会および倫理審査委員会が設けられています。GCP センターではその事務局を兼ねていて、治験の依頼者である製薬企業、臨床研究の実施者である医師等の相談にも対応しています。

また治験が安全にかつ円滑に実施されるために、治験コーディネーターが配置され実務をサポートしています。

業務実績

治 験

新規

治験を行う場合には、治験に参加される方々の安全と人権を守るために、国が定めた「医薬品の臨床試験の実施の基準(GCP といいます。)」を遵守しなければなりません。この GCP に従って、科学的および倫理的な観点から、治験の実施や継続について調査・審議するため、順天堂大学医学部附属静岡病院治験審査委員会を設置しています。本治験審査委員会により内容が審議され、病院長より許可された治験のみが実施されます。

	件数	予定症例数
治験	4 件	22 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例
合計	4 件	22 症例

治験審査委員会 毎月 1 回(8 月休会)、治験の倫理性・安全性・科学的妥当性について審査します。

	安全性 報告	内容変更	継続審査	重篤な 有害事象	逸脱 (除 緊急の 危険回避)	軽微な 内容変更	報告事項
治験	52 件	24 件	7 件	6 件	8 件	32 件	31 件
製造販売後 臨床試験	2 件	4 件	2 件	3 件	3 件	5 件	0 件
合計	54 件	28 件	9 件	9 件	11 件	37 件	31 件

監査・モニタリング受け入れ回数

製薬メーカー及びCROのモニターが治験実施施設へ来訪し、治験の進行状況を調査し情報収集する。治験が治験実施計画書・標準業務手順書(SOP)・GCP 及び適用される規制要件に従って、実施・記録及び報告されている事を保証する活動。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
治験	8 回	7 回	6 回	7 回	7 回	7 回	6 回	3 回	6 回	3 回	6 回	4 回	70 回

製造販売後 臨床試験	0 回	0 回	1 回	1 回	2 回	2 回	0 回	2 回	1 回	2 回	1 回	2 回	14 回
合計	8 回	7 回	7 回	8 回	9 回	9 回	6 回	5 回	7 回	5 回	7 回	6 回	84 回

終了

治験審査委員会に、治験が GCP に従って実施され、終了したことが報告されます。

	件数	実施症例数	同意取得数
治験	7 件	20 症例	20 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例	0 症例
合計	7 件	20 症例	20 症例

製造販売後調査

医薬品が治験後に承認されて販売された後、引き続き医薬品の有効性・安全性について調査します。

新規契約 40 件	使用成績調査・特定使用成績調査	39 件
	副作用詳細調査	1 件

倫理審査委員会

病気の原因、病態の理解及び患者さんの生活の質の向上を目的として実施される医学系研究であって、人を対象とするもの。

8 月を除く毎月 1 回開催されて、倫理性・安全性・科学的妥当性について審査します。

	新規	内容変更	実施状況	重篤な有害 事象報告	安全性 情報報告	終了報告	症例報告	その他
倫理審査	70 件	71 件	83 件	8 件	1 件	60 件	14 件	9 件

次年度目標

本年 4 月より、臨床研究法が施行される事となった。特定臨床研究に該当する研究は、認定臨床研究審査委員会での審査が求められることとなり、それに該当する研究か否かを正しく判断して業務を行いたい。そのために、大学及び他の附属病院と連携を計っていく。

また、倫理審査を必要とする研究が増加傾向にあり、倫理審査が迅速に適切に実施できるように委員会の運営を行っていききたい。

3-16 臨床研修センター

業務内容

当院は、大学附属病院として 31 診療科を有し、内科系の各科はそれぞれ複数の専門医がおり、ウイルス性肝炎、糖尿病、白血病など全て県内有数の治療数を誇っている。また外科系では一般外科、整形外科、脳神経外科、など多数の手術症例があるが、さらに心臓血管外科、呼吸器外科など高度の手術も手掛けている。総合周産期母子医療センター及び12床のNICUのある新生児センターは、静岡県東部の周産期の中核を担っており、救急救命センターには、8名の救急医のスタッフが24時間診療を行い、一次から三次までのあらゆる救急疾患の受け入れを行っている。以上のことから臨床研修病院として理想的な環境である。

業務実績

■研修内容

<レクチャー>

臨床研修医を対象とした、基本的な勉強会である「モーニングレクチャー」を21回(内3回をコメディカルが担当)、各科長クラスによるレポート提出症例に沿った内容を講義いただく「研修医レクチャー」を19回(内1回は縫合トレーニング)実施し、救急診療科を研修した研修医から、研修症例をまとめ発表していただく「救急診療科レクチャー」12回(毎月1回)実施した。

又、インタラクティブなレクチャーとして、レジデントアワーを実施しており、内容については学会発表を行った研修医数名が、発表した症例を他の研修医に向けレクチャーし、研修医同士でディスカッションを行う。更に学会発表の指導を行った各科医師にご協力いただき、補足等の意見を述べていただくというもので、活発な意見交換がなされた。

【モーニングレクチャー】

月	日	担当科	担当者		講義名
4	13	呼吸器内科	原 宗央	助手	肺炎について
5	11	感染対策室	鈴木 美沙子	(検査)	血液培養の採取方法について
6	1	消化器内科	金光 芳生	助手	潰瘍性大腸炎
	8	医療安全管理室	高橋 真紀子		医療事故防止について
7	6	放射線科	井上 達朗	助手	放射線の仕事
	13	脳神経内科	大垣 光太郎	助教	けいれん
8	3	膠原病内科	片桐 彰	准教授	自己抗体の考え方
	10	形成外科	野尻 岳	助手	創縫合の実際
9	7	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	児童思春期の精神症状
	14	糖尿病・内分泌内科	中島 健一	助教	血糖値への影響
10	5	臨床検査科	田内 一民	特任教授	JCCLS共用基準範囲
	12	血液内科	渡邊 直紀	助手	役に立つ血液内科の知識
11	2	新生児科	池田 奈帆	助教	新生児搬送
	9	循環器科	塩澤 知之	助教	不整脈をみつけてしまったら
12	7	麻酔科	久米村 正輝	助手	麻酔科が行う術後鎮痛
	14	薬剤科	木下 史一		オピオイドの使い方
1	11	皮膚科	野口 篤		※H29.4赴任 創傷被覆材の使い分けの要点
2	1	小児科	馬場 洋介	助教	小児における重要な炎症性疾患
	8	腎臓内科	原 一彰	助教	血尿
3	1	呼吸器外科	市之川 英臣	助教	胸部レントゲン写真を極める
	8	産婦人科	伊藤 早紀	助手	産婦人科でのマメ知識

【研修医レクチャー】

月	日	担当科	医師		講義名
4	17	産婦人科	西澤 しほり 中尾、寒竹		産婦人科でのマメ知識他
	24	糖尿病の各薬剤の特性について			
5	22	整形外科	田中 将	助手	腰痛
6	19	循環器科	諏訪 哲	先任准教授	心不全
	26	エチコン(縫合トレーニング)講師:中尾先任准教授、佐藤助教、加藤助手、松尾助手、伊藤助手			
7	24	腎臓内科	清水 芳男	先任准教授	浮腫
8	21	麻酔科	尾前 毅	教授	麻酔薬
	28	泌尿器科	藤田 和彦	教授	排尿障害
10	16	呼吸器内科	原 宗央	助手	咳・痰
	23	消化器内科	嶋田 裕慈	准教授	嘔気・嘔吐
	30	心臓血管外科	齋藤 洋輔	助教	胸痛(心臓)
11	20	外科	前川 博	先任准教授	腹痛
	27	膠原病内科	岡田 隆	助手	発熱
12	18	眼科	太田 俊彦	教授	眼科診療の基本
1	15	血液内科	小池 道明	教授	リンパ節腫脹
	22	脳神経内科	安藤真矢	助教	頭痛
2	19	耳鼻咽喉科	城所 淑信	助教	めまい
	26	脳神経外科	中尾 保秋	先任准教授	脳出血
3	19	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	不眠・気分障害(うつ・躁鬱)

【救急診療科セミナー】

月	日	担当科	医師		講義名
4	28	救急診療科	鈴木 創太	R1	脾損傷に対する治療と注意すべき合併症
			長澤 宏樹	R2	JATECtmとは
5	31	救急診療科	中沢 舜	練馬R2	化学性肺炎について
6	28	救急診療科	宇藤 優	R1	深部静脈血栓症から肺血栓塞栓症となった一例
			大熊 輝之	本郷R2	鎖骨骨折から内頸静脈圧排をきたした一例
7	26	救急診療科	森 智世	R1	アナフィラキシー後ST値上昇を認めた一例
			近藤 彰彦	救急	熱中症
8	30	救急診療科	加藤 友里子	R1	7例の骨盤骨折患者の初期対応
			副島 美穂	練馬R2	低K血症を伴う四肢脱力に対してMg補充が効果的であった1例
9	27	救急診療科	長谷川 延彦	救急	整形外科外来・救急外来の診察
			木村 僚喜	R1	腎外傷について
10	27	救急診療科	白川 智也	R1	骨盤骨折に伴う尿道損傷を経験した1例
			田川 康博	R1	多発肋骨骨折に対して保存的加療を行った一例(フレイル Chest)
11	29	救急診療科	池田 恒基	R1	肺水腫を伴った谵妄の症例
			洪 雅敏	練馬R2	VRDに合併した仙骨腫瘍の栄養血管破綻によるショックの1例
12	27	救急診療科	竹内郁人	救急(大学院生)	外傷処置診療のおさらい
			安藤美沙	R1	外傷を契機とする胃壁内気腫症が認められた一例
1	31	救急診療科	池田 裕至	R1	横紋筋融解症の治療を行った後再度高CK血症をきたした一例
			葛島 魁人	R1	偶発性低体温症を来した一例
2	28	救急診療科	植木 響政	R1	アルカリ性洗剤により重度の腐食性食道炎をきたした一例
			波多江文俊	本郷R1	神経障害を伴う外傷性窒息をきたした45歳男性の1例
			堂垂 大志	R2	神経性食思不振症に合併した Refeeding syndromeの一例
3	28	救急診療科	塩崎 太郎	R1	大動脈に近接した多発肋骨骨折を併発した多発外傷の一例

【レジデントアワー】

月	日	学会発表者	指導医	指導科	
6	24	佐々木 洋介	柳川 洋一	救急診療科	大動脈解離で突然死した13歳男児の一例
		堂垂 大志	市之川 英臣	呼吸器外科	多発肋骨骨折に対する固定方法を考える
		長澤 宏樹	大森 一彦	救急診療科	鹿との遭遇で受傷した自動車交通外傷の一例
9	16	中止			
12	16	堂垂 大志	小西 宏和	循環器科	OCTが有用であったA lotus root-like appearanceを呈した急性冠症候群の一例
		長澤 宏樹	大森 一彦	救急診療科	パラグライダー中の高所墜落から大動脈損傷を負い、救命し得なかった一例
		森 智世	渡邊 直紀	血液内科	出血を繰り返し免疫抑制療剤の併用療法が奏功した高インビター力価の後天性血友病A
3	17	瀬川 博芸	徳田 智史	外科	術前に観察可能であった原発性小腸癌の一例
		長澤 宏樹	近藤 彰彦	救急診療科	早期ドレナージが診断、治療に有用であったNocardia感染症の一例

<CPC・CRCデスカンファレンス(臨床病理・臨床放射線合同カンファレンス)>

年3回開催した。

実施日	症 例 内 容
6月30日	子宮大部癌術後(局所再発・多発性転移)+右腎(透析腎)
12月15日	アミロイドーシス全身性(心、両側腎・副腎、脾、肝、消化管(食道～大腸)、脾、両側肺、子宮・卵巣、後腹膜)+子宮平滑筋腫+胸水・腹水少量
2月5日	左肺癌+腺癌(乳頭型～低分化型)、全域性・出血壊死(+)、転移(+)(右肺、肝)

<日本救急医学会認定 ICLS コース>

4月5日 臨床研修医1年目が全員参加し、実際に即したシミュレーション実習を、1日かけて行った。

<臨床研修医のための学術集会>

7月7日 順天堂大学4基幹病院全研修医による学術集会があり、静岡病院としてR1池田 恒基 先生による「ステロイドを併用し加療した川崎病1歳男児例」の発表と小児科 馬場 洋介先生による「川崎病の病態と治療法-何がどこまでわかったか-」のミニレクチャーを行った。

<研修医・指導医のための研修会>

平成29年9月30日(土)、10月1日(日) クロスウェーブ府中にて順天堂大学4基幹病院合同の研修があり、研修医1年目13名、「充実させた臨床研修のための振り返りを将来のキャリア形成に繋ぐ」をテーマに研修を行った。

<臨床研修修了証書授与式>

平成30年3月8日 順天堂大学本郷キャンパスにて順天堂大学4基幹病院合同の修了証書授与式が行われ、静岡病院では研修医21名が授与された。

■研修管理委員会

研修管理委員会が開かれ、平成29年度の当院、各施設より研修報告が行われた。

■臨床研修病院合同説明会への参加

平成 29 年度は県外 4 回、県内 2 回の合同説明会に参加した。説明会では、医学生が当院研修医と、気軽に臨床研修について質問、相談できる雰囲気を作り、多くの医学生に立ち寄っていただいた。

開催日	説明会	場所	参加人数
6 月 11 日	文化放送レジデントレビュー	新宿NSビル	21 名
7 月 16 日	レジナビフェア 2017in 東京	東京ビッグサイト	6 名
3 月 5 日	レジナビフェア 2017in 福岡	マリメッセ福岡	36 名
3 月 19 日	レジナビフェア 2017in 東京	東京ビッグサイト	49 名
3 月 26 日	臨床研修病院合同説明会 in 静岡	グランシップ	18 名

■平成 29 年度 初期臨床研修医採用について

静岡県東部地域で地域医療の最前線で日々奮闘している順天堂大静岡病院で多くの研修医が研修することには大きな意義がある。しかし、現在の傾向として都会の順天堂の関連病院や母校以外のより優秀な研修医が集まる有名病院で研修する人達が増加してきている。

そうした現状の中で、静岡病院での研修を積極的に希望する研修医がしだいに増加しつつある。

静岡病院の特徴は、静岡県東部地区の基幹病院として、救急車やドクターヘリにより連日多くの患者が運ばれ、救急外来、病棟で多くの患者さんの治療を経験することができ、またその際に実践的に実技を習得することができる。科間の垣根が低く、迅速に全身の治療ができることにある。さらに指導医は専任のチューターを中心に、教育に力をいれており、レクチャー、症例発表会なども定期的に行った。その上、静岡病院では、研修医のための宿舎が整備され、部屋は広く、備品も整い、病院に近く、希望者全員が生活しているため、研修医同志の絆が形成し易く、相互に研鑽して有意義な研修生活を送っている。

<採用結果>

平成 29 年度医師臨床研修医は、基本プログラム 21 名を採用した。(平成 30 年度採用)

定 員	本 学	他 学	男 子	女 子	合 計	マッチング率
25 名	18	6	18	6	24	96.0%

※マッチング決定 24 名、採用は 21 名であった。

次年度目標

静岡病院の特徴である、救急診療を中心とした各診療科との連携から得られる技術や知識を身に付け、コミュニケーション能力を鍛えられる研修環境を整えていく。また、研修医の学会発表の経験を研修プログラムとして必須要件と捉え、多くの研修医が積極的な発表を行えるよう、臨床研修センター及び各診療科からも指導を行い、プレゼンテーション能力、伝える力を鍛え、順天堂大学内のみならず、広く世界で活躍できる医師への礎となるよう、サポートしていきたい。

3-17 (1) 地域医療連携室

業務内容

当院の基本方針にある「病病・病診連携に取り組む」を推進すべく、地域医療連携の円滑化に努めております。院外に向けては、患者さんを御紹介頂けるよう、当院情報の発信、紹介予約の受付、診療情報授受の窓口等を行っております。院内に向けては、患者さんを逆紹介し易いよう、地域の医療情報や文書作成システムを提供しています。また、地域の皆さんへ健康に関する情報を発信するため、公開講座や子供医療体験会を開催しております。

業務実績

地域別紹介患者数

	2次保健医療圏	市町村	平成27年度	平成28年度	平成29年度
静岡県	賀茂	下田市	772	664	638
		賀茂郡東伊豆町	220	169	178
		賀茂郡河津町	394	445	445
		賀茂郡南伊豆町	30	29	34
		賀茂郡松崎町	34	44	40
		賀茂郡西伊豆町	314	368	415
		小計	1,764	1,719	1,750
	熱海伊東	熱海市	384	423	469
		伊東市	1,766	1,797	1,924
		小計	2,150	2,220	2,393
	駿東田方	沼津市	1,966	2,250	2,378
		三島市	1,992	2,076	2,301
		御殿場市	660	746	850
		裾野市	410	624	582
		伊豆市	1,483	1,642	1,888
		伊豆の国市	2,207	2,317	2,619
		田方郡函南町	1,257	1,353	1,701
		駿東郡清水町	606	656	714
		駿東郡長泉町	560	597	690
		駿東郡小山町	27	37	39
		小計	11,168	12,298	13,762

	2 次保健医療圏	市町村	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
	富士	富士宮市	98	90	85
		富士市	255	253	309
		小計	353	343	394
	その他		260	255	311
	県内合計		15,695	16,835	18,610
県外			943	939	939
総計			16,638	17,774	19,549

次年度目標

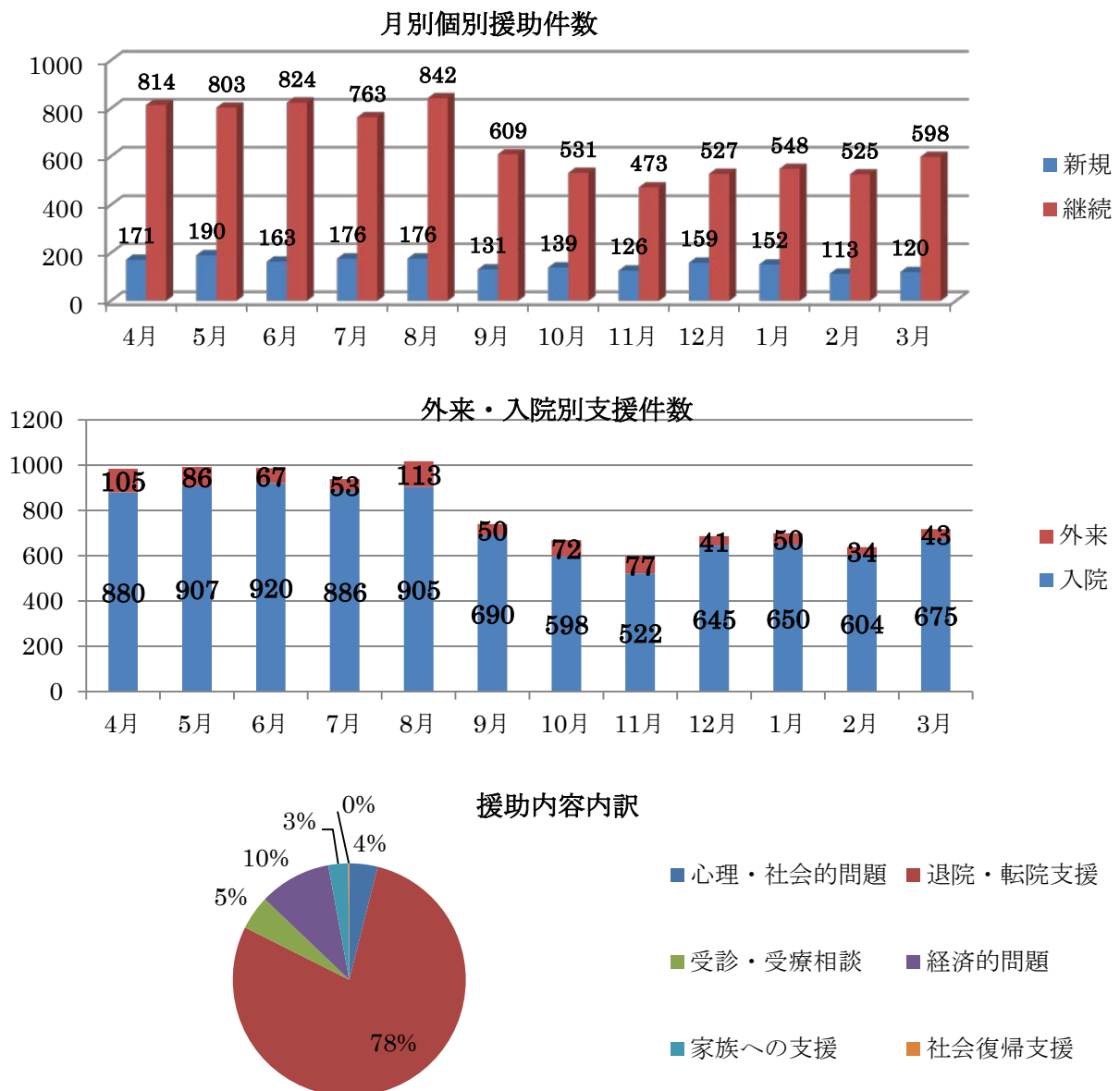
- ・ 患者紹介・逆紹介数の向上
- ・ 紹介予約件数の増加（患者紹介円滑化と外来待ち時間短縮）
- ・ 広報活動の充実を図る

3-17 (2) 医療福祉相談室

業務内容

社会福祉士（ソーシャルワーカー）4名にて、入院・外来患者、地域に対し相談・調整業務を行っている。主な業務としては、転院・退院支援（地域連携パス含む）、各種福祉制度・社会保障制度の紹介、経済的問題の支援である。心理的・社会的背景や傷病によって生じる生活上の課題を把握し、社会資源を活用しながら個別的に支援を行っている。外来相談においてもそれらを考慮し療養病院や施設入所に結びつける支援も増加傾向にある。

業務実績



次年度目標

上記支援含め入退院支援加算取得継続等、退院支援看護師と協同し地域との連携支援に努力していく。
昨年度、静岡県ソーシャルワーカー協会主催の事例検討会にて事例発表を行った。今後もソーシャルワーカー協会の研修に積極的に参加しソーシャルワーク支援の質向上を目指したい。

3-17 (3) 患者・看護相談室

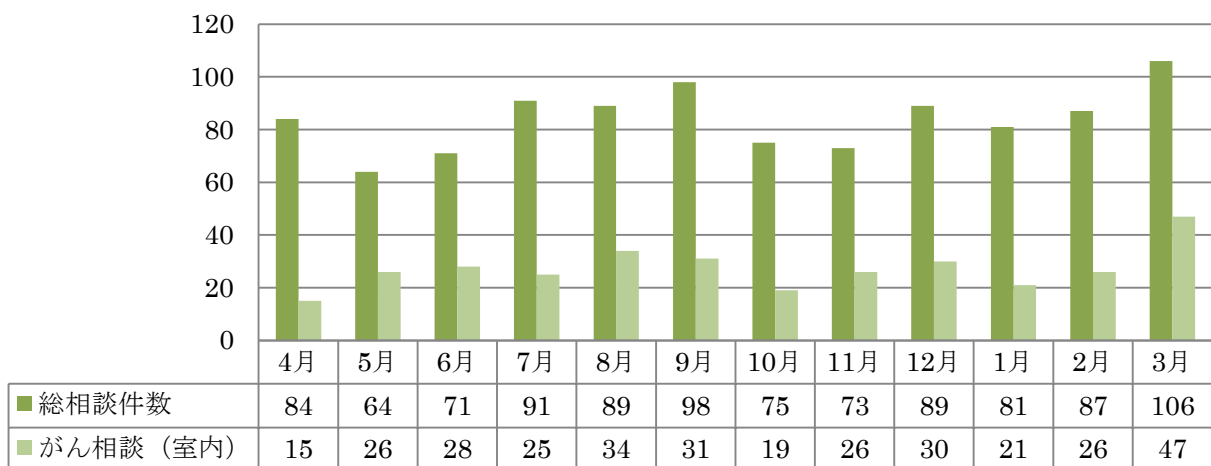
業務内容

当室は、医療サービス支援センターの一部門として患者さん御家族のサービスに努め、本年度は「患者満足度調査」も実施しました。

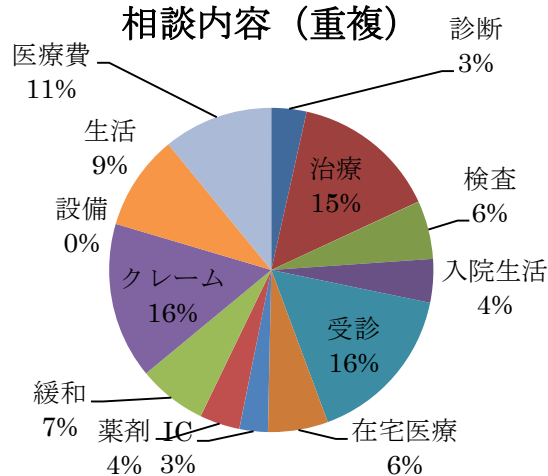
がん患者および他疾患の「長期療養者の就労支援」の取り組みの一環として社会保険労務士による「就労・障害年金」に掛かる相談会を開催しています。また「御来院皆様の声」（投書）を該当部署へ配布し改善に向けた取り組みを行っています。

業務実績

平成29年度相談件数



相談内容（重複）



平成 29 年度 「御来院皆様の声」 による改善実現例（一部抜粋）

項目	分類	内容	対応部署	結果
その他	苦情	玄関前の道路に禁煙と書いてある側で喫煙者が2名いた	総務課	見回りを1時間に1回に増やした
その他	苦情	自転車置き場にバイクを置いており、自転車が置けない	営繕管財課	バイクに張り紙をする
院内設備	提言	トイレの汚物入れが下過ぎ、台を置いてほしい	5C 病棟	ペダル式のゴミ箱へ変更
予約診察	苦情	眼科外来の待ち時間	眼科医師、外来看護師	10 月から 4 診稼働、予約枠 11:30→13:00 までとした
院内設備	提言	採尿トイレ(男性)に荷物掛けがほしい	営繕管財課	フック取り付け
その他	苦情	忘れ物保管が2ヶ月とは、次回外来時は破棄なのか	医事課	本人から連絡受けた物は希望日まで取り置く
献立	提言	白い器に白米は見えにくい	栄養科	色付き食器へ(予算申請中)
院内設備	提言	オストメイト用トイレの設置があるのかわからない	営繕管財課	案内表示盤に表示

次年度の目標

平成 30 年度は、厚生労働省の掲げる「治療と仕事の両立支援」に向け両立支援コーディネーター資格を取得し、患者サービスへ繋げ診療報酬加算の取得を目指します。

また、「がん患者さんの就労相談会」を 5 回/年に増やし患者さんに周知戴く広報を行っていきます。

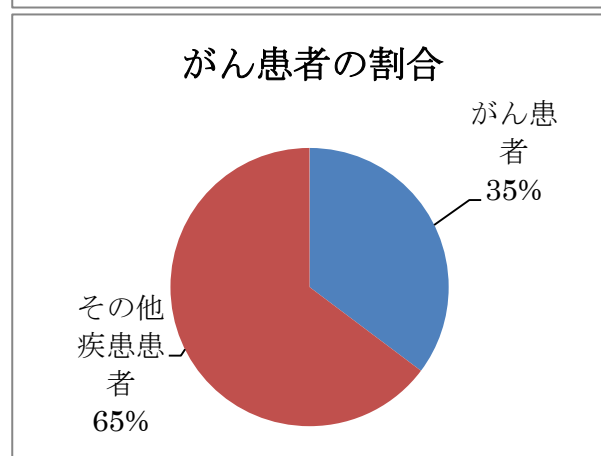
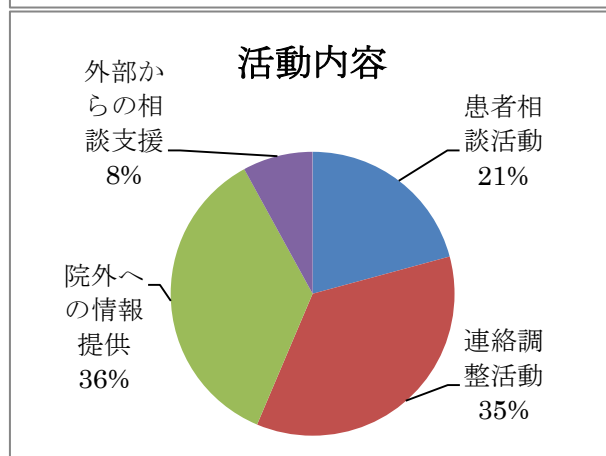
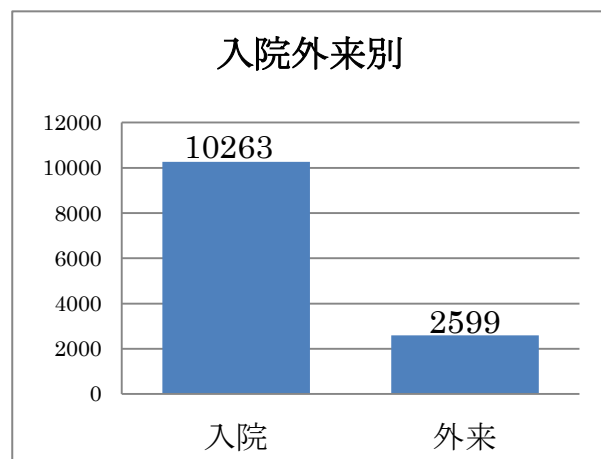
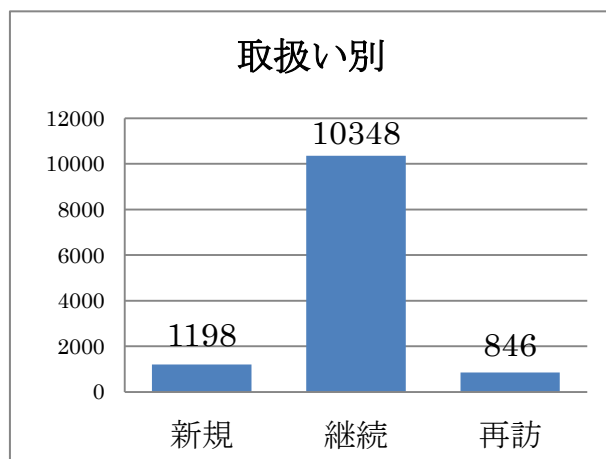
3-17 (4) 退院支援看護師

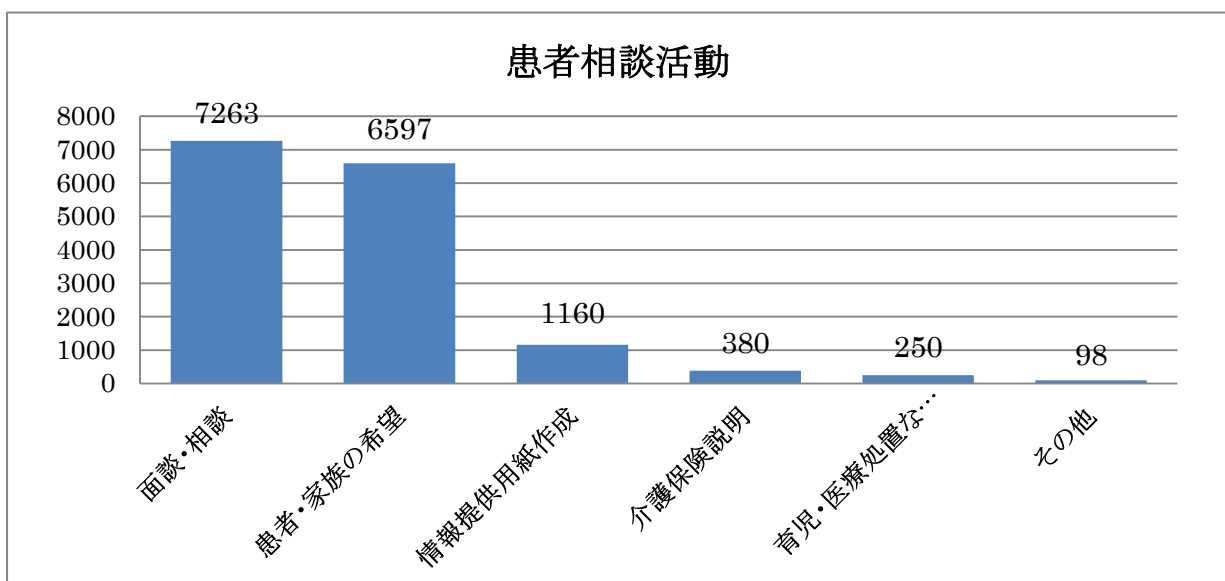
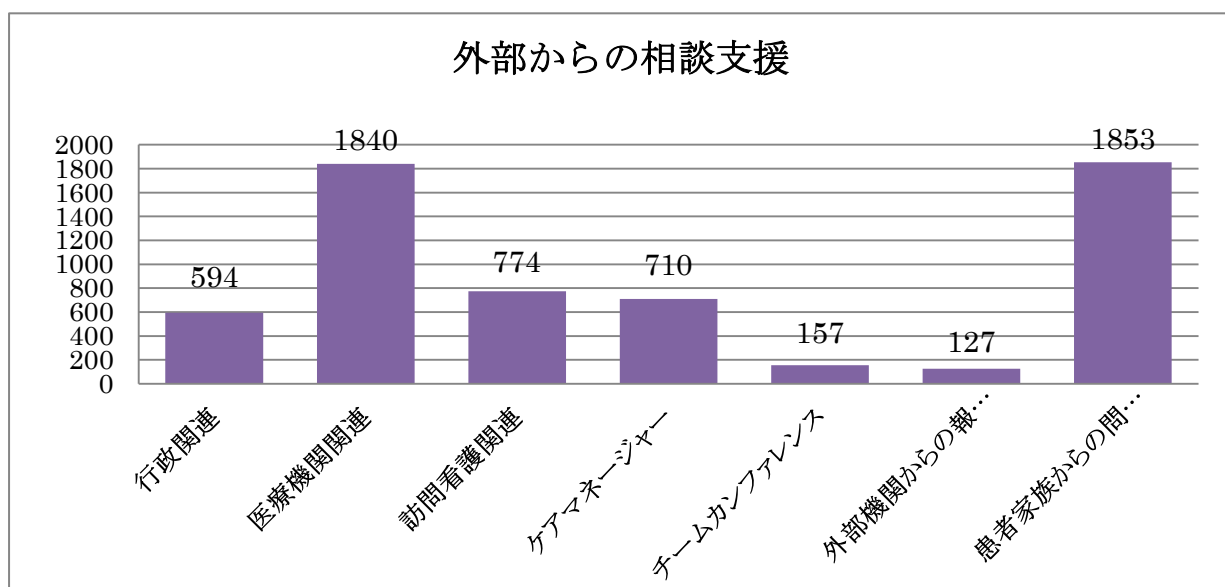
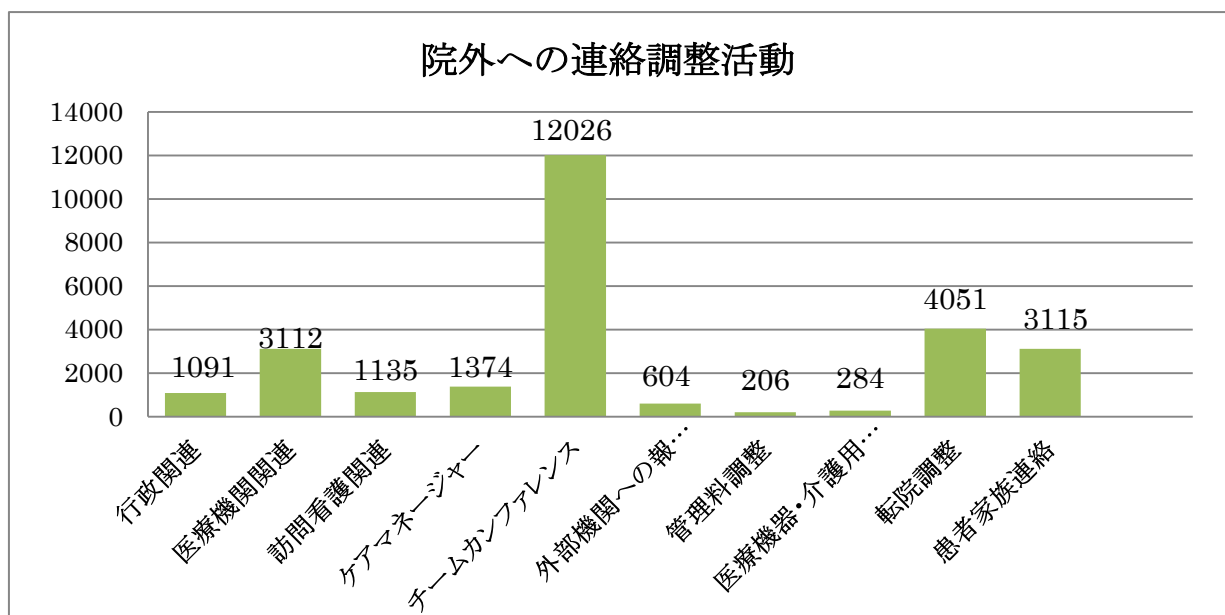
業務内容

平成 29 年度は退院支援加算 1 と 3 の算定に向けたシステムが構築され、退院支援加算 1 の算定件数は 4665 件から 6423 件、退院支援加算 3 は 257 件から 363 件と増加した。8 月より 1 名の専任看護師が増員され 4 名となり、MSW の負担軽減のために、担当部署の転院調整を行うようになった。また在宅療養支援の実際として、外来での意思決定支援により、外来での調整件数が増加した。その内訳は、訪問看護への依頼が、前年度 40 件から 81 件、訪問診療についても 26 件から 41 件とそれぞれ増加に至った。そして、地域からの相談依頼件数も前年度 540 件から 825 件と増加しており、地域連携の強化に努めた。

次年度目標

平成 30 年度の診療報酬改定では、入院前からの支援に手厚い評価となり、「入院時支援加算」が新設されたため、要件を遵守すべくシステムを構築していく。また、昨年度は在宅調整件数の増加に至ったが、がん末期の患者や医療依存度の高い患者を安心・安全に在宅療養へ移行し、在宅療養を継続できるように退院後訪問指導の導入に着手したい。各病棟の担当看護師・リンクナースをはじめ退院支援専任看護師及び認定看護師を伴った退院後の在宅訪問に繋げていきたい。





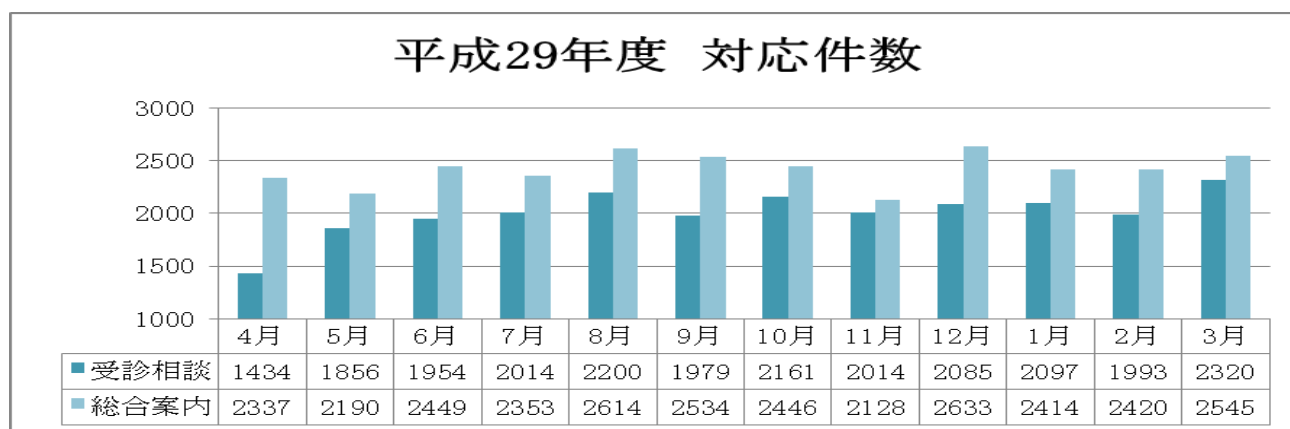
3-17(5) 受診相談・総合案内

業務内容

受診相談・総合案内では、来院する方が最初にかかわる窓口であるため丁寧な接遇を心がけています。

1. 受診科の相談、急患の相談
2. 患者・家族の案内や支援、ボランティアとの協力
3. 安心・安全な病院環境を提供できるよう各部署と協力・検討
4. 相談や問合せ：病院に関する問合せ、交通機関や周辺施設の案内、その他困り事など

業務実績



内訳		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受診相談	受診相談	535	624	601	670	678	647	588	533	519	578	511	506
	電話相談	144	153	203	180	187	166	175	138	135	127	149	175
	院内案内	108	162	157	142	171	137	214	249	263	302	258	470
	面会案内	143	163	184	159	202	185	215	262	267	285	226	283
	受付案内	306	377	422	459	534	437	574	402	411	313	346	489
	その他の相談等	198	377	387	404	428	407	395	430	490	492	503	397
総合案内	院内案内	1016	949	1051	1016	1138	1143	1097	1079	1288	1204	1207	1303
	面会案内	622	548	653	610	704	666	629	568	645	559	559	524
	受付案内	636	651	689	658	701	658	637	426	629	599	612	664
	その他の相談等	63	42	56	69	71	67	83	55	71	52	42	54

次年度目標

平成29年度より事務員が増員となりました。更なるサービス充実に努めます。

1. 多様化しているニーズ（要介護、単身受診、外国人など）に応えるため、知識・技術の向上
2. 安全で快適な環境づくり
3. エスカレーターでの転倒・転落予防

3-18 医療安全管理室

業務内容

1. 医療安全・危機管理委員会の計画・実施（月 1 回）
2. 医療安全・危機管理小委員会の計画・実施（随時）
3. 医療安全・危機管理委員会で用いられた資料及び議事録の作成と保管
4. 事故等に関する、診療録や看護記録等への記載の確認、並びに必要な指導
5. 患者や家族への説明など、事故発生時の状況確認と必要な指導
6. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導
7. 医療事故防止のための院内研修会の計画・実施および院外研修会の参加
8. 順天堂 6 病院医療安全ネットワーク会議・シンポジウムへの参加（2 ヶ月 1 回）
9. インシデント・アクシデントレポートの受付・統計処理
10. 医療情報提供委員会の計画・実施（月 1 回）
11. 患者苦情報告書受付・対応
12. ハラスメント委員会
13. 倫理委員会
14. 個人情報相談窓口
15. 顧問弁護士との調整・連絡・相談

平成 29 年度の主な活動と実績

医療安全管理マニュアル(第 13 版)の改訂を行い、4 月に全職員に配布し、医療事故防止の周知・徹底を図った。29 年度のインシデント・アクシデントレポート報告は 1,684 件で、前年度より 100 件増加した。事故種類別では、主に与薬事故、チューブ・ライン管理事故、転倒・転落事故が多く、その他、器械紛失や食事の異物混入、書類の渡し間違い、患者からの暴力行為等の報告があった。部門別では看護師が 87.9%と大半を占め、コメディカル 6.7%、医師 7.1%と続いた。影響レベルは、レベル 0 からレベル 2 及び、その他の範囲で、全体の 7 割程度を占めた。また、電子カルテ導入に伴い、診療部・看護部と連携し副作用情報や禁忌薬剤等の患者基本情報入力手順やインスリン指示マニュアル等を作成し事故予防に努めた。院内の苦情・クレームについては随時対応し、解決に向けた対策を図った。

毎月 1 回各部署のリスクマネージャーが出席し、医療安全・危機管理委員会を開催。毎回事例を議題として取り上げ、全体で最善の医療事故対策について検討している。また、医療安全・危機管理委員会で検討した内容の中で、特に周知徹底が必要な事項については、リスクマネジメントニュースレターを毎月発行し院内周知をしている。

診療記録等の開示請求については、毎月 1 回医療情報提供委員会を開催し、490 件の情報開示を行った。保険会社からの開示申請が大半を占めており、B 型肝炎訴訟に伴う申請も増加している。医療安全に関する研修会については、年間 9 回の院内研修会を行った。

また、順天堂 6 病院医療安全ネットワーク、シンポジウムに年各 3 回参加。各附属病院の事例について意見

交換・対策を検討し、当院の医療安全・危機管理委員会で周知を図った。

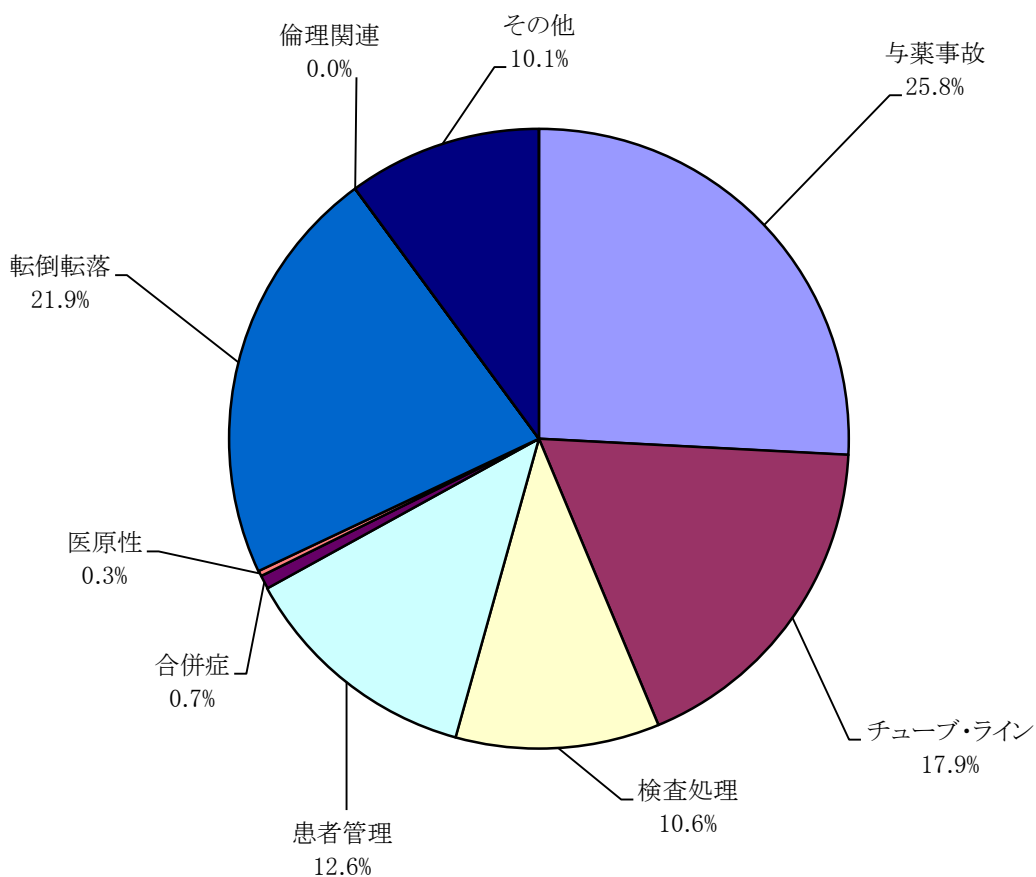
平成 30 年度 年間目標

医療事故防止の為に、医療従事者一人ひとりが患者の安全を守る意識を持ち、質の高い安全な医療提供体制を構築する。

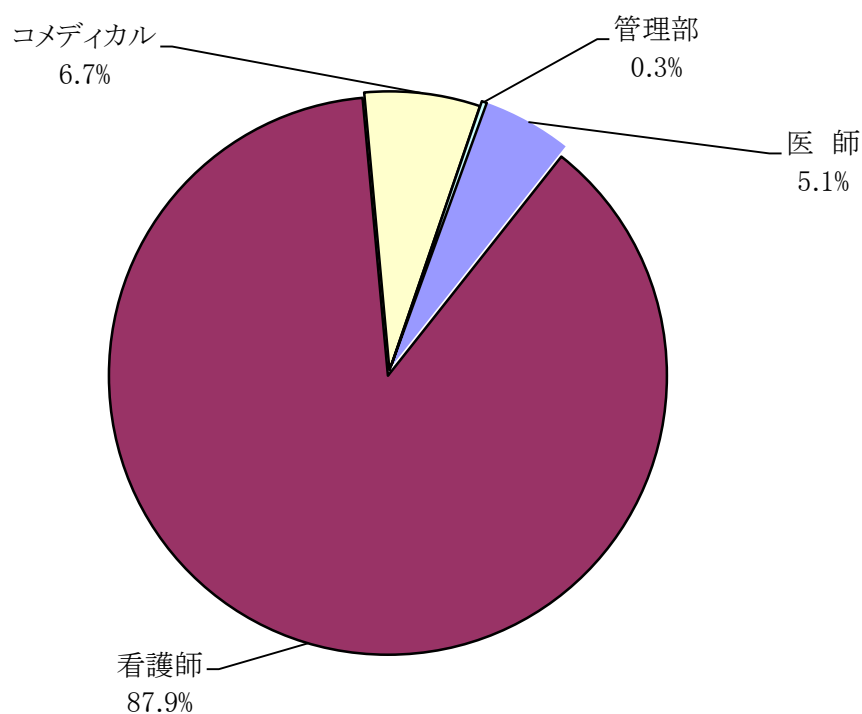
1. 事例の原因究明・分析に基づく再発防止策の徹底
2. 医療安全活動活性化のためのリスクマネージャーの育成
3. 医療従事者への教育・啓発を行う
4. 安全な医療提供のためのマニュアル作成

平成 29 年度インシデント・アクシデントレポート

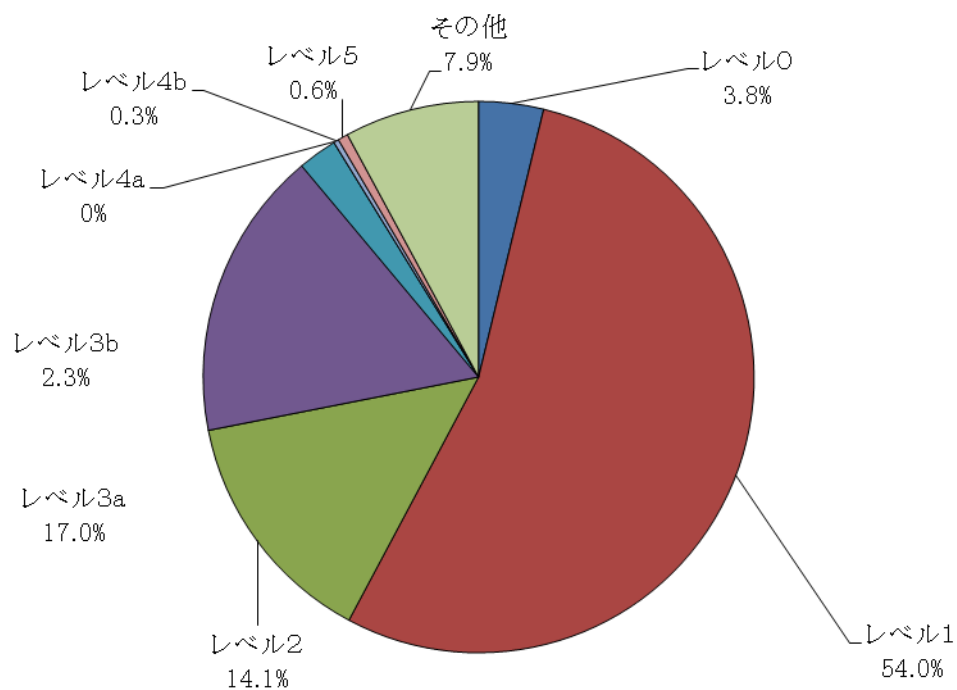
1. 事故種類別



2. 部門別



3. 影響レベル



3-19 感染対策室

業務内容

感染対策室では以下のような活動を行っている。

- ① 患者に対しては安全な医療環境を提供するために、診療上問題となる病原微生物が発生・伝播・拡散することを防ぐ活動。
 - 病原微生物の感染経路に応じて感染拡大を防止する対策を行う。
 - 手指衛生モニタリングを行い、アルコールゲルなどの使用状況に応じて各部署に指導を行う。
 - 週1回の病棟ラウンドで、広域抗菌薬や抗MRSA薬の適正な使用状況を確認し、奨励する。
 - 環境監査は年間計画に沿い、ハイリスク病棟は1回/週、病棟も1回/月、ハイリスク部署は1回/2ヶ月の頻度で行う。
 - 耐性菌を中心に、各病棟で問題となる病原微生物のアウトブレイクがないかチェックを行う。アウトブレイクと判断した場合は、当該部署に指導を行う。
- ② 職員を感染曝露から防ぐための活動。
 - 針刺し、切創、粘膜曝露予防策及び発生時の対応方法を職員に指導している。
 - 安全衛生管理室と連携して職業感染予防のためのワクチン接種を推進している。
- ③ 院内感染対策の広報活動。
 - 院内感染対策を職員に浸透させるための定期的な講習会を開催している。
 - 不定期でニュースレター(職員向け)とリーフレット(患者向け)を発行している。
- ④ 近隣病院との連携。
 - 連携をしている近隣病院との合同カンファレンスを通して、各施設が抱えている問題点を提示し、それに対する対策に関して意見交換を行う。
 - 連携病院と相互に院内ラウンドを行い、第三者の目から改善点を指摘しあう。

業務実績

月	日(曜日)	
4月	1日(金)	新入職員オリエンテーション
	25日(金)	感染対策委員会
5月	19日(金)	感染対策委員会
	19日(金)	感染防止対策加算1・2 合同カンファレンス
	20日(土)	6病院感染対策連絡会議
6月	21日(水)	感染対策研修会(梅毒の診断・治療)
	23日(金)	感染対策委員会
7月	28日(金)	感染対策委員会
8月	25日(金)	感染対策委員会
9月	11日(月)	感染対策研修会(基本の感染対策)
	13日(水)	感染防止対策地域連携加算ラウンド(伊東市民病院受け入れ)

9 月	17 日(金)	6 病院感染対策連絡会議
	22 日(金)	感染対策委員会
	29 日(土)	感染防止対策加算 1・2 合同カンファレンス
10 月	6 日(金)	感染対策研修会(経路別対策)
	16 日(月)	感染防止対策地域連携加算ラウンド(国際医療福祉大学熱海病院訪問)
	27 日(金)	感染対策委員会
11 月	17 日(金)	感染対策委員会
12 月	1 日(金)	感染防止対策加算 1・2 合同カンファレンス
	8 日(水)	感染対策研修会(抗菌薬の使い方)
	11 日(月)	感染対策研修会(HIV/AIDS の基礎知識)
	15 日(金)	感染対策委員会
	16 日(土)	6 病院感染対策連絡会議
1 月	15 日(月)	感染対策研修会(手指衛生と防護具着脱)
	18 日(木)	私立医科大学病院感染対策相互ラウンド(関西医科大学香里病院受け入れ)
	23 日(火)	感染対策研修会(抗菌薬の使い方)
	26 日(金)	感染対策委員会
2 月	2 日(金)	私立医科大学病院感染対策相互ラウンド(関西医科大学香里病院訪問)
	5 日(月)	感染対策研修会(HBV キャリアの病態と注意点)
	7 日(水)	東部地区感染対策合同カンファレンス(静岡がんセンター)
	23 日(金)	感染対策委員会
3 月	12 日(月)	感染対策研修会(正しい検体の取り方)
	16 日(金)	感染防止対策加算 1・2 合同カンファレンス
	17 日(土)	6 病院感染対策連絡会議
	23 日(金)	感染対策委員会

次年度目標(29 年度の総括と次年度の目標)

① 平成 29 年度の総括

- 抗菌薬ラウンドで広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用適正化を進めた。
- 手指衛生は直接観察法を ICN、リンクナースが実施し質担保に努めているが、実施率 70%、遵守率 44%にとどまる。アルコールゲル使用量は 15.0ℓ/1000 患者程度を維持している。
- 環境衛生については ICT ラウンドの実施、看護部リンクナースと協働し衛生的な病院環境の提供に努めているが、再ラウンドの改善率がよくない。
- CLA-BSI/CA-UTI サーベイランスでは多くの部署で感染率が高いが、昨年度よりは改善している。
- 感染経路別対策実施率は 38.7%と低く、改善への取り組みが必要である。
- MRSA レベルゼロシステムは各部署の主体的な活動にはつながっていない。

② 平成 30 年度の目標

- 抗菌薬ラウンドと血液培養陽性症例のラウンドを一緒に行い、抗菌薬の適正使用の更なる推進を図る。
- CLA-BSI/CA-UTI 感染率は 29 年度データを下回る。
- MRSA レベルゼロシステムに応じ、自主的な活動を促し実践能力の向上を目指すための支援を行う。

3-20 安全衛生管理室

業務内容

安全衛生管理室は、教職員の健康の保持増進及び疾病予防を図ることを目的に業務を行っている。

教職員対象の健康診断およびストレスチェックの実施、外来受診受付対応、職場巡視、職業感染予防のための各種ワクチン接種等を行っている。

また、毎月開催している安全衛生委員会では、教職員の危険及び健康障害の防止に関する対策や精神的健康の保持増進を図るための対策等について審議している。

平成 29 年度 安全衛生管理室行事

年 月	日	曜 日	行 事
29 年 4 月	4	火	新入職員オリエンテーション
	6	木	雇い入れ時健康診断
	20～22	木～土	B 型肝炎ワクチン接種
	26	水	安全衛生委員会
5 月	8～19	月～金	春季健康診断、ストレスチェック
	中旬～下旬	月～金	新入職員面談
	24	水	安全衛生委員会
6 月	上旬	月～金	新入職員面談
	5～9	月～金	胃検診(胃透視検査)
	22～24	木～土	B 型肝炎ワクチン接種
	28	水	安全衛生委員会
7 月	22～25	土～火	B 型肝炎ワクチン接種
	26	水	安全衛生委員会
8 月	23	水	安全衛生委員会
9 月	27	水	安全衛生委員会
10 月	16～20	月～金	雇い入れ時健康診断
	25	水	安全衛生委員会
	31	火	校医会・法人安全衛生委員会
11 月	7～13	火～月	秋季健康診断
	15	水	安全衛生委員会
	16～22	木～水	インフルエンザ予防接種
12 月	22～25	金～月	B 型肝炎ワクチン接種
	27	水	安全衛生委員会
30 年 1 月	24	水	安全衛生委員会
	24～26	水～金	B 型肝炎ワクチン接種後抗体価検査
2 月	20～22	火～木	B 型肝炎ワクチン接種
	28	水	安全衛生委員会

3 月	19 22～24 27～28 28	月 木～土 火～水 水	安全衛生管理室担当者協議会 B 型肝炎ワクチン接種 雇い入れ時健康診断 安全衛生委員会
-----	----------------------------	----------------------	--

【月毎定例行事】 飲食物取扱従事者検便《毎月第 2 火曜日》 ※6 月～9 月は、第 2・4 火曜日実施
託児所業務従事者検便《毎月第 2 火曜日》

【随 時】 雇い入れ時健康診断

次年度目標

平成 30 年度は、教職員の職業感染の防止と患者への感染拡大を防止するため、麻疹ワクチン・風疹ワクチン・B 型肝炎ワクチン接種を実施する。

健康診断の結果が要受診・要精密検査の教職員に対しては、受診勧奨し疾病の早期発見・早期治療につながるよう受診状況の把握に努める。

業務実績

定期健康診断受診率

	春 季			秋 季		
実施期日	平成29年5月8日～12日、16日～19日			平成29年11月7日～13日		
実施項目	身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査、心電図検査、胸部X線、胃透視検査(40歳以上希望者)			身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査		
受 診 率	全 体	1,205/1,205	(100.0%)	全 体	817/817	(100.0%)
	医 師	212/212	(100.0%)	医 師	171/171	(100.0%)
	コメディカル	172/172	(100.0%)	コメディカル	49/49	(100.0%)
	看護部	724/724	(100.0%)	看護部	596/596	(100.0%)
	事務部	91/91	(100.0%)	研究センター	1/1	(100.0%)
	研究センター	6/6	(100.0%)			

4. 統計

4-1 病床利用率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
病 床 数	577	577	577	577	577	577	577	577	577	577	577	577	577
病 床 利 用 率	99.2%	97.2%	95.3%	96.0%	98.4%	98.5%	98.1%	99.5%	98.3%	98.2%	102.4%	99.9%	98.4%

4-2 在院日数

(単位: 日)

診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
内 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
膠 原 病 内 科 ・ リ ウ マ チ 科	32.4	25.5	22.1	28.3	48.8	22.8	28.1	22.9	18.0	30.5	20.4	16.6	24.5
血 液 内 科	39.5	37.9	28.1	28.9	26.2	23.7	31.1	24.7	21.2	26.8	31.4	37.7	29.0
消 化 器 内 科	15.8	15.2	13.0	11.2	14.7	12.7	14.6	10.9	11.1	14.6	10.4	11.5	12.8
呼 吸 器 内 科	20.8	24.6	18.9	20.5	20.3	17.5	17.5	20.8	19.1	15.7	18.1	17.4	19.1
腎 臓 内 科	21.4	19.4	18.4	19.5	18.7	20.7	22.3	15.5	23.5	21.4	24.8	25.6	20.6
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	11.7	12.1	11.3	11.2	12.0	11.8	11.7	12.1	10.2	10.2	10.2	16.3	11.7
循 環 器 科	8.6	9.2	7.9	8.7	8.0	7.2	8.8	8.4	7.3	9.3	10.1	14.5	8.8
小 児 科	4.9	6.1	5.9	6.0	5.4	5.5	6.3	5.3	5.1	6.4	5.4	5.5	5.6
新 生 児 科	31.2	21.8	19.9	25.5	19.6	20.4	17.7	17.7	21.3	21.8	21.5	21.5	21.2
外 科	10.8	9.9	9.9	10.0	10.9	12.9	10.1	10.4	10.1	11.5	11.9	11.9	10.8
脳 神 経 外 科	19.8	19.3	15.1	18.7	18.3	17.5	19.0	18.0	19.6	21.2	20.0	17.2	18.6
整 形 外 科	23.0	23.7	18.3	18.5	18.0	20.1	19.6	21.6	18.0	22.8	20.0	17.8	19.9
脳 神 経 内 科	24.2	24.2	20.7	28.2	17.8	22.8	18.8	19.5	14.9	18.9	17.2	16.3	19.8
心 臓 血 管 外 科	23.6	15.5	17.5	20.8	24.2	15.5	18.1	19.5	17.7	23.6	20.4	17.3	19.2
呼 吸 器 外 科	13.5	14.5	11.8	12.6	12.4	13.8	13.1	13.4	10.5	12.6	11.4	14.8	12.8
形 成 外 科	19.3	18.0	20.5	28.3	11.7	13.1	12.3	15.6	19.0	12.8	14.3	16.6	16.2
眼 科	10.3	8.6	8.1	6.3	7.2	6.8	5.7	7.3	8.4	7.6	5.8	8.1	7.5
耳 鼻 咽 喉 科	9.3	11.2	8.4	9.8	7.6	8.9	10.5	9.7	9.5	9.5	9.4	7.8	9.2
麻 酔 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
放 射 線 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メ ン タ ル ク リ ニ ッ ク	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
皮 膚 科 ・ ア レ ル ギ ー 科	10.8	12.5	10.3	11.8	14.6	11.4	9.3	12.1	9.2	13.2	17.1	11.0	11.6
泌 尿 器 科	11.9	11.0	10.2	10.6	8.5	8.9	8.2	9.9	6.8	8.5	7.2	9.9	9.1
産 婦 人 科	8.1	8.1	8.3	7.5	7.7	8.3	7.9	7.9	7.6	7.6	7.7	8.1	7.9
救 急 診 療 科	7.0	11.7	12.2	6.8	6.6	10.0	9.5	9.9	11.6	10.4	9.8	11.3	9.6
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合 計	13.4	13.5	12.1	12.2	12.1	12.5	12.3	12.3	11.6	13.1	12.6	13.0	12.5

※平成28年7月より、リハビリテーション科の開設、同年10月より総合内科の廃止

4-3 診療科別延患者数(外来)

(単位:人)

診療科\月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,886	—
膠原病・リウマチ内科	1,197	1,206	1,300	1,202	1,290	1,190	1,285	1,310	1,293	1,267	1,214	1,343	1,258	15,097	14,220	106.2%
血液内科	1,041	1,016	1,110	1,088	1,093	977	1,103	1,055	1,044	1,062	1,006	1,146	1,062	12,741	11,293	112.8%
消化器内科	1,847	1,883	1,928	1,937	1,888	2,081	1,936	1,993	1,975	1,889	1,840	2,013	1,934	23,210	22,909	101.3%
呼吸器内科	1,849	1,819	1,841	1,913	1,932	1,982	1,909	1,885	2,075	1,925	1,800	2,003	1,911	22,933	21,277	107.8%
腎臓内科	1,027	1,031	1,109	1,097	1,109	1,126	1,060	1,133	1,096	1,132	1,018	1,150	1,091	13,088	12,254	106.8%
糖尿病・内分泌内科	1,871	1,824	1,825	1,866	1,881	1,864	1,844	1,862	1,853	1,814	1,805	1,979	1,857	22,288	20,416	109.2%
循環器科	3,836	3,759	4,102	3,667	4,066	3,944	3,823	3,874	4,072	3,889	3,866	4,243	3,928	47,141	46,846	100.6%
小児科	1,290	1,392	1,447	1,547	1,590	1,490	1,397	1,522	1,456	1,425	1,284	1,504	1,445	17,344	19,113	90.7%
新生児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	50.0%
外科	2,015	2,102	2,163	2,238	2,300	2,362	2,341	2,380	2,188	2,219	2,187	2,434	2,244	26,929	25,645	105.0%
脳神経外科	2,074	2,186	2,272	2,226	2,266	2,158	2,178	2,135	2,094	2,139	2,090	2,301	2,177	26,119	25,361	103.0%
整形外科	2,833	2,983	3,215	3,027	3,111	2,946	2,846	2,860	2,765	2,706	2,565	3,040	2,908	34,897	32,667	106.8%
脳神経内科	1,806	1,866	2,013	1,872	1,929	1,885	1,938	1,965	1,894	1,835	1,876	2,015	1,908	22,894	22,532	101.6%
心臓血管外科	279	334	323	319	363	314	351	355	311	333	333	385	333	4,000	3,737	107.0%
呼吸器外科	241	250	274	254	265	260	255	235	273	233	237	250	252	3,027	2,383	127.0%
形成外科	385	405	436	447	448	408	393	368	375	384	393	469	409	4,911	4,952	99.2%
眼科	2,575	2,457	2,667	2,567	2,641	2,616	2,678	2,622	2,706	2,560	2,620	2,957	2,639	31,666	32,544	97.3%
耳鼻咽喉科	1,317	1,286	1,449	1,291	1,446	1,286	1,414	1,289	1,268	1,236	1,299	1,575	1,346	16,156	16,136	100.1%
麻酔科	138	174	140	145	182	185	189	156	168	182	169	186	168	2,014	1,643	122.6%
放射線科	413	444	314	258	330	271	314	261	235	249	204	294	299	3,587	4,073	88.1%
メンタルクリニック	2,102	2,159	2,187	2,238	2,390	2,292	2,332	2,284	2,208	2,221	2,134	2,410	2,246	26,957	24,740	109.0%
皮膚科・アレルギー科	2,191	2,409	2,517	2,496	2,424	2,317	2,181	2,095	2,072	1,945	1,880	2,130	2,221	26,657	26,330	101.2%
泌尿器科	1,258	1,365	1,489	1,566	1,642	1,599	1,562	1,599	1,604	1,571	1,486	1,714	1,538	18,455	15,349	120.2%
産婦人科	2,559	2,624	2,864	2,747	2,755	2,641	2,746	2,743	2,698	2,694	2,580	2,907	2,713	32,558	31,975	101.8%
救急診療科	96	123	90	114	128	82	93	108	115	110	100	95	105	1,254	1,320	95.0%
リハビリテーション科	48	46	46	41	37	38	38	59	62	57	57	64	49	593	456	130.0%
合計	36,288	37,143	39,121	38,163	39,506	38,314	38,206	38,148	37,900	37,077	36,044	40,607	38,043	456,517	442,059	103.3%

※平成28年7月より、リハビリテーション科の開設、同年10月より総合内科の廃止

4-4 診療科別延患者数(入院)

(単位:人)

診療科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
膠原病・リウマチ内科	185	200	208	206	200	190	202	216	200	205	161	203	198	2,376	2,402	98.9%
血液内科	529	544	512	524	518	459	353	423	424	473	437	448	470	5,644	5,939	95.0%
消化器内科	959	1,041	974	940	1,054	911	1,024	940	902	984	924	991	970	11,644	11,007	105.8%
呼吸器内科	871	885	721	774	841	767	776	850	825	850	695	793	804	9,648	10,049	96.0%
腎臓内科	361	427	399	381	404	368	362	361	419	425	361	413	390	4,681	4,315	108.5%
糖尿病・内分泌内科	164	170	179	154	167	199	182	203	164	155	145	189	173	2,071	1,860	111.3%
循環器科	1,508	1,688	1,564	1,579	1,278	1,246	1,760	1,468	1,581	1,750	1,616	1,360	1,533	18,398	18,081	101.8%
小児科	375	380	321	433	412	411	427	340	293	339	236	337	359	4,304	4,823	89.2%
新生児科	806	891	805	784	749	856	762	803	781	887	857	881	822	9,862	9,469	104.2%
外科	1,957	1,694	1,548	1,820	1,969	2,042	1,913	1,856	2,095	1,986	1,897	2,122	1,908	22,899	23,207	98.7%
脳神経外科	1,852	1,776	1,560	1,697	1,900	1,850	2,113	2,100	1,974	2,054	1,973	1,967	1,901	22,816	20,905	109.1%
整形外科	1,847	2,041	1,874	1,952	1,946	1,930	1,899	1,899	1,804	1,984	1,721	1,959	1,905	22,856	22,940	99.6%
脳神経内科	770	793	825	861	818	825	821	759	774	802	712	768	794	9,528	9,124	104.4%
心臓血管外科	546	312	317	389	504	519	448	465	434	366	427	416	429	5,143	6,109	84.2%
呼吸器外科	284	302	309	272	274	253	298	266	231	224	210	285	267	3,208	3,053	105.1%
形成外科	243	219	279	265	256	214	158	168	284	205	278	318	241	2,887	3,195	90.4%
眼科	723	772	792	805	746	777	717	726	803	700	683	815	755	9,059	8,832	102.6%
耳鼻咽喉科	383	366	397	408	445	383	430	390	426	452	424	383	407	4,887	5,056	96.7%
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
放射線科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
メンタルクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.0%
皮膚科・アレルギー科	235	276	268	283	281	265	288	248	251	234	226	223	257	3,078	2,879	106.9%
泌尿器科	477	546	475	535	607	546	532	614	556	477	498	660	544	6,523	5,659	115.3%
産婦人科	1,808	1,674	1,730	1,746	1,887	1,626	1,683	1,725	1,834	1,590	1,707	1,863	1,739	20,873	22,453	93.0%
救急診療科	283	387	431	363	342	412	408	406	524	427	349	470	400	4,802	4,344	110.5%
リハビリテーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
合計	17,166	17,384	16,488	17,171	17,598	17,049	17,556	17,226	17,579	17,569	16,537	17,864	17,266	207,187	198,048	104.6%

※平成28年7月より、リハビリテーション科の開設、同年10月より総合内科の廃止

4-5 新患者数(外来)

(単位:人)

診療科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	677	—
膠原病内科 ・リウマチ科	48	37	41	35	29	34	39	43	33	43	29	49	38	460	418	110.0%
血 液 内 科	49	51	60	56	70	59	35	35	61	39	49	51	51	615	491	125.3%
消 化 器 内 科	111	101	118	121	127	127	107	104	101	132	116	98	114	1,363	1,333	102.3%
呼 吸 器 内 科	110	78	104	101	93	91	92	76	96	121	82	68	93	1,112	958	116.1%
腎 臓 内 科	58	43	51	60	46	42	45	46	35	48	41	41	46	556	488	113.9%
糖 尿 病 科 内 分 泌 内 科	33	47	45	31	42	41	38	44	44	40	40	39	40	484	385	125.7%
循 環 器 科	101	112	111	87	97	97	107	92	92	114	107	102	102	1,219	1,113	109.5%
小 児 科	134	215	177	222	219	153	152	197	177	186	127	157	176	2,116	2,869	73.8%
新 生 児 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
外 科	101	92	99	126	121	139	132	123	112	116	106	125	116	1,392	1,400	99.4%
脳 神 経 外 科	123	136	157	139	123	150	154	110	125	130	111	112	131	1,570	1,601	98.1%
整 形 外 科	256	297	253	307	315	255	234	227	229	214	227	272	257	3,086	3,137	98.4%
脳 神 経 内 科	90	80	110	69	83	87	91	87	64	74	77	76	82	988	976	101.2%
心 臓 血 管 外 科	11	19	14	15	18	13	19	12	9	10	18	20	15	178	166	107.2%
呼 吸 器 外 科	8	11	4	9	10	10	4	2	2	3	2	9	6	74	62	119.4%
形 成 外 科	51	51	48	62	63	60	49	52	39	55	48	61	53	639	691	92.5%
眼 科	138	144	144	159	153	141	141	156	133	111	120	148	141	1,688	1,834	92.0%
耳 鼻 咽 喉 科	158	160	160	144	175	110	149	118	127	122	142	168	144	1,733	1,880	92.2%
麻 酔 科	8	12	4	6	6	7	7	8	2	1	2	3	6	66	68	97.1%
放 射 線 科	14	16	13	15	26	19	22	21	5	19	15	34	18	219	241	90.9%
メ ン タ ル ク リ ニ ッ ク	54	58	72	72	69	62	67	57	59	31	49	61	59	711	731	97.3%
皮 膚 科 ・アレルギー科	166	187	154	199	209	166	131	114	118	99	122	139	150	1,804	1,943	92.8%
泌 尿 器 科	67	88	86	66	102	58	84	82	79	69	64	72	76	917	815	112.5%
産 婦 人 科	157	183	233	218	203	202	218	211	227	186	172	190	200	2,400	2,723	88.1%
救 急 診 療 科	60	90	65	71	89	53	55	73	83	68	64	58	69	829	779	106.4%
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
合 計	2,106	2,308	2,323	2,390	2,488	2,176	2,172	2,090	2,052	2,031	1,930	2,153	2,185	26,219	27,779	94.4%

※平成28年7月より、リハビリテーション科の開設、同年10月より総合内科の廃止

4-6 新患者数(入院)

(単位:人)

診療科	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
内 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
膠原病内科・リウマチ科	4	6	9	6	3	8	9	8	10	6	7	11	7	87	77	113.0%
血 液 内 科	11	15	15	17	18	17	11	17	16	17	14	9	15	177	168	105.4%
消 化 器 内 科	56	72	70	83	71	71	68	83	72	75	80	80	73	881	775	113.7%
呼 吸 器 内 科	39	34	33	35	38	40	42	38	38	51	37	41	39	466	385	121.0%
腎 臓 内 科	14	23	19	17	20	17	14	23	15	19	14	15	18	210	199	105.5%
糖 尿 病 科・内分泌内科	14	13	14	11	15	15	17	15	13	16	13	12	14	168	140	120.0%
循 環 器 科	163	174	169	165	141	154	192	159	184	188	139	84	159	1,912	2,046	93.5%
小 児 科	65	55	50	71	70	67	61	56	53	45	42	58	58	693	746	92.9%
新 生 児 科	24	38	37	28	39	38	37	45	35	41	36	37	36	435	405	107.4%
外 科	175	168	145	179	179	159	182	180	189	179	157	167	172	2,059	1,869	110.2%
脳 神 経 外 科	86	90	93	91	98	104	115	106	90	103	93	103	98	1,172	1,010	116.0%
整 形 外 科	75	76	94	95	102	84	88	81	89	83	82	98	87	1,047	955	109.6%
脳 神 経 内 科	29	32	38	31	44	31	40	37	44	45	38	47	38	456	441	103.4%
心 臓 血 管 外 科	16	20	14	22	19	31	25	18	19	18	21	19	20	242	256	94.5%
呼 吸 器 外 科	18	20	23	20	21	16	20	18	19	16	17	17	19	225	167	134.7%
形 成 外 科	12	11	13	8	18	13	13	8	10	17	16	17	13	156	190	82.1%
眼 科	86	97	111	131	118	115	134	115	105	110	121	115	113	1,358	1,293	105.0%
耳 鼻 咽 喉 科	39	29	41	40	53	38	39	36	40	46	38	43	40	482	470	102.6%
麻 酔 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
放 射 線 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
メンタル クリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
皮 膚 科・アレルギー科	21	21	26	21	18	22	27	19	24	17	13	17	21	246	205	120.0%
泌 尿 器 科	41	50	53	52	69	62	68	68	73	66	69	72	62	743	555	133.9%
産 婦 人 科	206	183	188	209	212	184	186	198	201	200	198	201	197	2,366	2,403	98.5%
救 急 診 療 科	41	38	36	50	55	42	45	46	52	36	40	42	44	523	442	118.3%
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
合 計	1,235	1,265	1,291	1,382	1,421	1,328	1,433	1,374	1,391	1,394	1,285	1,305	1,342	16,104	15,197	106.0%

※平成28年7月より、リハビリテーション科の開設、同年10月より総合内科の廃止

4-7 退院患者数

(単位:人)

診療科	月												月平均	当年度計	前年度計	前年比
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
内 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
膠原病内科・リウマチ科	7	9	9	8	5	8	5	10	11	7	8	12	8	99	87	113.8%
血 液 内 科	15	13	20	18	20	20	11	16	22	17	13	14	17	199	184	108.2%
消 化 器 内 科	61	62	74	80	73	71	69	83	84	63	84	84	74	888	756	117.5%
呼 吸 器 内 科	41	35	39	37	41	43	42	40	44	51	36	45	41	494	381	129.7%
腎 臓 内 科	18	19	22	20	21	17	17	21	19	19	14	16	19	223	210	106.2%
糖 尿 病 科・内分泌内科	12	13	15	14	11	16	12	16	16	12	13	10	13	160	139	115.1%
循 環 器 科	152	160	181	162	143	149	169	155	195	156	151	91	155	1,864	2,023	92.1%
小 児 科	70	57	50	64	69	69	64	59	48	54	38	52	58	694	743	93.4%
新 生 児 科	26	40	40	31	34	42	44	41	35	37	40	41	38	451	414	108.9%
外 科	179	163	156	165	177	157	197	173	205	159	160	171	172	2,062	1,897	108.7%
脳 神 経 外 科	92	85	100	82	99	96	97	115	101	83	95	113	97	1,158	966	119.9%
整 形 外 科	79	89	100	105	103	98	96	87	100	84	82	110	94	1,133	1,000	113.3%
脳 神 経 内 科	32	31	38	28	43	38	43	37	53	36	40	42	38	461	444	103.8%
心 臓 血 管 外 科	28	18	20	14	21	32	22	27	27	12	19	26	22	266	280	95.0%
呼 吸 器 外 科	21	19	25	20	20	18	22	19	21	17	17	19	20	238	169	140.8%
形 成 外 科	12	12	13	10	22	17	11	12	18	13	20	19	15	179	206	86.9%
眼 科	82	97	112	135	112	128	124	115	118	101	122	112	113	1,358	1,290	105.3%
耳 鼻 咽 喉 科	36	31	43	36	51	39	36	37	41	41	43	44	40	478	472	101.3%
麻 酔 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
放 射 線 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
メンタル クリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
皮 膚 科・アレルギー科	19	20	22	23	18	21	29	19	25	16	12	20	20	244	199	122.6%
泌 尿 器 科	42	49	49	50	71	65	66	65	87	56	68	65	61	733	547	134.0%
産 婦 人 科	194	188	188	203	221	169	193	192	224	175	196	210	196	2,353	2,416	97.4%
救 急 診 療 科	31	24	30	44	37	34	34	30	33	39	26	35	33	397	354	112.1%
リ ハ ビ リ テー シ ョ ン 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
合 計	1,249	1,234	1,346	1,349	1,412	1,347	1,403	1,369	1,527	1,248	1,297	1,351	1,344	16,132	15,177	106.3%

※平成28年7月より、リハビリテーション科の開設、同年10月より総合内科の廃止

4-8 年齢別延患者数(外来)

(単位:人)

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
0歳	569	619	596	621	643	609	585	653	565	584	529	620	599	7,193	7,113	101.1%
1-6歳	726	788	802	911	903	831	842	782	816	737	650	787	798	9,575	10,216	93.7%
0-9歳	1,530	1,677	1,715	1,833	1,914	1,725	1,691	1,730	1,660	1,571	1,409	1,663	1,677	20,118	20,747	97.0%
10-19歳	910	957	1,113	1,158	1,326	1,072	1,045	1,005	1,047	956	971	1,301	1,072	12,861	12,642	101.7%
20-29歳	1,549	1,563	1,626	1,566	1,674	1,529	1,503	1,548	1,542	1,463	1,479	1,776	1,568	18,818	18,850	99.8%
30-39歳	2,342	2,534	2,670	2,637	2,741	2,622	2,558	2,463	2,516	2,516	2,412	2,806	2,568	30,817	30,287	101.7%
40-49歳	3,462	3,517	3,769	3,723	3,754	3,701	3,726	3,638	3,680	3,673	3,539	3,869	3,671	44,051	43,796	100.6%
50-59歳	3,845	4,022	4,292	4,168	4,122	4,049	4,081	4,120	4,046	3,961	3,805	4,202	4,059	48,713	45,530	107.0%
60-64歳	2,705	2,746	2,830	2,774	2,851	2,908	2,720	2,781	2,689	2,639	2,575	2,935	2,763	33,153	33,927	97.7%
65-74歳	9,576	9,646	10,264	9,818	10,303	9,949	10,045	9,981	9,895	9,599	9,504	10,377	9,913	118,957	116,174	102.4%
75歳以上	10,369	10,481	10,842	10,486	10,821	10,759	10,837	10,882	10,825	10,699	10,350	11,678	10,752	129,029	120,106	107.4%
合計	36,288	37,143	39,121	38,163	39,506	38,314	38,206	38,148	37,900	37,077	36,044	40,607	38,043	456,517	442,059	103.3%

4-9 年齢別延患者数(入院)

(単位:人)

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
0歳	1,009	1,039	935	993	1,013	1,049	965	957	939	1,008	951	972	986	11,830	11,677	101.3%
1-6歳	204	274	234	262	240	219	263	248	151	157	185	270	226	2,707	2,907	93.1%
0-9歳	1,235	1,354	1,199	1,286	1,312	1,288	1,256	1,245	1,132	1,205	1,190	1,287	1,249	14,989	15,051	99.6%
10-19歳	155	124	265	287	309	312	152	186	256	245	185	230	226	2,706	2,443	110.8%
20-29歳	641	626	574	548	604	531	642	649	602	520	497	585	585	7,019	7,598	92.4%
30-39歳	995	987	1,113	1,035	1,105	1,140	1,071	1,126	1,092	1,009	1,037	1,054	1,064	12,764	13,224	96.5%
40-49歳	965	1,092	970	1,133	1,257	1,355	1,169	1,460	1,495	1,195	1,148	1,196	1,203	14,435	12,460	115.9%
50-59歳	1,342	1,374	1,381	1,347	1,554	1,577	1,818	1,297	1,466	1,546	1,483	1,749	1,495	17,934	16,966	105.7%
60-64歳	1,392	1,134	898	1,077	1,237	989	1,131	1,082	1,106	1,172	974	890	1,090	13,082	14,193	92.2%
65-74歳	4,671	4,380	4,181	4,135	4,271	4,425	4,654	4,835	4,075	4,034	3,659	4,398	4,310	51,718	54,671	94.6%
75歳以上	5,770	6,313	5,907	6,323	5,949	5,432	5,663	5,346	6,355	6,643	6,364	6,475	6,045	72,540	69,099	105.0%
合計	17,166	17,384	16,488	17,171	17,598	17,049	17,556	17,226	17,579	17,569	16,537	17,864	17,266	207,187	205,705	100.7%

4-10 地区別延患者数(外来)

(単位:人)

市町村		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
下田市			977	1,013	1,129	1,070	1,012	1,074	1,023	1,077	1,009	963	873	1,055	1,023	12,275	12,267	100.1%
東伊豆町			618	591	691	709	670	674	629	645	681	622	627	671	652	7,828	7,528	104.0%
河津町			453	455	460	500	481	497	449	467	489	443	389	528	468	5,611	5,722	98.1%
南伊豆町			372	400	408	393	359	358	384	398	403	356	345	435	384	4,611	4,645	99.3%
松崎町			374	373	411	455	375	404	384	394	343	358	351	397	385	4,619	4,695	98.4%
西伊豆町			700	753	793	737	762	738	744	730	726	708	699	755	737	8,845	8,689	101.8%
熱海市			1,006	950	1,036	982	1,013	1,004	973	916	956	846	802	935	952	11,419	11,933	95.7%
伊東市			3,176	3,254	3,505	3,316	3,496	3,409	3,348	3,374	3,369	3,092	3,147	3,628	3,343	40,114	39,594	101.3%
沼津市			3,795	3,920	4,079	4,078	4,079	4,121	4,019	4,023	3,905	4,007	3,913	4,330	4,022	48,269	45,744	105.5%
三島市			3,818	3,878	4,102	3,997	4,040	3,991	3,954	4,073	3,903	3,974	3,863	4,243	3,986	47,836	45,824	104.4%
御殿場市			864	943	975	948	894	931	963	922	934	915	953	1,065	942	11,307	10,900	103.7%
裾野市			718	751	793	754	799	762	769	804	756	799	799	849	779	9,353	8,868	105.5%
伊豆市			4,233	4,317	4,513	4,290	4,580	4,440	4,411	4,354	4,364	4,244	4,289	4,607	4,387	52,642	51,644	101.9%
伊豆の国市			8,695	8,912	9,333	9,095	9,643	9,195	9,253	9,273	9,242	9,009	8,579	9,658	9,157	109,887	107,195	102.5%
函南町			3,057	3,071	3,214	3,257	3,386	3,196	3,305	3,223	3,216	3,168	3,016	3,401	3,209	38,510	36,910	104.3%
清水町			681	641	713	693	709	694	705	687	695	737	683	831	706	8,469	7,957	106.4%
長泉町			662	666	720	710	752	684	693	716	756	719	655	748	707	8,481	7,495	113.2%
小山町			156	161	188	187	174	172	186	176	160	174	186	217	178	2,137	1,755	121.8%
富士宮市			203	189	182	220	193	163	192	181	204	198	206	233	197	2,364	2,493	94.8%
富士市			489	550	595	517	585	539	536	501	489	477	458	541	523	6,277	5,593	112.2%
県内その他			233	244	240	227	231	221	249	210	210	216	174	211	222	2,666	2,422	110.1%
県外			1,008	1,111	1,041	1,028	1,273	1,047	1,037	1,004	1,090	1,052	1,037	1,269	1,083	12,997	12,186	106.7%
合計			36,288	37,143	39,121	38,163	39,506	38,314	38,206	38,148	37,900	37,077	36,044	40,607	38,043	456,517	442,059	103.3%

4-11 地区別延患者数(入院)

(単位:人)

市町村	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
下田市		761	794	498	618	576	473	628	604	536	533	540	617	598	7,178	8,148	88.1%
東伊豆町		201	245	200	390	353	349	404	384	342	306	218	301	308	3,693	5,097	72.5%
河津町		241	288	248	321	211	186	226	153	182	245	201	279	232	2,781	3,458	80.4%
南伊豆町		245	230	399	367	243	195	200	237	184	210	264	264	253	3,038	3,835	79.2%
松崎町		178	237	258	187	183	197	253	214	295	330	288	213	236	2,833	2,035	139.2%
西伊豆町		365	278	346	424	436	449	440	285	392	285	320	459	373	4,479	3,510	127.6%
熱海市		370	395	399	509	386	474	504	600	401	363	237	281	410	4,919	5,492	89.6%
伊東市		1,816	1,634	1,747	1,702	1,547	1,627	1,875	1,735	1,865	1,732	1,724	1,758	1,730	20,762	19,539	106.3%
沼津市		1,886	2,043	1,739	1,675	1,928	1,907	2,049	1,890	1,939	1,878	1,614	2,032	1,882	22,580	21,027	107.4%
三島市		1,790	1,801	1,713	1,784	1,860	1,505	1,631	1,664	1,868	1,746	1,545	1,720	1,719	20,627	21,251	97.1%
御殿場市		722	850	590	656	695	585	639	809	754	927	859	866	746	8,952	7,954	112.5%
裾野市		537	354	397	307	420	363	471	376	255	567	656	539	437	5,242	5,315	98.6%
伊豆市		1,618	1,787	1,898	1,707	1,676	1,542	1,630	1,847	1,730	1,716	1,542	1,660	1,696	20,353	21,038	96.7%
伊豆の国市		2,778	2,987	2,568	3,073	3,193	3,163	3,059	2,952	3,009	3,066	3,002	3,146	3,000	35,996	36,244	99.3%
函南町		1,367	1,300	1,241	1,387	1,401	1,416	1,431	1,468	1,454	1,651	1,528	1,487	1,428	17,131	17,165	99.8%
清水町		357	351	334	276	302	360	349	355	299	260	278	285	317	3,806	3,895	97.7%
長泉町		451	427	301	324	480	549	496	388	485	426	273	406	417	5,006	3,891	128.7%
小山町		165	167	208	219	150	114	136	197	149	171	156	201	169	2,033	1,729	117.6%
富士宮市		206	223	270	194	249	198	145	114	181	55	112	239	182	2,186	2,530	86.4%
富士市		317	291	286	271	336	428	314	234	332	390	492	372	339	4,063	3,482	116.7%
県内その他		125	127	208	128	124	131	82	142	213	70	129	136	135	1,615	1,812	89.1%
県外		670	575	640	652	849	838	594	578	714	642	559	603	660	7,914	7,258	109.0%
合計		17,166	17,384	16,488	17,171	17,598	17,049	17,556	17,226	17,579	17,569	16,537	17,864	17,266	207,187	205,705	100.7%

編集後記

「病院年報」とは、当該年度 4 月から次年度 3 月までの病院の活動報告で、これまで“年報作成委員会”という個別の会が監修し、次年度の 11 月頃に冊子として発刊してまいりました。しかしながら昨年度からは、院内情報のペーパーレス化の流れに乗って病院ホームページへの pdf 掲載のみとなり、本年度からは院内・外の広報活動の統一化ならびに効率化のために“広報委員会”による業務に総括されました。昨年 11 月に広報委員長に就任以来、“Less is more（伝えたいことはシンプルであるほど、逆にしっかりはっきり伝わる・・・という意味の言葉）”をモットーに活動してまいりました。一見無味乾燥なこのような情報集ですが、患者様ならびに関連各所に当院の真の実績を広くお伝えする大切なデータです。ここにも「伝わりやすさ」が少しでも出ていることを願うばかりです。

順天堂大学医学部附属静岡病院広報委員長 最上 敦彦